

# 介護予防・日常生活圏域二一ズ調査

---

## 報告書

令和5年3月  
南魚沼市

# 目 次

<b>1 調査概要</b> .....	<b>1</b>
1. 調査目的.....	1
2. 調査方法.....	1
3. 回収結果.....	1
4. 報告書の見方.....	1
<b>2 調査結果</b> .....	<b>2</b>
調査対象者本人について.....	2
問 1 家族や生活状況について.....	4
問 1 (1) 家族構成をお教えてください.....	4
問 1 (2) あなたは、普段の生活でどなたかの介護・介助が必要ですか.....	6
問 1 (3) 介護・介助が必要になった主な原因はなんですか.....	7
問 1 (4) 主にどなたの介護・介助を受けていますか.....	8
問 1 (5) 現在の暮らしの状況を経済的にみてどう感じていますか.....	9
問 1 (6) お住まいは一戸建て、または集合住宅のどちらですか.....	10
問 2 からだを動かすことについて.....	11
問 2 (1) 階段を手すりや壁をつたわずに昇っていますか.....	11
問 2 (2) 椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がっていますか.....	12
問 2 (3) 15分くらい続けて歩いていますか.....	13
問 2 (4) この1年間に転んだ経験がありますか.....	14
問 2 (5) 転倒に対する不安は大きいですか.....	15
問 2 (6) 週に1回以上は外出していますか.....	16
問 2 (7) 昨年と比べて外出の回数が減っていますか.....	17
問 2 (8) 外出を控えていますか.....	18
問 2 (9) 外出を控えている理由は、次のどれですか.....	19
問 2 (10) 外出する際の移動手段はなんですか.....	20
問 3 食べることについて.....	21
問 3 (1) 身長・体重.....	21
問 3 (2) 半年前に比べて固いものが食べにくくなりましたか.....	22
問 3 (3) お茶や汁物などでむせることがありますか.....	23
問 3 (4) 口の渇きが気になりますか.....	24
問 3 (5) 歯磨き（人にやってもらう場合も含む）を毎日していますか.....	25
問 3 (6) 歯の数と入れ歯の利用状況をお教えてください.....	26
問 3 (7) 噛み合わせはよいですか.....	28
問 3 (8) 毎日入れ歯の手入れをしていますか.....	28

問 3 (9) 6 か月間で 2～3kg 以上の体重減少がありましたか.....	29
問 3 (10) どなたかと食事をともにする機会がありますか.....	30
問 4 毎日の生活について.....	31
問 4 (1) 物忘れが多いと感じますか.....	31
問 4 (2) 自分で電話番号を調べて、電話をかけることをしていますか.....	32
問 4 (3) 今日が何月何日かわからないときがありますか.....	33
問 4 (4) バスや電車を使って 1 人で外出していますか (自家用車でも可).....	34
問 4 (5) 自分で食品・日用品の買い物をしていますか.....	35
問 4 (6) 自分で食事の用意をしていますか.....	36
問 4 (7) 自分で請求書の支払いをしていますか.....	37
問 4 (8) 自分で預貯金の出し入れをしていますか.....	38
問 4 (9) 年金などの書類 (役所や病院などに出す書類) が書けますか.....	39
問 4 (10) 新聞を読んでいますか.....	40
問 4 (11) 本や雑誌を読んでいますか.....	41
問 4 (12) 健康についての記事や番組に関心がありますか.....	42
問 4 (13) 友人の家を訪ねていますか.....	43
問 4 (14) 家族や友人の相談にのっていますか.....	44
問 4 (15) 病人を見舞うことができますか.....	45
問 4 (16) 若い人に自分から話しかけることができますか.....	46
問 4 (17) 趣味はありますか.....	47
問 4 (18) 生きがいがありますか.....	48
問 5 地域での活動について.....	50
問 5 (1) 会・グループ等にどのくらいの頻度で参加していますか.....	50
① ボランティアのグループ.....	50
② スポーツ関係のグループやクラブ.....	52
③ 趣味関係のグループ.....	54
④ 学習・教養サークル.....	56
⑤ 介護予防のための通いの場.....	58
⑥ 老人クラブ.....	60
⑦ 町内会・自治会.....	62
⑧ 収入のある仕事.....	64
問 5 (2) 地域づくり活動に参加者として参加してみたいと思いますか.....	66
問 5 (3) 地域づくり活動に企画・運営として参加してみたいと思いますか.....	68
問 6 助けあいについて.....	70
問 6 (1) あなたの心配事や愚痴を聞いてくれる人.....	70
問 6 (2) 反対に、あなたが心配事や愚痴を聞いてあげる人.....	71
問 6 (3) あなたが病気で数日間寝込んだときに、看病や世話をしてくれる人.....	72

問 6 (4) 反対に、あなたが看病や世話をしあげる人 .....	73
問 6 (5) 家族や友人・知人以外で、何かあったときに相談する相手 .....	74
問 6 (6) 友人・知人と会う頻度はどのくらいですか .....	75
問 6 (7) この1か月間、何人の友人・知人と会いましたか .....	76
問 6 (8) よく会う友人・知人はどんな関係の人ですか .....	77
問 7 健康について .....	78
問 7 (1) 現在のあなたの健康状態はいかがですか .....	78
問 7 (2) あなたは、現在どの程度幸せですか .....	80
問 7 (3) ゆうつな気持ちになったりすることがありましたか .....	81
問 7 (4) 心から楽しめない感じがよくありましたか .....	82
問 7 (5) お酒は飲みますか .....	83
問 7 (6) タバコは吸っていますか .....	84
問 7 (7) 現在治療中、または後遺症のある病気はありますか .....	85
問 8 認知症に関する相談窓口の把握について .....	86
問 8 (1) 家族に認知症の症状がある人がいますか .....	86
問 8 (2) 認知症に関する相談窓口を知っていますか .....	87
問 9 介護（要支援）の認定を受けていない方への追加調査項目 .....	88
問 9 (1) 「いつも同じことを聞く」などの物忘れがあるとされますか .....	88
問 9 (2) 毎日の生活に充実感がない .....	89
問 9 (3) これまで楽しんでやれていたことが楽しめなくなった .....	90
問 9 (4) 以前は楽にできていたことが今はおっくうに感じられる .....	91
問 9 (5) 自分が役にたつ人間だと思えない .....	92
問 9 (6) わけもなく疲れたような感じがする .....	93
<b>3 リスク判定結果 .....</b>	<b>94</b>
1. 運動器機能の低下 .....	94
2. 転倒 .....	96
3. 閉じこもり .....	98
4. 低栄養 .....	100
5. 口腔機能の低下 .....	102
6. 認知機能の低下 .....	104
7. うつ傾向 .....	106
8. IADL .....	108
<b>4 分析 .....</b>	<b>110</b>
1. リスク該当者の状況 .....	110
2. 地域活動への参加状況 .....	112

3. 傾向把握のための指標の状況 .....	115
<b>5 考察 .....</b>	<b>119</b>
1. 健康への関心 .....	119
2. 外出 .....	121
3. 地域づくりへの参加意向.....	122
4. 歯の状態.....	125

# 1 調査概要

## 1. 調査目的

第9期介護保険事業計画を策定するにあたり、高齢者の健康状態や日常生活の状況、地域の課題や皆様のニーズを把握し、南魚沼市の実情に即した事業を行うことを目的として実施しました。

## 2. 調査方法

- 調査対象者：令和4年10月20日時点において、市内在住で要介護認定を受けていない65歳以上の市民から無作為抽出した1,500人
- 調査期間：令和4年11月15日～令和4年12月15日
- 調査方法：郵送による配布・回収

## 3. 回収結果

- 調査対象者数：1,500
- 回収数（回収率）：1,125（75.0%）
- 有効回答数：1,125

## 4. 報告書の見方

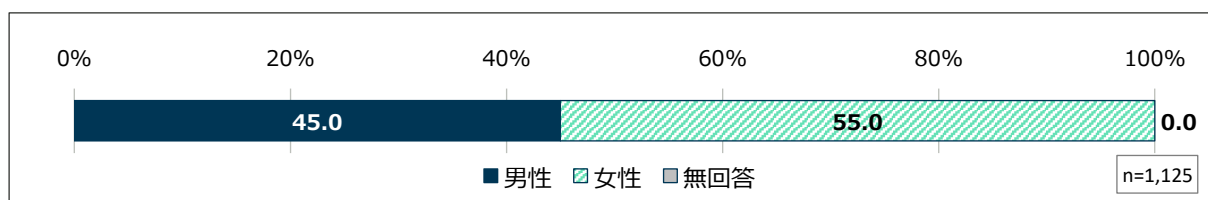
- ① 報告書中の「n」の数値は、設問への回答者数を表します。
- ② 回答の比率（%）は、小数点以下第2位を四捨五入し、小数点以下第1位までを表記しています。このため、回答率の合計が100.0%にならない場合があります。
- ③ 回答の比率（%）は、その設問の回答者数を基数として算出しました。したがって、複数回答の設問については、回答率の合計が100.0%を超えることがあります。
- ④ 年齢など調査対象者の基本属性を中心としたクロス集計結果については、基本属性等に「無回答」があるため、全体の示す数値とは一致しない場合があります。
- ⑤ 設問により、令和元年に実施した前回調査結果を比較したグラフや、家族構成別、性別、年齢別等のクロス集計結果のグラフを表記しています。
- ⑥ クロス集計結果のグラフ凡例については、各グラフの始めの部分のみ表示しています。
- ⑦ 各設問の意図については、国の設問のみ説明文を表記しています。

## 2 調査結果

### 調査対象者本人について

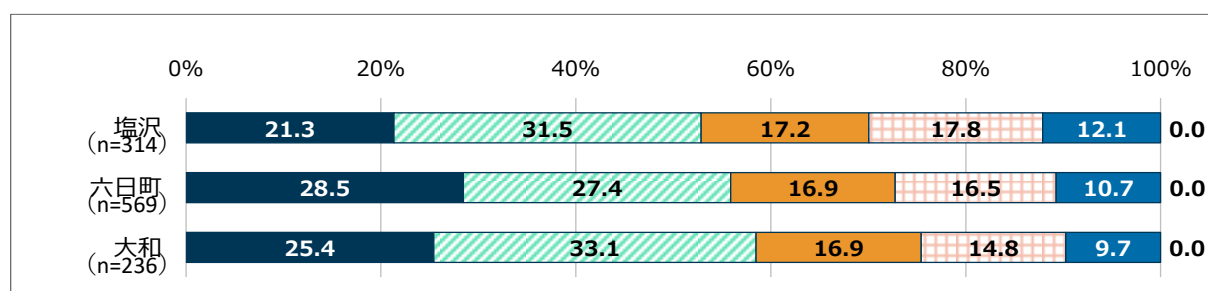
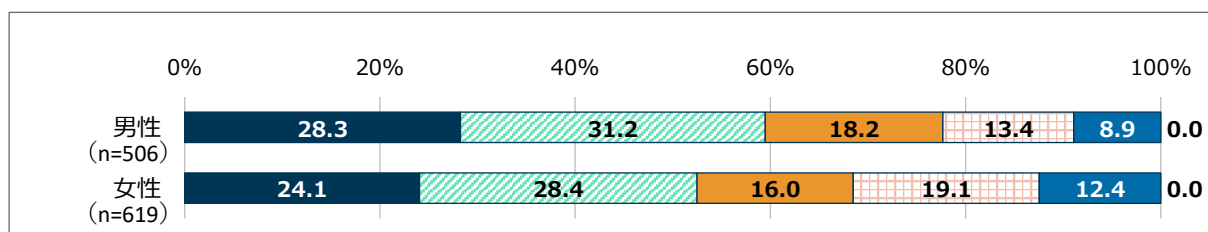
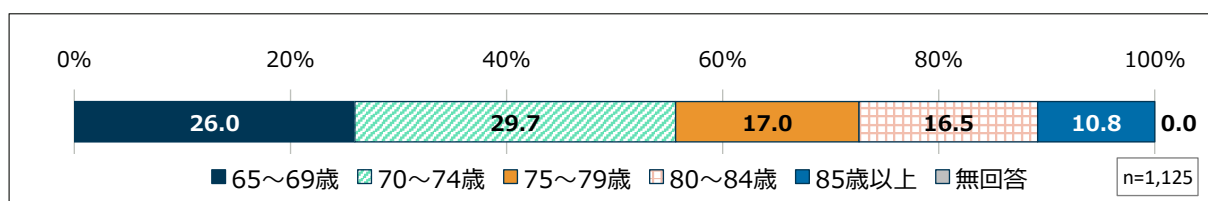
#### ■ 性別

「男性」が45.0%、「女性」が55.0%となっています。



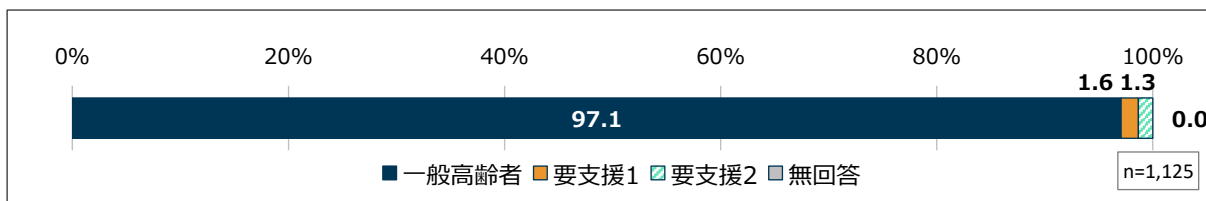
#### ■ 年齢

65～98歳、平均年齢は74.9歳となっています。

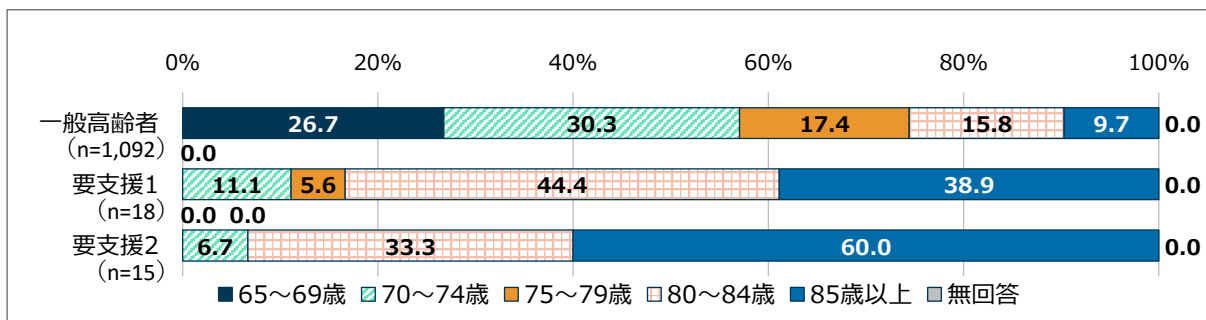


## ■ 認定区分

認定を受けていない「一般高齢者」が97.1%と最も高くなっています。「要支援1」が1.6%、「要支援2」が1.3%となっています。



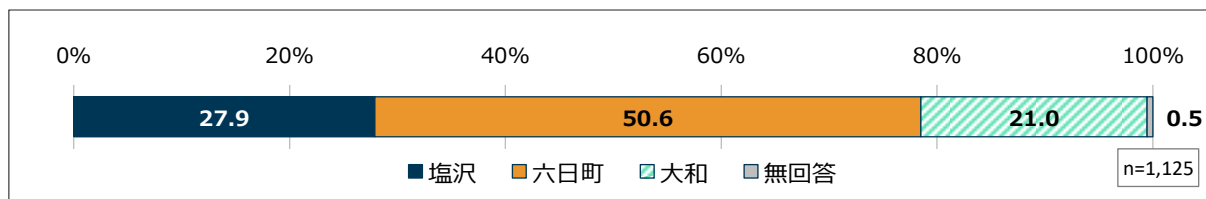
認定区分別に年齢をみると、80歳以上の割合が、要支援2で93.3%、要支援1で83.3%となっています。また、69歳以下に要支援認定者はいませんでした。



## ■ 居住地区

地域包括ケアシステムの構築に向けて、市町村は、高齢者が住み慣れた地域で生活を継続できるように支援するための環境整備を行う一つの単位として、「日常生活圏域」を設定することになっています。

南魚沼市では「市全域」を1圏域としていますが、今後の保健福祉サービスや地域支援事業の参考資料とするため、3.リスク判定結果については「塩沢」「六日町」「大和」の3地区別にクロス集計を行いました。



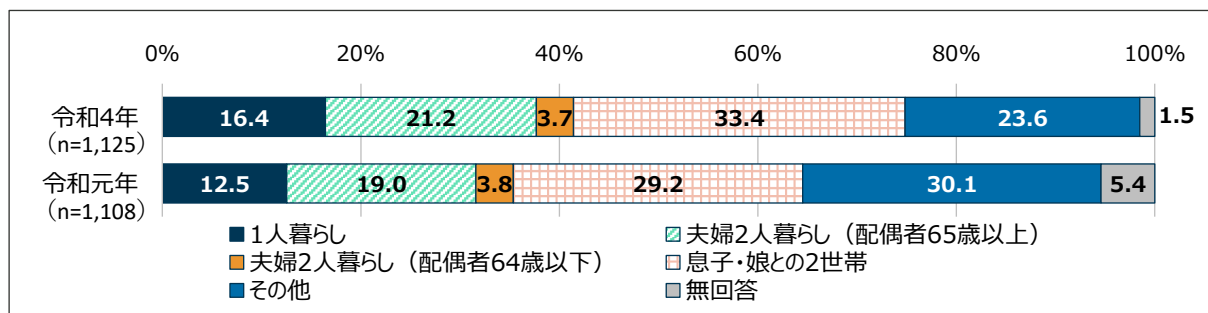


## 問 1 家族や生活状況について

### 問 1 (1) 家族構成をお教えてください

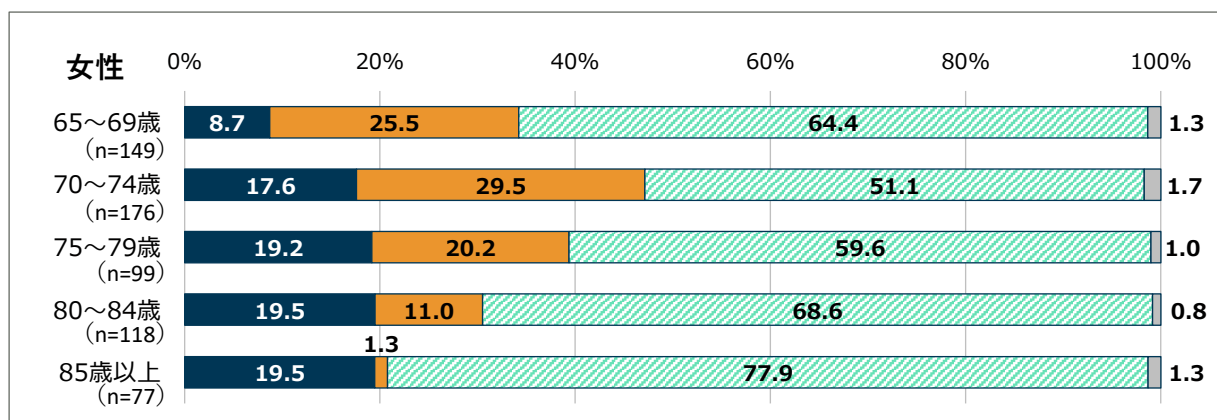
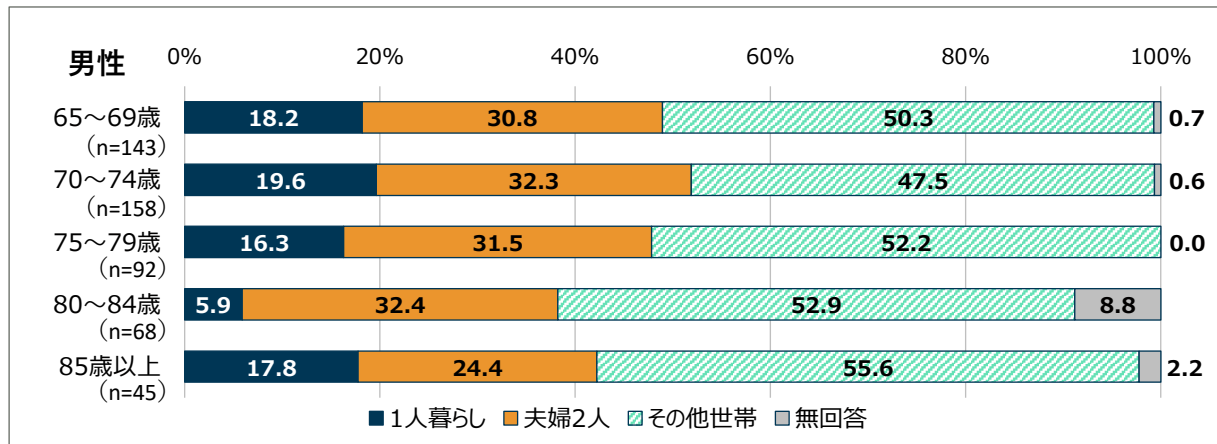
この設問は、家族構成を問う設問です。高齢者の世帯状況やその地域分布を把握すること、世帯構成別の回答結果を把握することで、事業の対象者・対象地域・実施内容の検討の際に活用することが可能になります。

「息子・娘との2世帯」の割合が最も高く 33.4%となっています。



※ 以降のクロス集計では、家族構成を「1人暮らし」と、「夫婦2人暮らし（配偶者65歳以上）」と「夫婦2人暮らし（配偶者64歳以下）」を合わせた「夫婦2人」、それ以外の「その他世帯」の3分類で集計しています。

性別・年齢別にみると、すべての年齢層で女性のほうが「その他世帯」の割合が高く、また年齢が上がるほど割合が高くなる傾向がみられます。

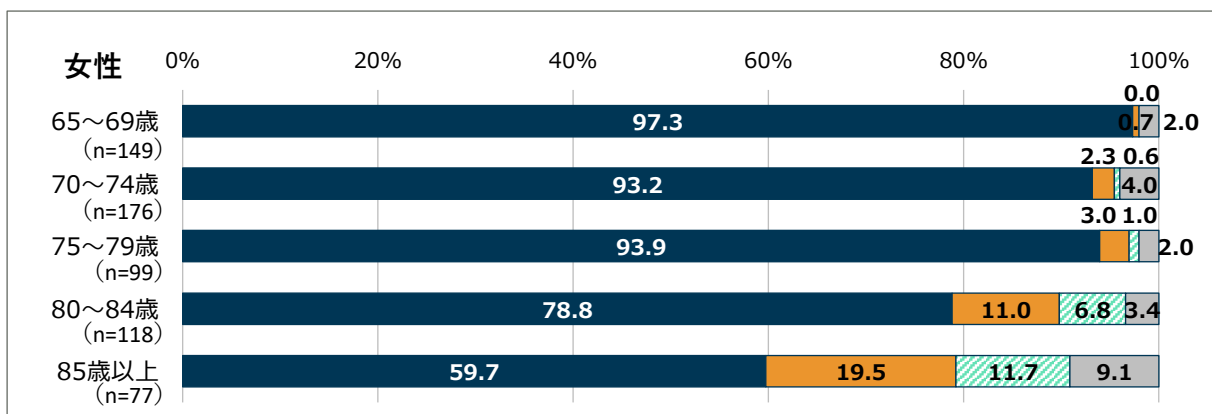
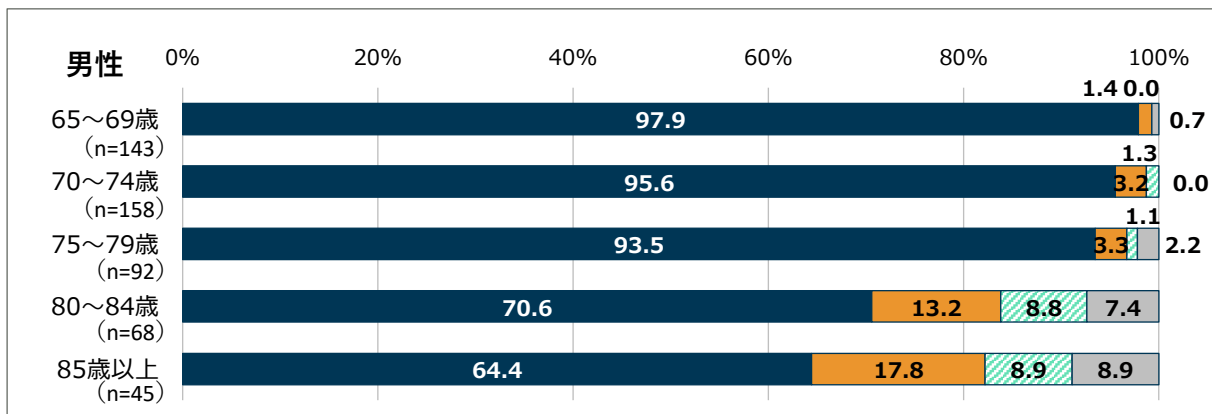
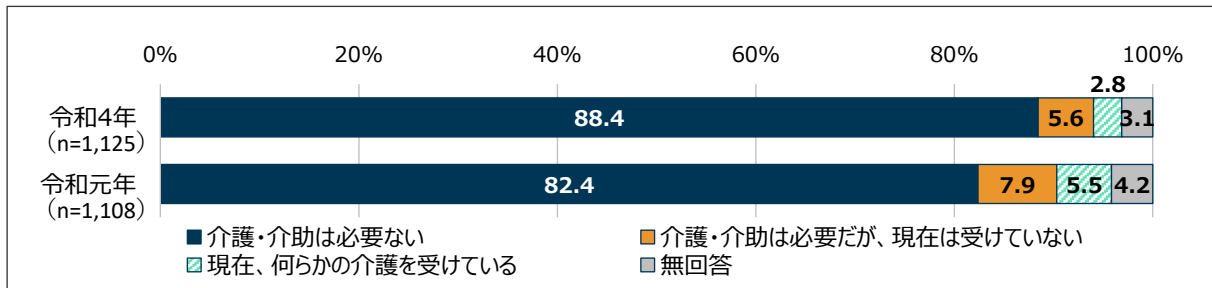


## 問 1 (2) あなたは、普段の生活でどなたかの介護・介助が必要ですか

この設問は、主観的な介護の必要度を問う設問です。要介護状態になる前の高齢者の介護の必要度を把握することで、事業の対象者・対象地域・実施内容の検討の際に活用することが可能になります。

「介護・介助は必要ない」が88.4%となっています。

性別・年齢別にみると、男性・女性ともに年齢が上がるにつれて「介護・介助は必要ない」割合が低くなる傾向がみられます。

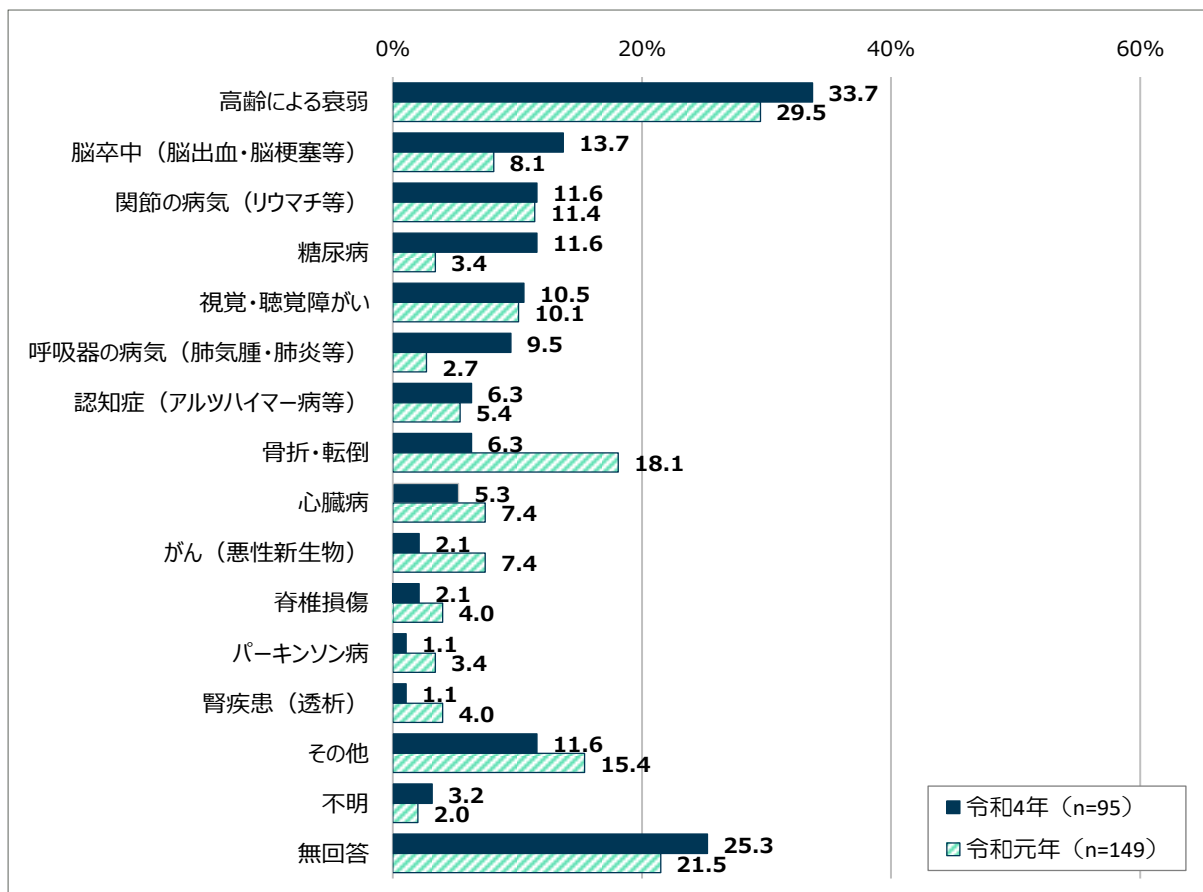


問1(2)で「介護・介助は必要ない」と回答した方以外の方のみ

### 問1(3) 介護・介助が必要になった主な原因はなんですか (複数回答)

この設問は、介護・介助が必要になった原因を問う設問です。要介護状態になる前の高齢者の介護・介助が必要になった原因を把握することにより、地域課題(要介護状態になる原因)の把握が可能になります。

「高齢による衰弱」が33.7%と最も高くなっています。



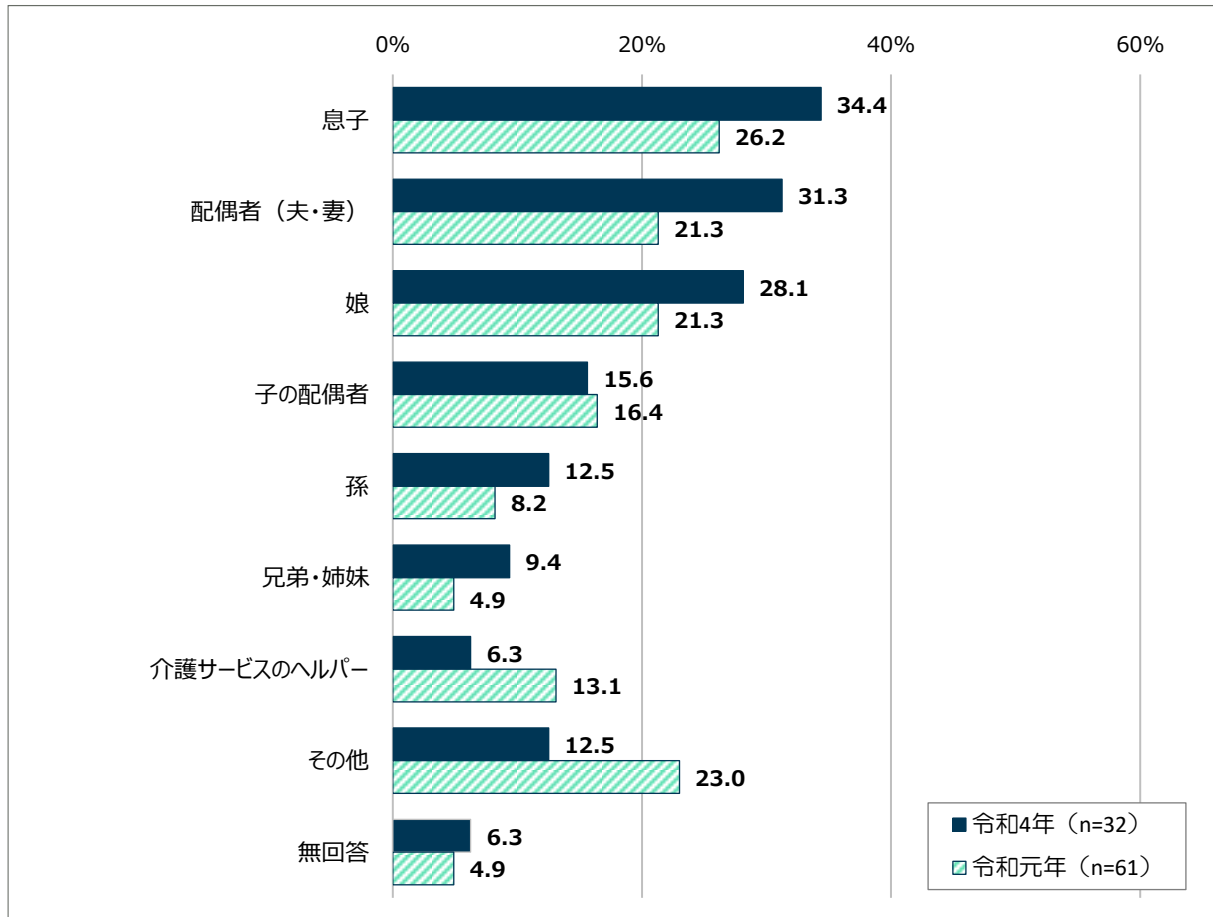
※ 「その他」は脊椎管狭窄症や高血圧、心の病などさまざまな病気となっています。

問1(2)で「現在、何らかの介護を受けている」と回答した方のみ

### 問1(4) 主にどなたの介護・介助を受けていますか (複数回答)

この設問は、介助者の詳細を問う設問です。要介護状態になる前の高齢者の介護・介助の実態を把握することにより、地域課題（家族介護の実態）の把握が可能になります。

「息子」が34.4%（11人）、「配偶者（夫・妻）」が31.3%（10人）、「娘」が28.1%（9人）で、家族による介護・介助の割合が高くなっています。



## 問 1 (5) 現在の暮らしの状況を経済的にみてどう感じていますか

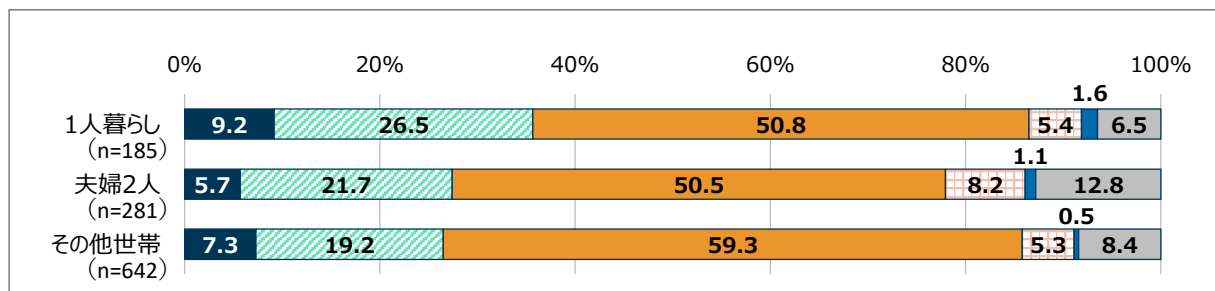
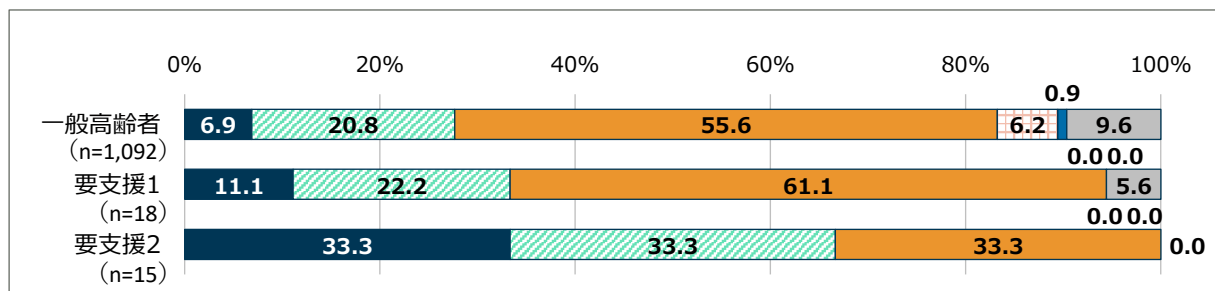
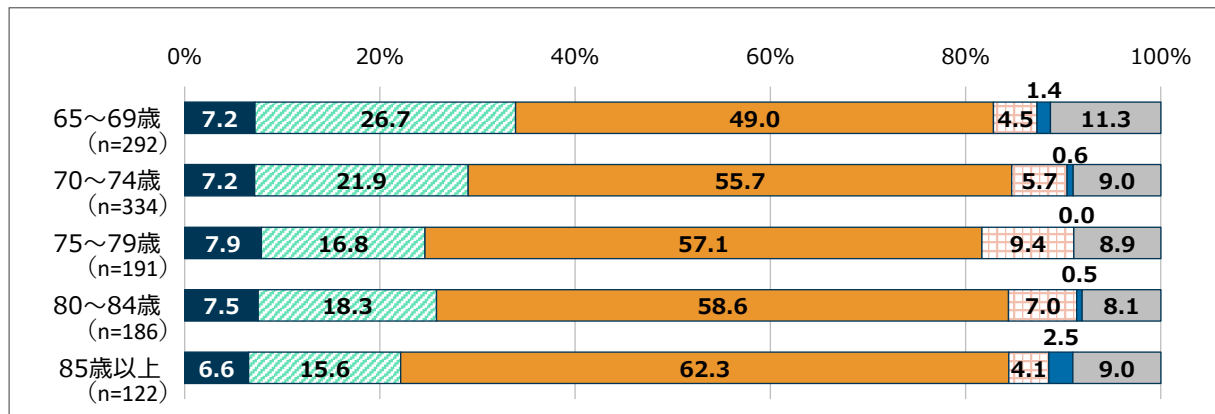
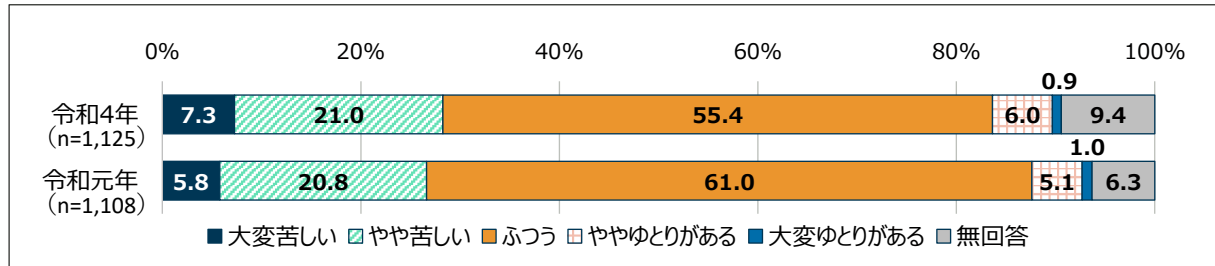
この設問は、主観的な経済状態を問う設問です。高齢者の経済状態やその地域分布を把握すること、経済状態別の回答結果を把握することで、事業の対象者・対象地域・実施内容の検討の際に活用することが可能になります。

「ふつう」が55.4%と最も高くなっています。

年齢別にみると、年齢が低いほど経済的に苦しいと感じる割合が高い傾向がみられます。

認定区分別にみると、要支援認定者はn値（回答者数）が少ないため傾向を判断することはできませんが、要支援2で経済的に苦しいと感じる割合が高くなっています。

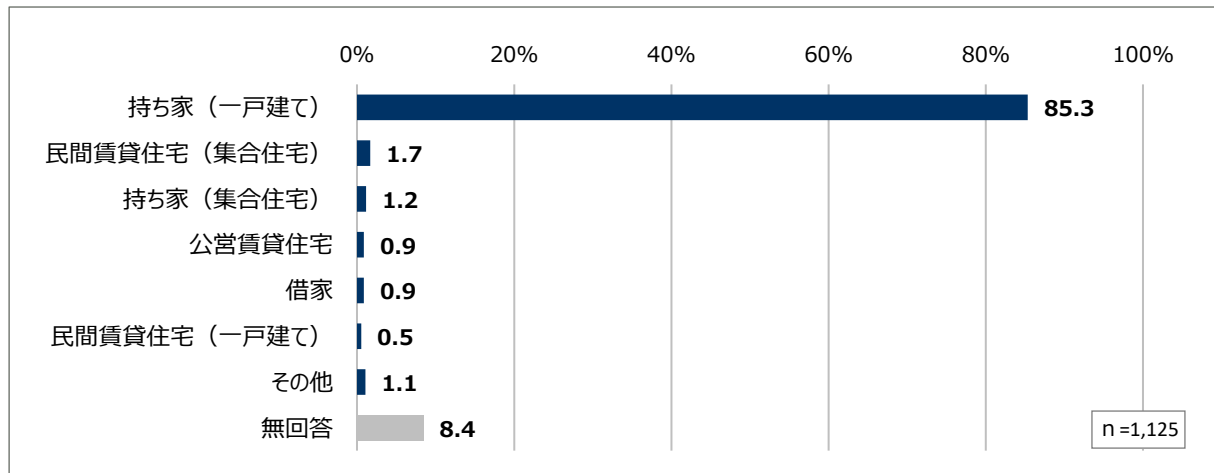
家族構成別にみると、1人暮らし世帯で経済的に苦しいと感じる割合がやや高くなっています。



## 問 1 (6) お住まいは一人建て、または集合住宅のどちらですか

この設問は、住宅の形態を問う設問です。地域の高齢者の住まい（サービス付き高齢者向け住宅など）のニーズ把握・サービス整備の検討の際に活用することが可能になります。

「持ち家（一人建て）」が85.3%となっています。



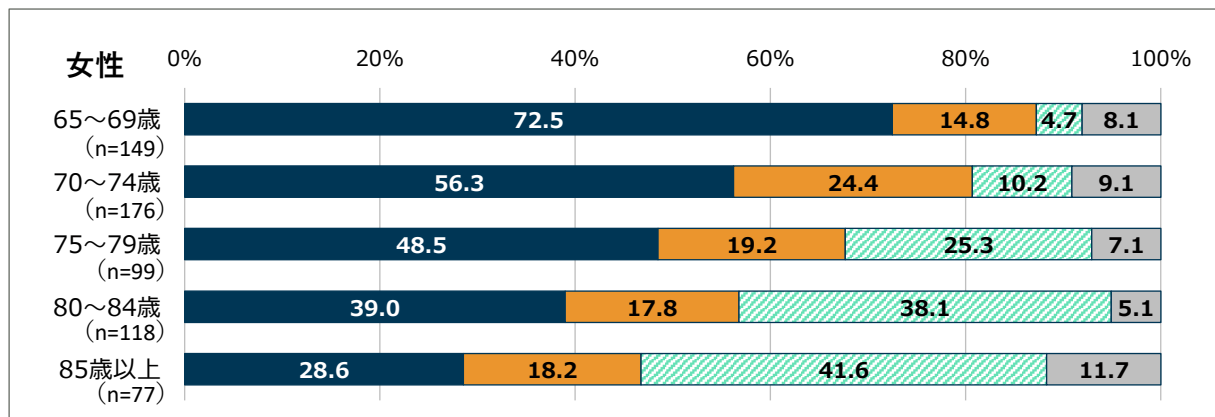
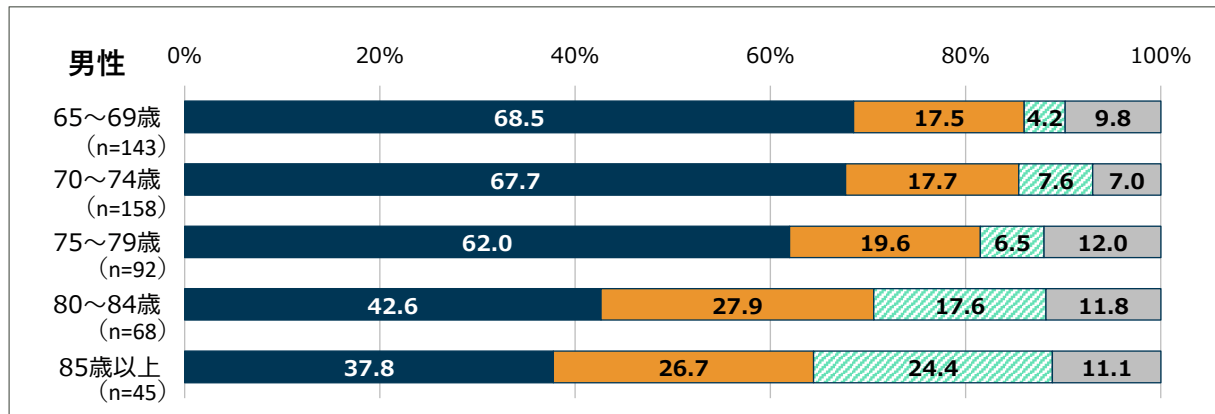
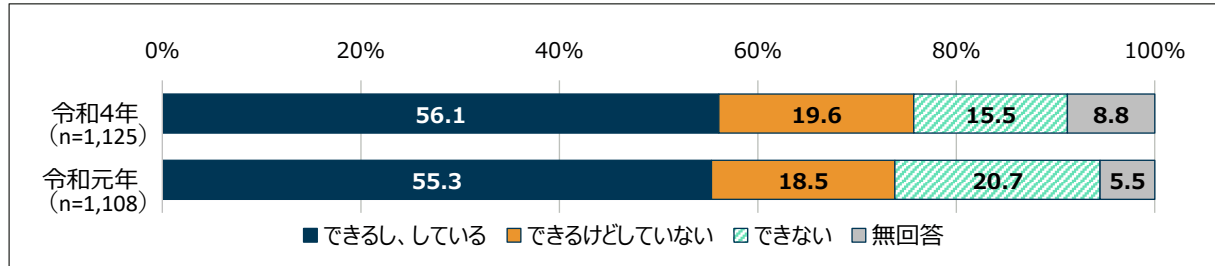
## 問 2 からだを動かすことについて

### 問 2 (1) 階段を手すりや壁をつたわずに昇っていますか

問 2 (1) ~ (5) は、運動器の機能低下を問う設問です。運動器の機能が低下している高齢者の地域分布を把握することで、事業の対象者・対象地域・実施内容の検討の際に活用することが可能になります。

「できるし、している」が 56.1%、「できない」が 15.5%となっています。

性別・年齢別にみると、男性・女性ともに年齢が上がるにつれて「できない」割合が高くなっており、特に女性でその傾向が明らかとなっています。

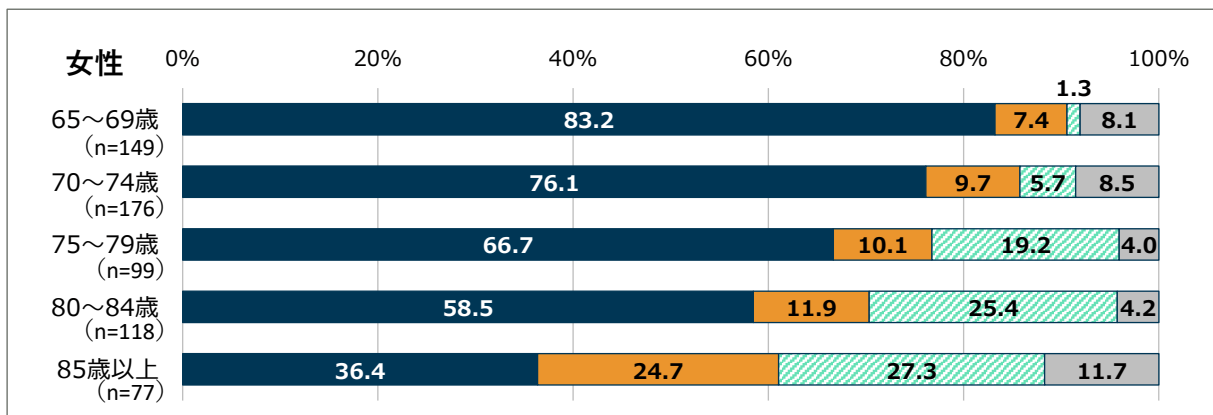
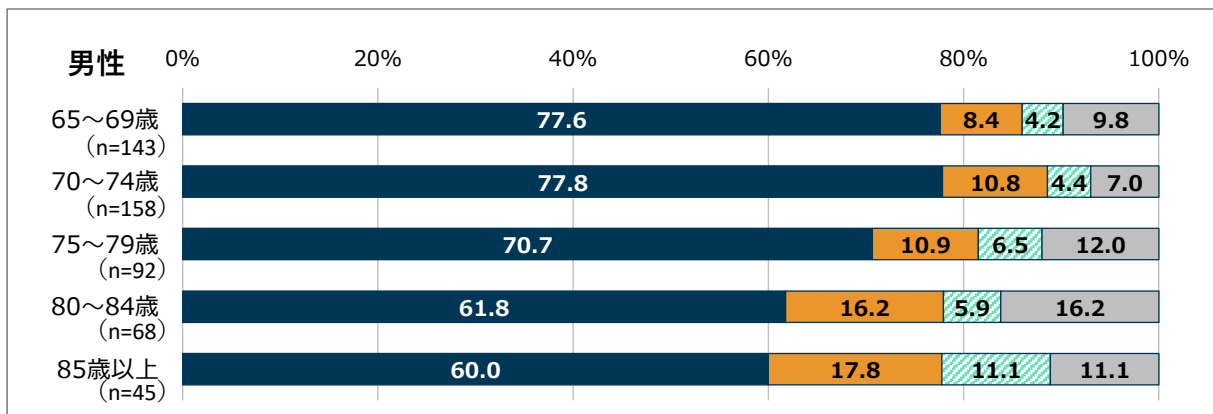
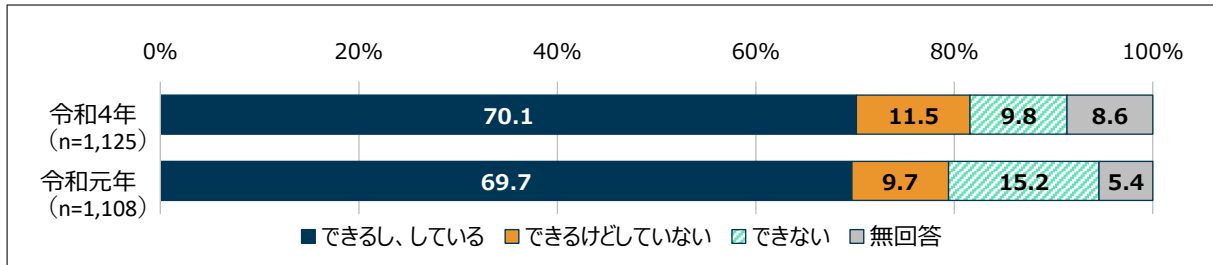




## 問 2 (2) 椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がっていますか

「できるし、している」が70.1%、「できない」が9.8%となっています。

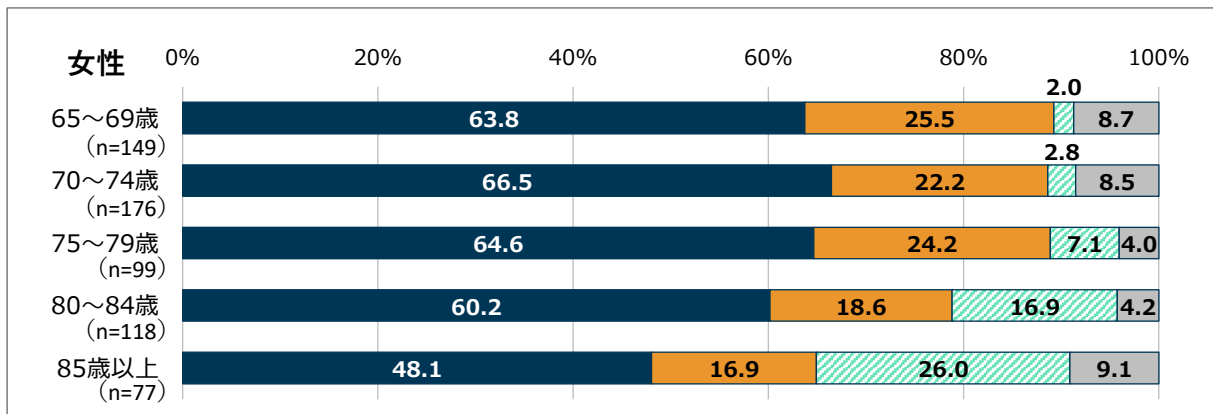
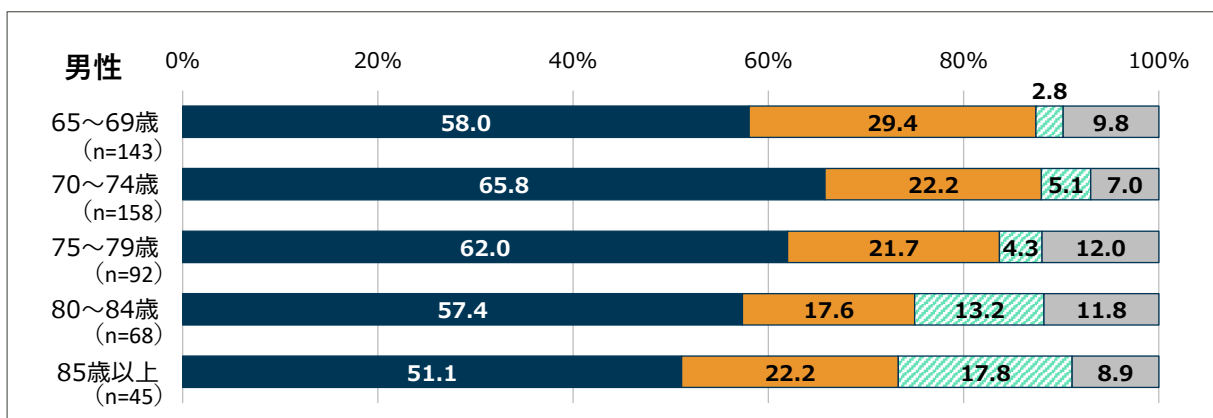
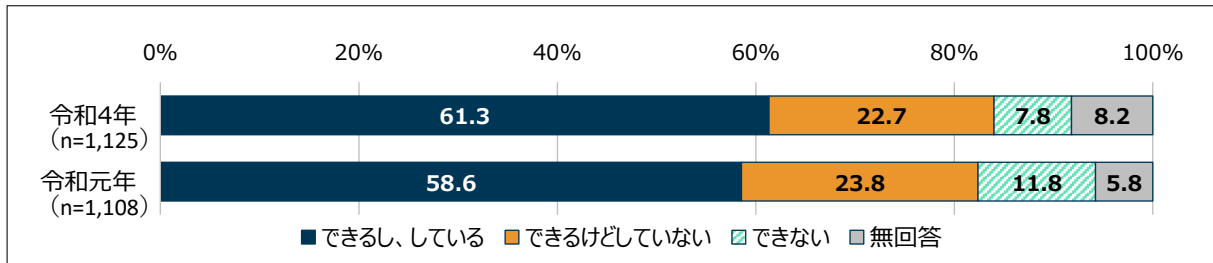
性別・年齢別にみると、男性・女性ともに年齢が上がるにつれて「できない」割合が高くなる傾向がみられ、特に女性でその傾向が明らかとなっています。



## 問 2 (3) 15 分くらい続けて歩いていますか

「できるし、している」が61.3%、「できない」が7.8%となっています。

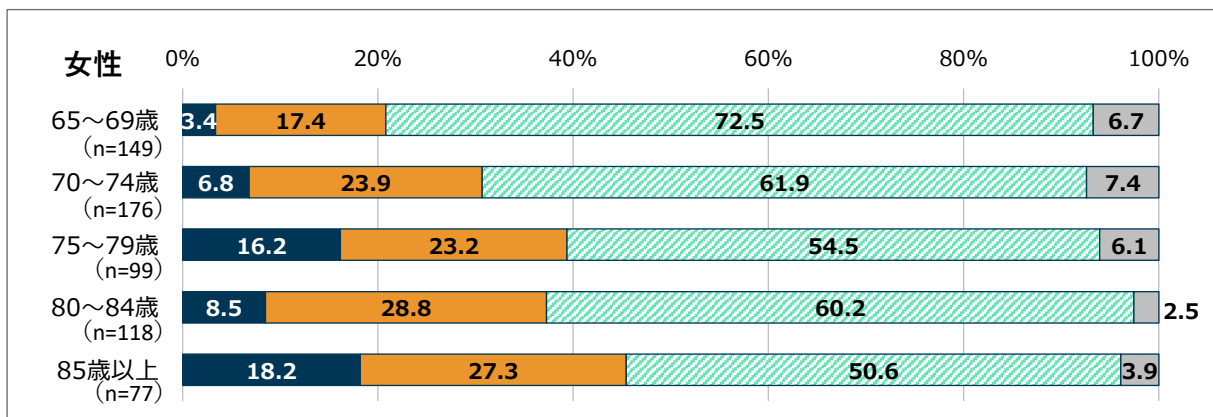
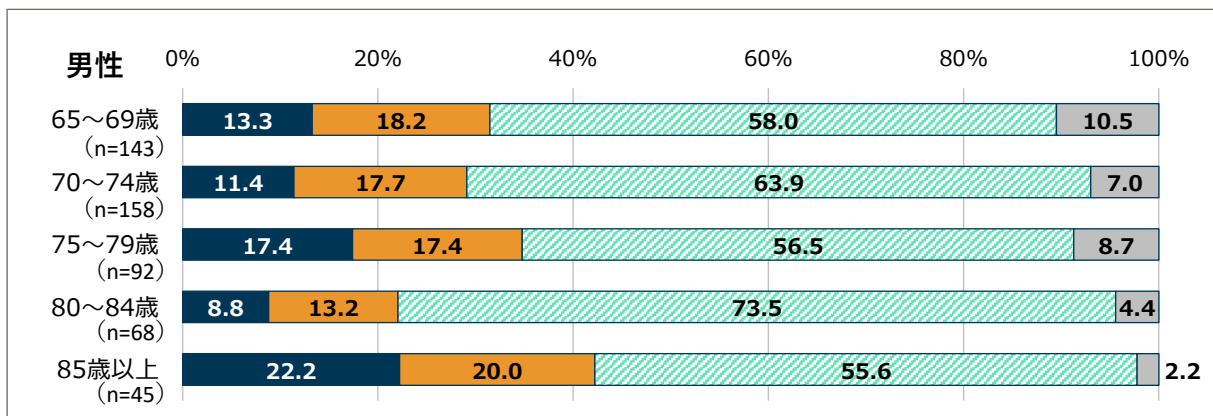
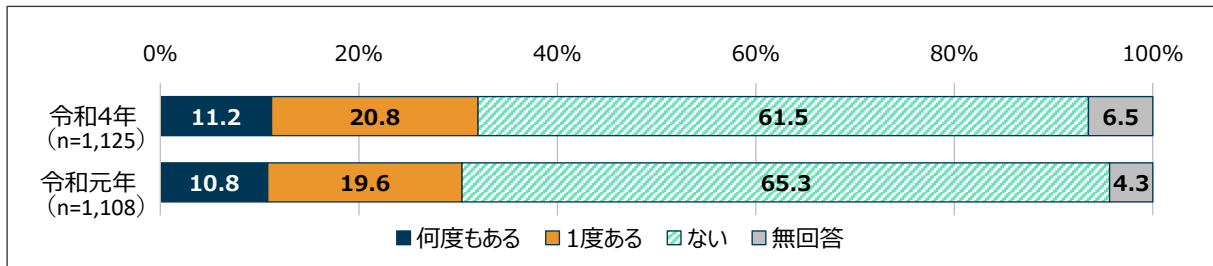
性別・年齢別にみると、男性・女性ともに年齢が上がるにつれて「できない」割合が高くなっており、特に女性でその傾向が明らかとなっています。また、男性・女性ともに70～74歳で「できるし、している」割合が最も高くなっています。



## 問 2 (4) この 1 年間に転んだ経験がありますか

問 2 (4) (5) は、転倒リスクを問う設問です。転倒リスクのある高齢者の地域分布を把握することで、事業の対象者・対象地域・実施内容の検討の際に活用することが可能になります。

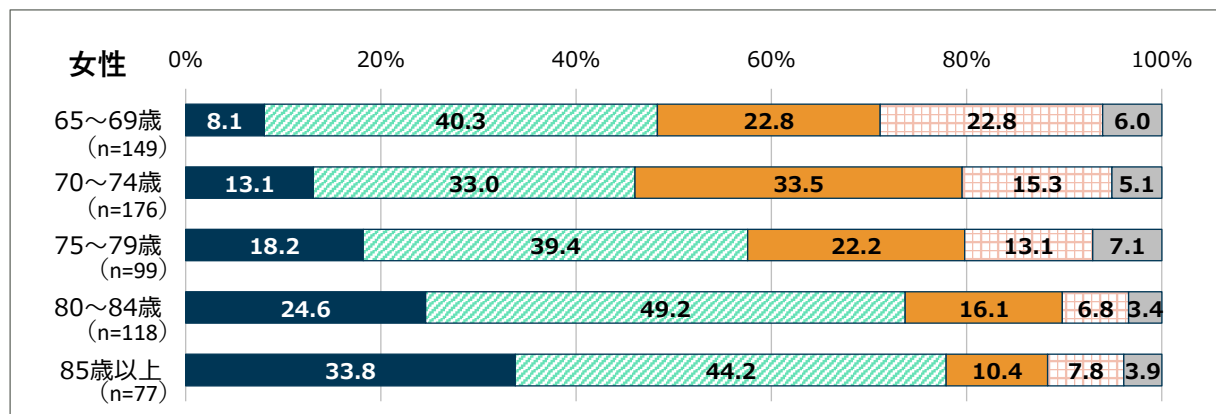
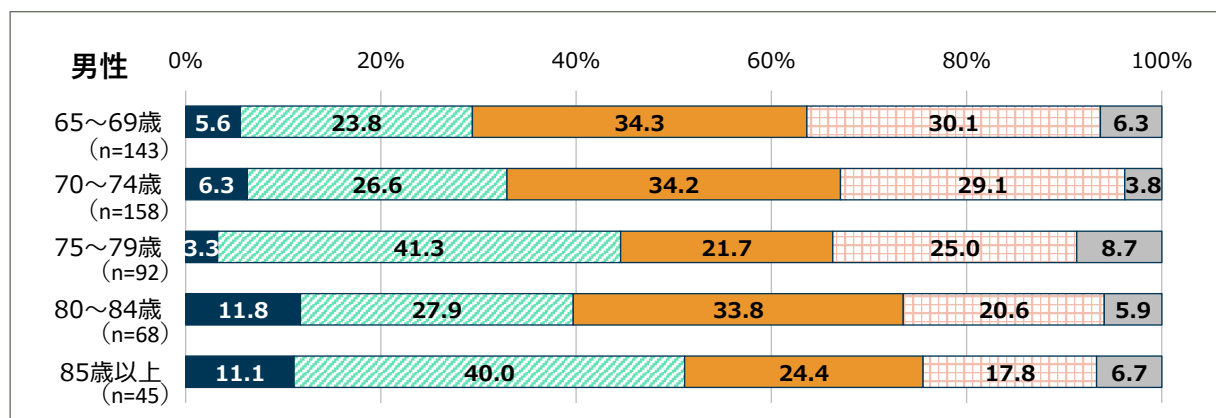
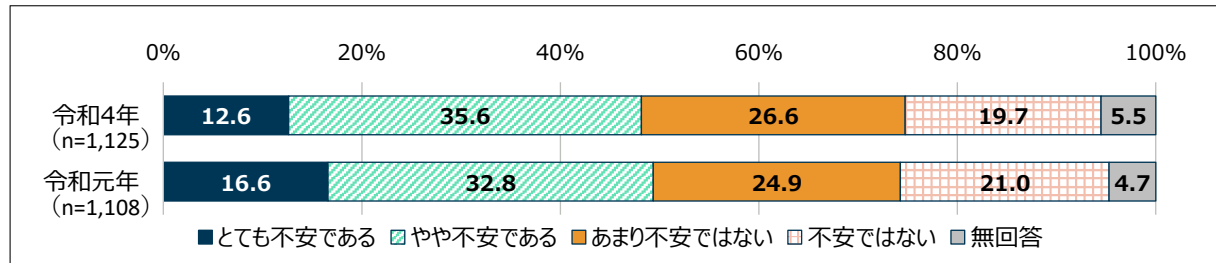
「何度もある」が 11.2%、「1 度ある」が 20.8%で、合わせると 32.0%となっています。  
性別・年齢別にみると、女性は年齢が上がるにつれて「ない」の割合が低くなる傾向がみられますが、男性は年齢による明らかな傾向はありませんでした。



## 問 2 (5) 転倒に対する不安は大きいですか

「とても不安である」が 12.6%、「やや不安である」が 35.6%で、合わせると 48.2%となっています。

性別・年齢別にみると、すべての年齢層で女性のほうが不安を感じている割合が高くなっています。



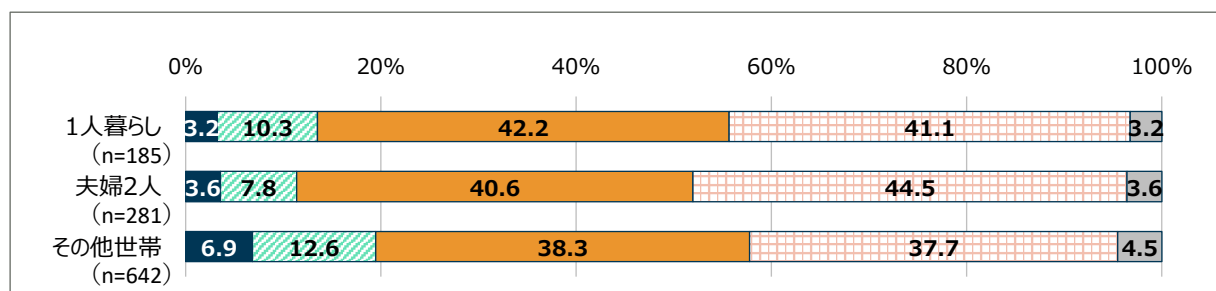
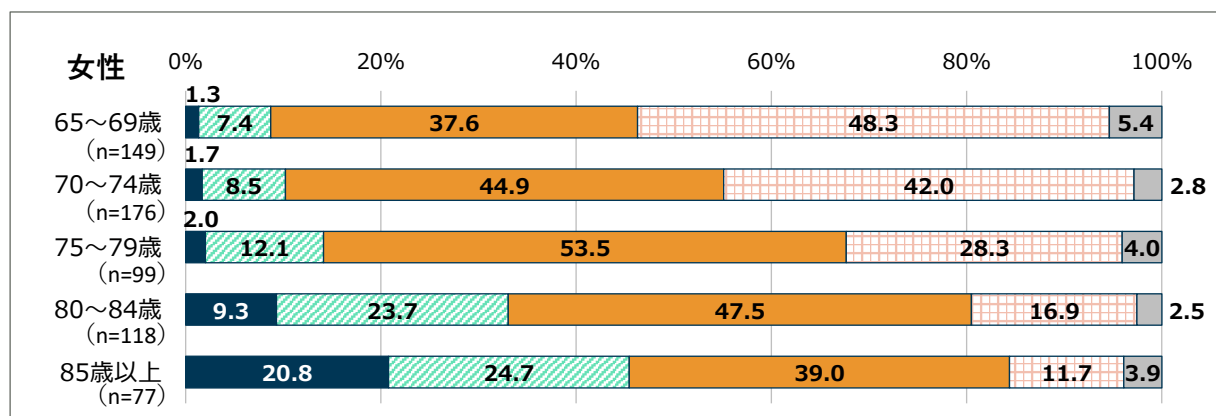
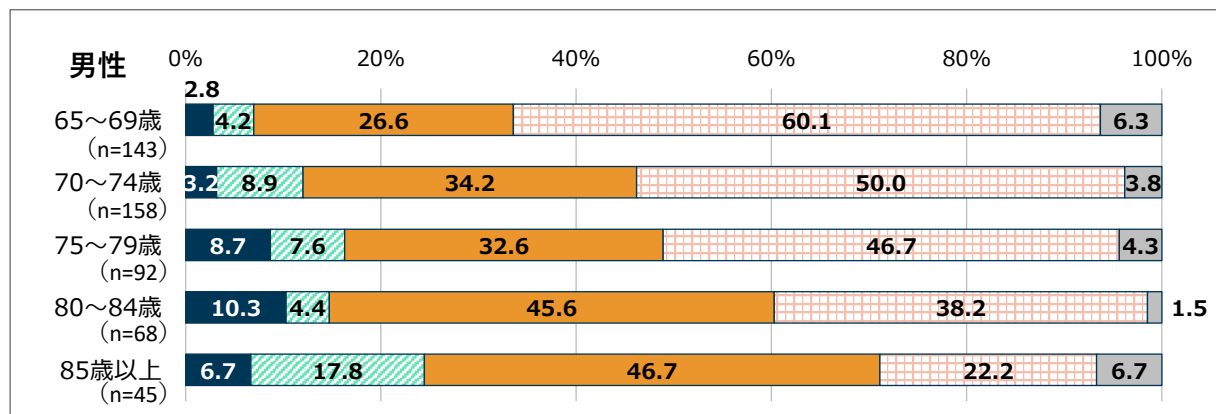
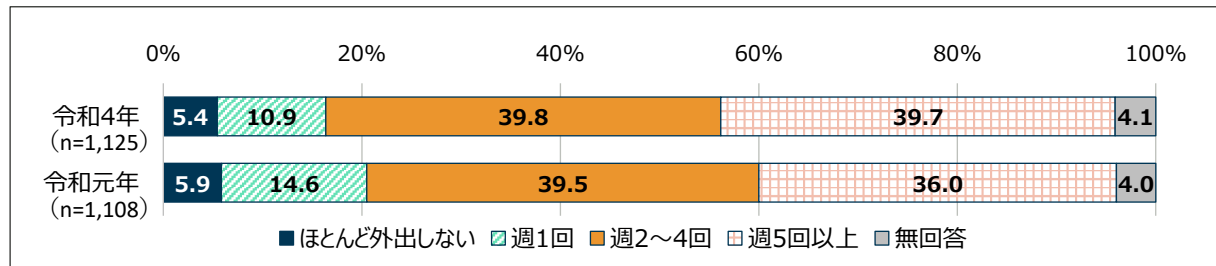
## 問 2 (6) 週に 1 回以上は外出していますか

問 2 (6) (7) は、閉じこもり傾向を問う設問です。閉じこもり傾向のある高齢者の地域分布を把握することで、事業の対象者・対象地域・実施内容の検討の際に活用することが可能になります。

「週 2～4 回」が 39.8%と最も高く、次いで「週 5 回以上」が 39.7%で、「ほとんど外出しない」は 5.4%となっています。

性別・年齢別にみると、外出の頻度が週 1 回以下の割合は、男性・女性ともに年齢が上がるほど高くなる傾向がみられます。

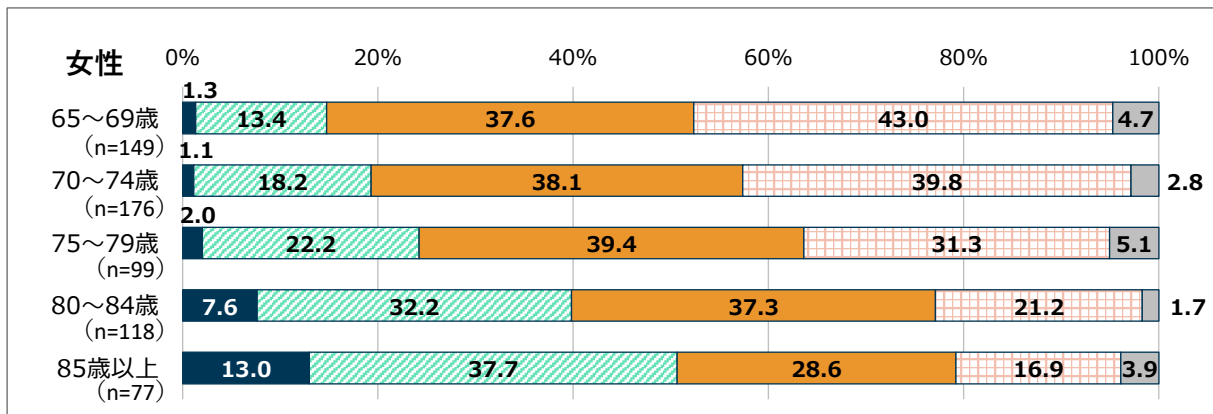
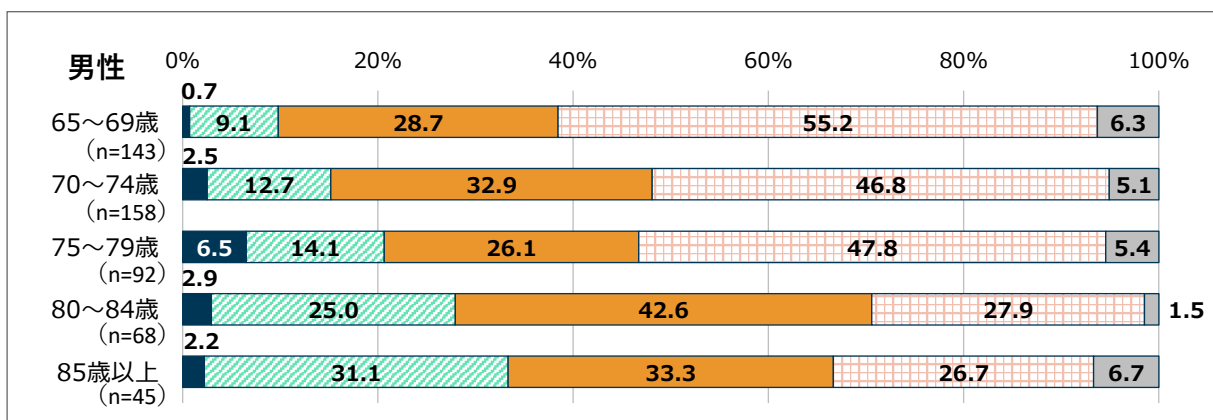
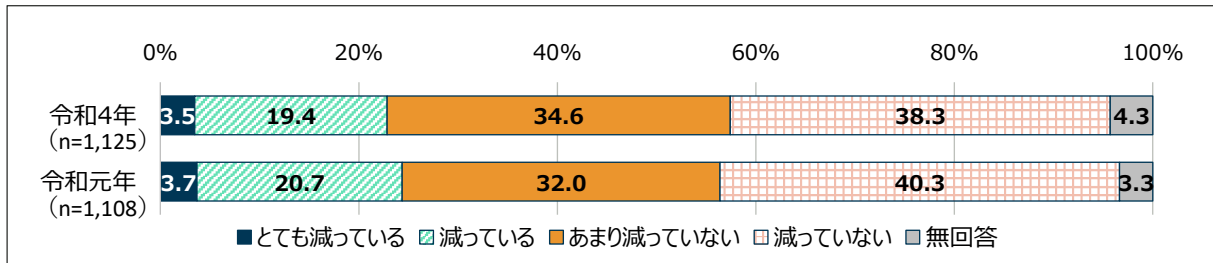
家族構成別にみると、その他世帯で外出の頻度がやや低くなっています。



## 問 2 (7) 昨年と比べて外出の回数が減っていますか

「とても減っている」が3.5%、「減っている」が19.4%で、合わせると22.9%となっています。

性別・年齢別にみると、男性・女性ともに年齢が上がるにつれて「減っている」の割合が高くなっています。

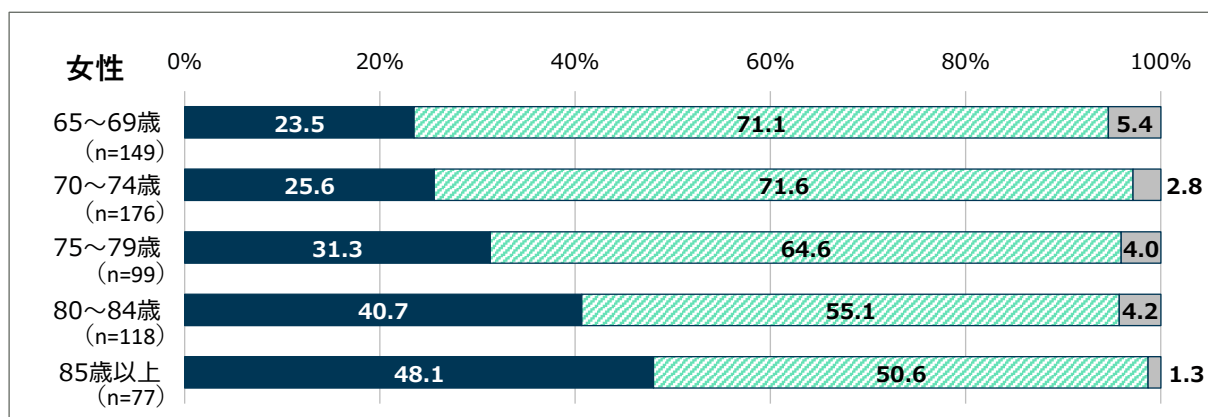
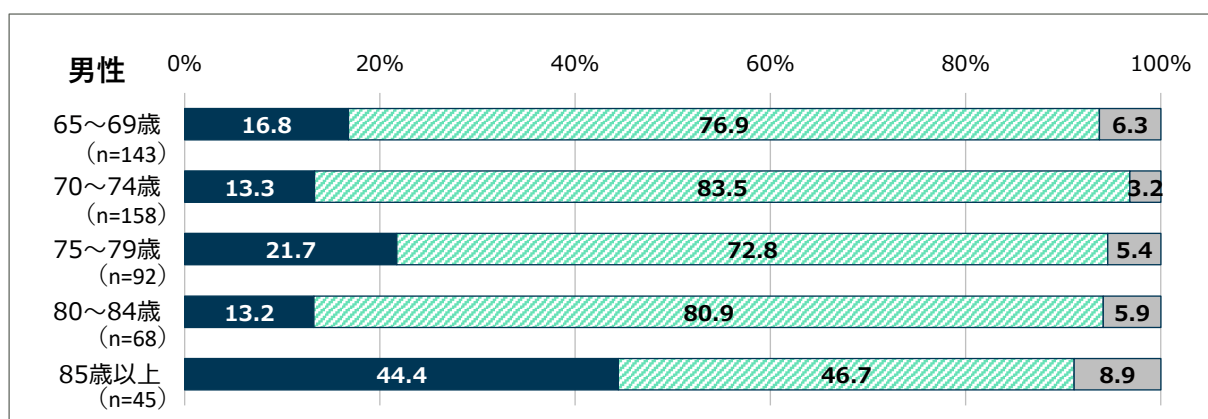
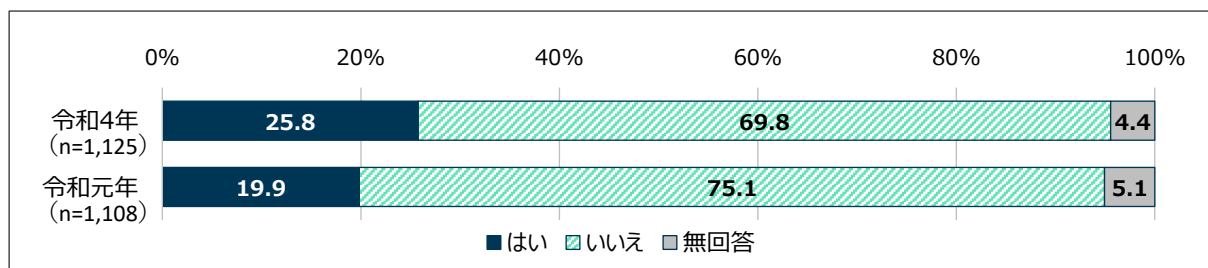


## 問 2 (8) 外出を控えていますか

問 2 (8) (9) は、外出を控えている場合の原因を問う設問です。閉じこもり傾向のある高齢者の原因を把握することにより、地域課題（閉じこもり傾向のある高齢者に不足している対策）の把握が可能になります。

「はい」が 25.8%、「いいえ」が 69.8%となっています。

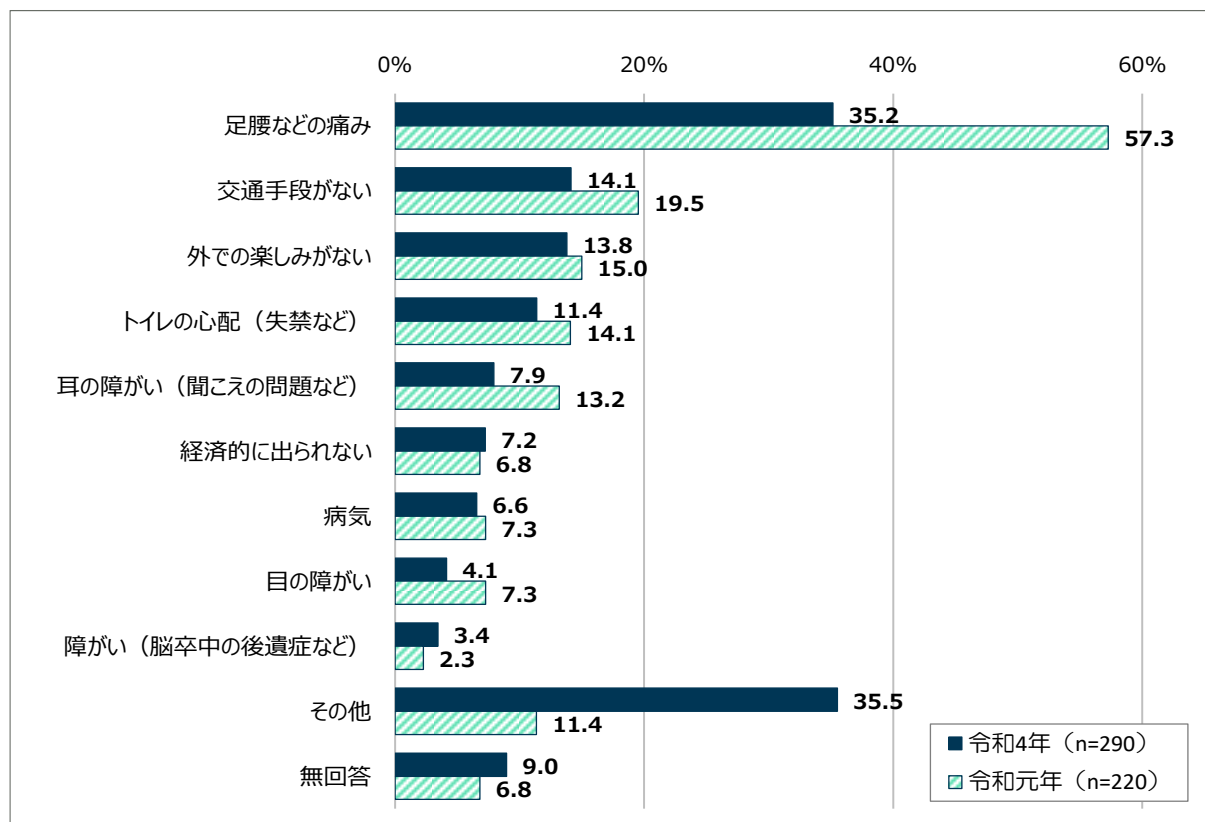
性別・年齢別にみると、すべての年齢層で女性のほうが「はい」の割合が高くなっています。女性は年齢が上がるにつれて「はい」の割合が高くなる傾向がみられますが、男性は 85 歳以上で「はい」の割合が高くなっていますが、84 歳以下では明らかな傾向はみられませんでした。



問2(8)で「はい」(外出を控えている)と回答した方のみ

### 問2(9) 外出を控えている理由は、次のどれですか(複数回答)

「足腰などの痛み」が35.2%と最も高くなっていますが、令和元年の前回調査より22.1ポイント低くなっています。一方で「その他」が前回調査より24.1ポイント高い35.5%となっていますが、「その他」と回答した103人の83.5%にあたる86人が新型コロナウイルス感染症を理由にあげており、全体の29.7%となっています。

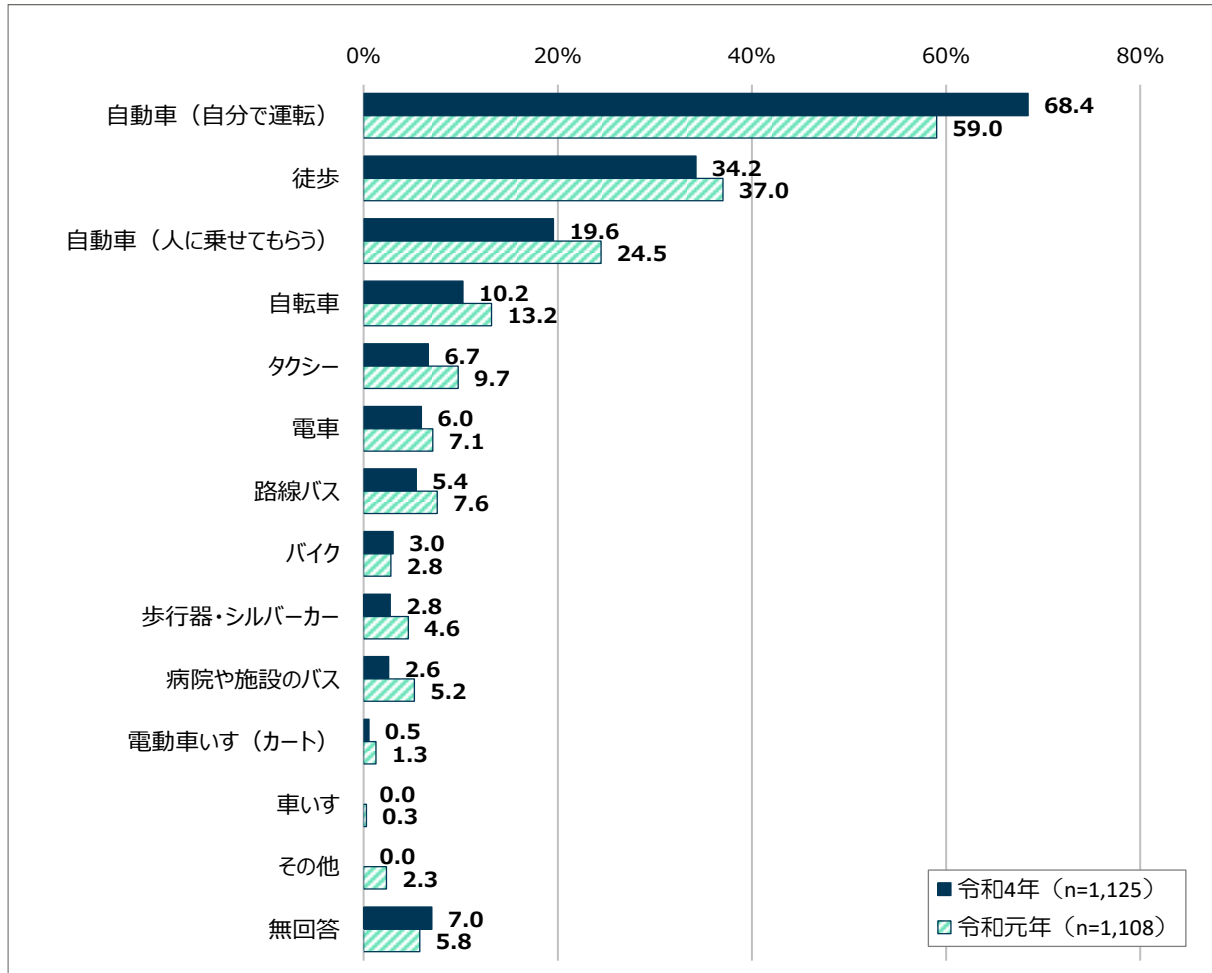




## 問 2 (10) 外出する際の移動手段はなんですか (複数回答)

この設問は、外出の際の移動手段を問う設問です。高齢者の外出の際の移動手段の実態を把握することにより、地域課題（移動手段上の課題）の把握が可能になります。

「自動車（自分で運転）」が前回調査より 9.4 ポイント高い 68.4%となっています。



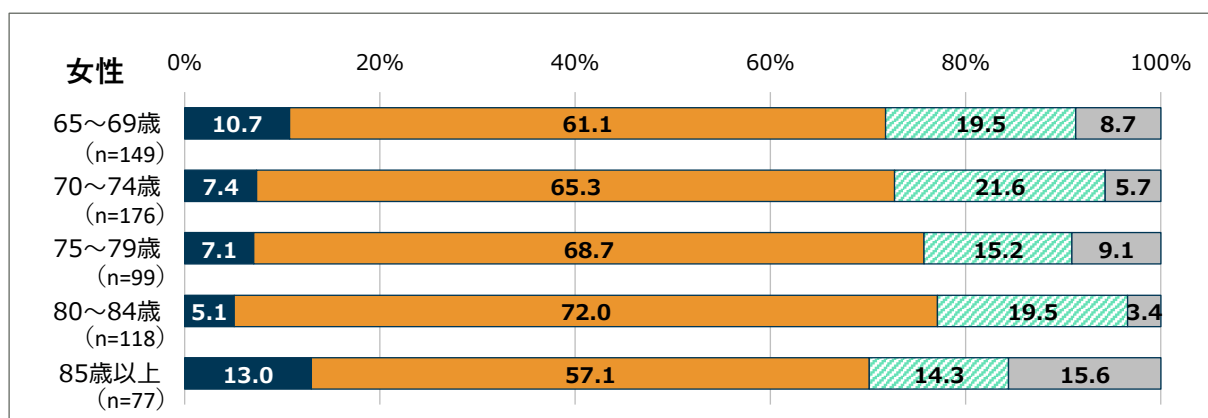
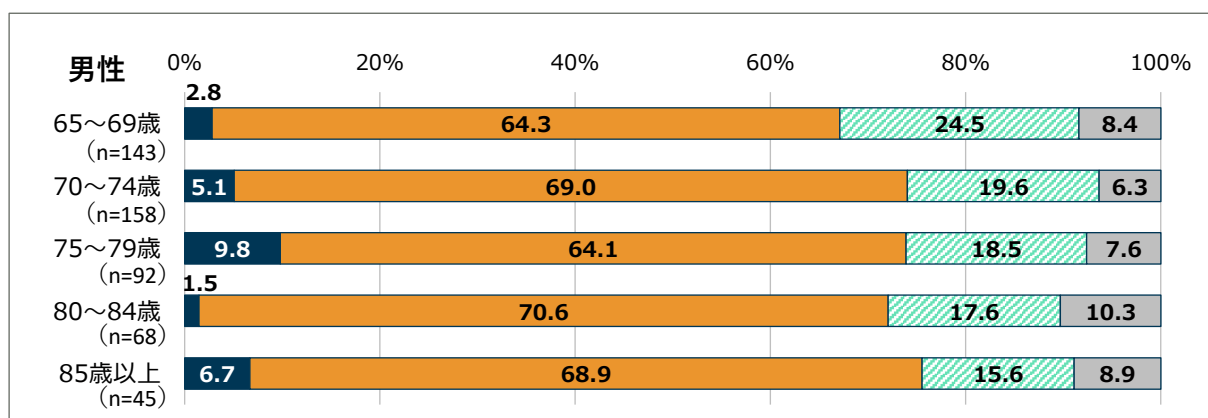
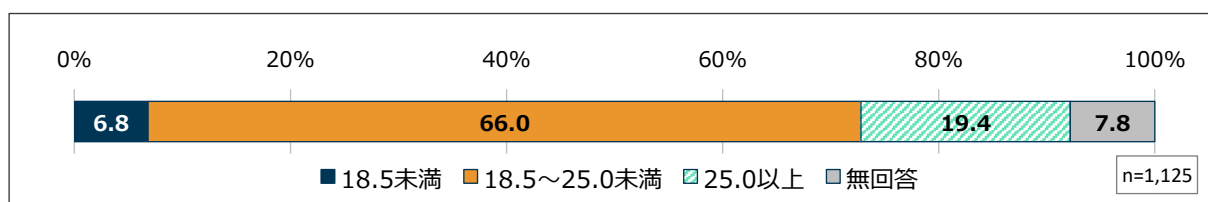
## 問3 食べることについて

### 問3 (1) 身長・体重

この設問は、低栄養の傾向を問う設問です。低栄養状態にある高齢者の地域分布を把握することで、事業の対象者・対象地域・実施内容の検討の際に活用することが可能になります。

身長・体重からBMI\*を算出すると、標準とされる「18.5～25.0未満」が66.0%と最も高く、次いで肥満とされる「25.0以上」が19.4%、やせとされる「18.5未満」が6.8%となっています。

性別・年齢別に明らかな傾向はみられませんでした。



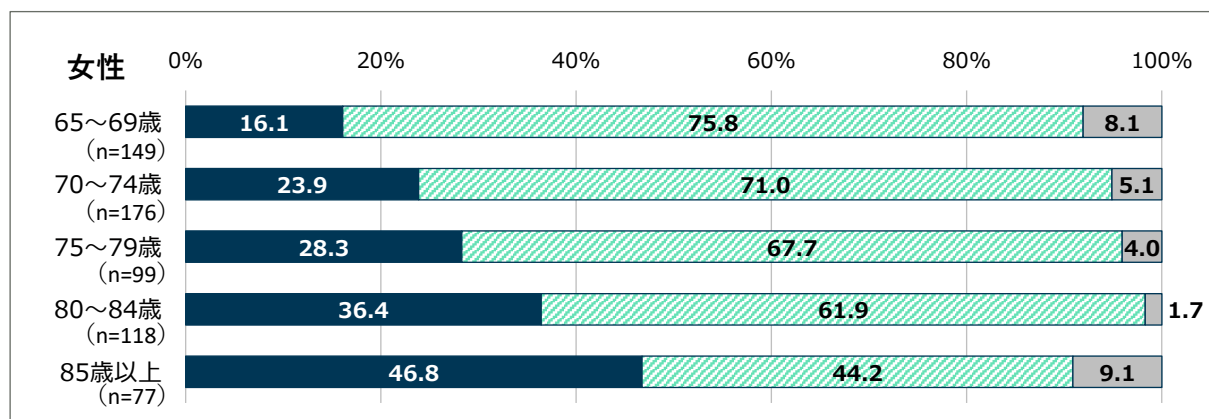
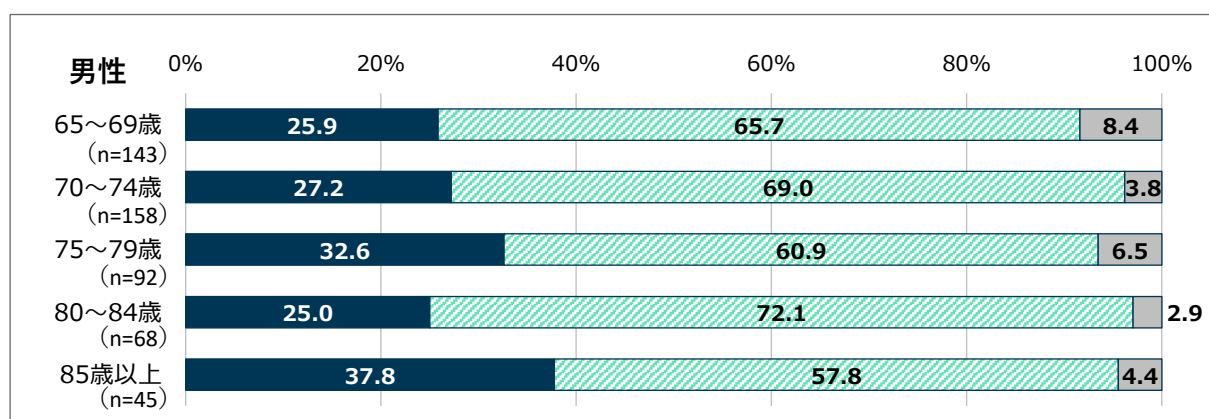
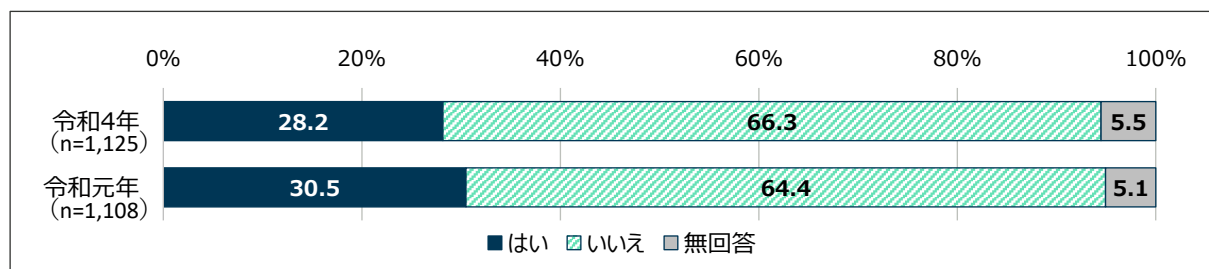
\*BMI：ボディマス指数（Body Mass Index）は、体重 kg / （身長 m）<sup>2</sup> で算出される肥満度を表す体格指数です。男性・女性ともに BMI が 22 のときに死亡率や高血圧、糖尿病、心筋梗塞などの有病率が、最も低いことが知られています。

### 問 3 (2) 半年前に比べて固いものが食べにくくなりましたか

この設問は、口腔機能の低下のうち咀嚼機能の低下を問う設問です。口腔機能が低下している高齢者の地域分布を把握することで、事業の対象者・対象地域・実施内容の検討の際に活用することが可能になります。

「はい」が28.2%、「いいえ」が66.3%となっています。

性別・年齢別にみると、男性・女性ともに年齢が上がるにつれて「はい」の割合が高くなる傾向がみられ、特に女性でその傾向が明らかとなっています。

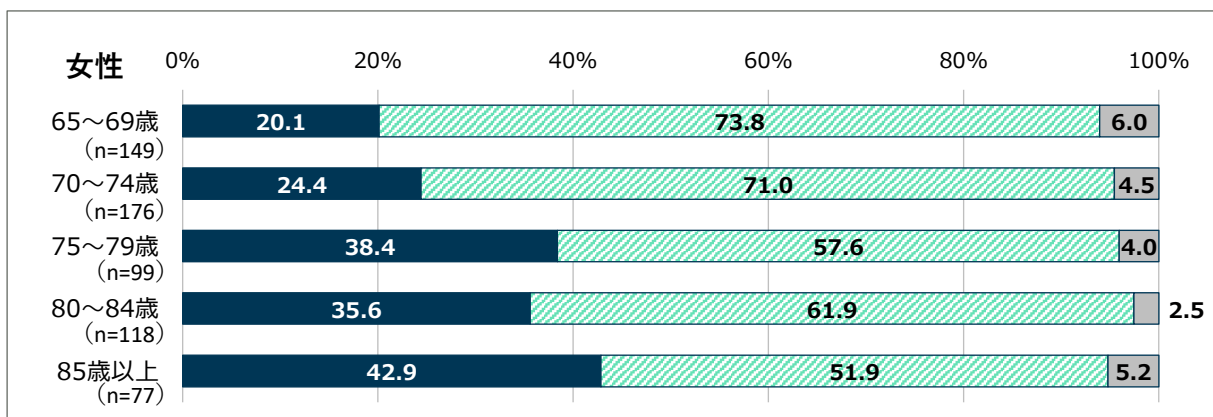
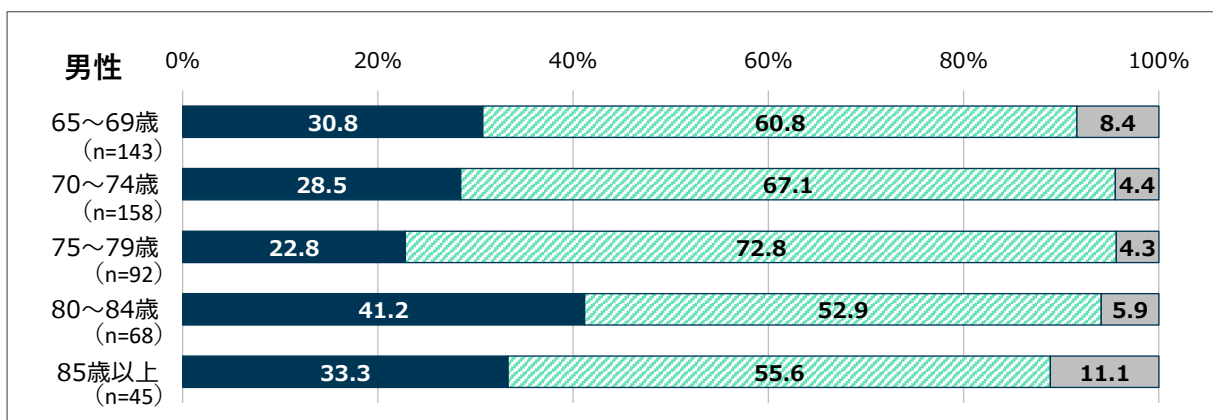
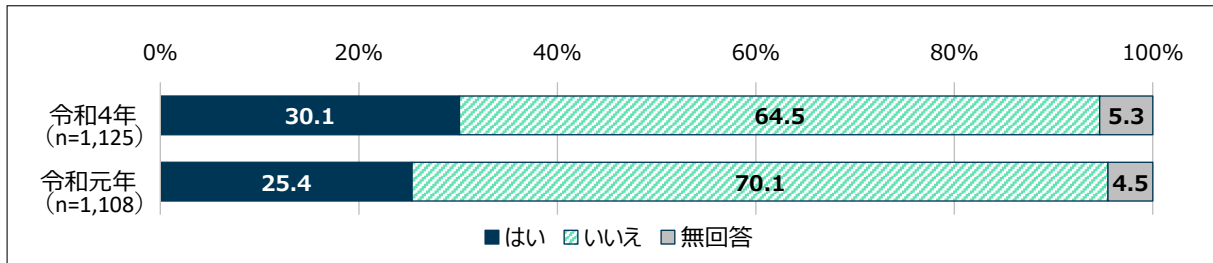


### 問 3 (3) お茶や汁物などでむせることがありますか

この設問は、口腔機能の低下のうち嚥下機能の低下を問う設問です。

「はい」が30.1%、「いいえ」が64.5%となっています。

性別・年齢別にみると、女性は年齢が上がるにつれて「はい」の割合が高くなる傾向にあります。男性は年齢による明らかな傾向はみられませんでした。

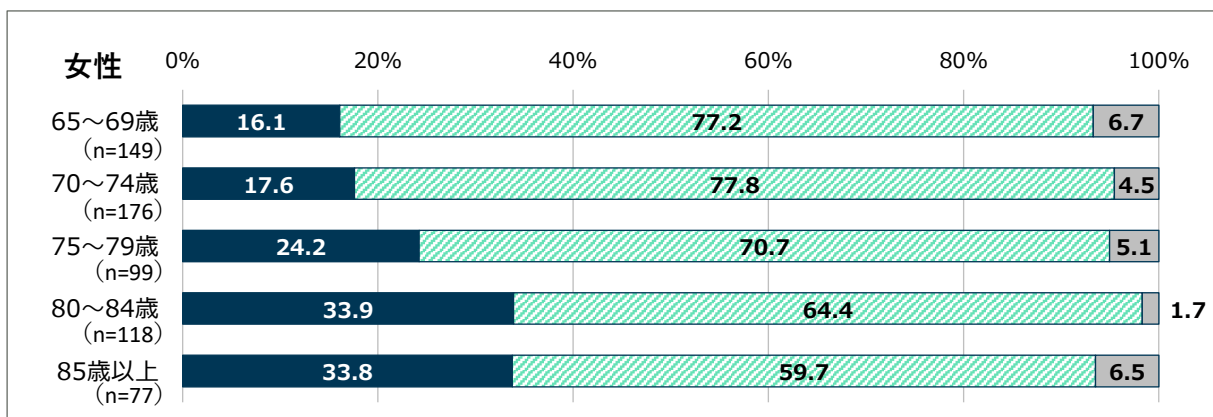
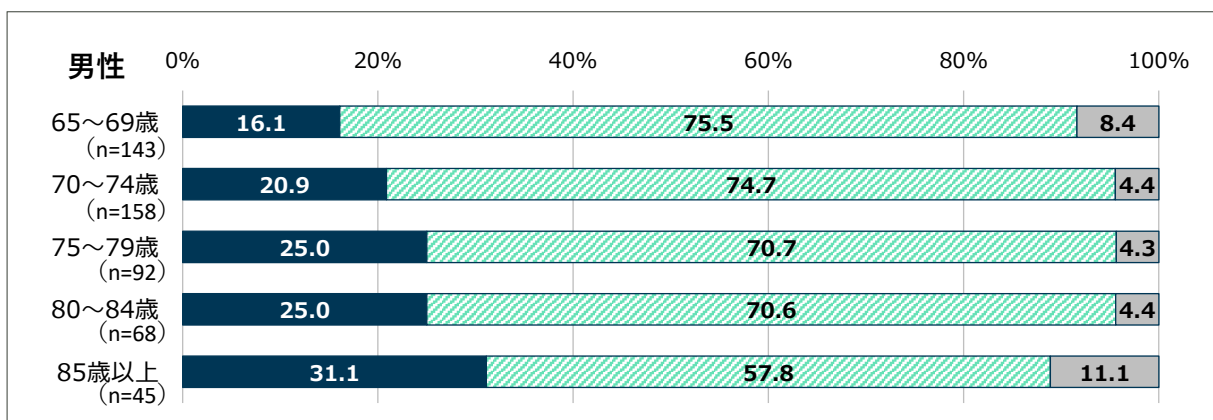
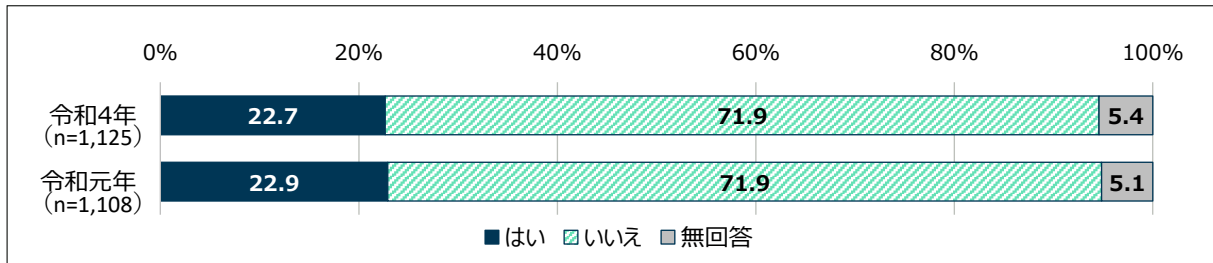


### 問 3 (4) 口の渇きが気になりますか

この設問は、口腔機能の低下のうち肺炎発症リスクを問う設問です。

「はい」が22.7%、「いいえ」が71.9%となっています。

性別・年齢別にみると、男性・女性ともに年齢が上がるほど「はい」の割合が高くなる傾向がみられます。

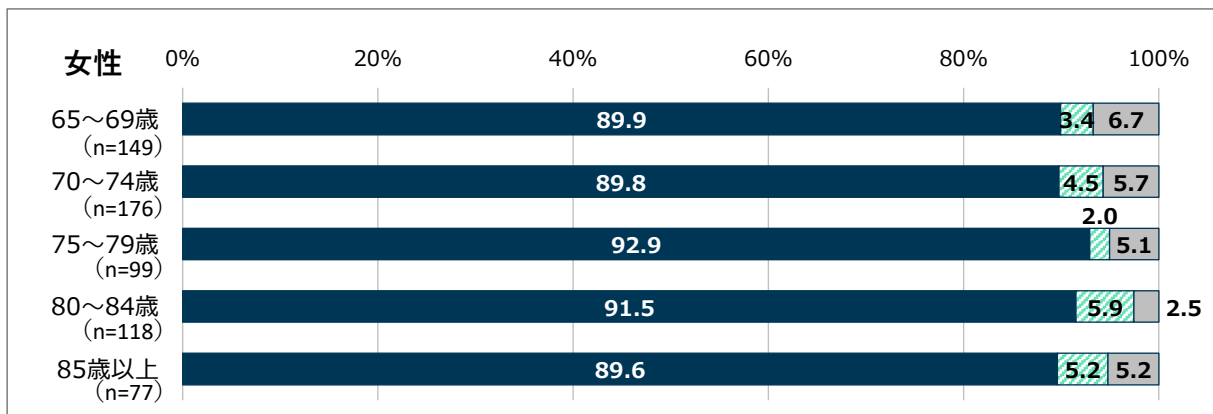
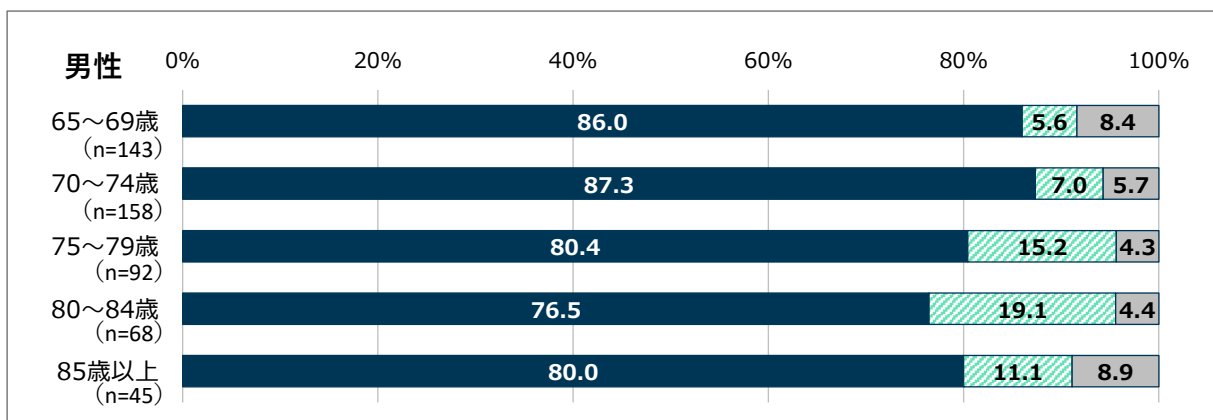
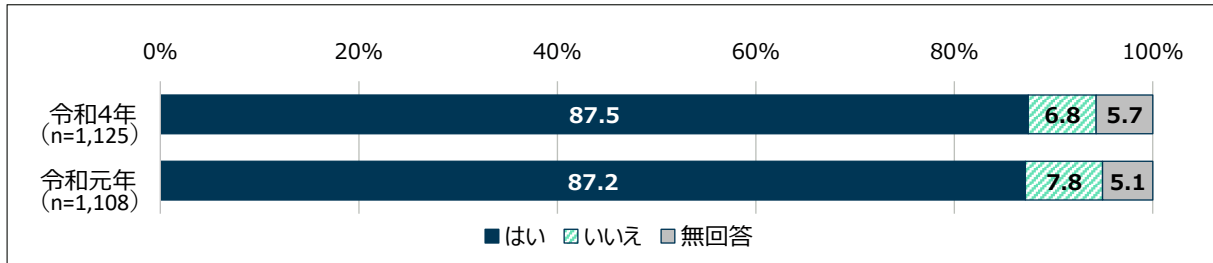


### 問 3 (5) 歯磨き（人にやってもらう場合も含む）を毎日していますか

この設問は、口腔ケアに問う設問です。日常の口腔ケアの状況を把握することにより口腔に関する地域課題の把握が可能になります。

「はい」が87.5%、「いいえ」が6.8%となっています。

性別・年齢別にみると、すべての年齢層で女性のほうが「はい」の割合が高くなっています。

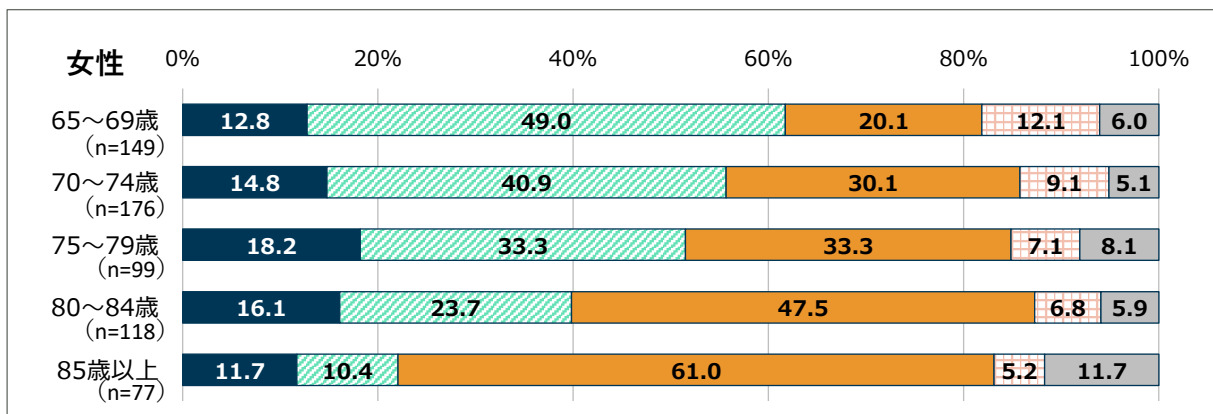
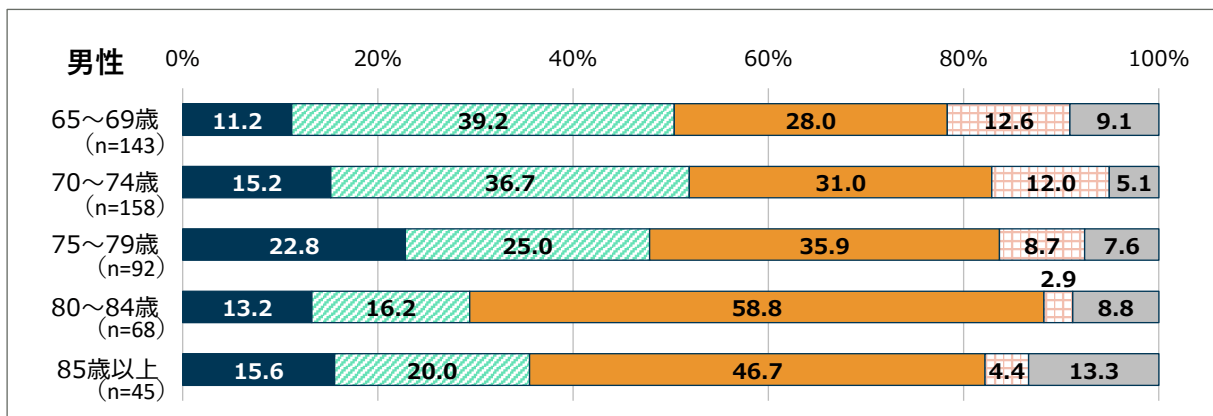
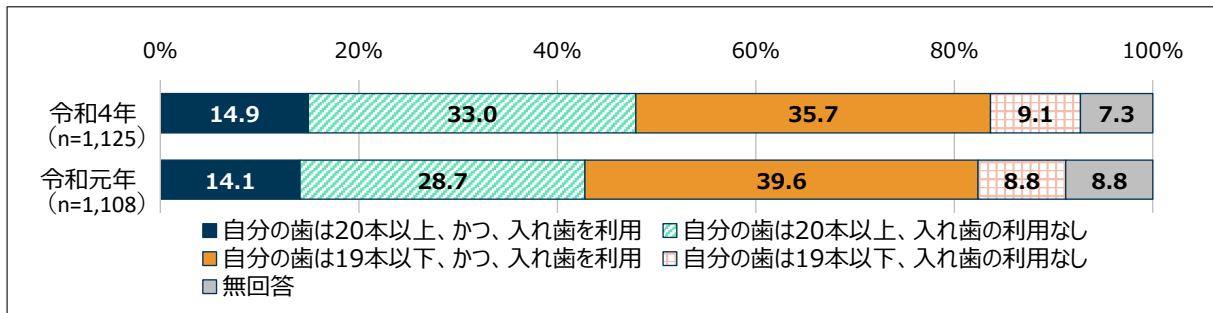


### 問 3 (6) 歯の数と入れ歯の利用状況をお教えてください

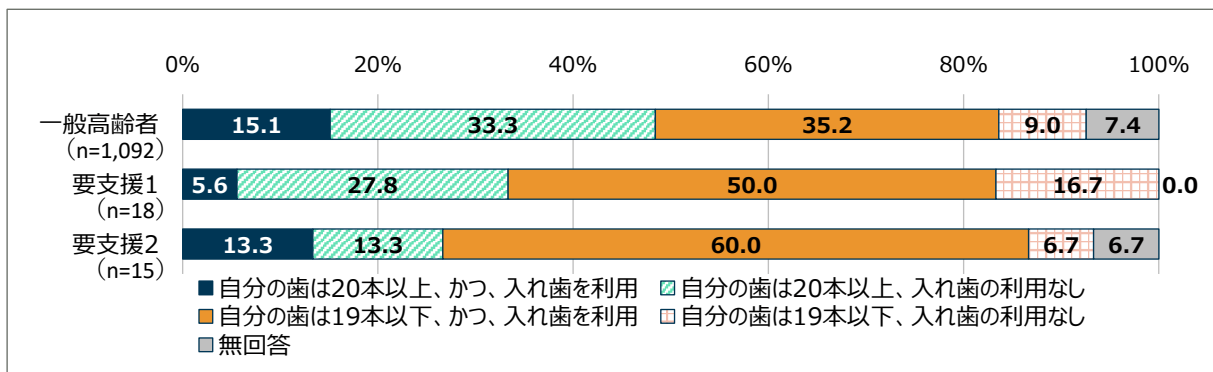
この設問は、義歯の有無と歯数を問う設問です。高齢者の口腔の健康状態や義歯の使用状況の把握により、地域の歯科医療や口腔機能の向上に関するニーズの把握の参考になります。

「自分の歯は19本以下、かつ、入れ歯を利用」が35.7%と最も高く、次いで「自分の歯は20本以上、入れ歯の利用なし」が33.0%となっています。自分の歯が20本以上ある割合は47.9%となっています。

性別・年齢別にみると、男性・女性ともに年齢が上がるにつれて、自分の歯が20本以上ある割合が低くなる傾向がみられ、特に女性でその傾向が明らかとなっています。



認定区分別にみると、要支援認定者で自分の歯が20本以上ある割合が低くなっています。

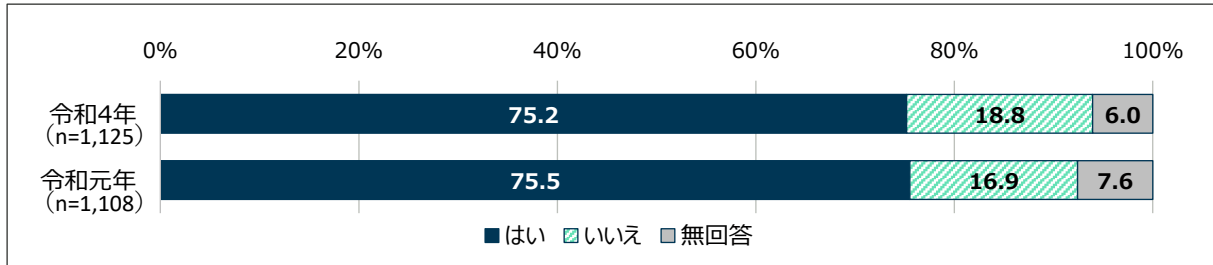




### 問 3 (7) 噛み合わせはよいですか

この設問は、咬合状態を問う設問です。咀嚼機能や口腔衛生の状況を把握することにより、口腔に関する地域課題の把握が可能になります。

「はい」が75.2%となっています。

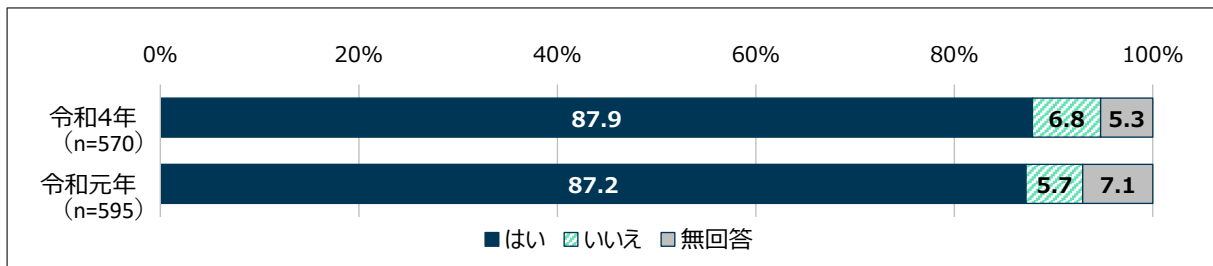


問 3 (6) で「自分の歯は 20 本以上、かつ、入れ歯を利用」または「自分の歯は 19 本以下、かつ、入れ歯を利用」と回答した方のみ

### 問 3 (8) 毎日入れ歯の手入れをしていますか

この設問は、義歯の管理を問う設問です。

「はい」が87.9%となっています。



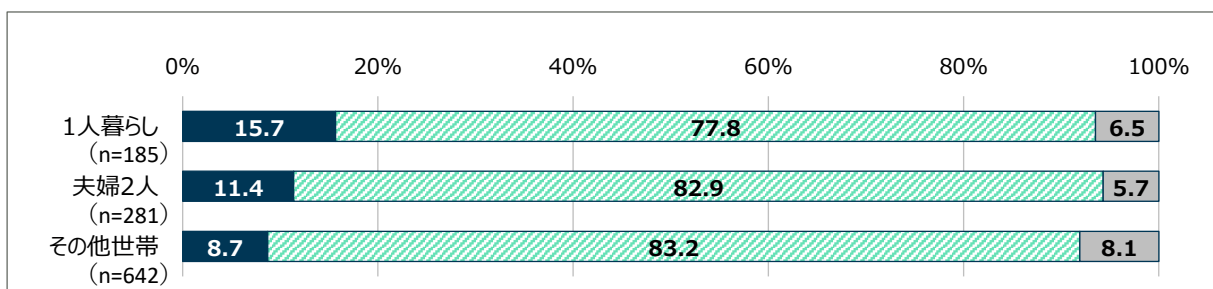
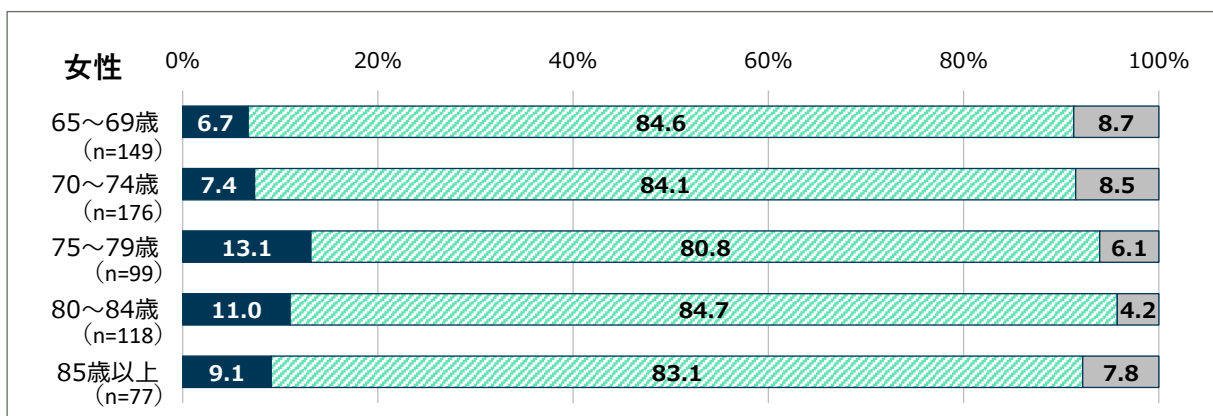
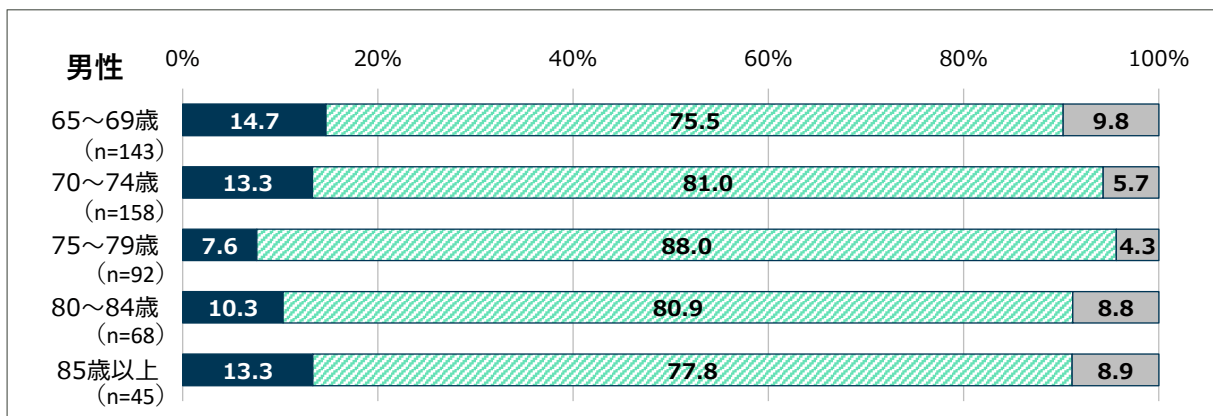
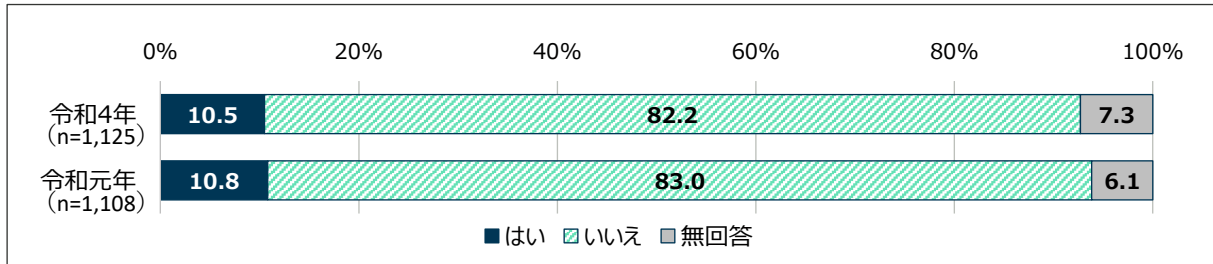
### 問 3 (9) 6 か月間で 2~3kg 以上の体重減少がありましたか

この設問は、低栄養の傾向を問う設問です。低栄養の傾向のある高齢者の地域分布を把握することは、事業の対象者・対象地域・実施内容の検討の際に活用することが可能になります。

「はい」が 10.5%、「いいえ」が 82.2%となっています。

性別・年齢別に明らかな傾向はみられませんでした。

家族構成別にみると、1人暮らし世帯で「はい」の割合が高くなっています。



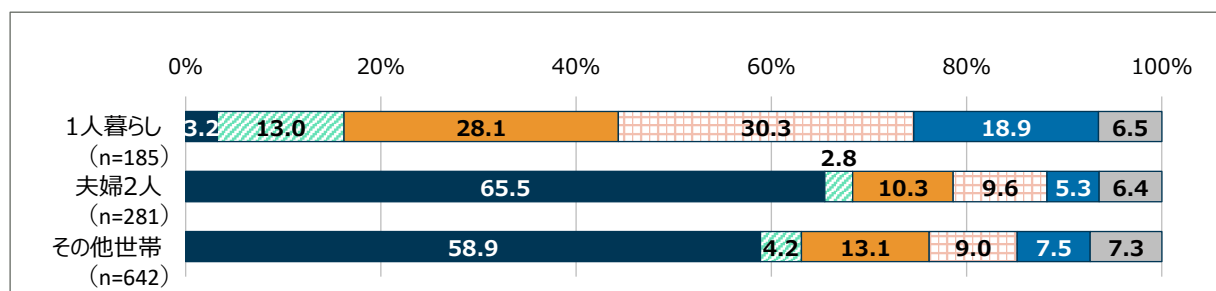
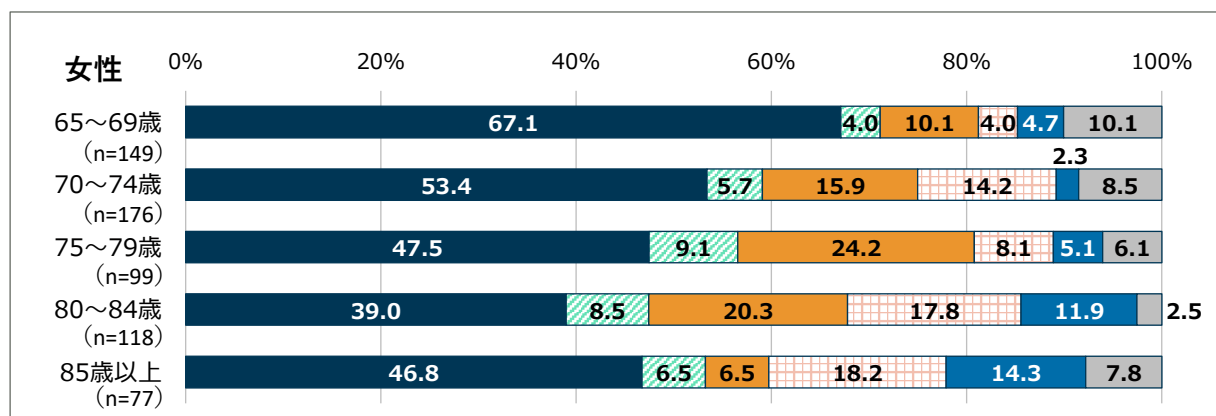
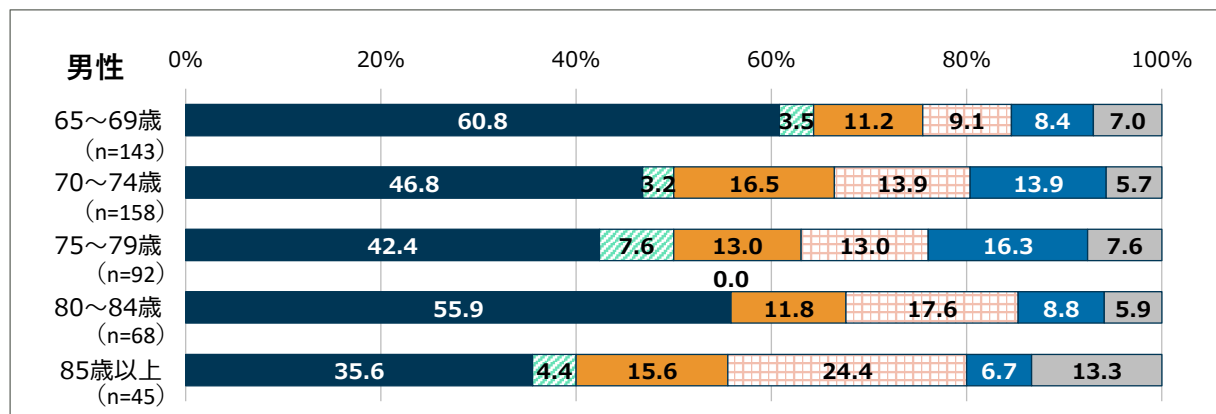
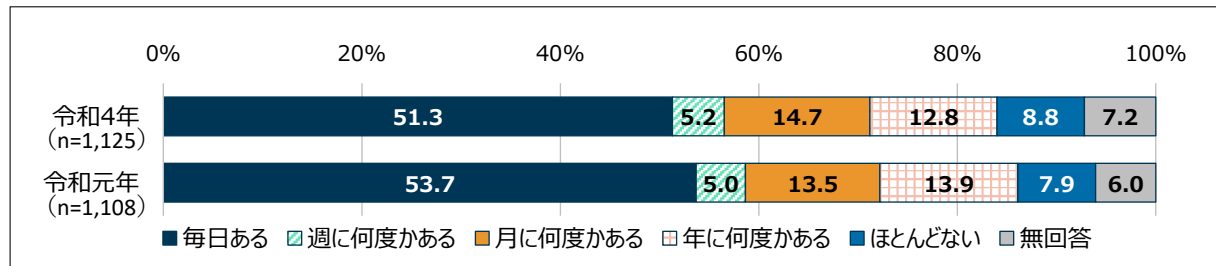
### 問 3 (10) どなたかと食事をとにもする機会はありますか

この設問は、孤食の状況を問う設問です。閉じこもり傾向と孤食の関係性を把握することで、地域課題（閉じこもり傾向の原因）の把握が可能になります。

「毎日ある」が51.3%と最も高くなっています。

性別・年齢別にみると、数値にばらつきはありますが、男性・女性ともに年齢が上がるほど、誰かと食事をとにもする頻度が低くなる傾向がみられます。

家族構成別にみると、1人暮らし世帯では「年に何度かある」が30.3%と最も高く、「毎日ある」は3.2%となっています。



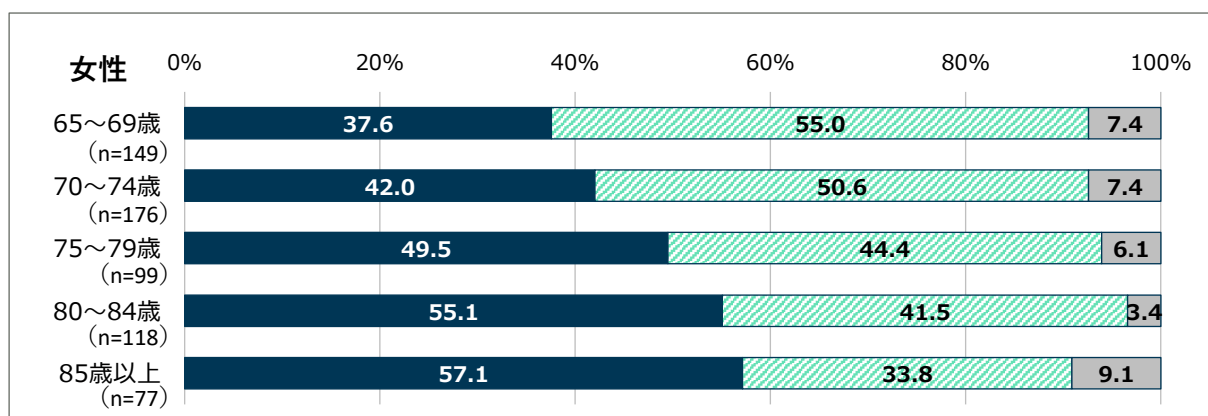
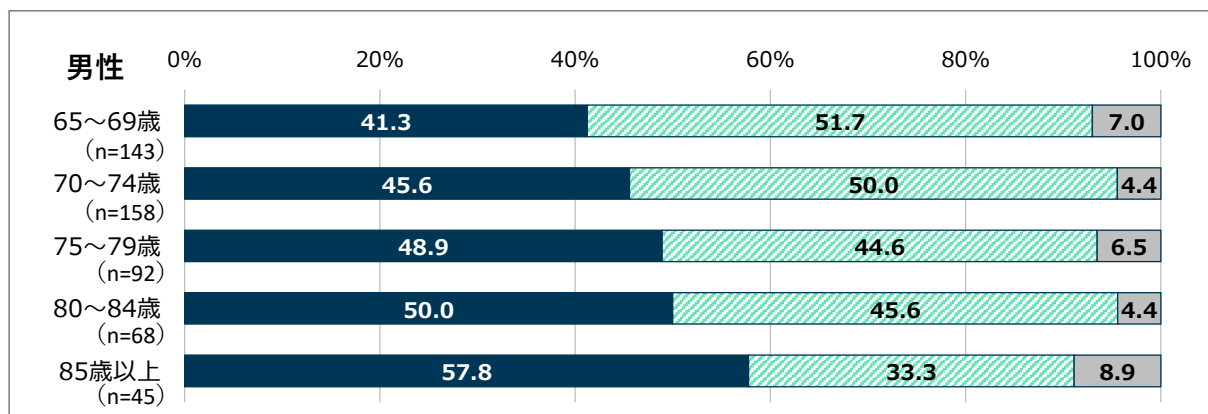
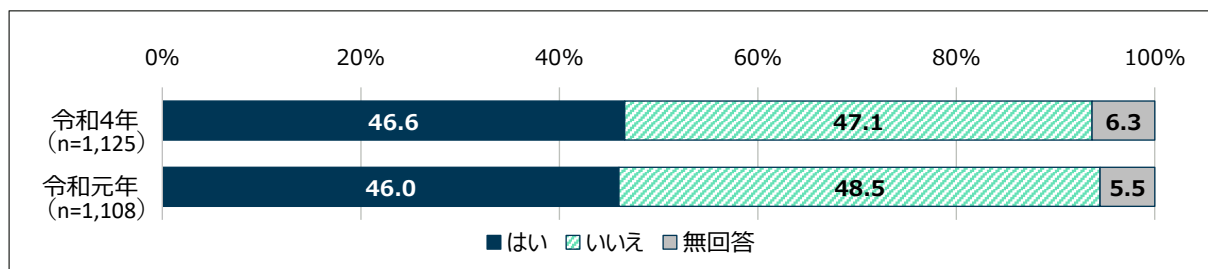
## 問 4 毎日の生活について

### 問 4 (1) 物忘れが多いと感じますか

問 4 (1) ~ (3) は、認知機能の低下を問う設問です。認知機能が低下している高齢者の地域分布を把握することは、事業の対象者・対象地域・実施内容の検討の際に活用することが可能になります。

「はい」が46.6%、「いいえ」が47.1%となっています。

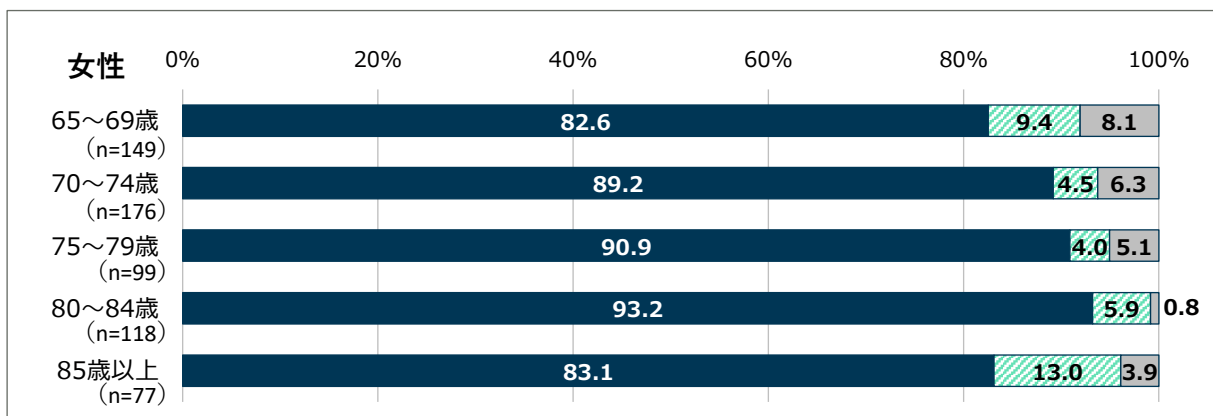
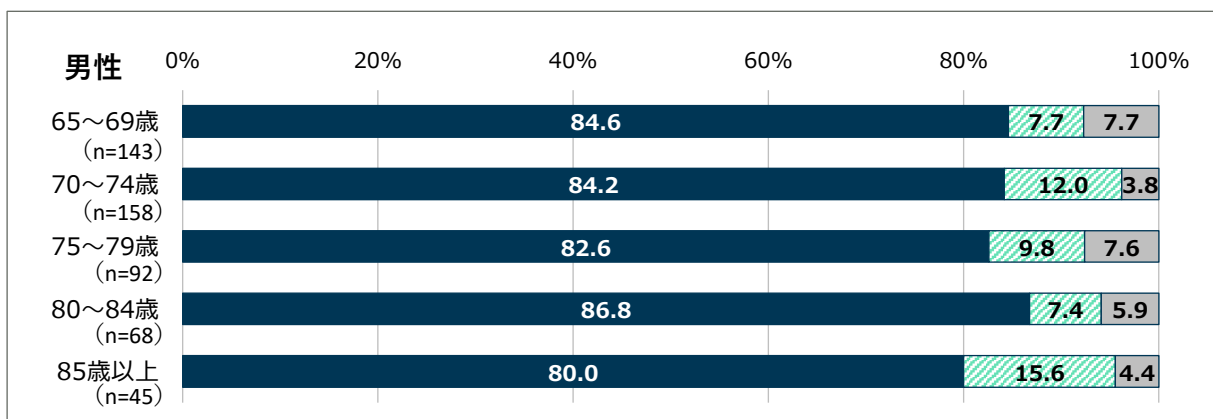
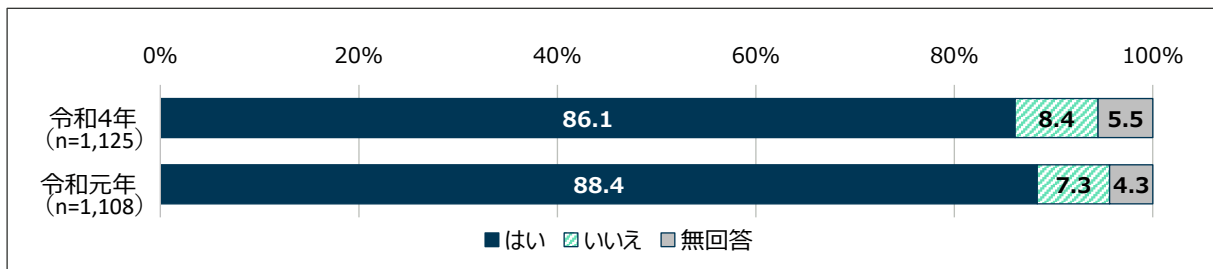
性別・年齢別にみると、男性・女性ともに年齢が上がるにつれて「はい」の割合が高くなっていきます。



#### 問 4 (2) 自分で電話番号を調べて、電話をかけることをしていますか

「はい」が86.1%となっています。

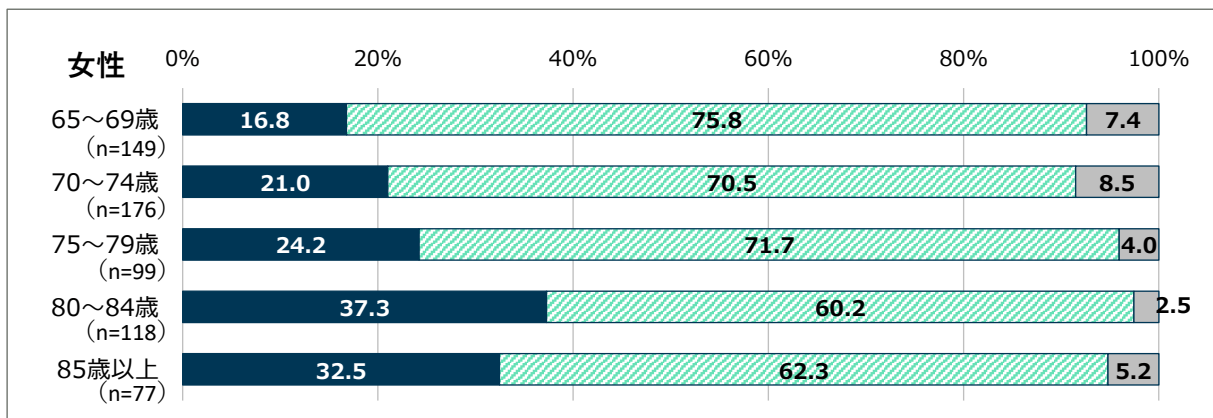
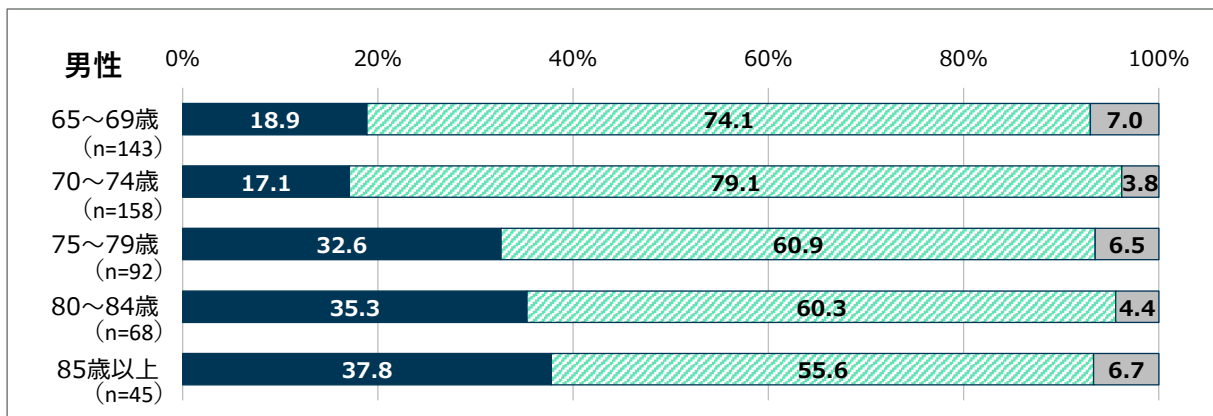
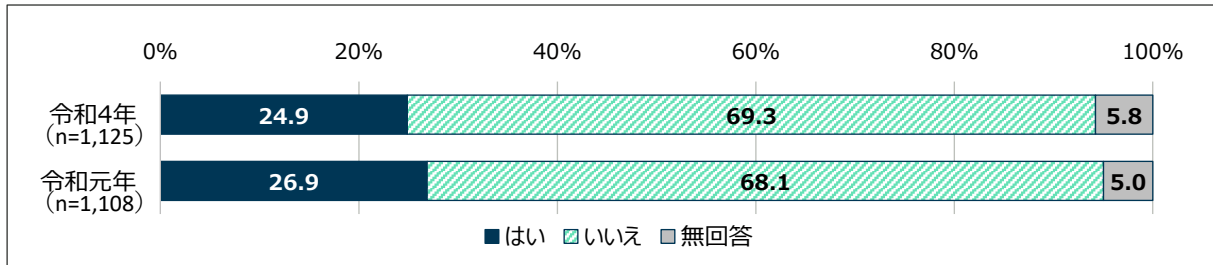
性別・年齢別に明らかな傾向はみられませんでした。



#### 問 4 (3) 今日が何月何日かわからないときがありますか

「はい」が24.9%、「いいえ」が69.3%となっています。

性別・年齢別にみると、数値にばらつきがありますが、男性・女性ともに年齢が上がるほど「はい」の割合が高くなる傾向がみられます。

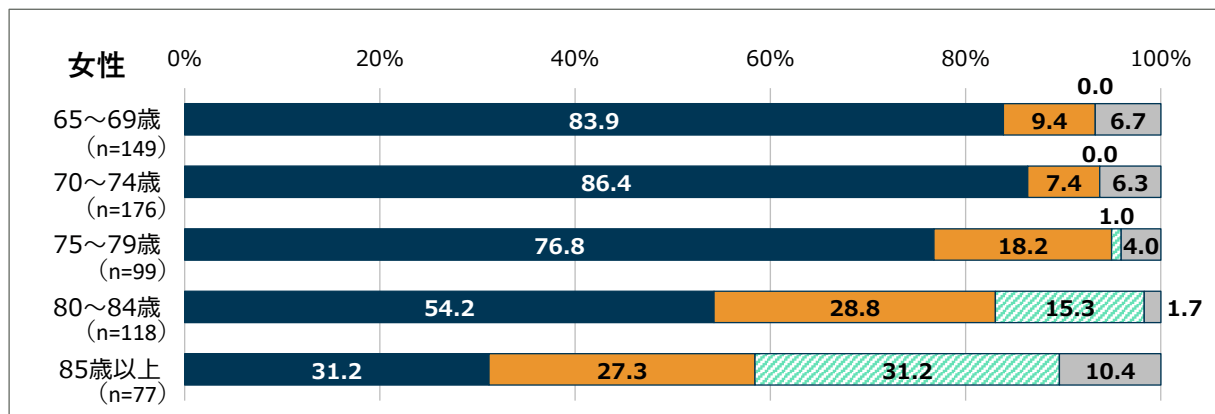
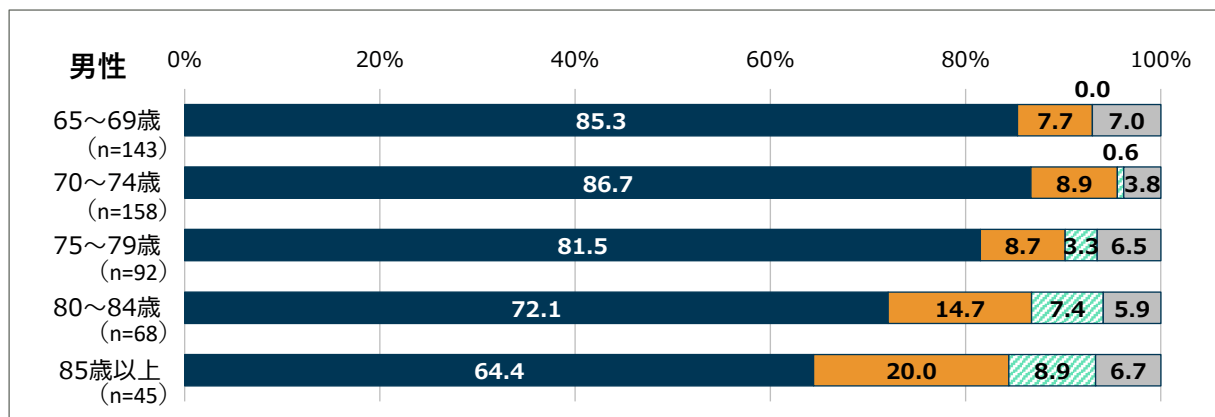
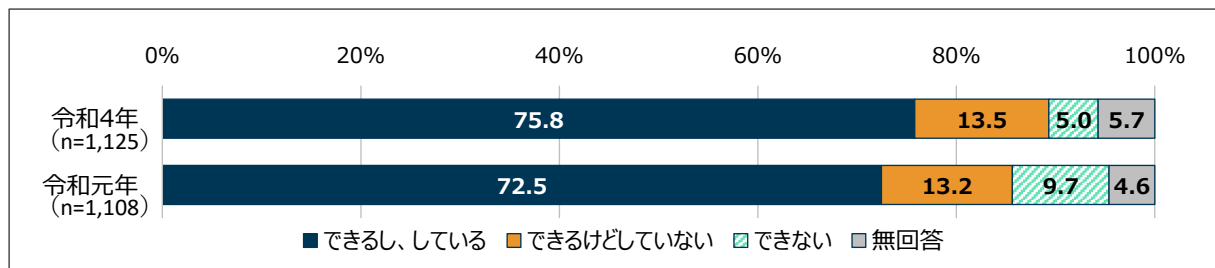


#### 問 4 (4) バスや電車を使って 1 人で外出していますか (自家用車でも可)

問 4 (4) ~ (8) は、IADL の低下を問う設問です。IADL が低下している高齢者の地域分布を把握することで、事業の対象者・対象地域・実施内容の検討の際に活用することが可能になります。

「できるし、している」が 75.8%で、「できない」は 5.0%となっています。

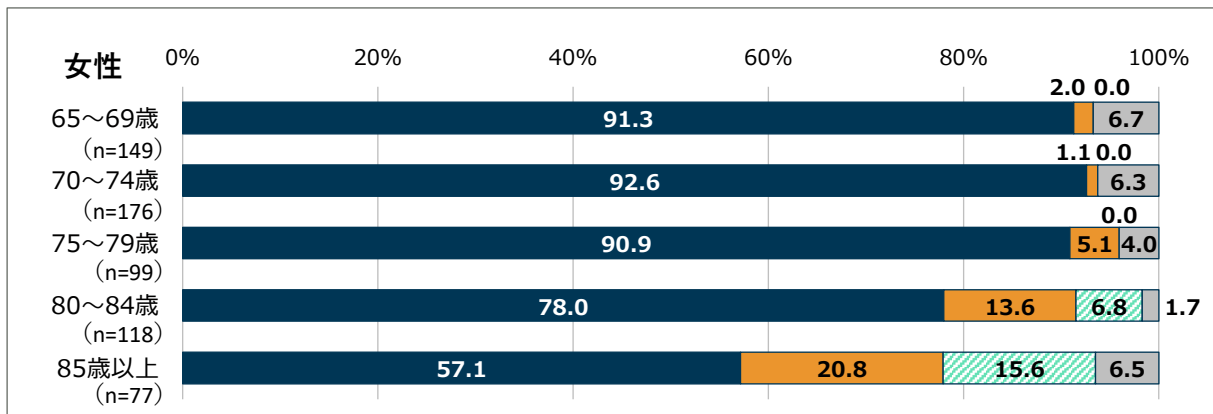
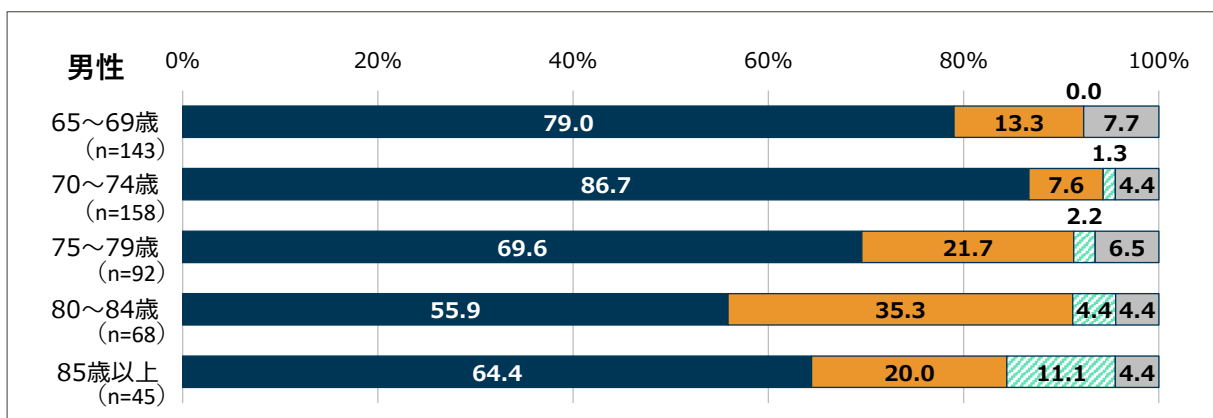
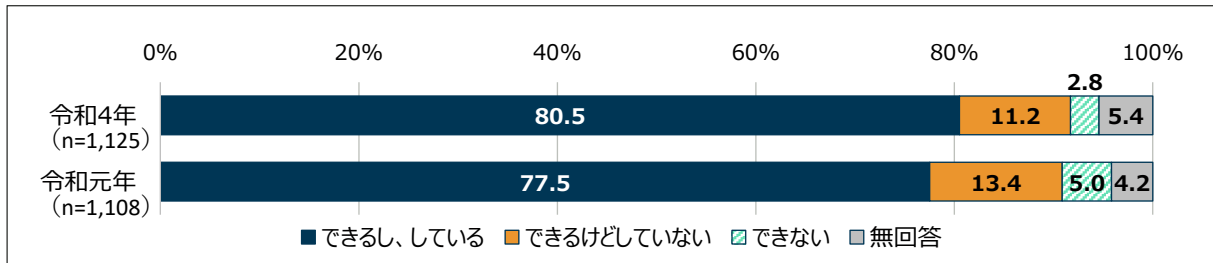
性別・年齢別にみると、男性・女性ともに 69 歳以下では「できない」割合は 0.0%で、年齢が上がるほど「できない」割合が高くなっています。85 歳以上女性は「できない」割合が 31.2%となっています。



#### 問 4 (5) 自分で食品・日用品の買い物をしていますか

「できるし、している」が80.5%で、「できない」は2.8%となっています。

性別・年齢別にみると、男性の69歳以下、女性の79歳以下では「できない」割合は0.0%で、年齢が上がるほど「できない」割合が高くなっています。男性の84歳以下では「できるけどしてこない」割合が高くなっています。

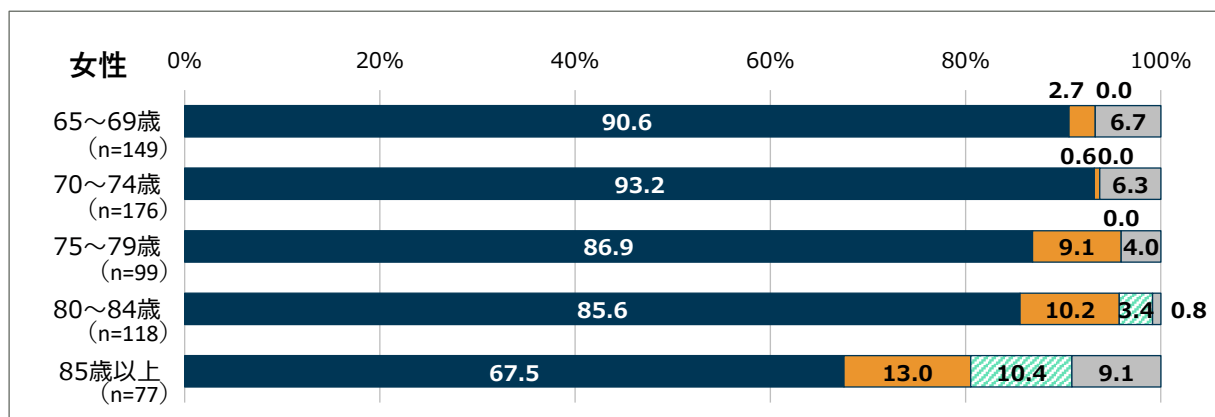
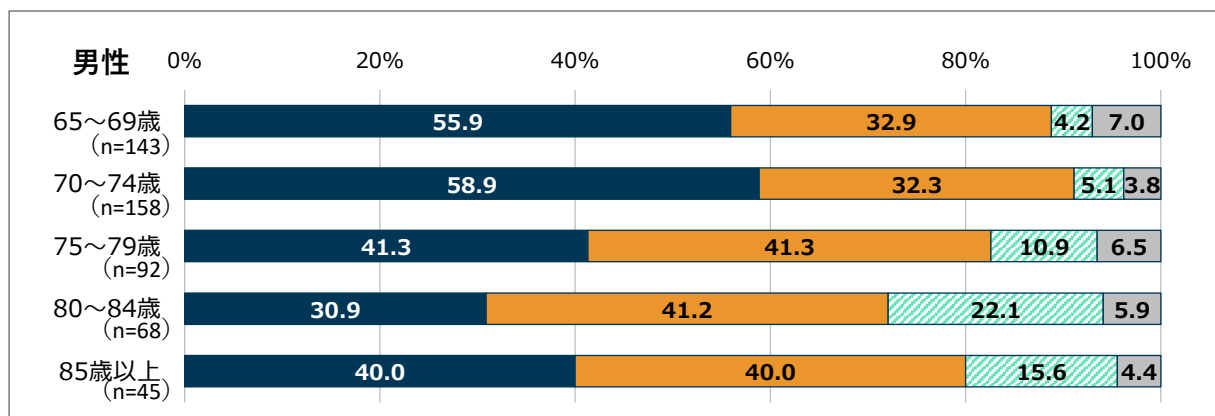
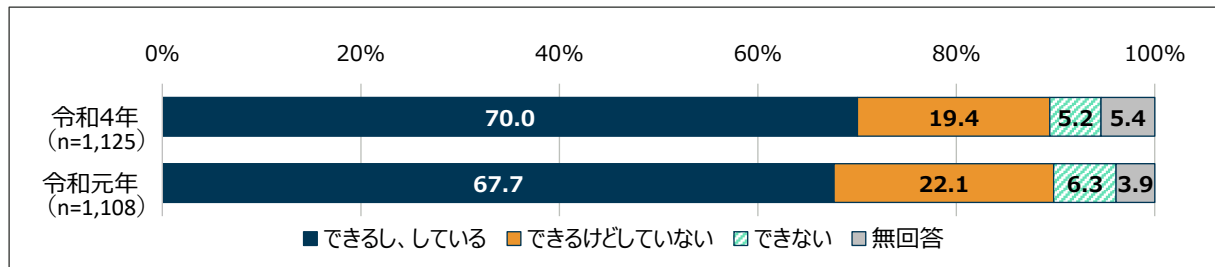




#### 問 4 (6) 自分で食事の用意をしていますか

「できるし、している」が70.0%で、「できない」は5.2%となっています。

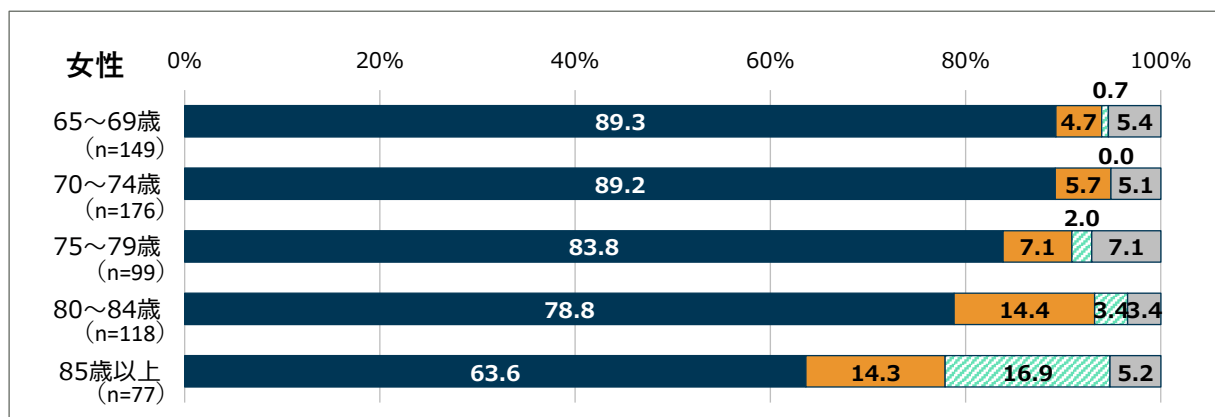
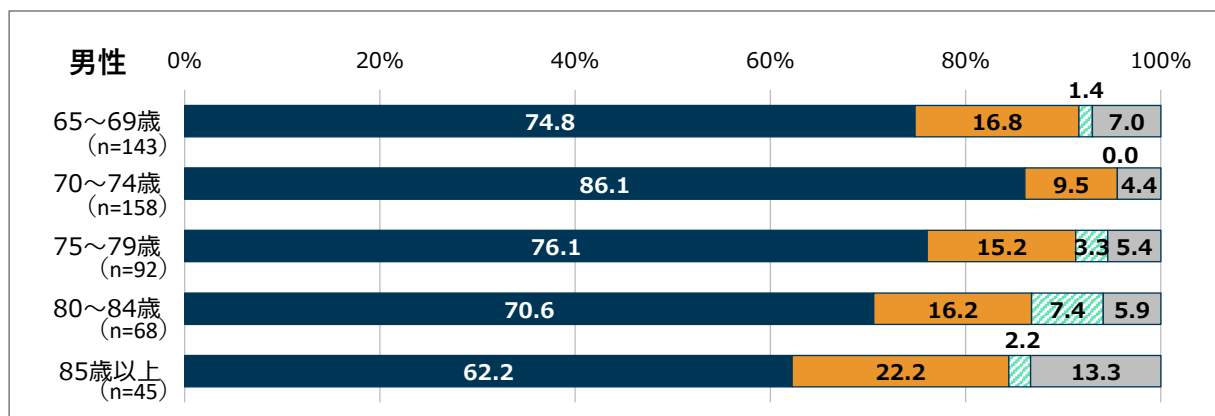
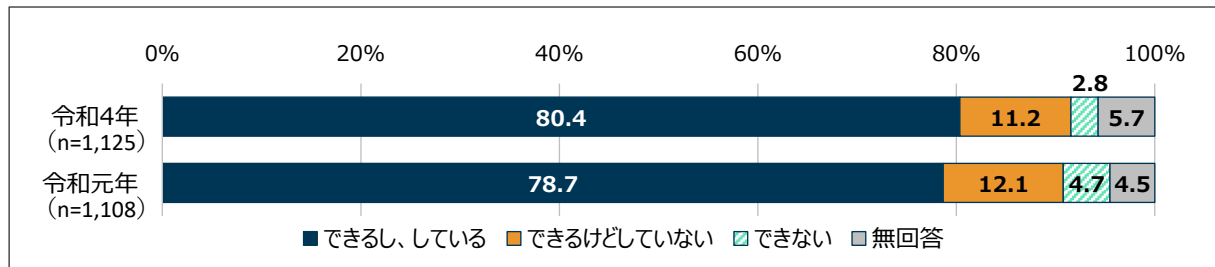
性別・年齢別にみると、すべての年齢層で女性のほうが「できるし、している」割合が高くなっています。男性はすべての年齢層で「できるけどしていない」割合が30%以上となっています。



#### 問 4 (7) 自分で請求書の支払いをしていますか

「できるし、している」が80.4%で、「できない」は2.8%となっています。

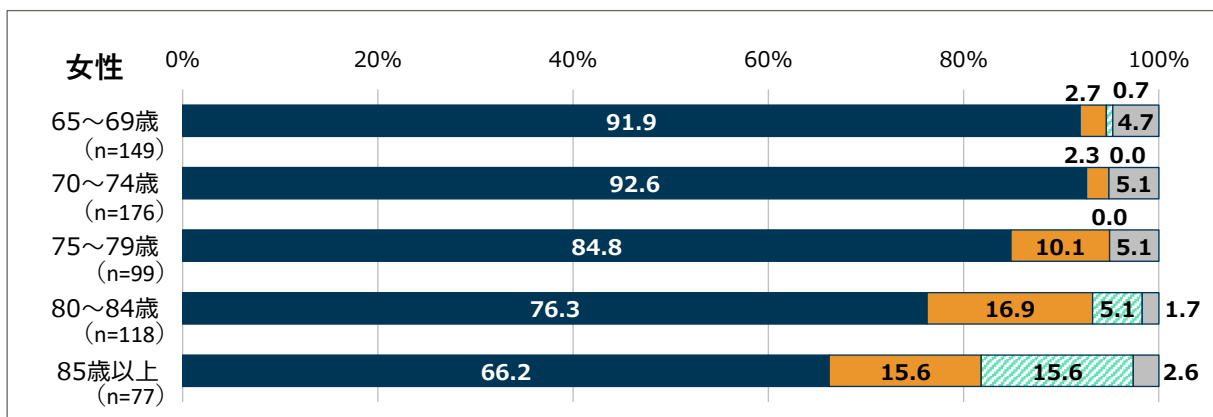
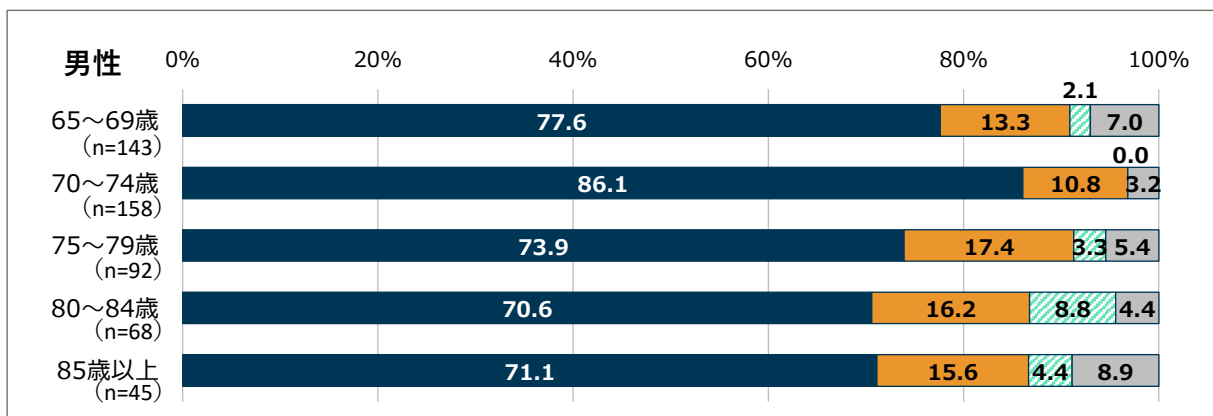
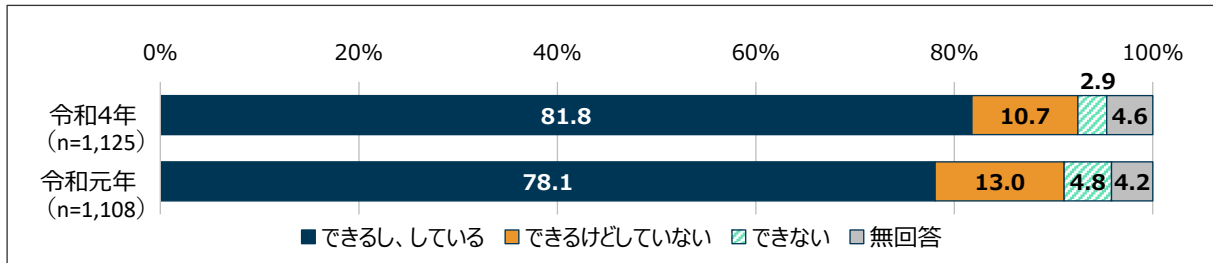
性別・年齢別にみると、すべての年齢層で女性のほうが「できるし、している」割合が高くなっています。85歳以上女性で「できない」割合が高く、16.9%となっています。



#### 問 4 (8) 自分で預貯金の出し入れをしていますか

「できるし、している」が81.8%で、「できない」は2.9%となっています。

性別・年齢別にみると、男性は年齢による明らかな傾向はみられませんでした。女性は年齢が上がるほど「できるし、している」割合が低くなる傾向がみられます。84歳以下では女性のほうが「できるし、している」割合が高くなっていますが、85歳以上女性で「できない」割合が高く、15.6%となっています。

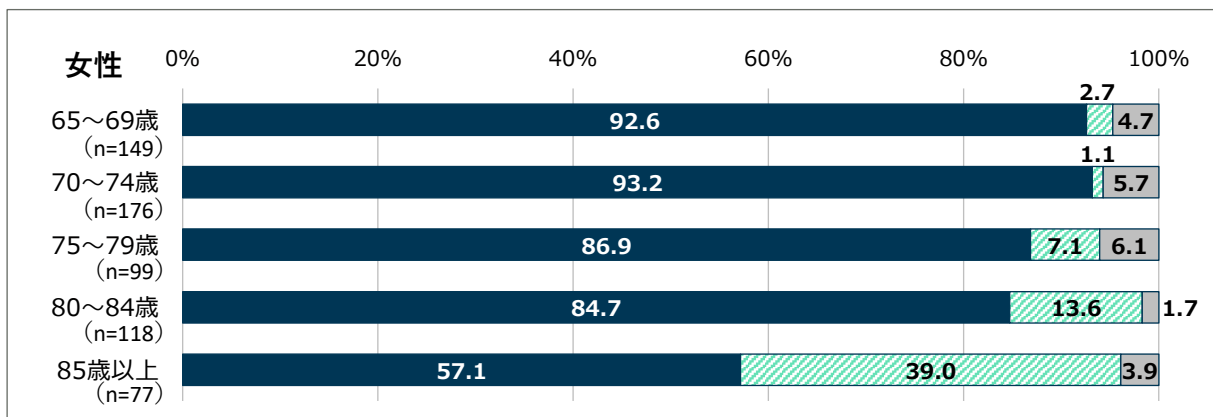
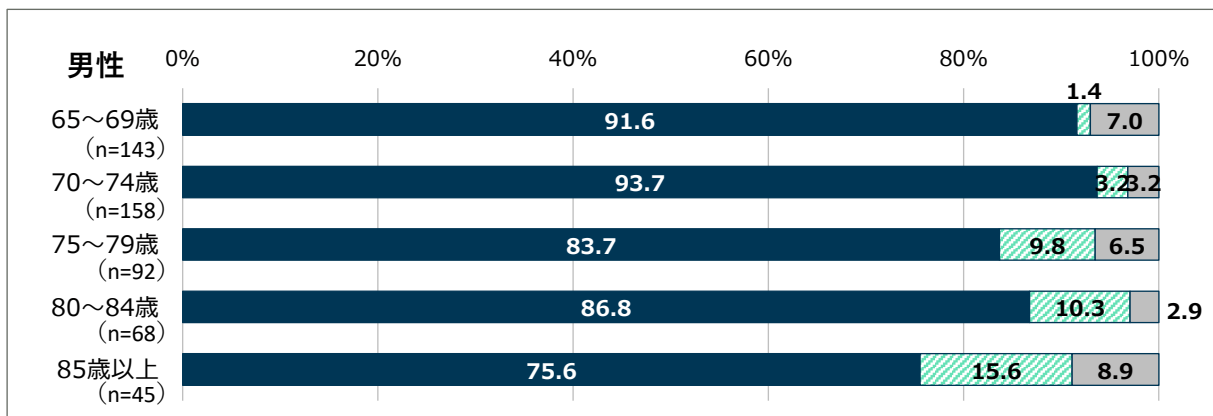
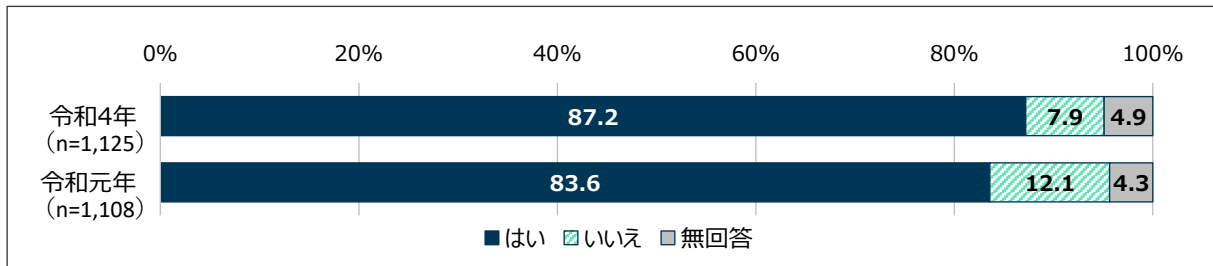


#### 問 4 (9) 年金などの書類（役所や病院などに出す書類）が書けますか

問 4 (9) ～ (12) は、知的能動性の低下を問う設問です。本指標が低下している高齢者の地域分布を把握することは、事業の対象者・対象地域・実施内容の検討の際に活用することが可能になります。

「はい」が87.2%、「いいえ」が7.9%となっています。

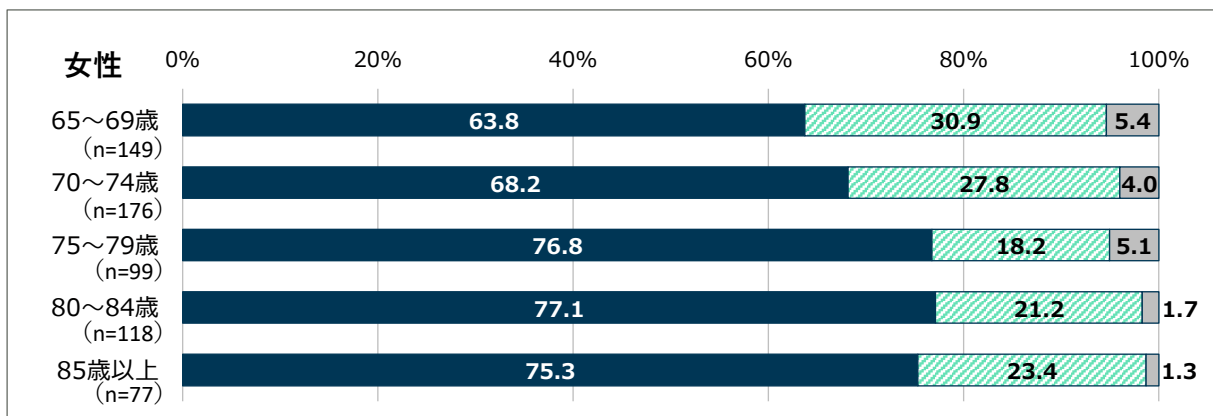
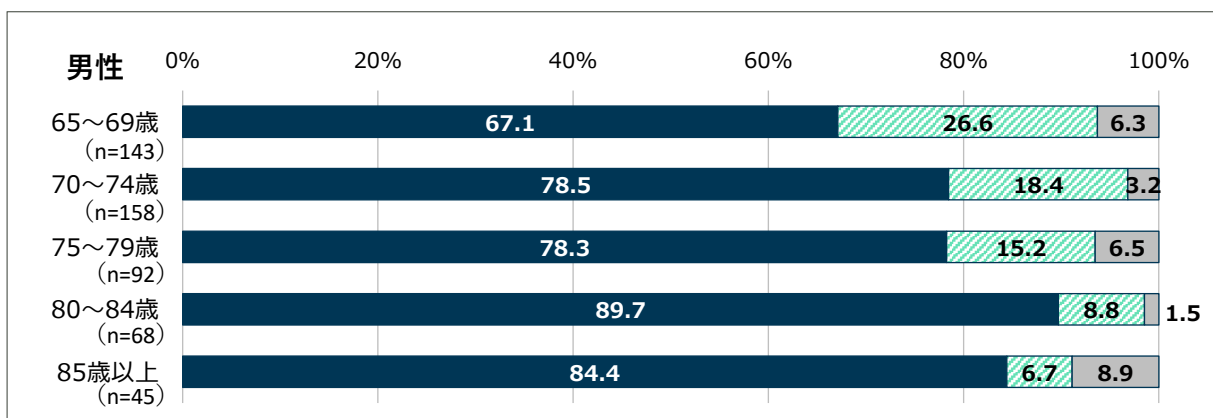
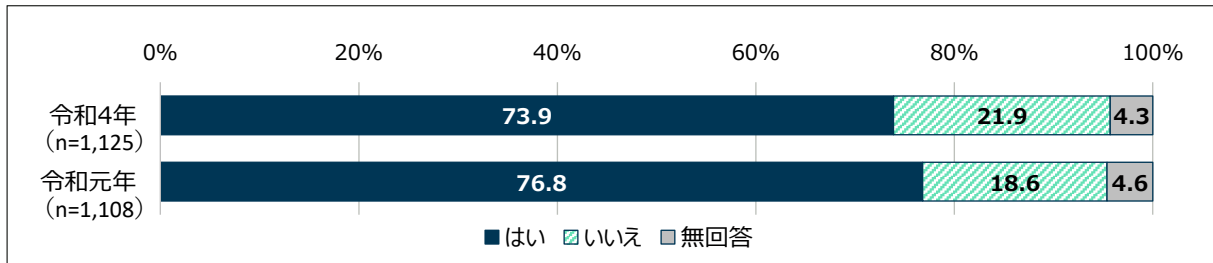
性別・年齢別にみると、男性・女性ともに年齢が上がるほど「はい」の割合が低くなる傾向がみられます。



#### 問 4 (10) 新聞を読んでいますか

「はい」が73.9%、「いいえ」が21.9%となっています。

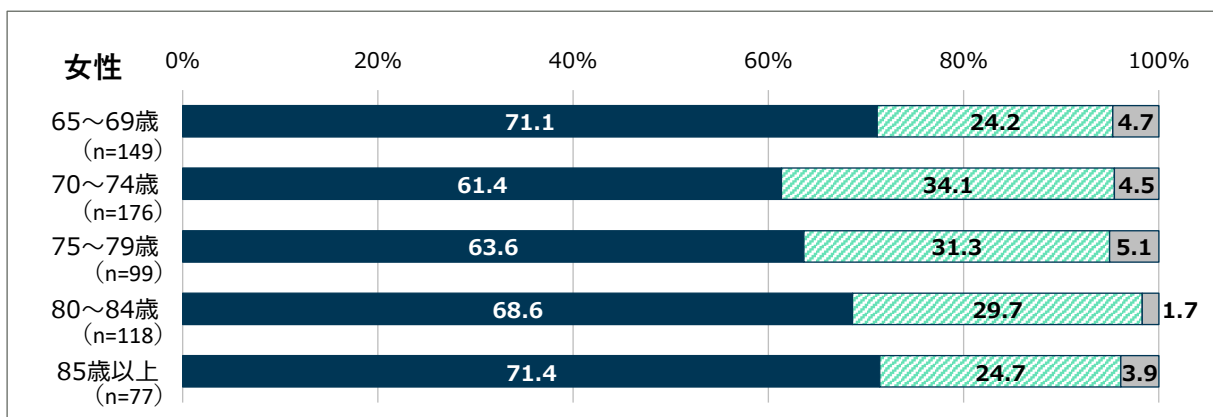
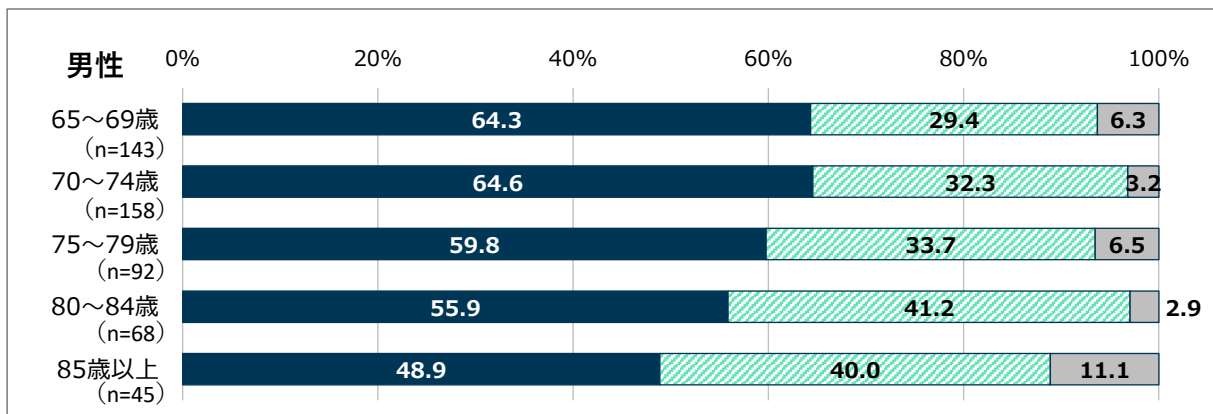
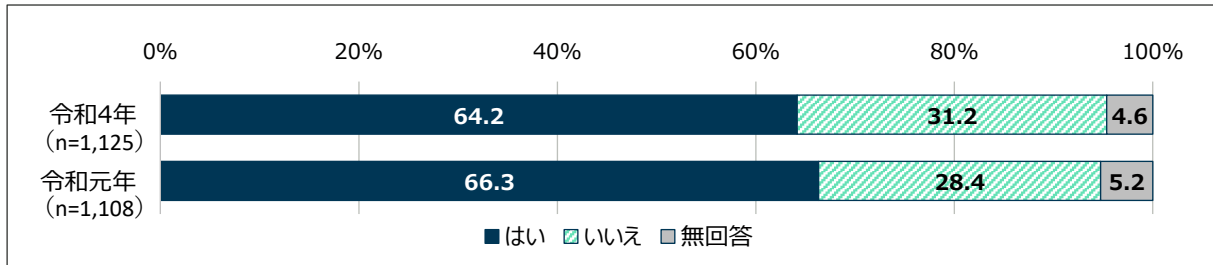
性別・年齢別にみると、すべての年齢層で男性のほうが「はい」の割合が高くなっています。また、男性・女性ともに年齢が高いほど「はい」の割合が高い傾向がみられ、80～84歳で最も高くなっています。



#### 問 4 (11) 本や雑誌を読んでいますか

「はい」が64.2%、「いいえ」が31.2%となっています。

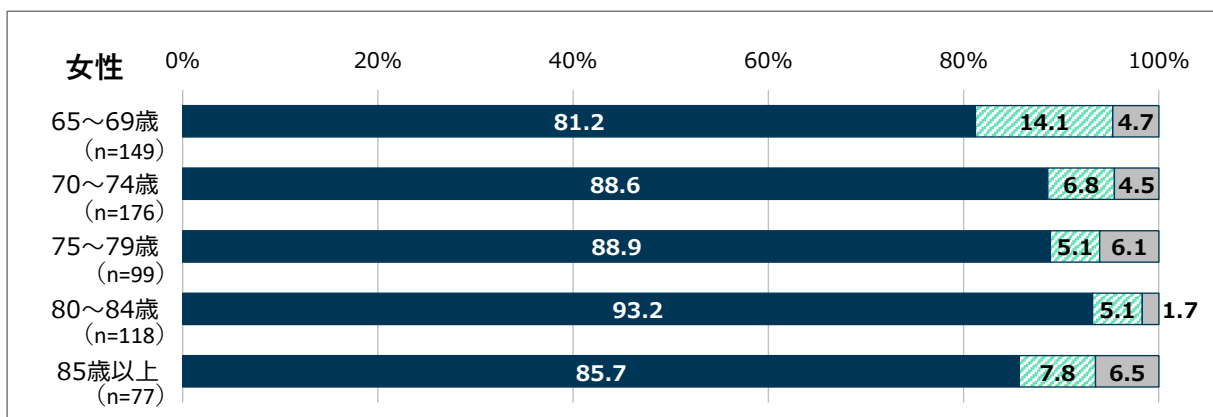
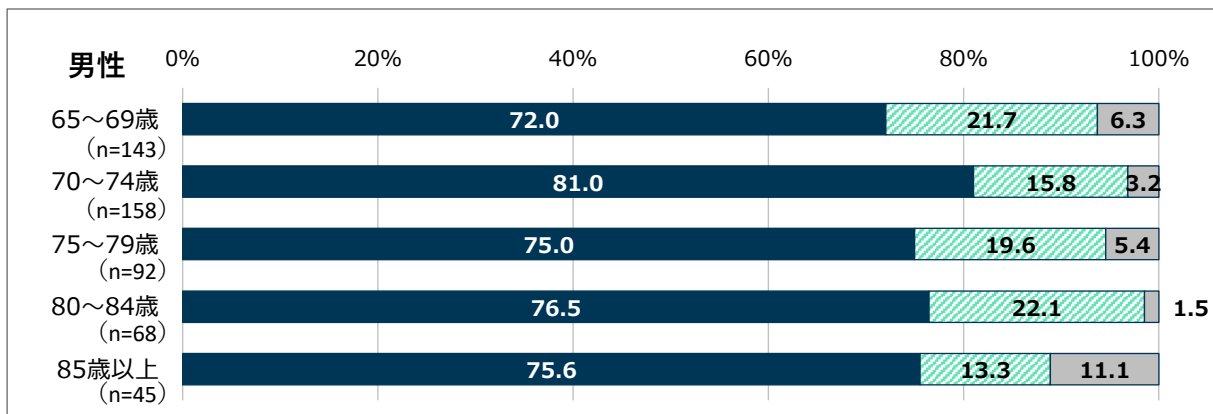
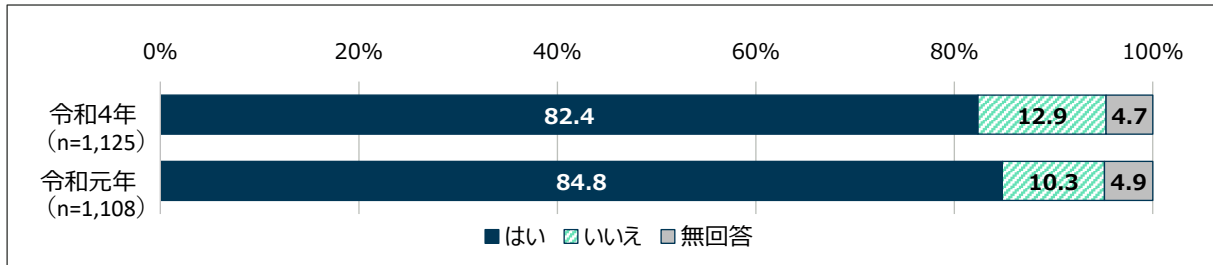
性別・年齢別にみると、男性は年齢が上がるほど「はい」の割合が低くなるのに対し、女性は年齢が上がるほど「はい」の割合が高くなる傾向がみられます。



#### 問 4 (12) 健康についての記事や番組に関心がありますか

「はい」が82.4%、「いいえ」が12.9%となっています。

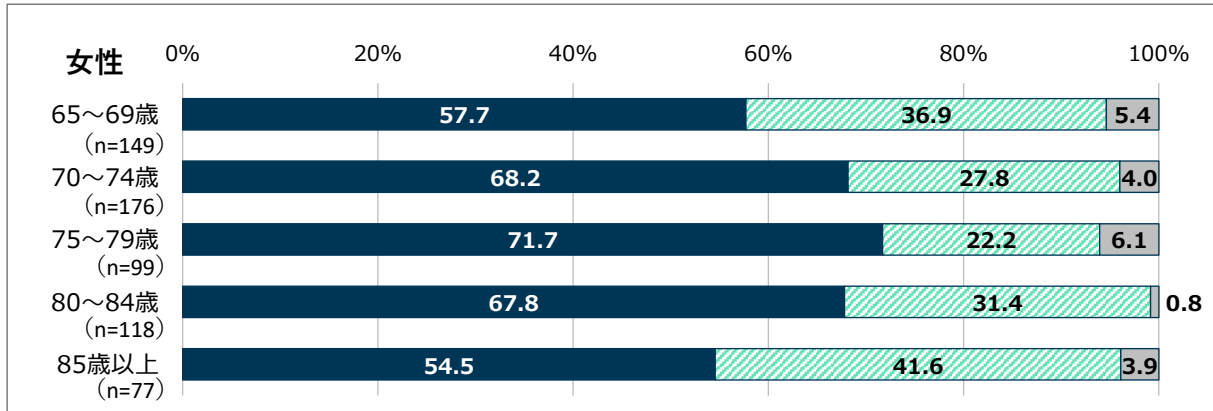
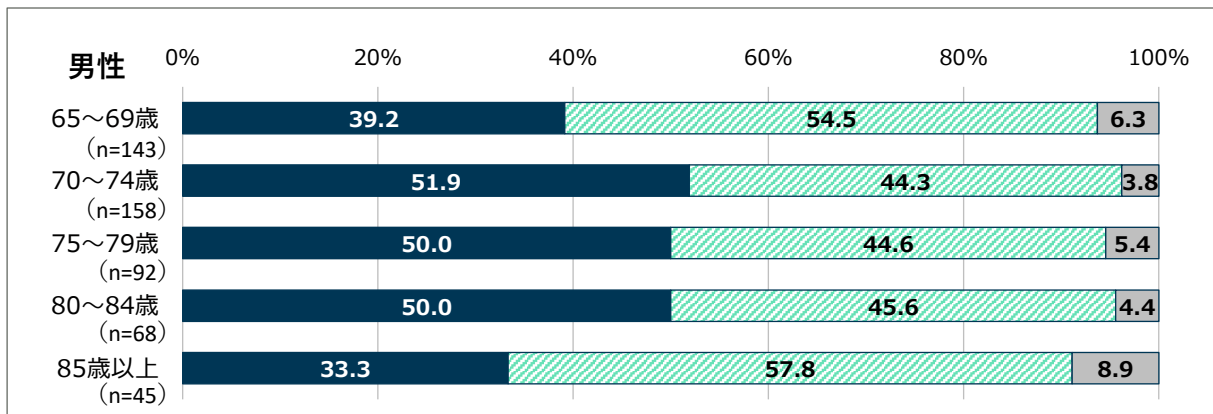
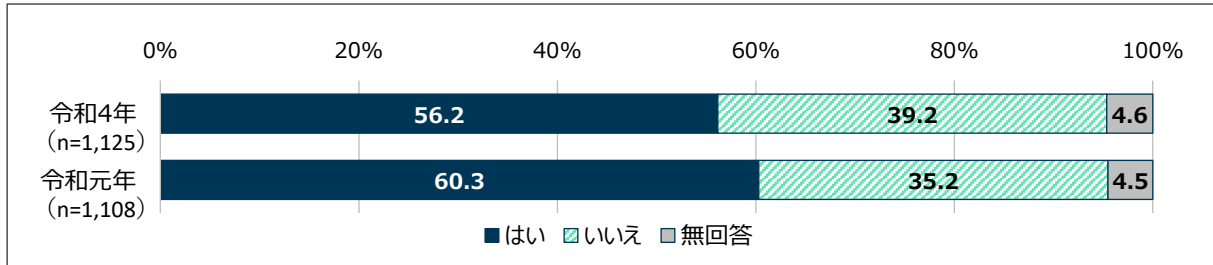
性別・年齢別にみると、すべての年齢層で女性のほうが「はい」の割合が高くなっていますが、男性・女性ともに年齢による明らかな傾向はみられませんでした。



#### 問 4 (13) 友人の家を訪ねていますか

問 4 (13) ~ (16) は、他者との関わりについて問う設問です。地域課題（他者とのかかわりの低さ）の把握が可能となります。

「はい」が 56.2%、「いいえ」が 39.2%となっています。

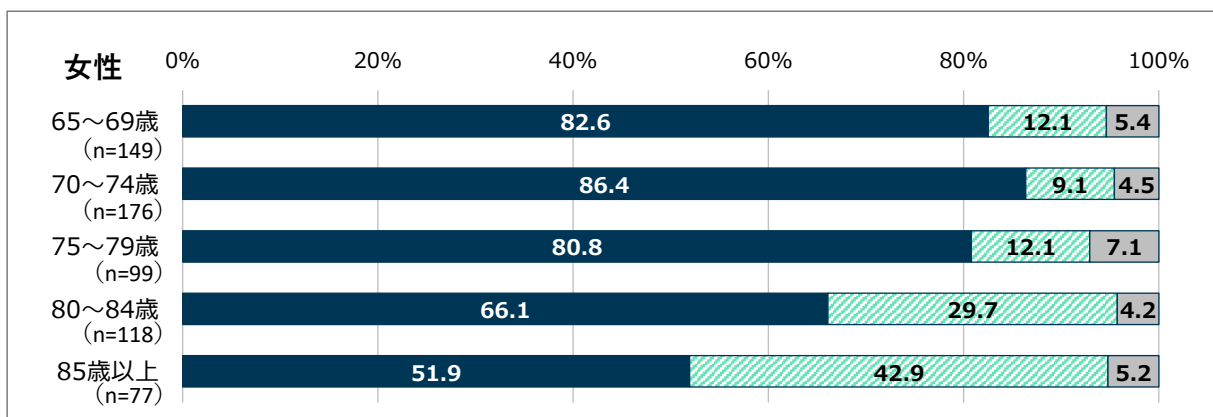
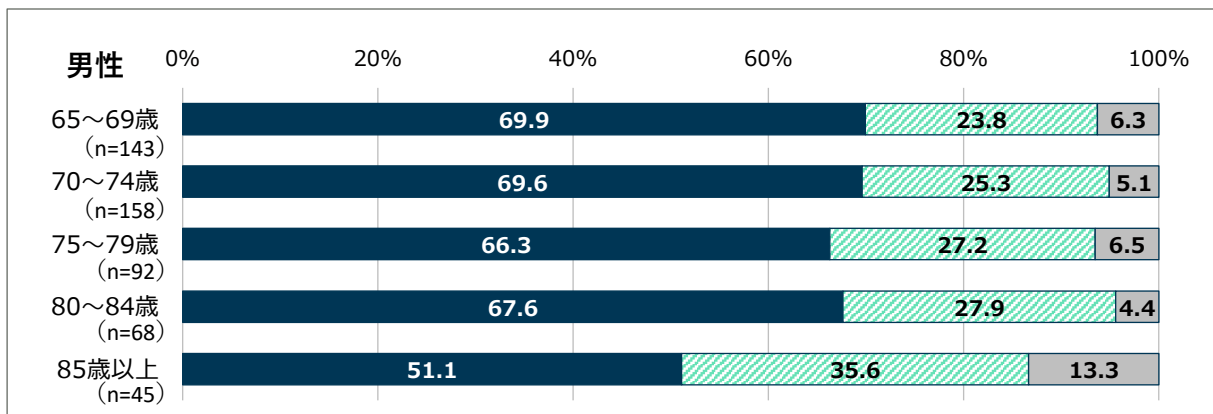
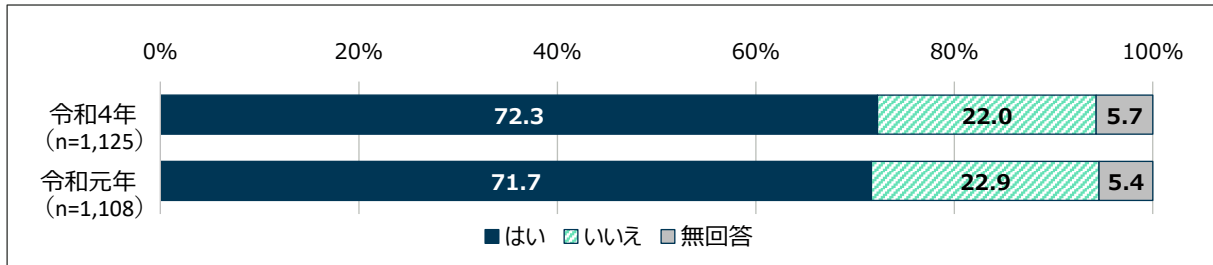




#### 問 4 (14) 家族や友人の相談にのっていますか

「はい」が72.3%、「いいえ」が22.0%となっています。

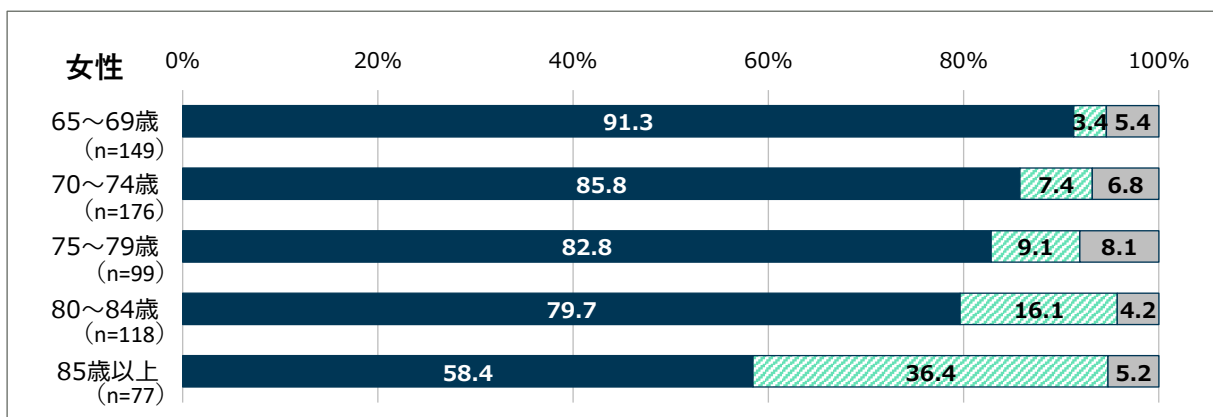
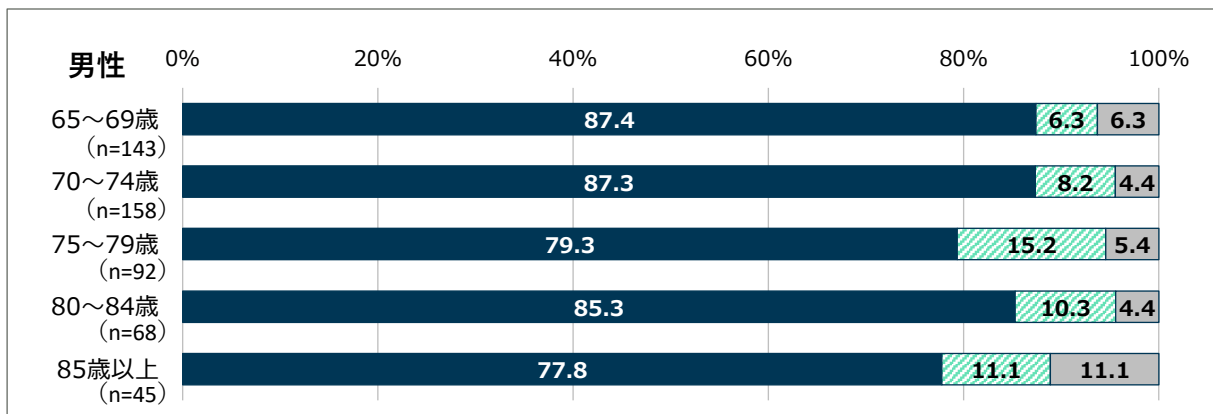
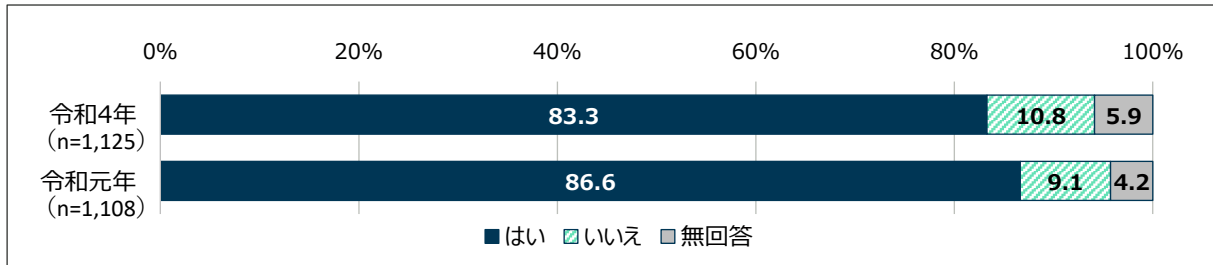
性別・年齢別にみると、79歳以下の女性で「はい」の割合が高く80%以上となっています。男性・女性ともに85歳以上で「はい」の割合が低くなっています。



#### 問 4 (15) 病人を見舞うことができますか

「はい」が83.3%、「いいえ」が10.8%となっています。

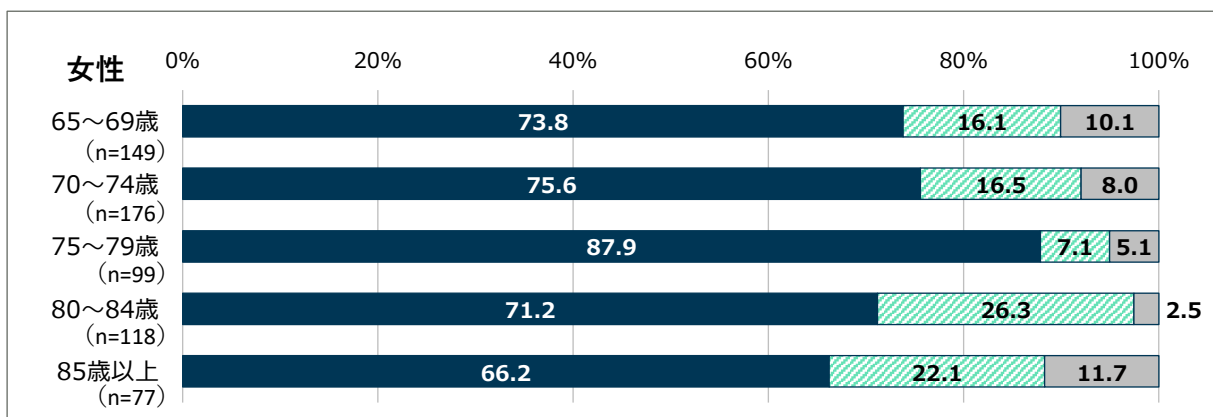
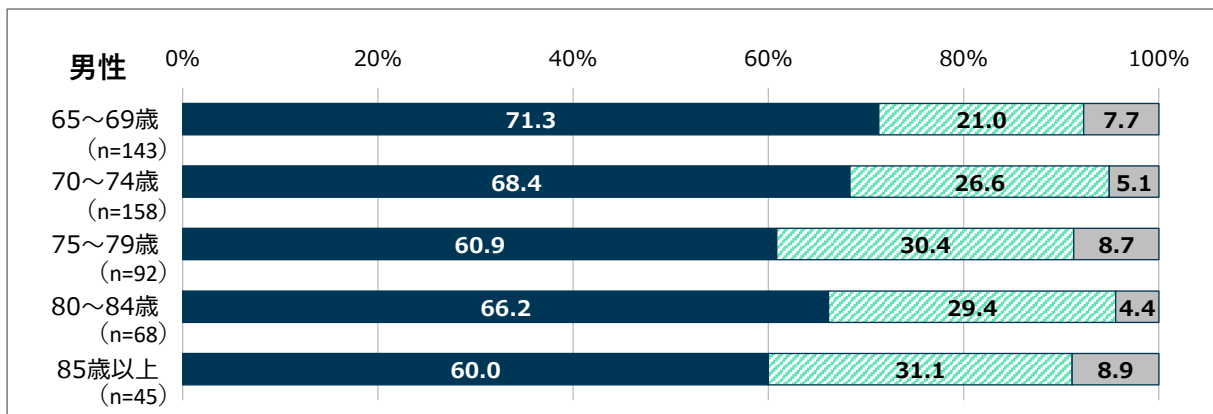
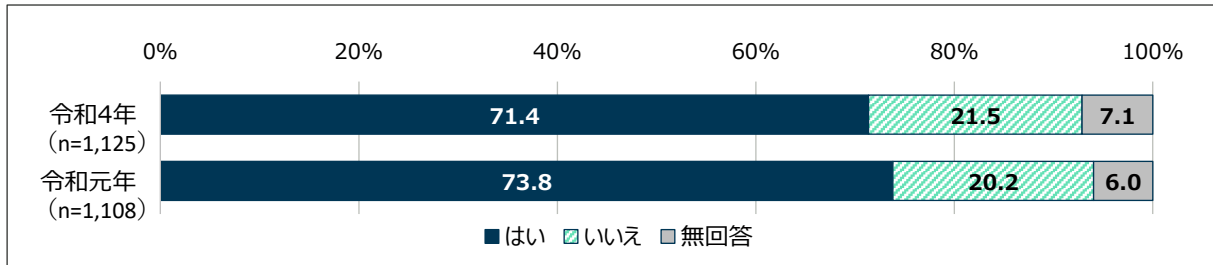
性別・年齢別にみると、男性は年齢による明らかな傾向はみられませんでした。女性は年齢が上がるほど「はい」の割合が低くなっています。



#### 問 4 (16) 若い人に自分から話しかけることがありますか

「はい」が71.4%、「いいえ」が21.5%となっています。

性別・年齢別にみると、すべての年齢層で女性のほうが「はい」の割合が高くなっていますが、男性・女性ともに年齢による明らかな傾向はみられませんでした。



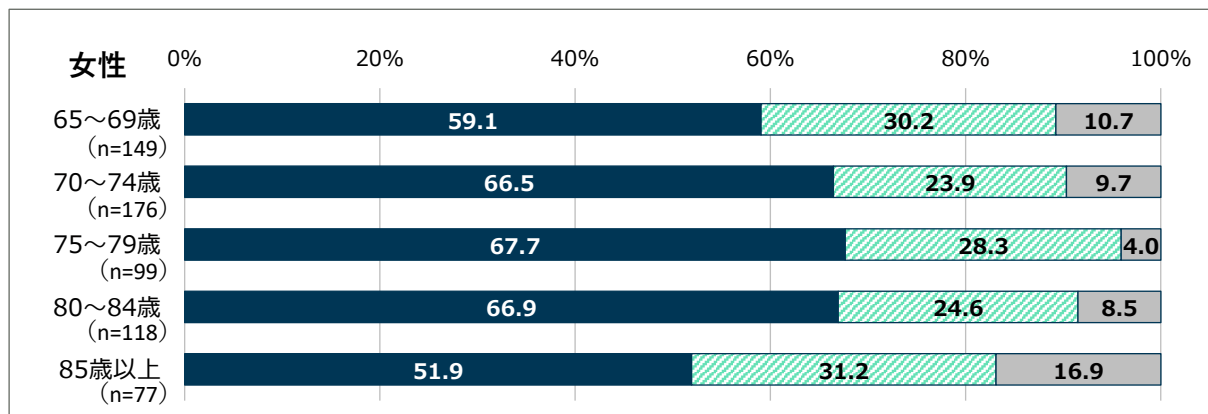
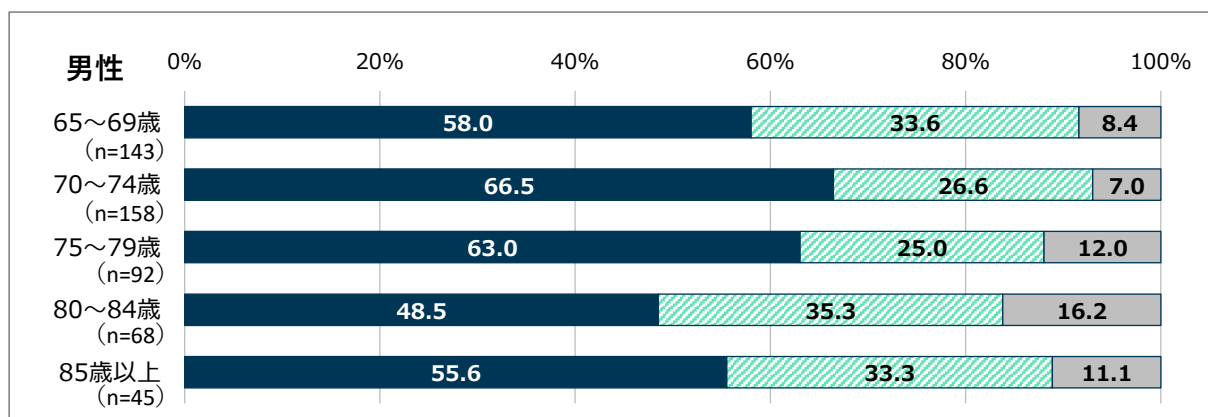
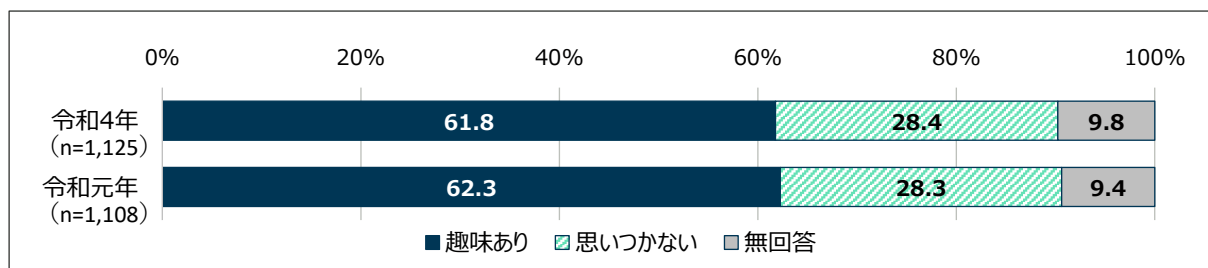
## 問 4 (17) 趣味はありますか

この設問は、趣味を問う設問です。本項目と社会参加の関係性を把握することにより、社会参加する高齢者の傾向の把握が可能になります。

「趣味あり」が61.8%、「思いつかない」が28.4%となっています。

性別・年齢別に明らかな傾向はみられませんでした。

具体的な趣味として、花や野菜づくり、編み物やパッチワークなどの手芸、ゴルフなどのスポーツ、読書、山歩き、歌など、さまざまなものがあがっています。

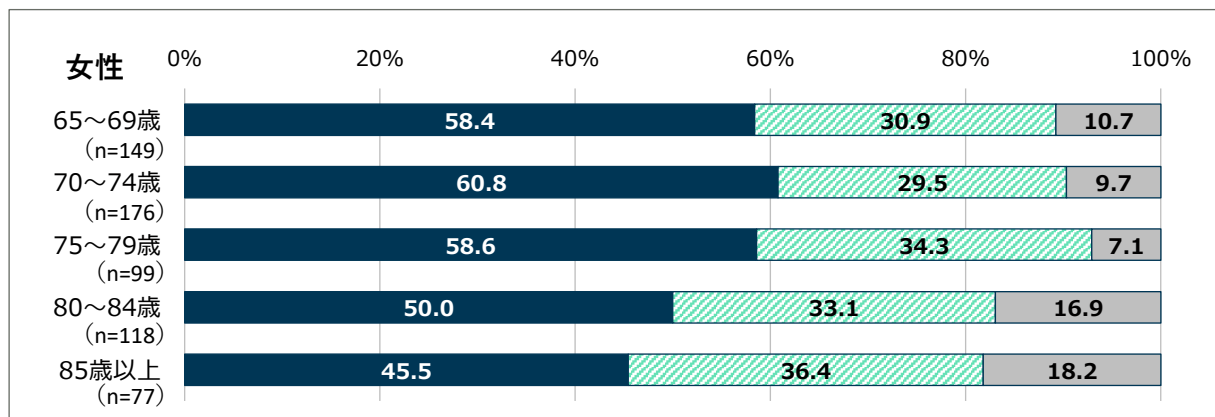
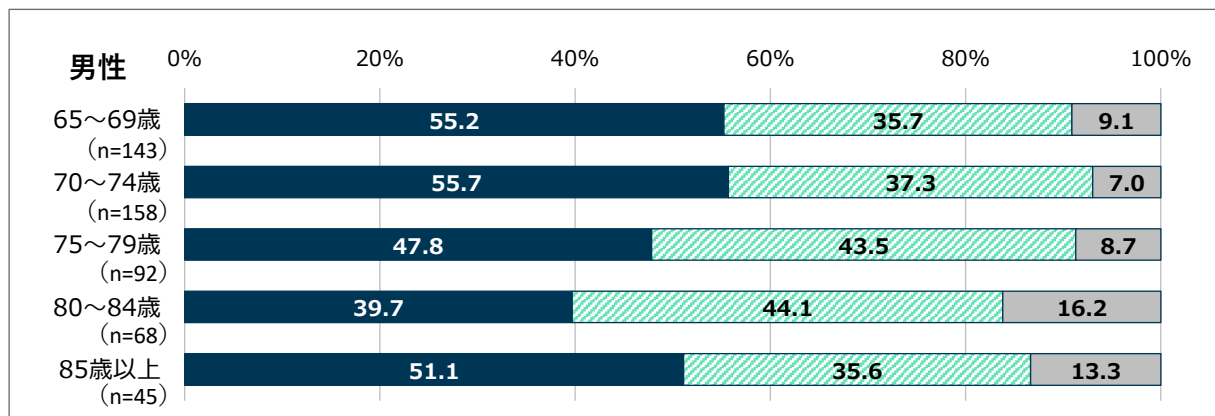
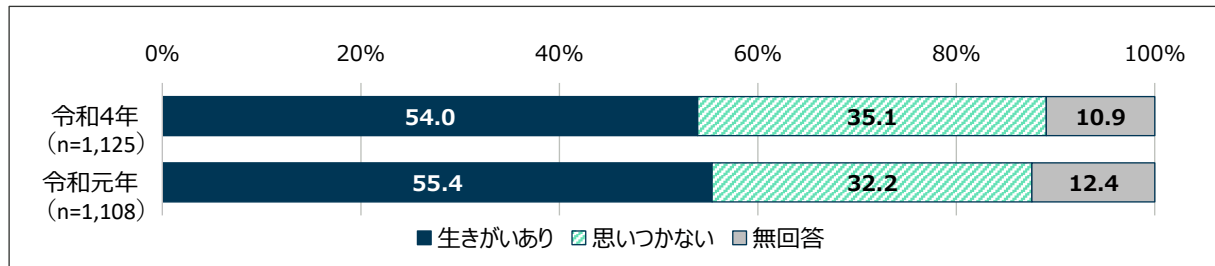


#### 問 4 (18) 生きがいがありますか

この設問は、生きがいを問う設問です。本項目と社会参加の関係性を把握することにより、社会参加する高齢者の傾向の把握が可能になります。

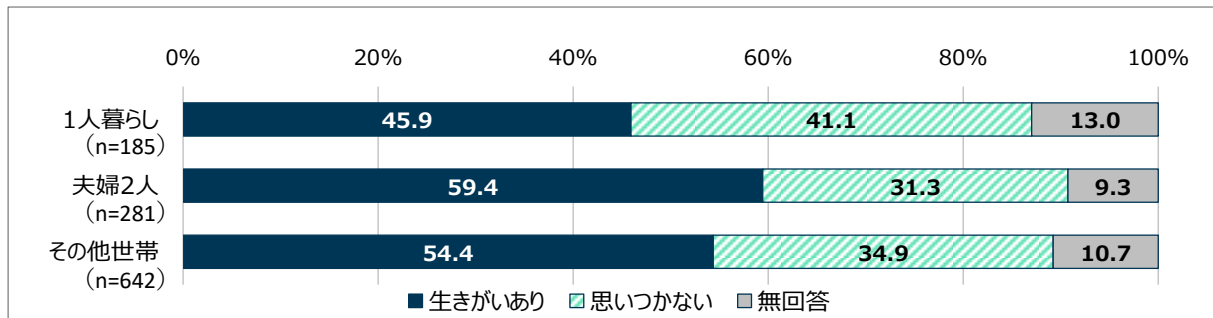
「生きがいあり」が54.0%、「思いつかない」が35.1%となっています。

性別・年齢別にみると、「生きがいあり」の割合が最も高いのは70～74歳女性で60.8%、最も低いのは80～84歳男性で39.7%となっています。



家族構成別にみると、「生きがいあり」の割合が最も高いのは夫婦2人世帯で59.4%、最も低いのは1人暮らし世帯で45.9%となっています。

具体的な生きがいとして、孫をはじめとする家族、趣味、家事や畑を含めた仕事、友人とのおしゃべりや食事などの日常生活、健康でいることなどがあがっています。



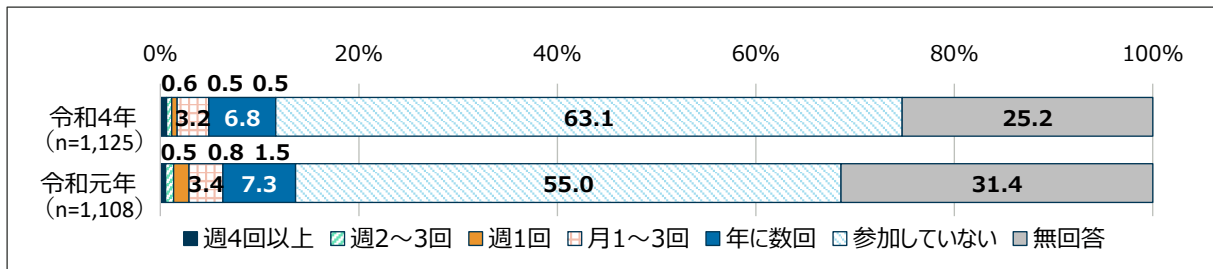
## 問 5 地域での活動について

### 問 5 (1) 以下のような会・グループ等にどのくらいの頻度で参加していますか

この設問は、社会参加活動や、就業状況を問う設問です。

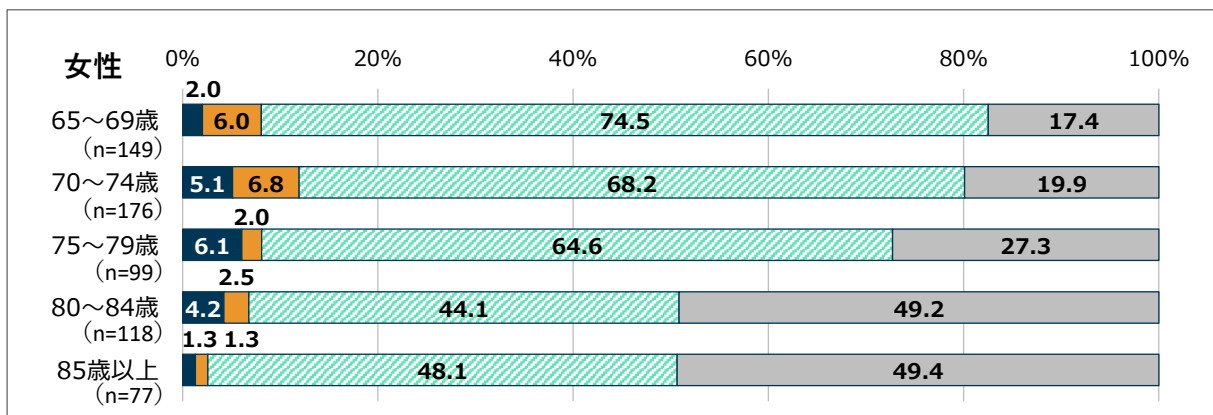
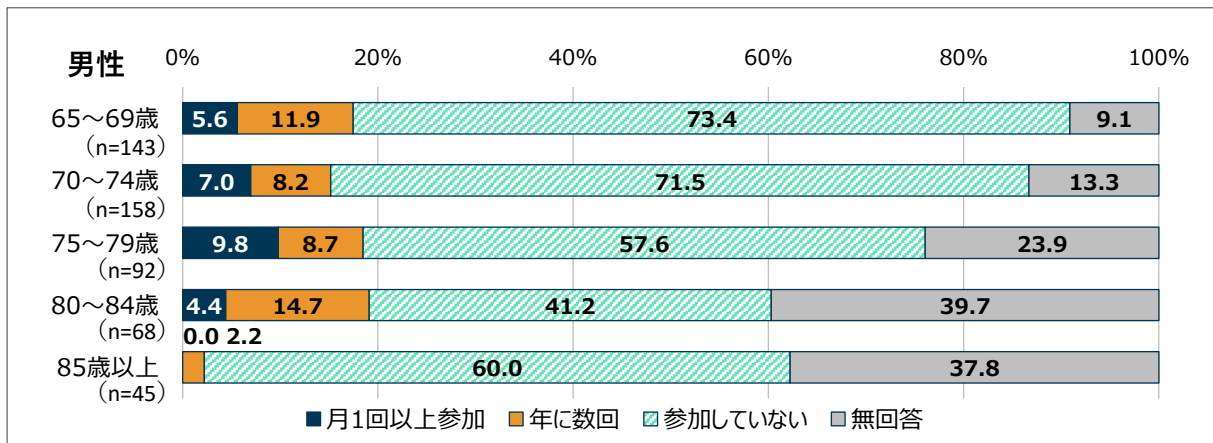
#### ① ボランティアのグループ

月に1回以上参加している割合は4.8%で、「参加していない」割合が63.1%となっています。

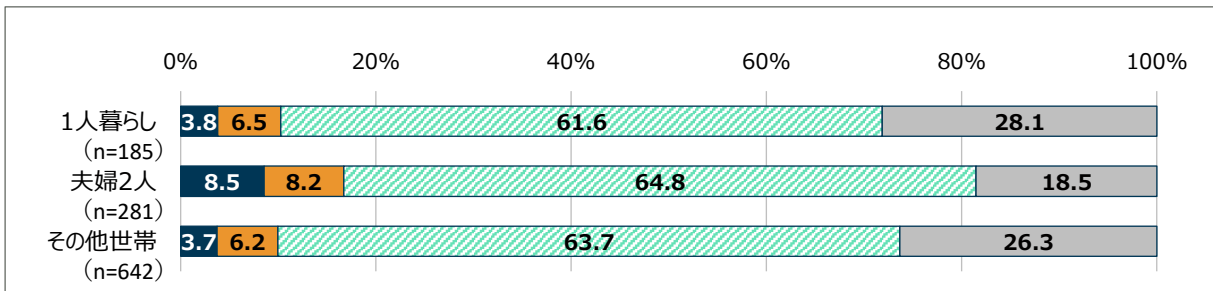
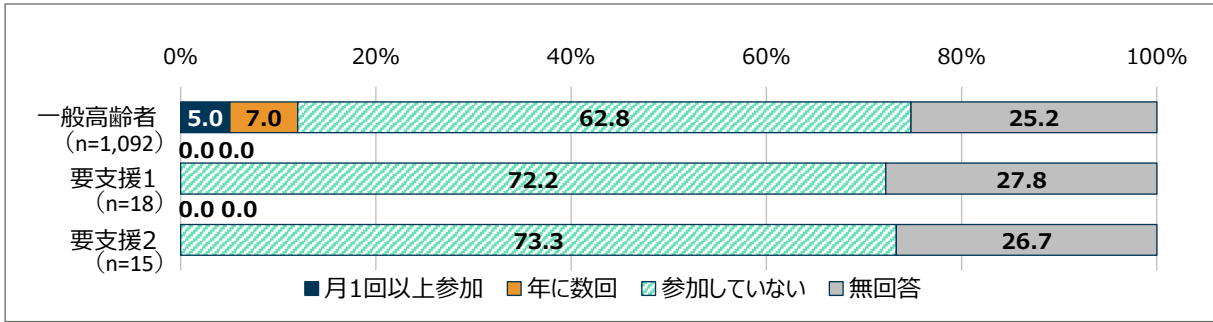


※ 以下のクロス集計では「週4回以上」と「週2~3回」「週1回」「月1~3回」を合わせた「月1回以上参加」、「年に数回」、「参加していない(していない)」の3分類で集計しています。

性別・年齢別にみると、無回答が多いためグラフから傾向をみることはできませんが、男性のほうが参加している割合が高くなっています。



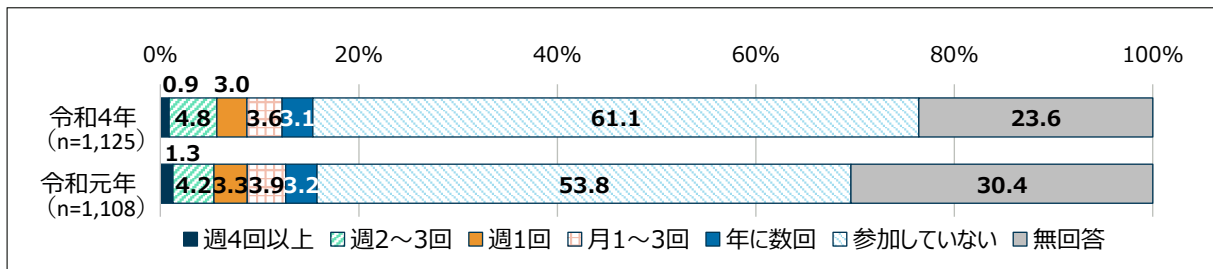
認定区分別にみると、要支援認定者で参加している割合は0.0%となっています。  
 家族構成別にみると、夫婦2人世帯で参加している割合が高くなっています。





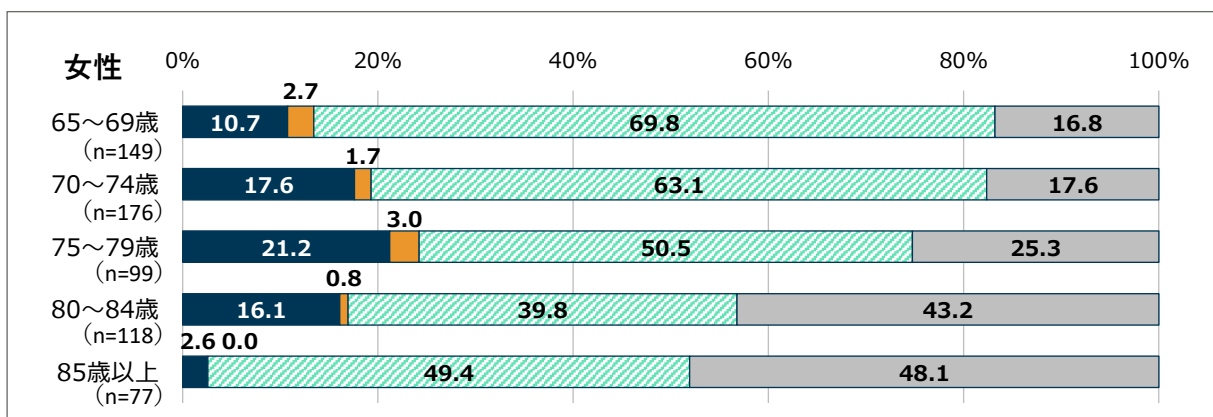
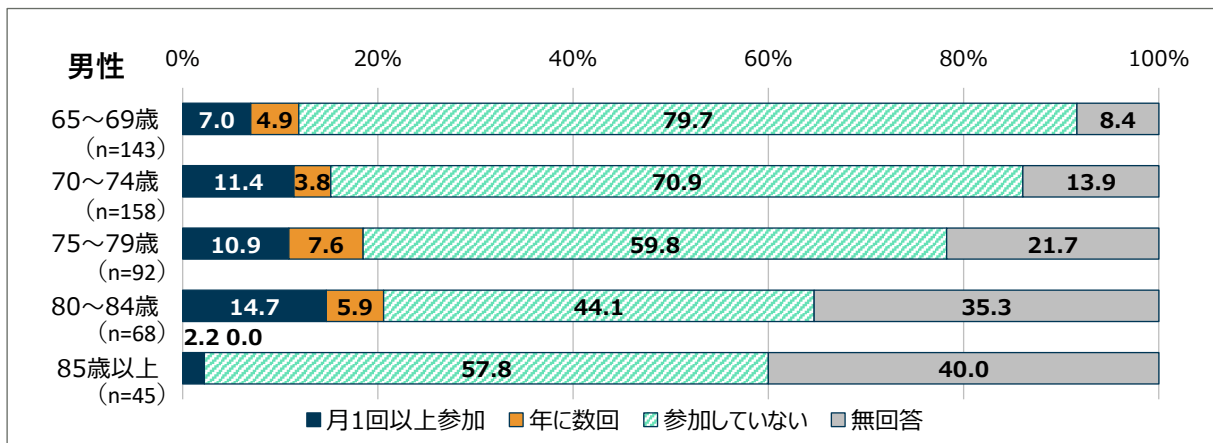
## ② スポーツ関係のグループやクラブ

月に1回以上参加している割合は12.3%で、「参加していない」割合が61.1%となっています。



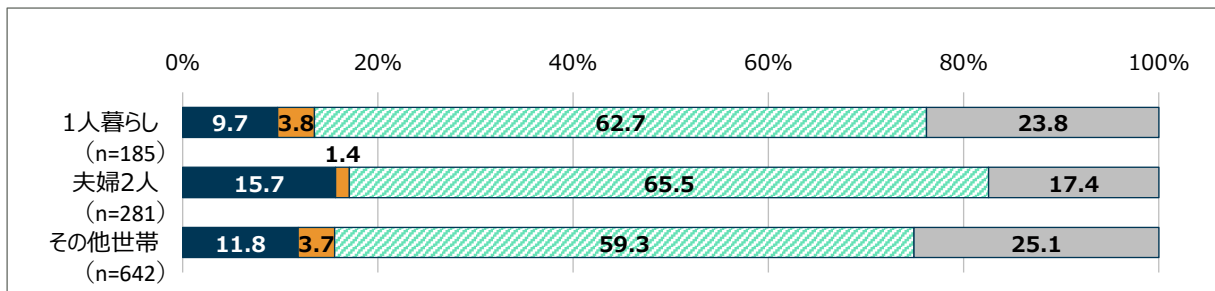
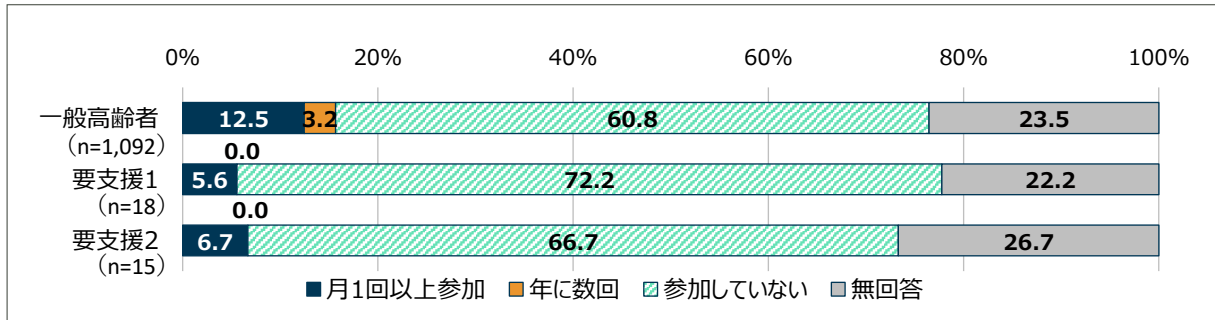
※ 以下のクロス集計では「週4回以上」と「週2~3回」「週1回」「月1~3回」を合わせた「月1回以上参加」、「年に数回」、「参加していない（していない）」の3分類で集計しています。

性別・年齢別にみると、女性のほうが「月1回以上参加」の割合が高くなっています。男性・女性ともに85歳以上では参加している割合は低くなっています。



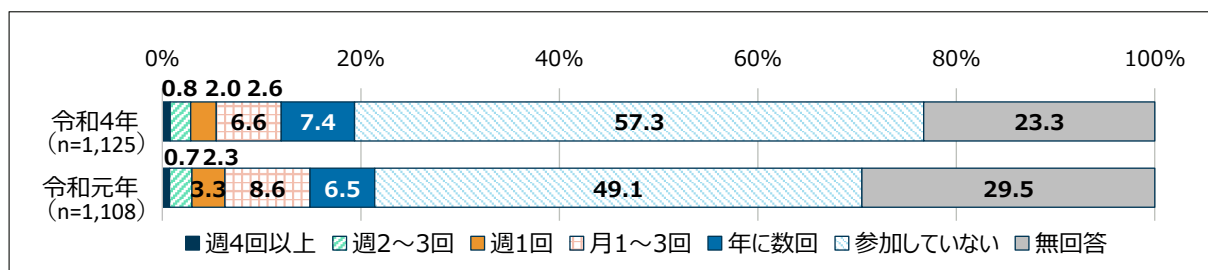
認定区分別にみると、要支援認定者で参加している割合が低くなっています。

家族構成別にみると、夫婦2人世帯で参加している割合がやや高く、1人暮らし世帯でやや低くなっています。



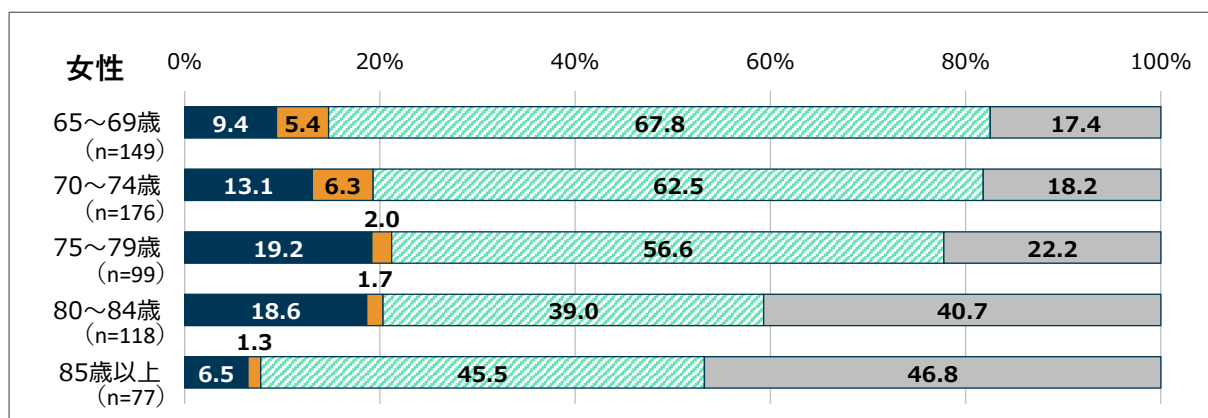
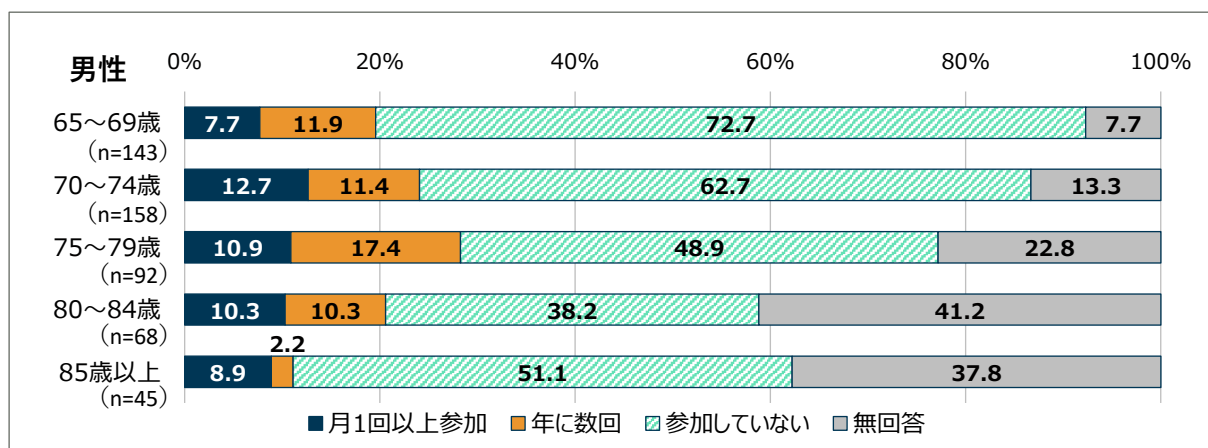
### ③ 趣味関係のグループ

月に1回以上参加している割合は12.0%で、「参加していない」割合が57.3%となっています。



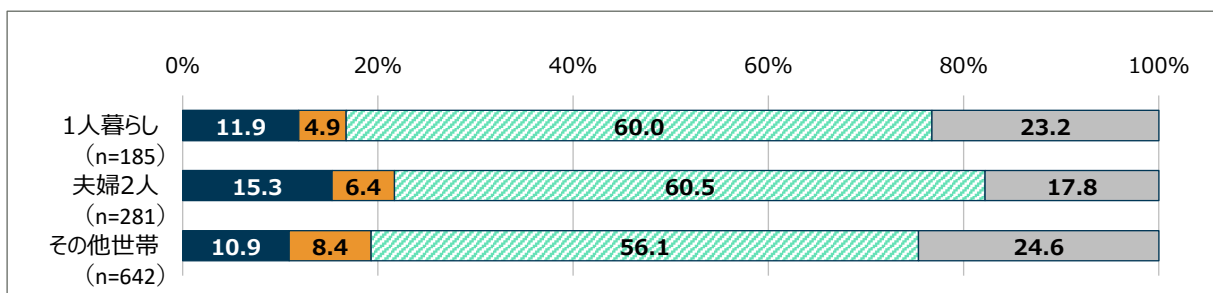
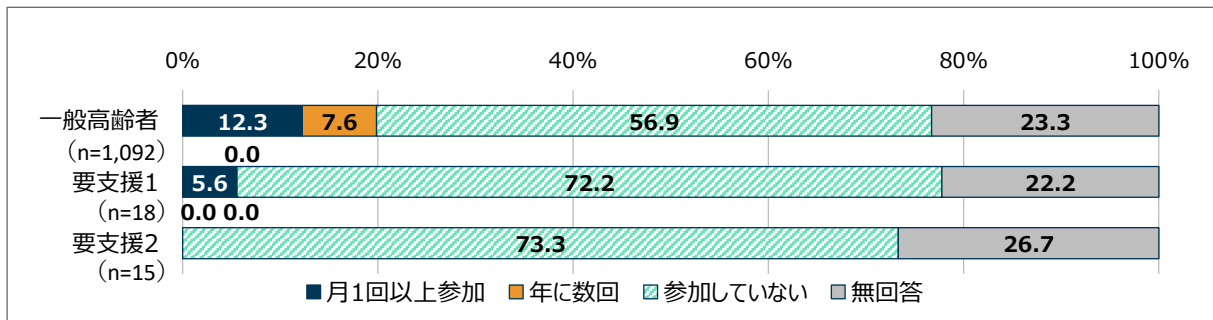
※ 以下のクロス集計では「週4回以上」と「週2~3回」「週1回」「月1~3回」を合わせた「月1回以上参加」、「年に数回」、「参加していない（していない）」の3分類で集計しています。

性別・年齢別にみると、84歳以下女性のほうが「月1回以上参加」の割合が高くなっています。男性・女性ともに75~79歳で参加している割合が最も高くなっています。



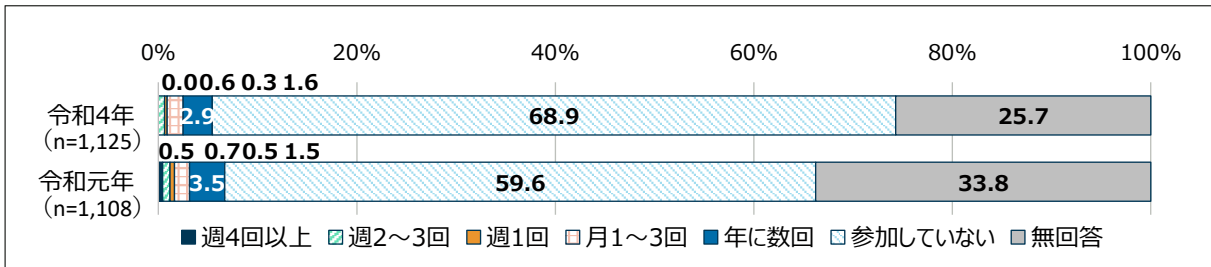
認定区分別にみると、要支援認定者で参加している割合が低く、要支援2では0.0%となっています。

家族構成別にみると、夫婦2人世帯で参加している割合がやや高く、1人暮らし世帯でやや低くなっています。



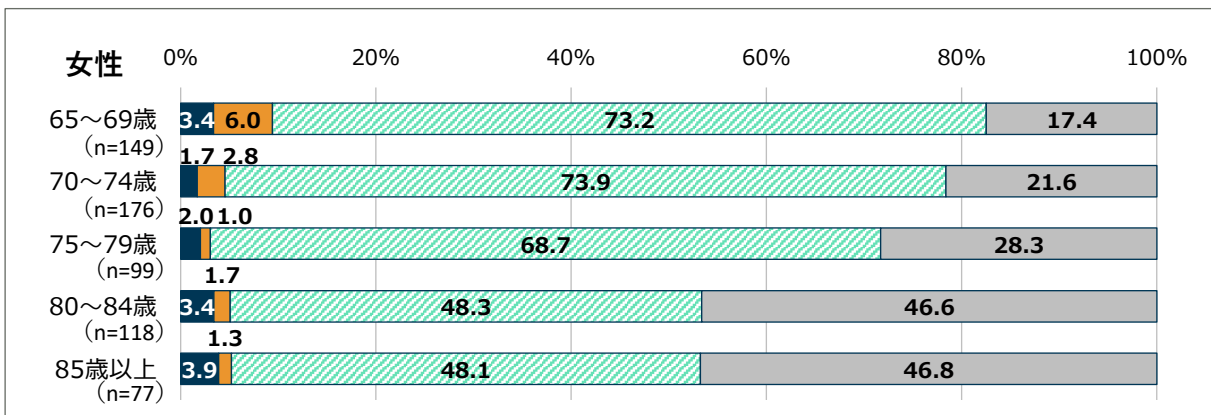
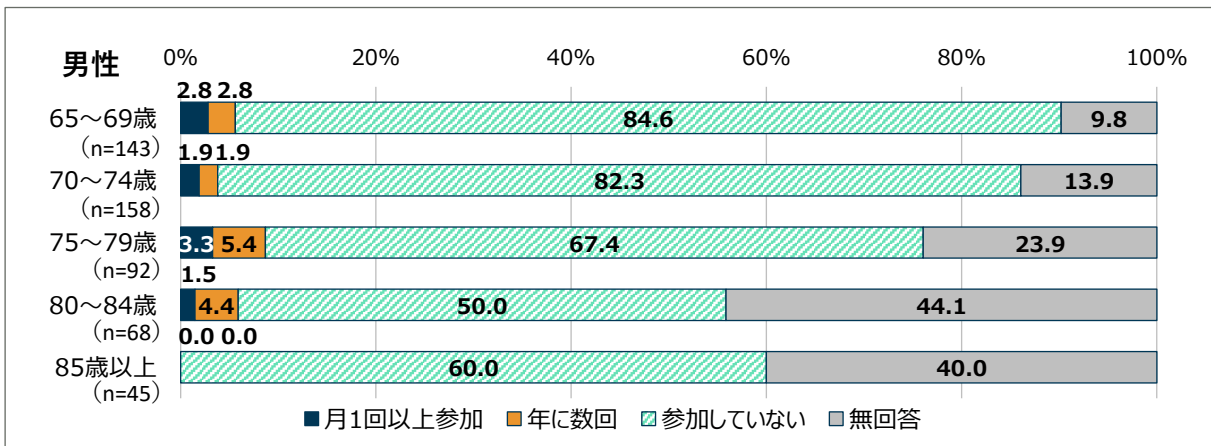
#### ④ 学習・教養サークル

月に1回以上参加している割合は2.5%、「年に数回」が2.9%で、「参加していない」割合が68.9%となっています。

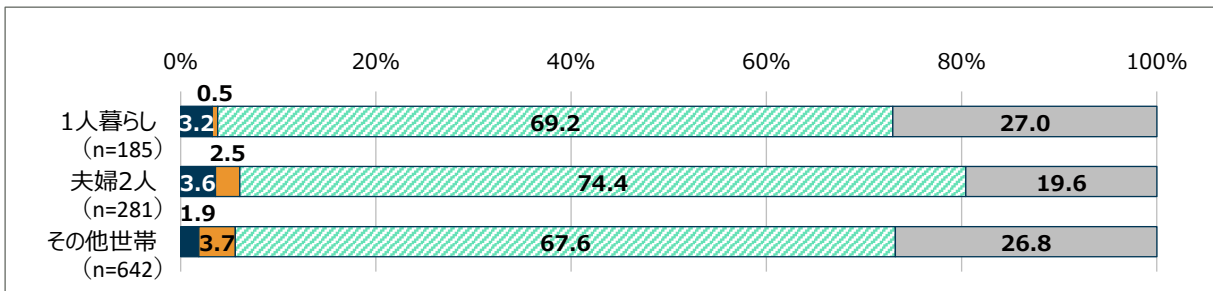
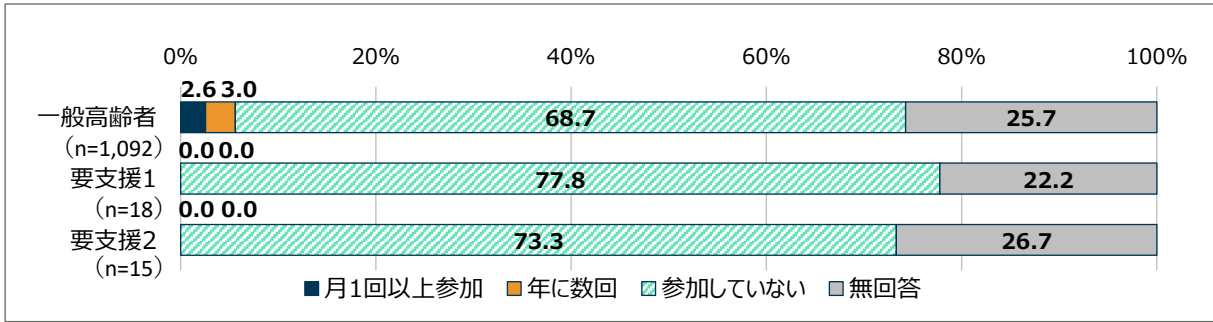


※ 以下のクロス集計では「週4回以上」と「週2~3回」「週1回」「月1~3回」を合わせた「月1回以上参加」、「年に数回」、「参加していない（していない）」の3分類で集計しています。

性別・年齢別に明らかな傾向はみられませんでした。

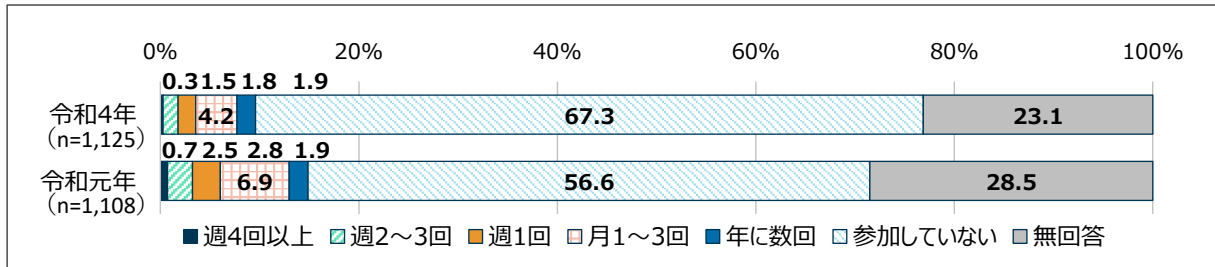


認定区分別にみると、要支援認定者で参加している割合は0.0%となっています。  
 家族構成別にみると、「月1回以上参加」している割合はその他世帯で低くなっています。



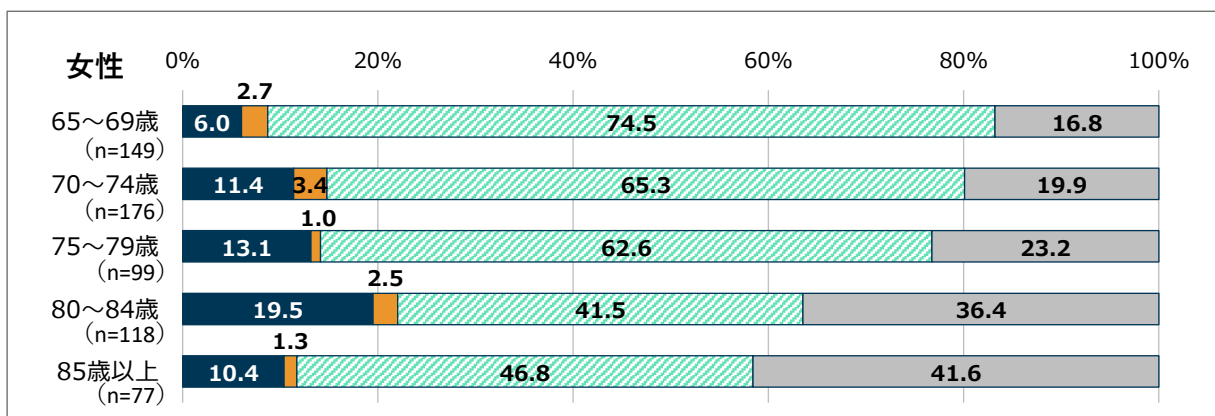
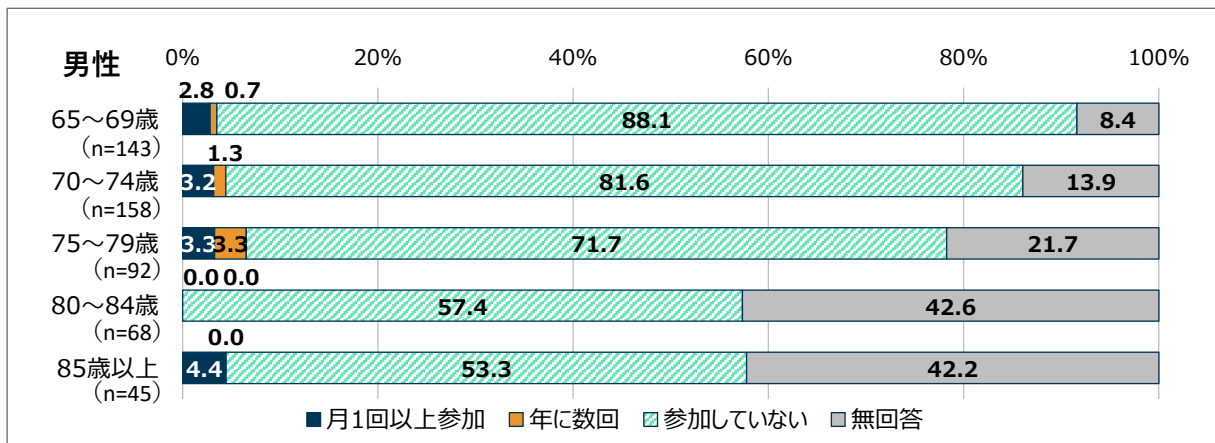
⑤ 介護予防のための通いの場（「ふれあいサロン」「まめでいきいき倶楽部」「水中運動教室」「筋力づくり教室」「口腔健康教室」「認知症カフェ」のどれか一つでも可）

月に1回以上参加している割合は7.8%で、令和元年の前回調査より5.1ポイント低くなっています。

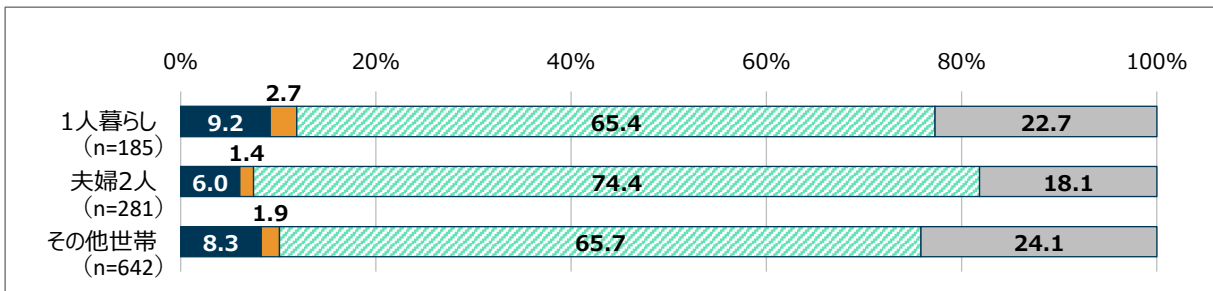
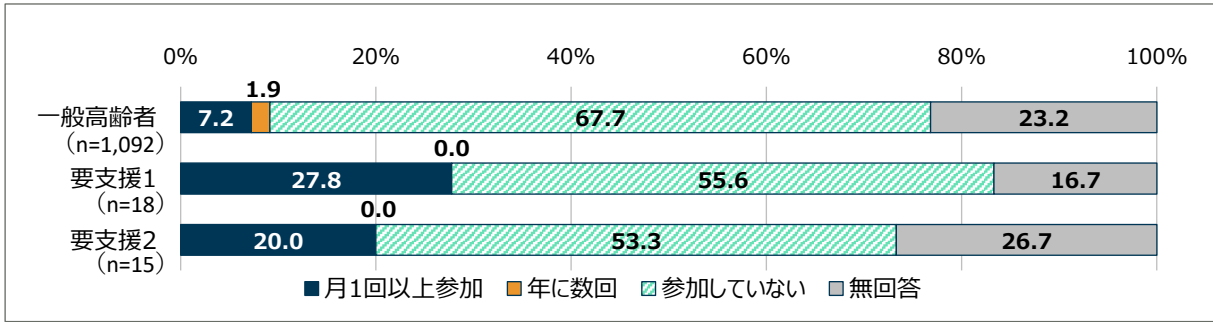


※ 以下のクロス集計では「週4回以上」と「週2～3回」「週1回」「月1～3回」を合わせた「月1回以上参加」、「年に数回」、「参加していない（していない）」の3分類で集計しています。

性別・年齢別にみると、すべての年齢層で女性のほうが参加している割合が高くなっています。男性は年齢による明らかな傾向はみられませんでした。女性は年齢が上がるほど参加している割合が高くなる傾向がみられますが、85歳以上では参加している割合が低くなっています。



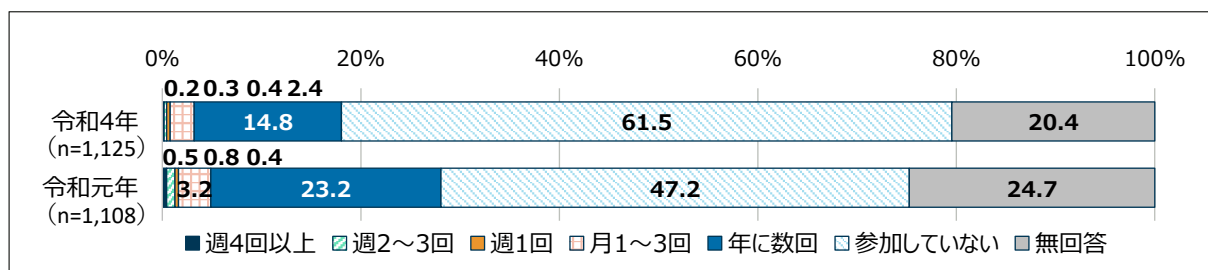
認定区分別にみると、要支援認定者で参加している割合が高くなっています。  
 家族構成別にみると、夫婦2人世帯で参加している割合がやや低くなっています。





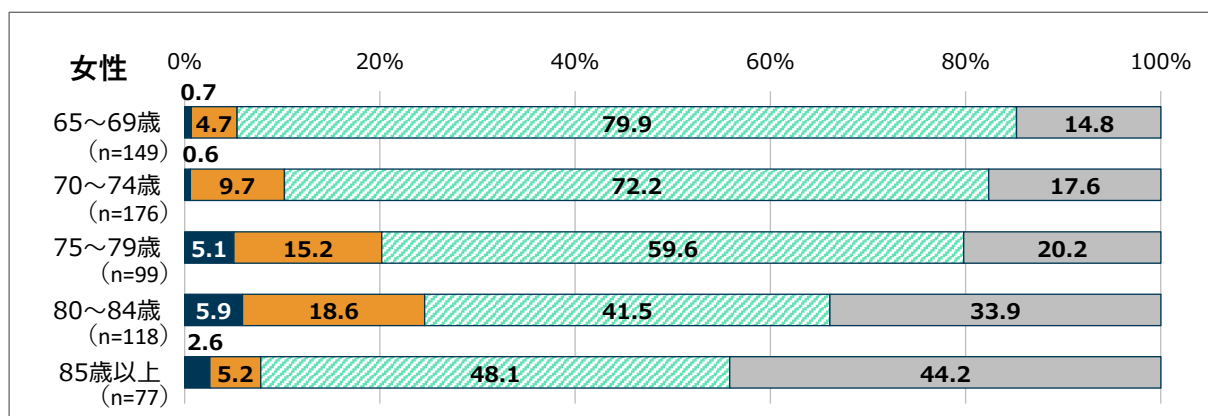
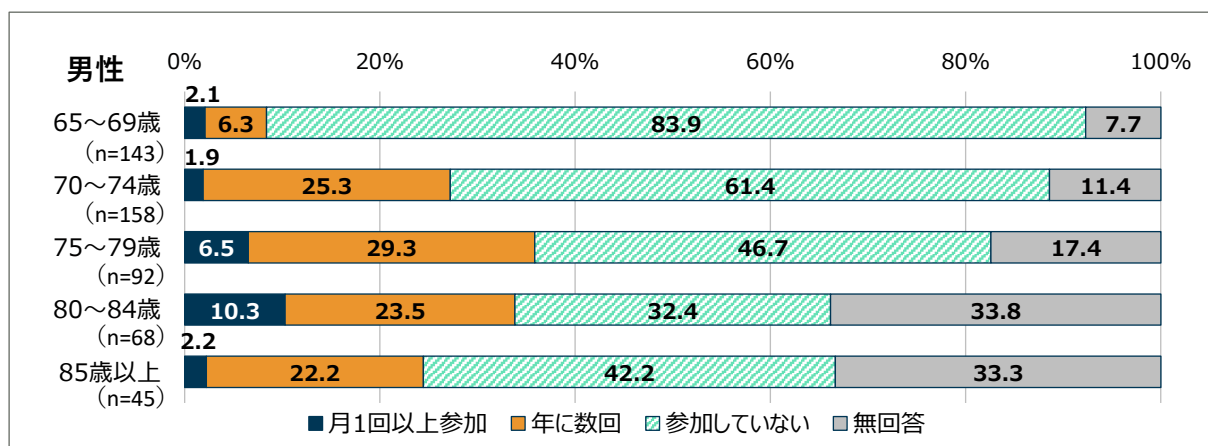
## ⑥ 老人クラブ

月に1回以上参加している割合は3.3%、「年に数回」が14.8%で、「参加していない」割合が61.5%となっています。



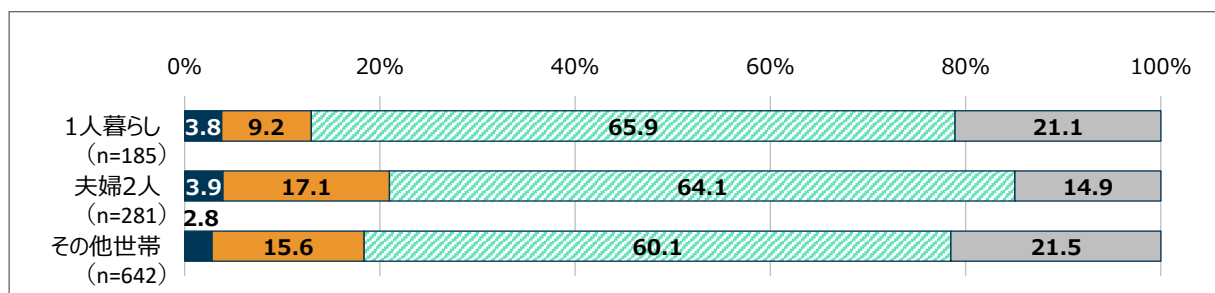
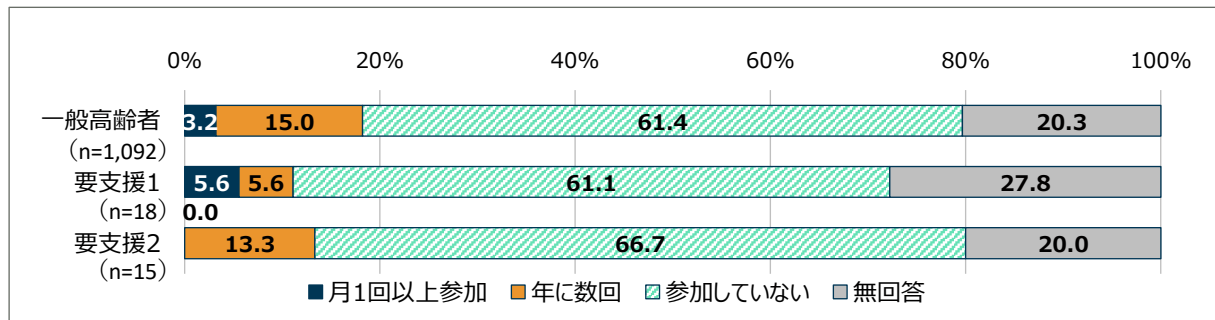
※ 以下のクロス集計では「週4回以上」と「週2~3回」「週1回」「月1~3回」を合わせた「月1回以上参加」、「年に数回」、「参加していない（していない）」の3分類で集計しています。

性別・年齢別にみると、すべての年齢層で男性のほうが参加している割合が高くなっています。また、男性・女性ともに75~84歳で参加している割合が高くなっています。



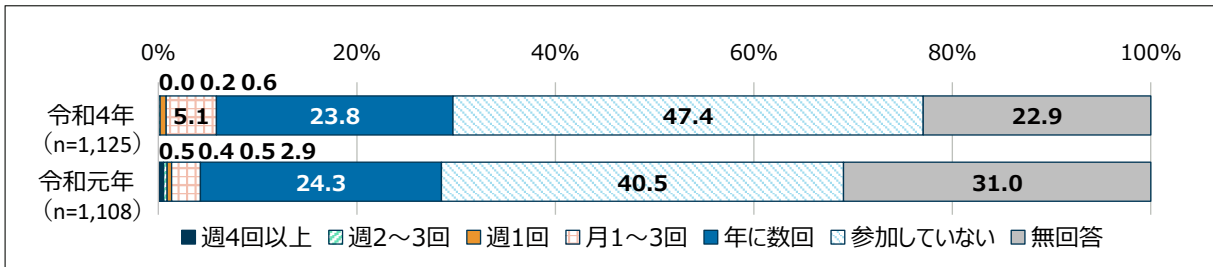
認定区分別にみると、要支援認定者で参加している割合がやや低くなっています。「月1回以上参加」している割合は要支援1で最も高くなっていますが、n値（回答者数）が少ないため1人の回答が5.6%となっています。

家族構成別にみると、1人暮らし世帯で参加している割合が低くなっています。



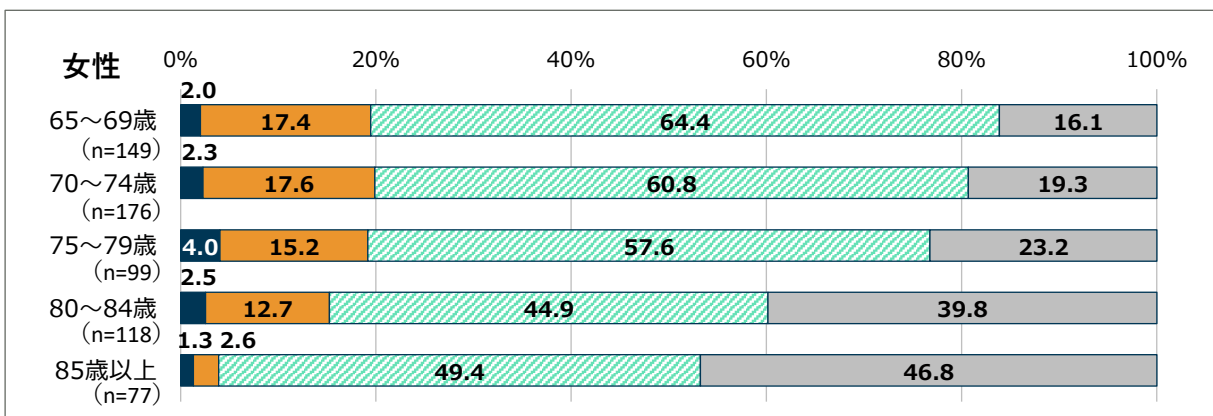
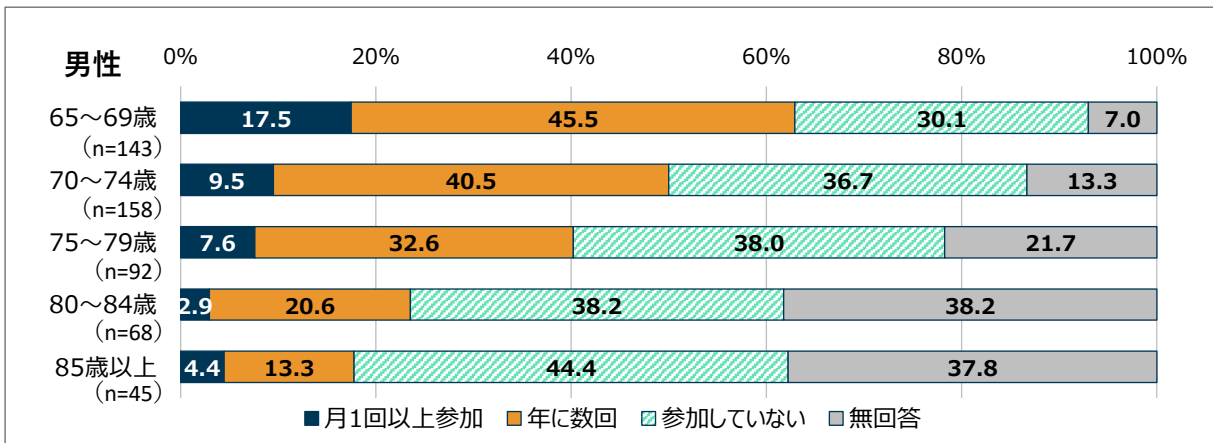
## ⑦ 町内会・自治会

月に1回以上参加している割合は5.9%、「年に数回」が23.8%で、「参加していない」割合が47.4%となっています。

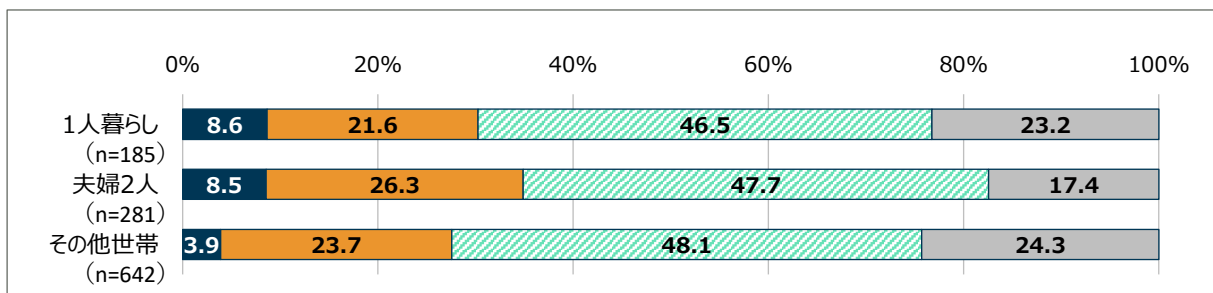
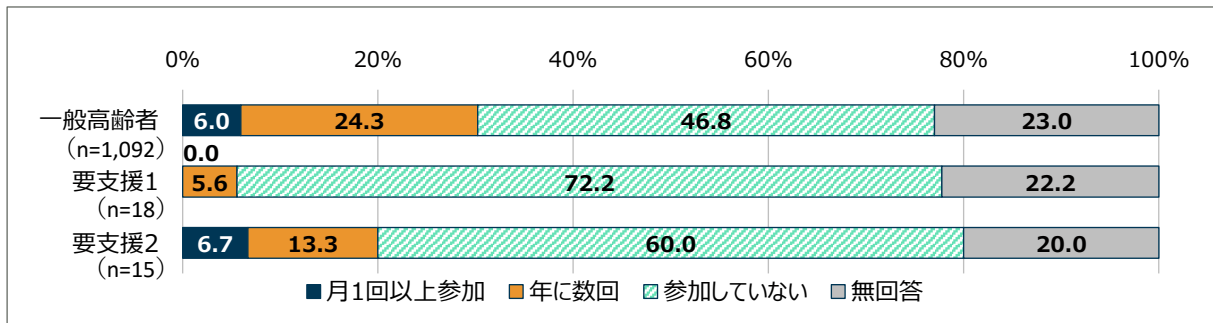


※ 以下のクロス集計では「週4回以上」と「週2~3回」「週1回」「月1~3回」を合わせた「月1回以上参加」、「年に数回」、「参加していない（していない）」の3分類で集計しています。

性別・年齢別にみると、すべての年齢層で男性のほうが参加している割合が高くなっています。また、男性・女性ともに年齢が低いほど参加している割合が高くなる傾向がみられます。

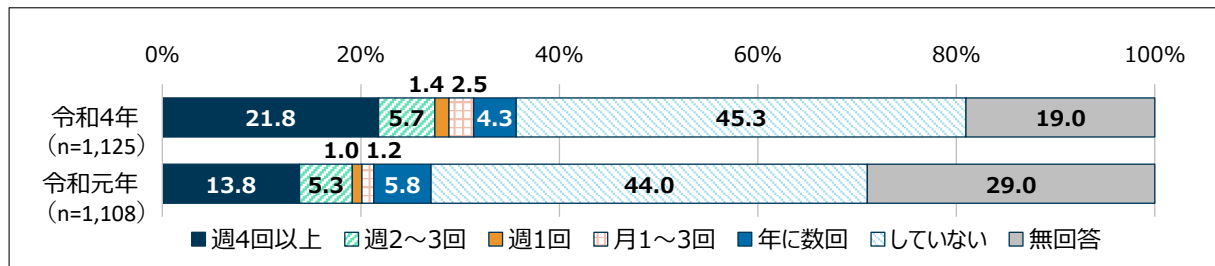


認定区分別にみると、要支援1で参加している割合が低くなっています。  
 家族構成別にみると、その他世帯で「月1回以上参加」の割合が低くなっています。



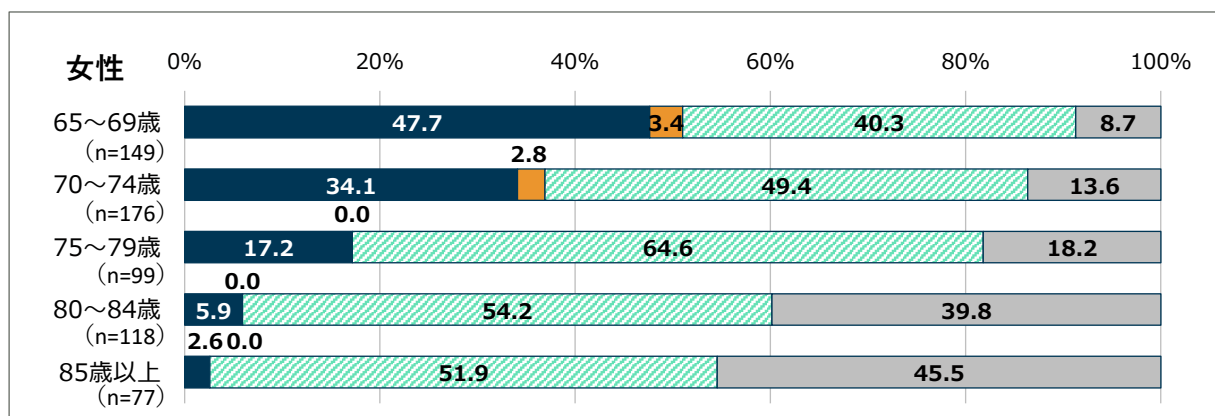
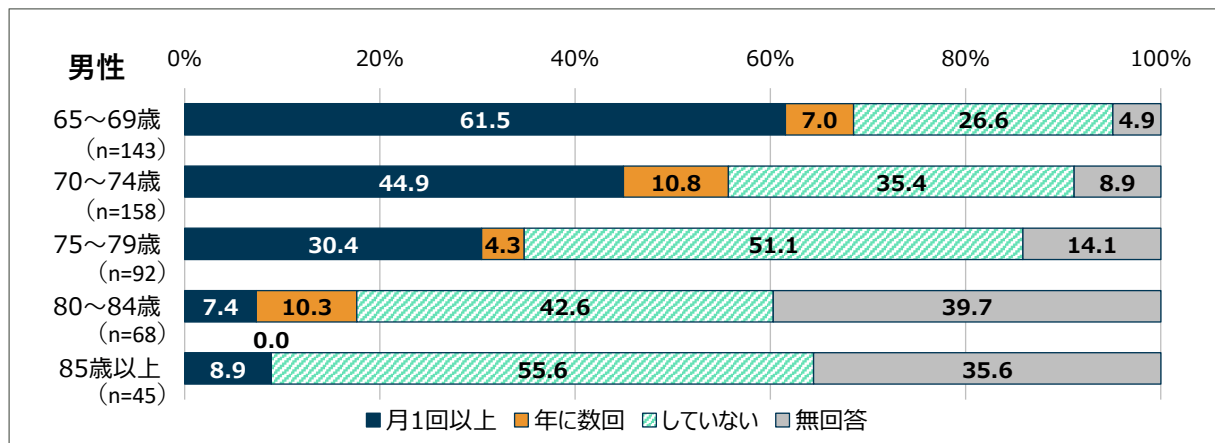
## ⑧ 収入のある仕事

「週4回以上」が令和元年の前回調査より8.0ポイント高い21.8%となっています。月に1回以上している割合は31.4%で、「していない」割合が45.3%となっています。

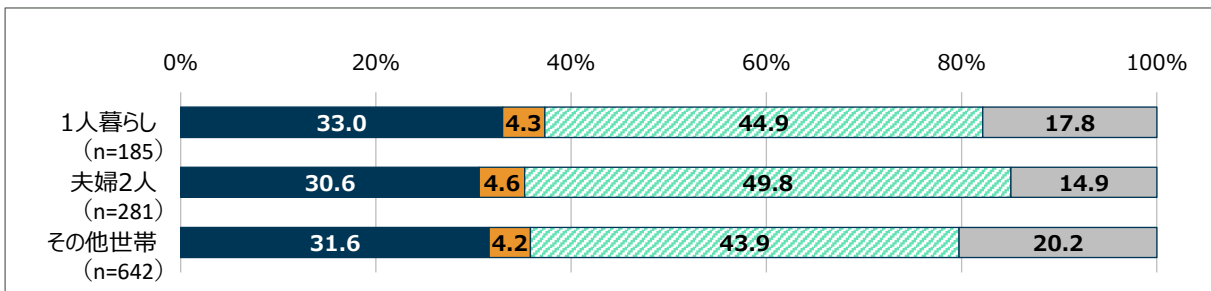
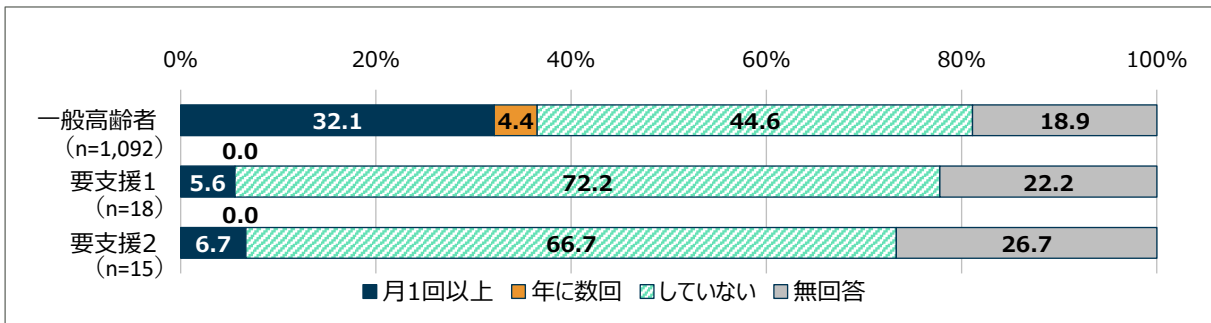


※ 以下のクロス集計では「週4回以上」と「週2～3回」「週1回」「月1～3回」を合わせた「月1回以上参加」、「年に数回」、「参加していない（していない）」の3分類で集計しています。

性別・年齢別にみると、すべての年齢層で男性のほうが「月1回以上」の割合が高くなっており、65～69歳男性では最も割合が高い61.5%となっています。



認定区分別にみると、要支援認定者で収入のある仕事をしている割合が低くなっています。  
 家族構成別に明らかな傾向はみられませんでした。

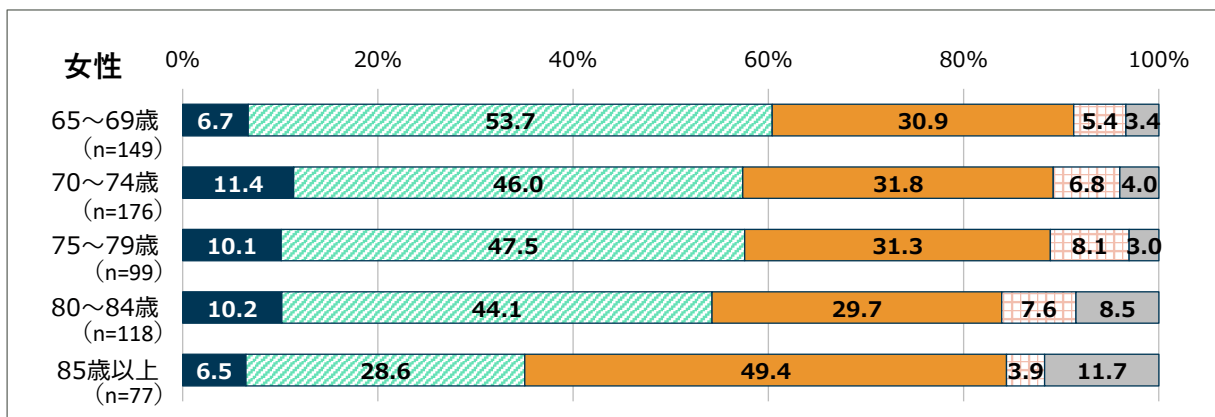
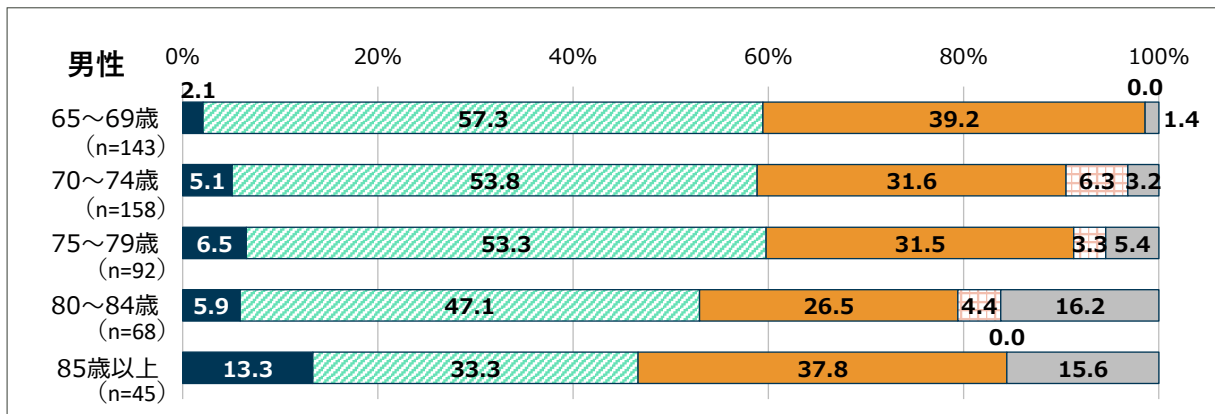
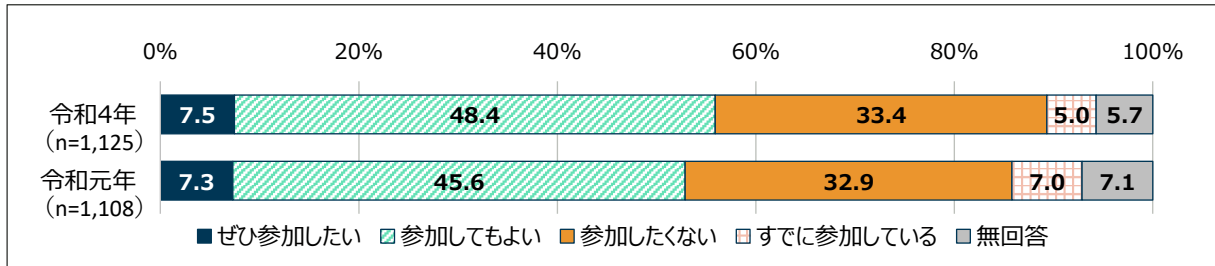


**問 5 (2) 地域住民の有志によって、健康づくり活動や趣味などのグループ活動を行って、いきいきした地域づくりを進めるとしたら、あなたはその活動に参加者として参加してみたいと思いますか**

問 5 (2) (3) は、地域づくりへの参加意向を問う設問です。地域づくりに対して「参加者として」「企画・運営（お世話役として）」の両方の立場における参加の意向を把握することが可能になります。

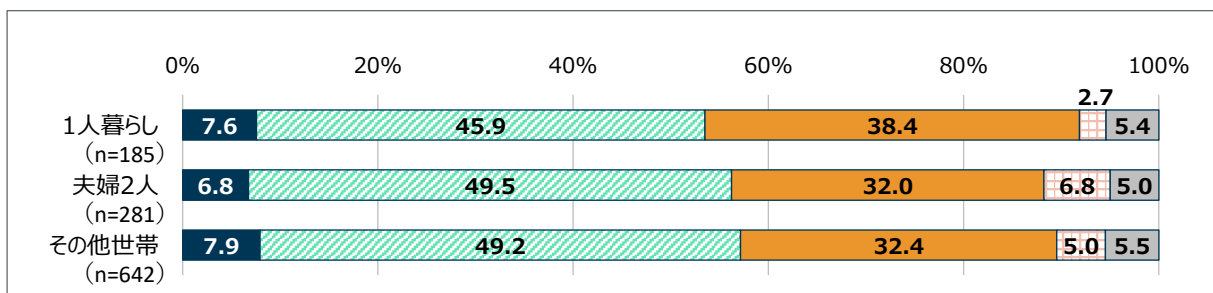
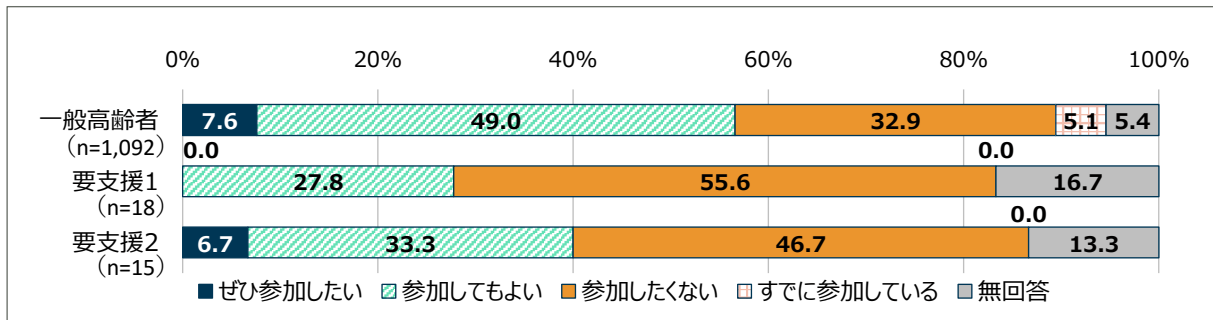
「ぜひ参加したい」と「参加してもよい」を合わせると 55.9%で、「参加したくない」は 33.4% となっています。

性別・年齢別にみると、すべての年齢層で女性のほうが「すでに参加している」割合が高くなっていますが、年齢が上がるにつれて「参加したくない」割合が高くなる傾向にあります。



認定区分別にみると、要支援認定者で「すでに参加している」割合は0.0%となっています。また、要支援認定者、特に要支援1で参加意向がある割合が低くなっています。

家族構成別に明らかな傾向はみられませんでした。

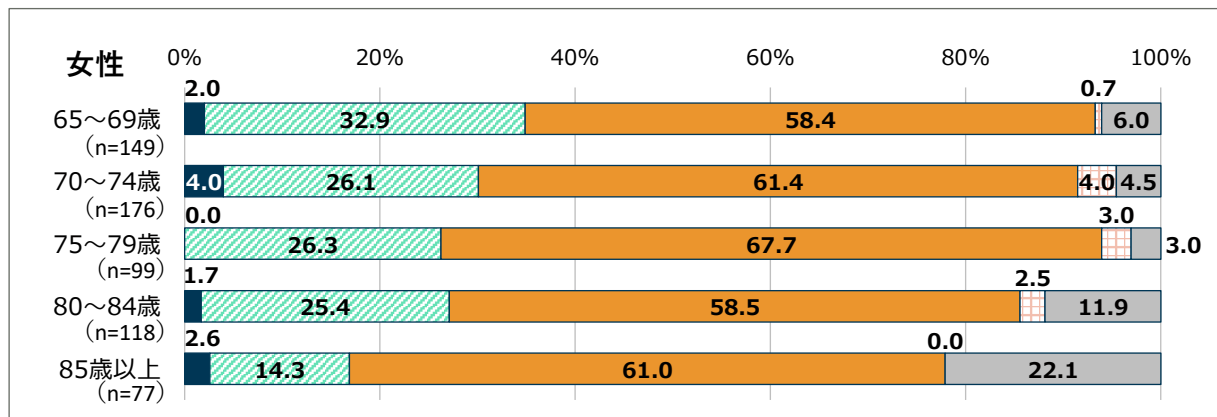
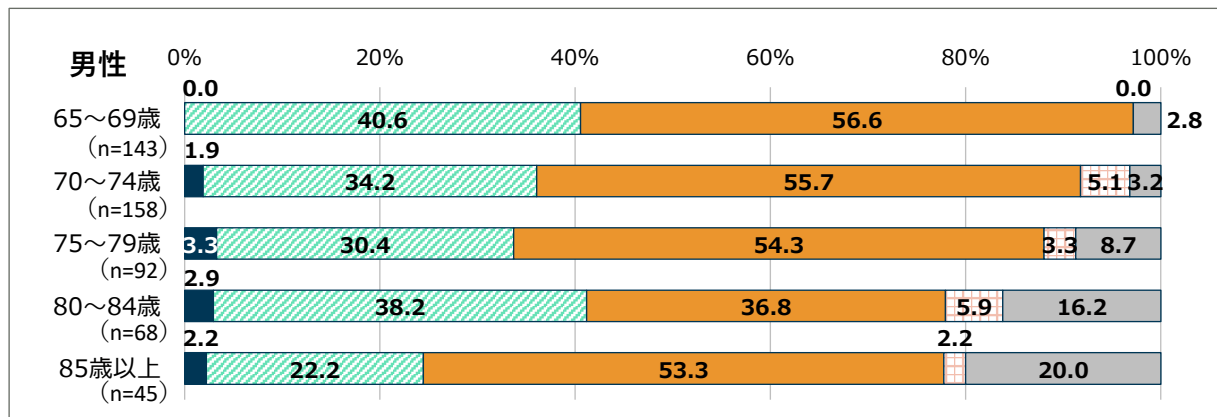
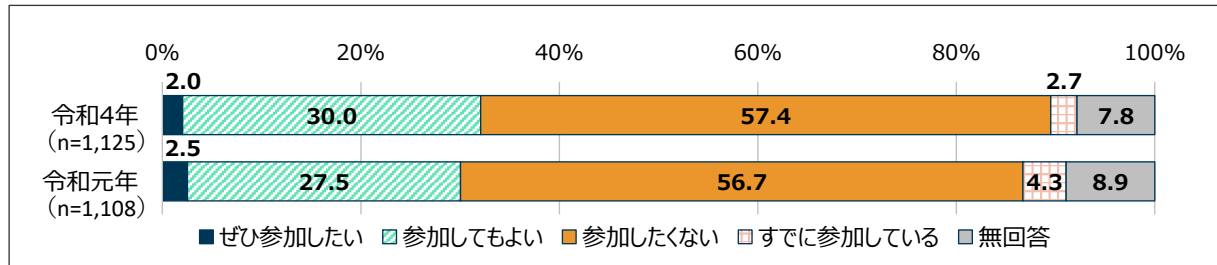




**問 5 (3) 地域住民の有志によって、健康づくり活動や趣味などのグループ活動を行って、いきいきした地域づくりを進めるとしたら、あなたはその活動に企画・運営（お世話役）として参加してみたいと思いますか**

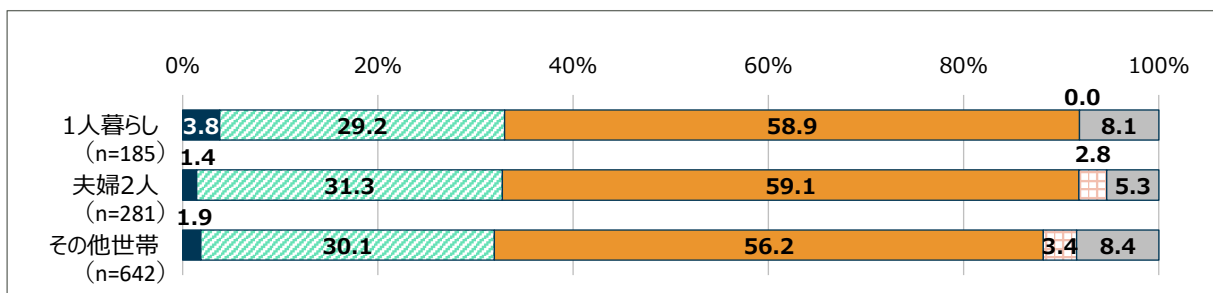
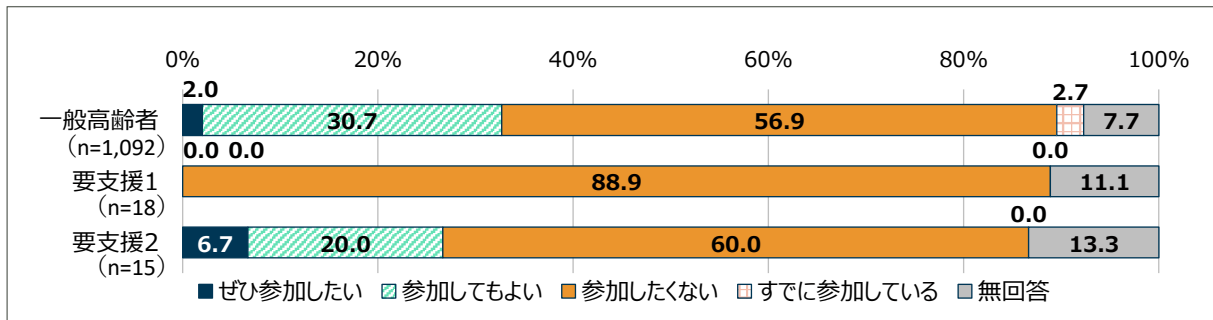
「ぜひ参加したい」と「参加してもよい」を合わせると 32.0%で、「参加したくない」は 57.4% となっています。

性別・年齢別にみると、男性のほうが参加意向がある割合が高くなっています。



認定区分別にみると、要支援認定者で「すでに参加している」割合は0.0%となっています。また、要支援1では参加意向がある割合は0.0%となっています。

家族構成別に明らかな傾向はみられませんでした。

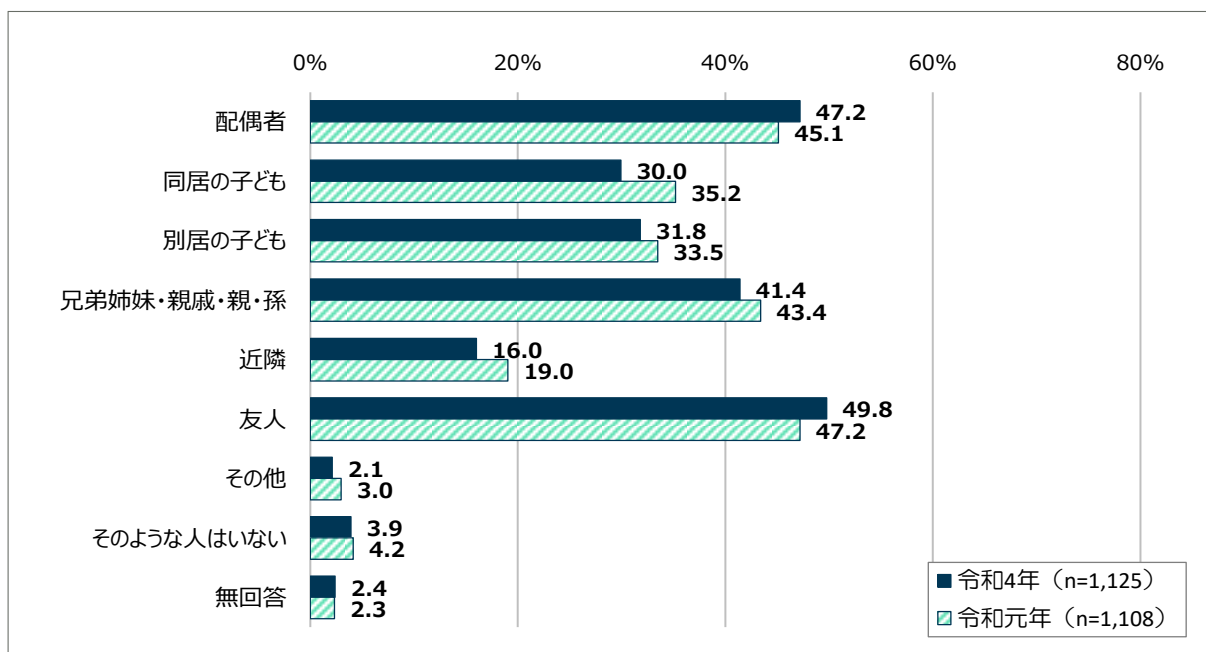


## 問 6 助けあいについて

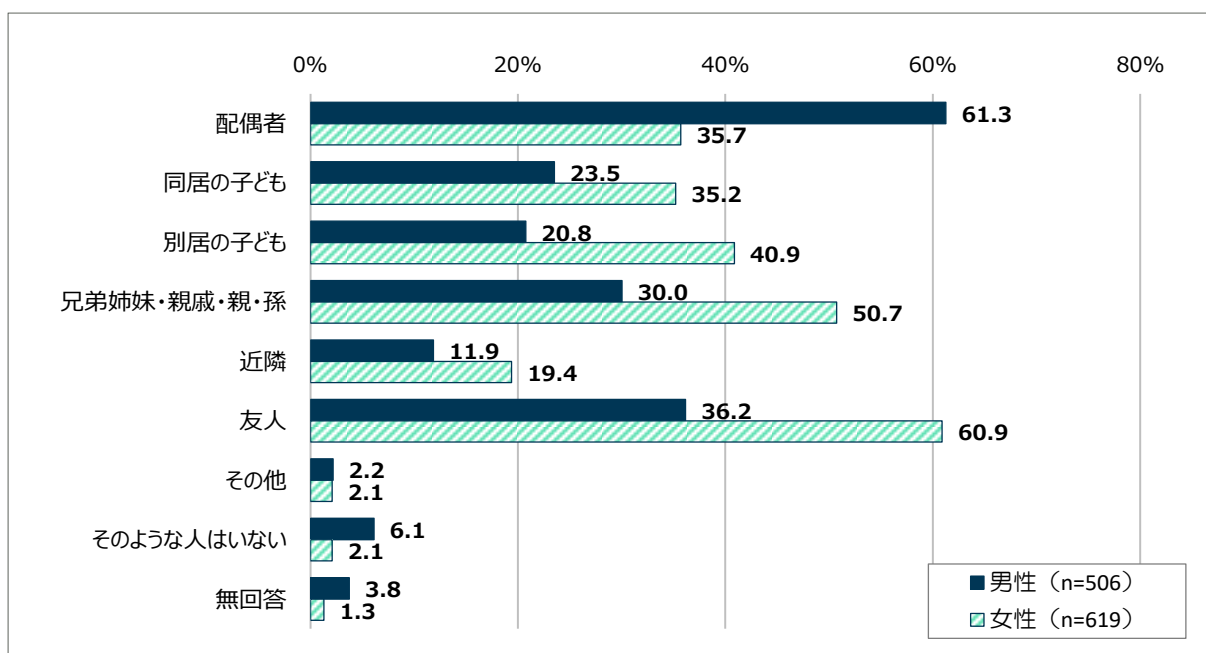
### 問 6 (1) あなたの心配事や愚痴を聞いてくれる人（複数回答）

問 6 (1) ～ (4) は、助けあいの状況を把握する設問です。助けあいの状況と関係性がある、その地域のうつ傾向の発生状況を、間接的に把握することが可能になります。

「友人」の割合が最も高く 49.8%、次いで「配偶者」が 47.2%、「兄弟姉妹・親戚・親・孫」が 41.4%などとなっています。

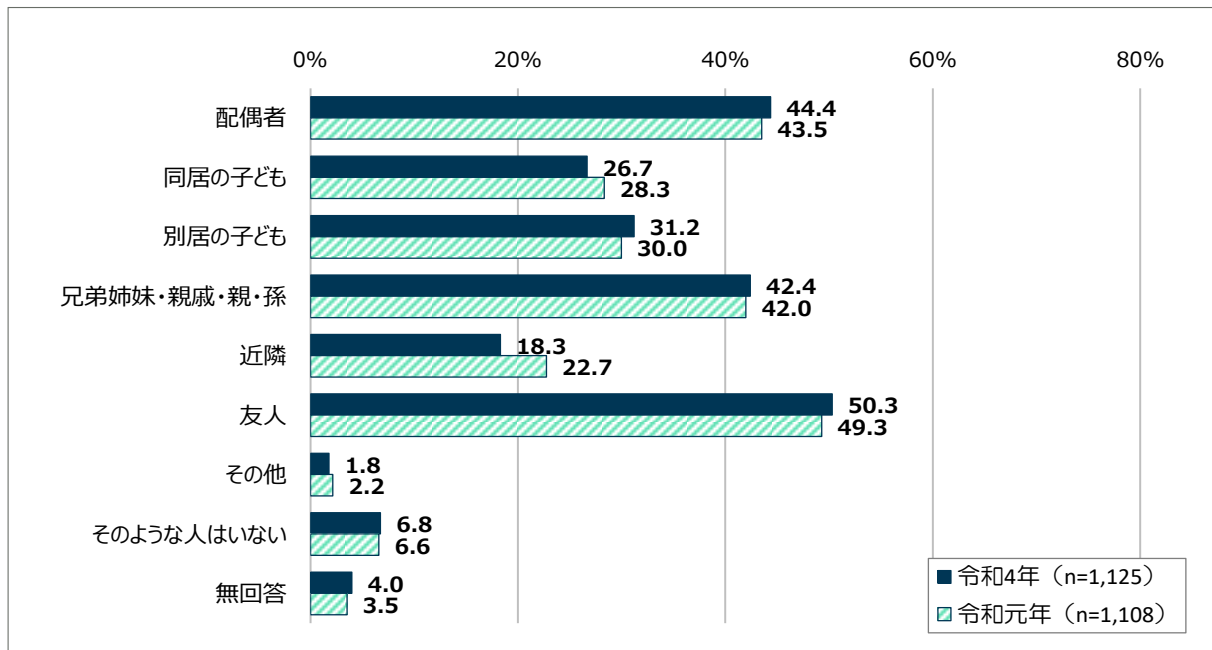


性別にみると、男性は「配偶者」の割合が最も高く 61.3%となっていますが、女性は「友人」の割合が最も高く 60.9%となっています。また、「そのような人はいない」の割合は男性のほうが 4.0 ポイント高く 6.1%となっています。

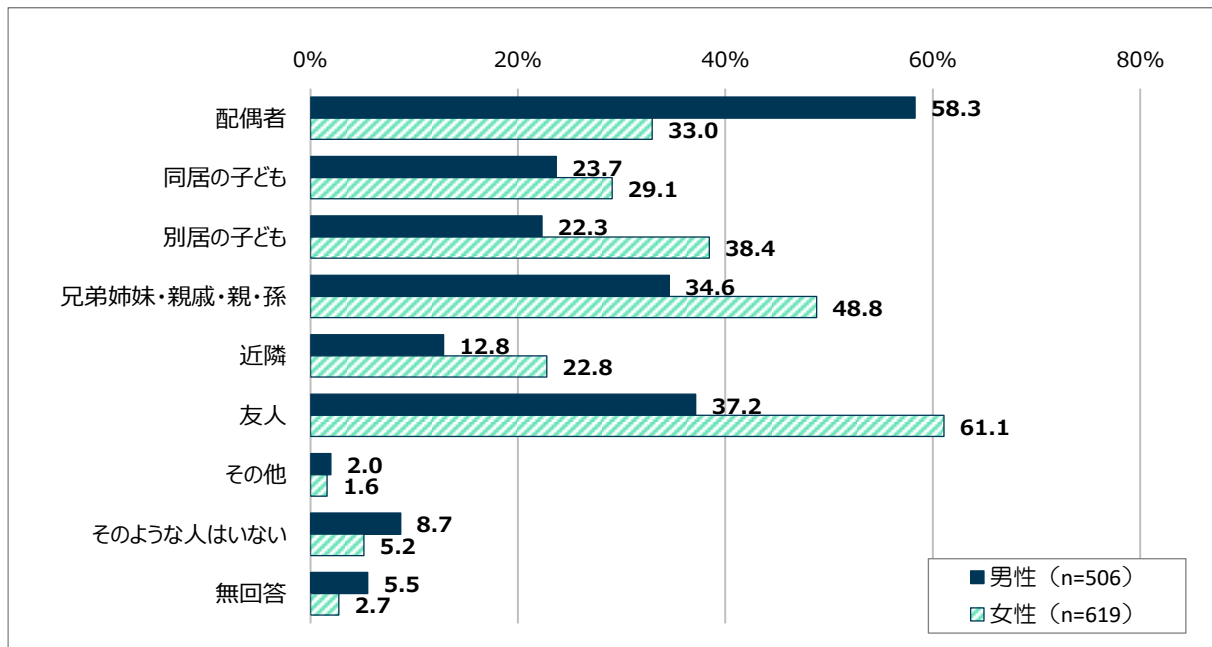


## 問 6 (2) 反対に、あなたが心配事や愚痴を聞いてあげる人 (複数回答)

「友人」の割合が最も高く 50.3%、次いで「配偶者」が 44.4%、「兄弟姉妹・親戚・親・孫」が 42.4%などとなっています。

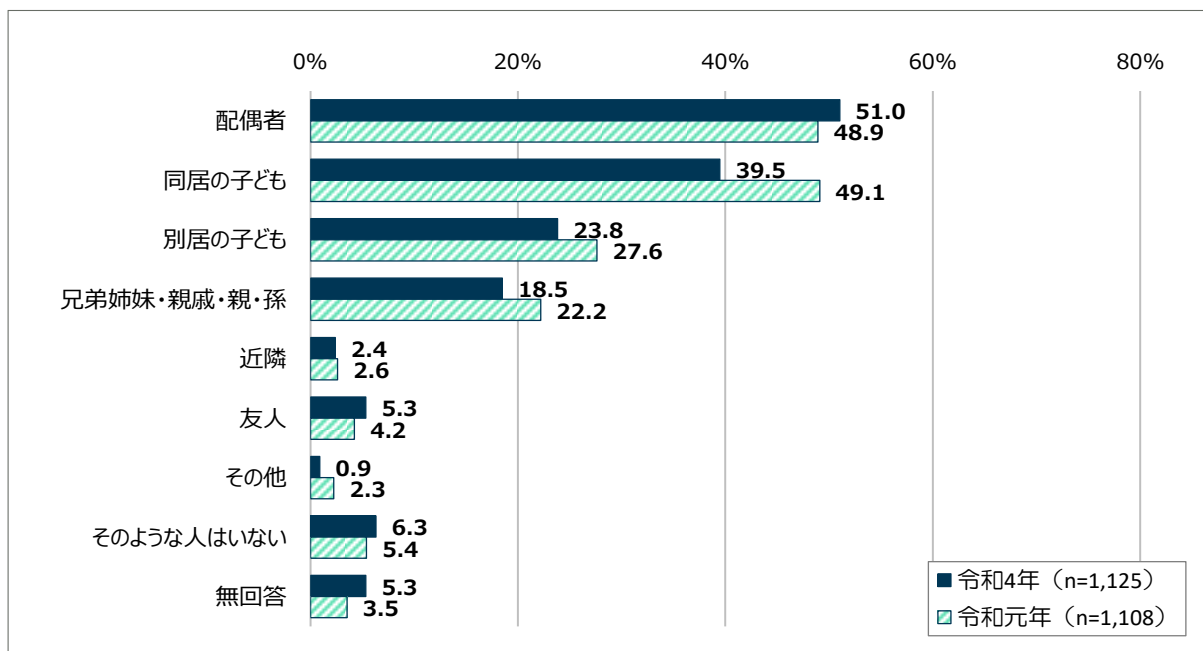


性別にみると、男性は「配偶者」の割合が最も高く 58.3%となっていますが、女性は「友人」の割合が最も高く 61.1%、次いで「兄弟姉妹・親戚・親・孫」が 48.8%で、「配偶者」は 33.0%となっています。また、「そのような人はいない」の割合は男性のほうが 3.5 ポイント高く 8.7%となっています。

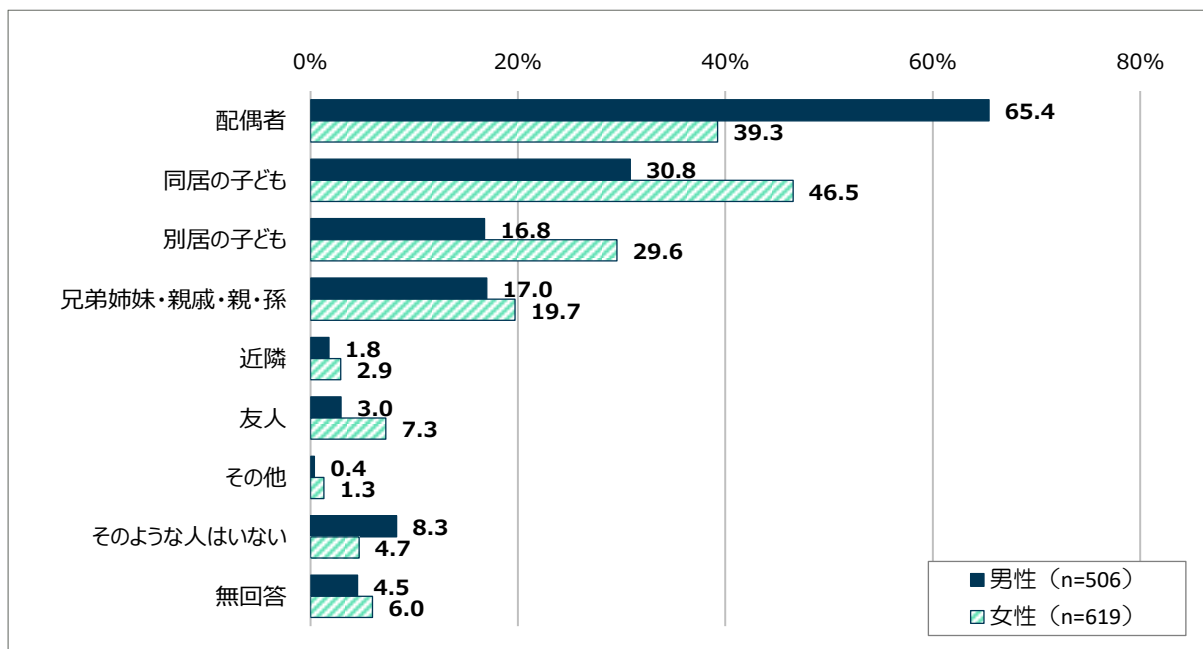


### 問 6 (3) あなたが病気で数日間寝込んだときに、看病や世話をしてくれる人（複数回答）

「配偶者」の割合が最も高く 51.0%、次いで「同居の子ども」が 39.5%となっています。令和元年の前回調査より「同居の子ども」は 9.6 ポイント、「別居の子ども」は 3.8 ポイント低くなっています。

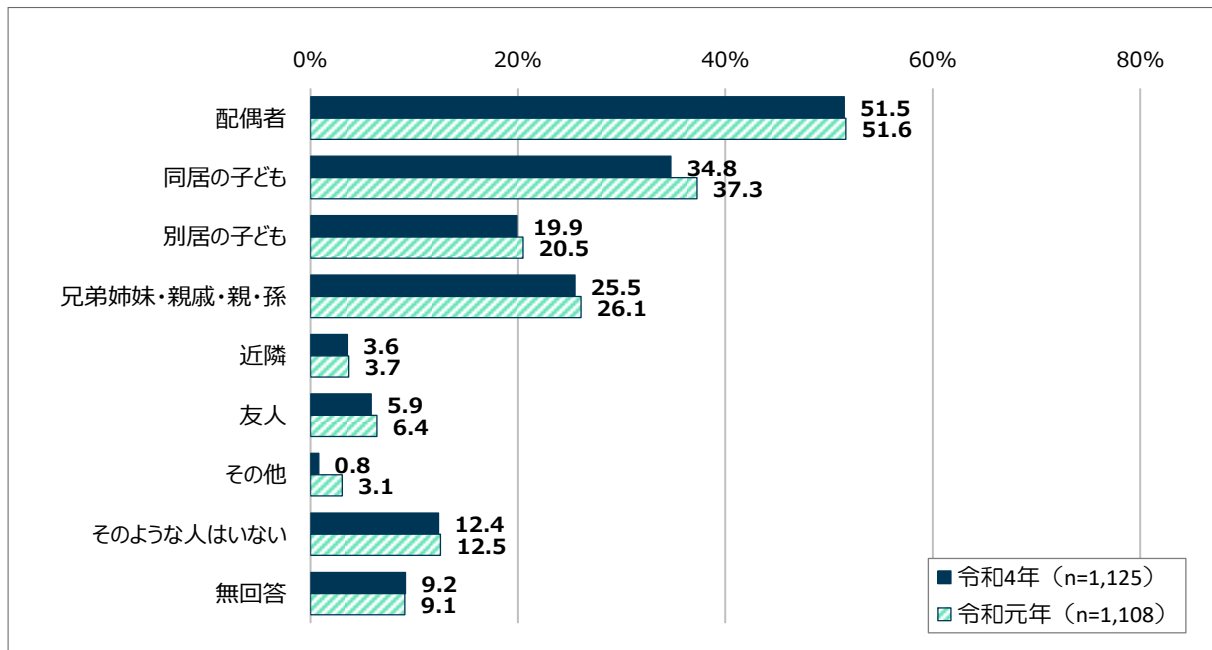


性別にみると、男性は「配偶者」の割合が最も高く 65.4%となっていますが、女性は「同居の子ども」の割合が最も高く 46.5%で、「配偶者」は 39.3%となっています。また、「そのような人はいない」の割合は男性のほうが 3.6 ポイント高く 8.3%となっています。

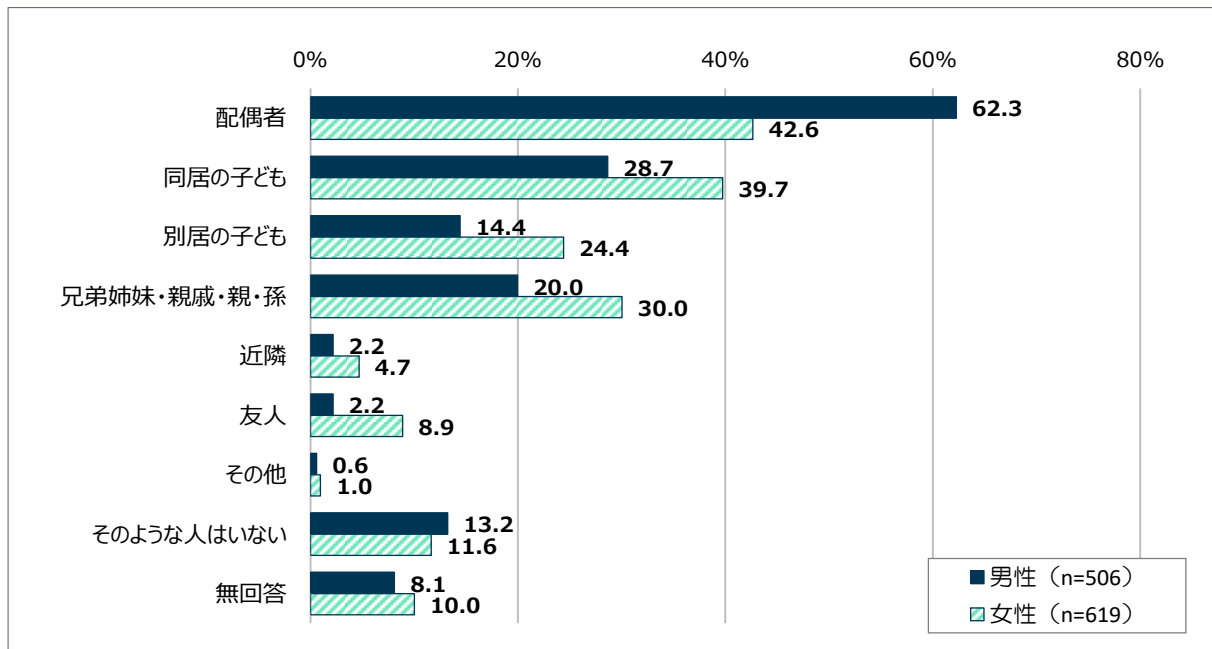


## 問 6 (4) 反対に、あなたが看病や世話をしあける人 (複数回答)

「配偶者」の割合が最も高く 51.5%、次いで「同居の子ども」が 34.8%、「兄弟姉妹・親戚・親・孫」が 25.5%などとなっています。



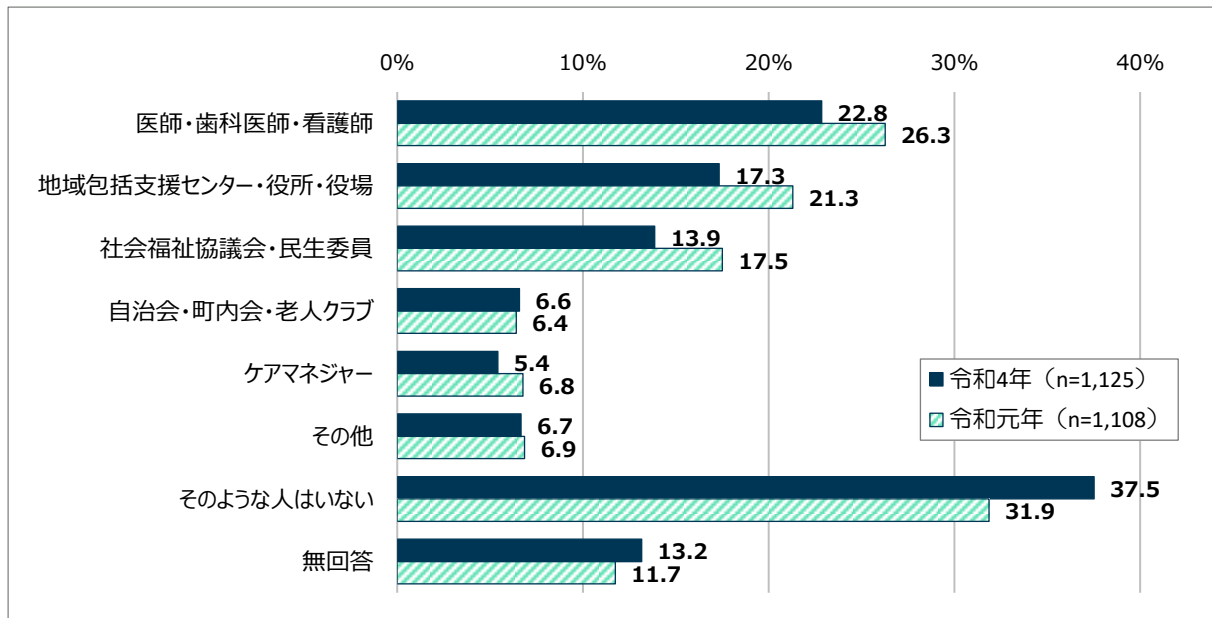
性別にみると、男性・女性ともに「配偶者」の割合が最も高くなっていますが、男性が 62.3% なのに対し女性は 42.6% で、19.7 ポイント低くなっています。



### 問 6 (5) 家族や友人・知人以外で、何かあったときに相談する相手を教えてください（複数回答）

この設問は、地域の相談経路を問う設問です。地域の相談窓口の活用状況を把握することが可能となります。

「医師・歯科医師・看護師」が22.8%、次いで「地域包括支援センター・役所・役場」が17.3%となっていますが、「そのような人はいない」が37.5%と最も高く、令和元年の前回調査より5.6ポイント高くなっています。

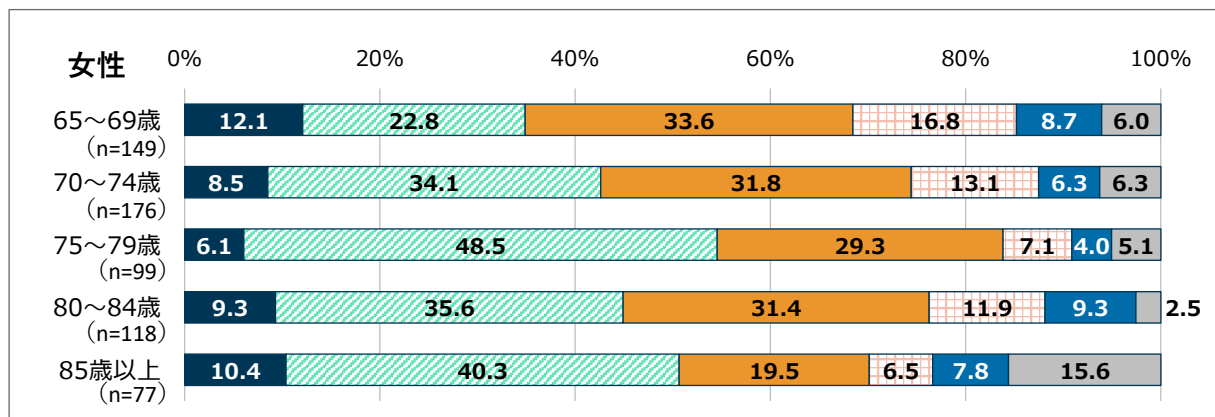
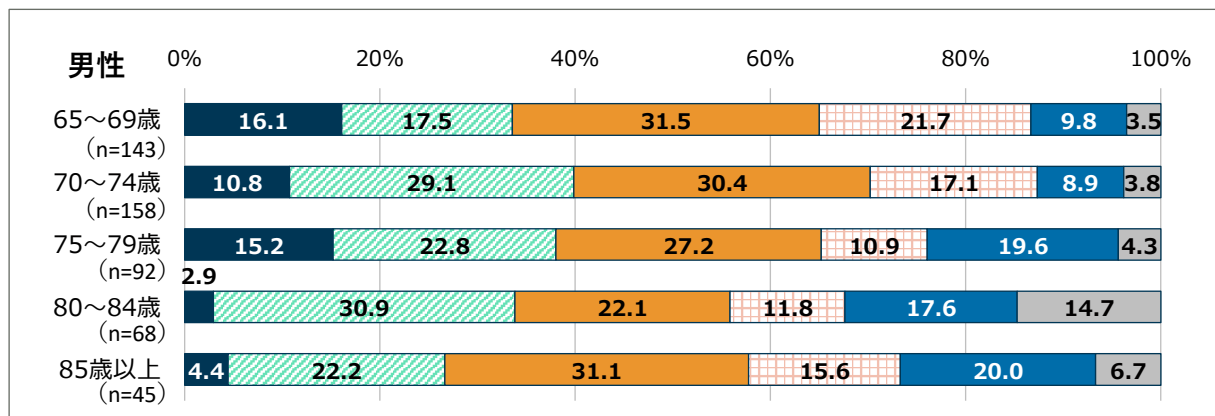
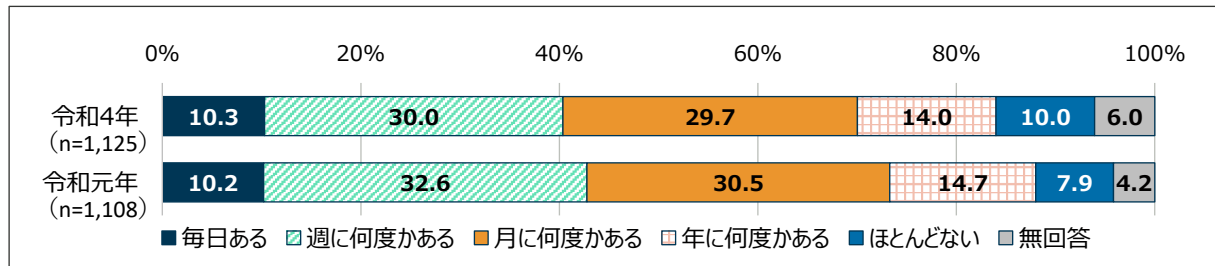


## 問 6 (6) 友人・知人と会う頻度はどのくらいですか

問 6 (6) ～ (8) は、友人関係を問う設問です。事業を展開したことにより、地域でのつながりがどの程度増えたかをモニタリングすることが可能となります。

「週に何度かある」が 30.0%と最も高く、次いで「月に何度かある」が 29.7%で、「ほとんどない」は 10.0%となっています。

性別・年齢別に明らかな傾向はみられませんでした。



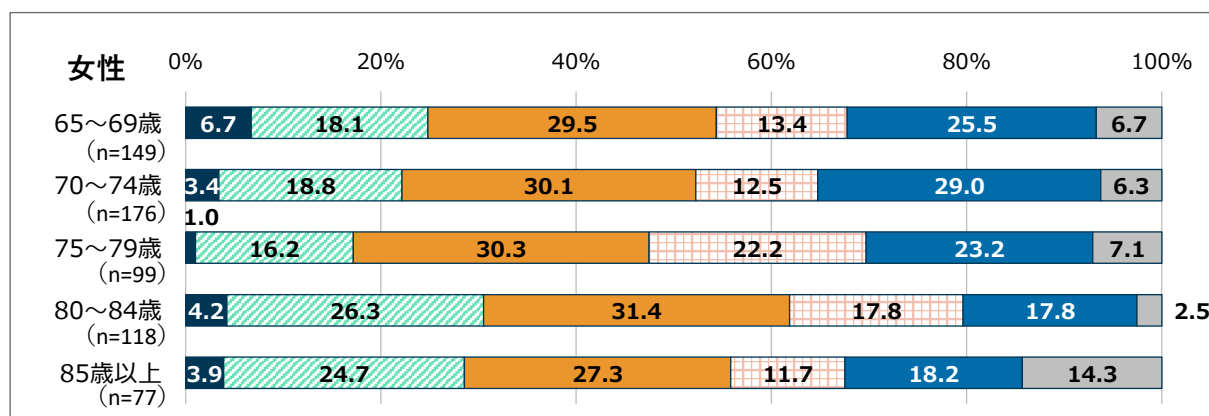
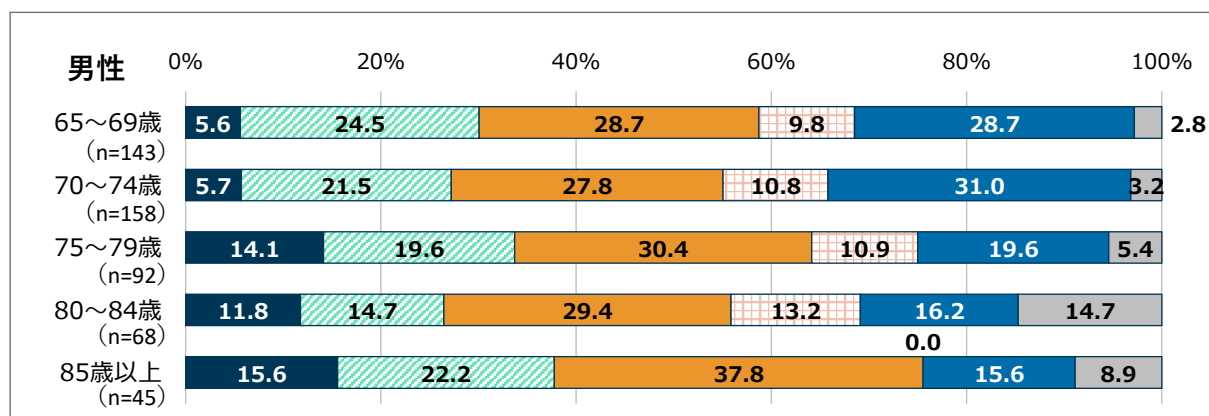
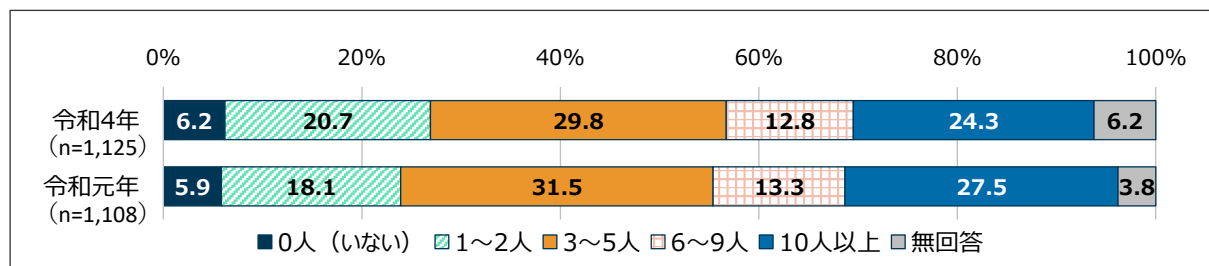


## 問 6 (7) この1か月間、何人の友人・知人と会いましたか

(同じ人には何度会っても1人と数えることとします)

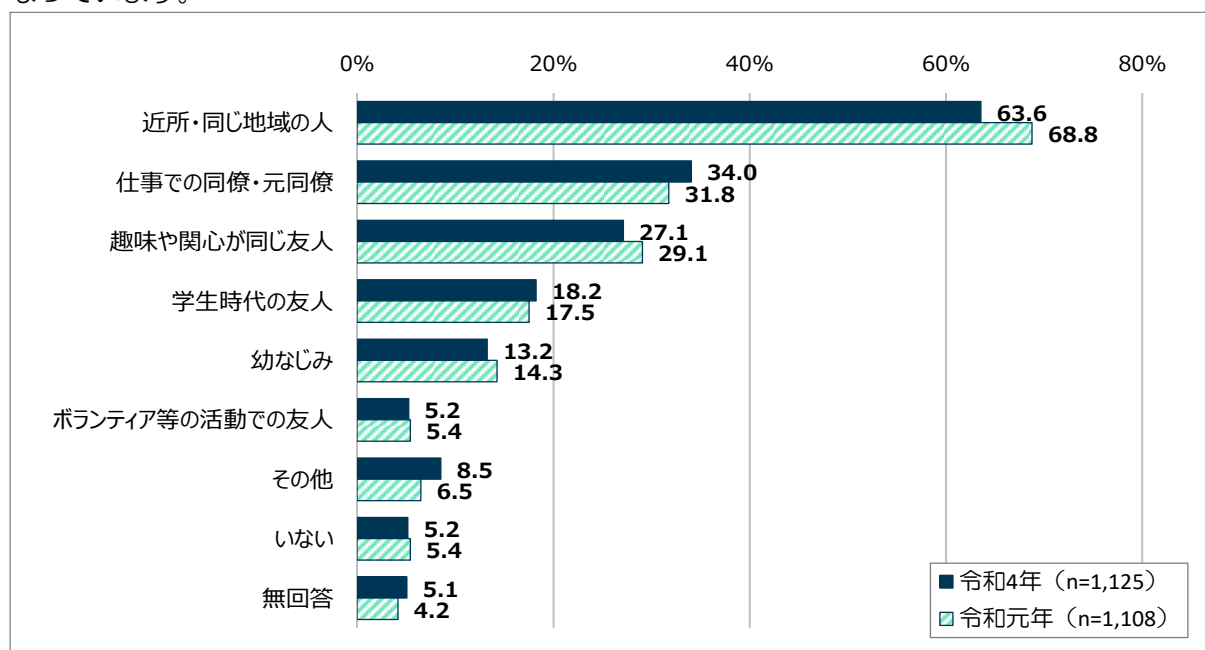
「3～5人」が29.8%と最も高く、次いで「10人以上」が24.3%となっています。

性別・年齢別にみると、75歳以上の男性で「0人(いない)」の割合が高く10%以上となっています。一方で男性・女性ともに85歳以上でも「10人以上」の割合が15%以上となっています。



### 問 6 (8) よく会う友人・知人はどんな関係の人ですか (複数回答)

「近所・同じ地域の人」が 63.6%と最も高く、次いで「仕事での同僚・元同僚」が 34.0%となっています。

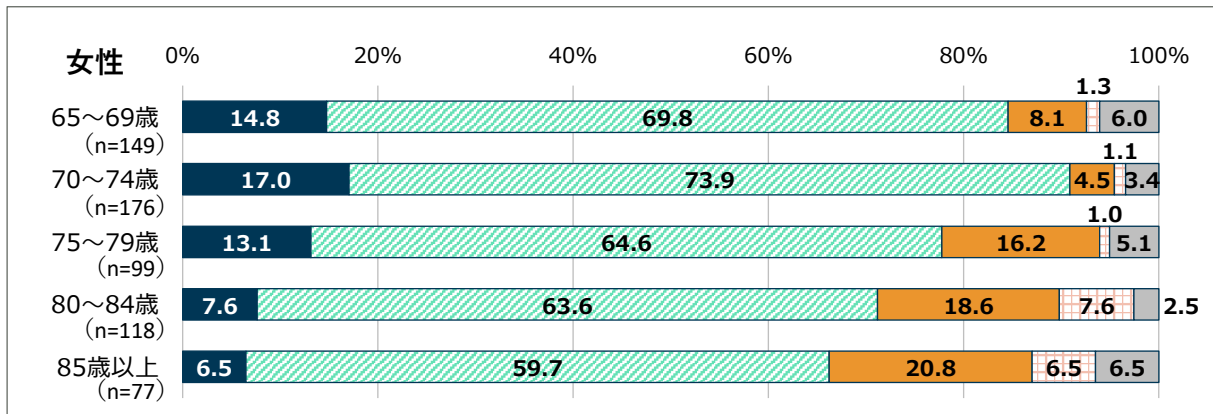
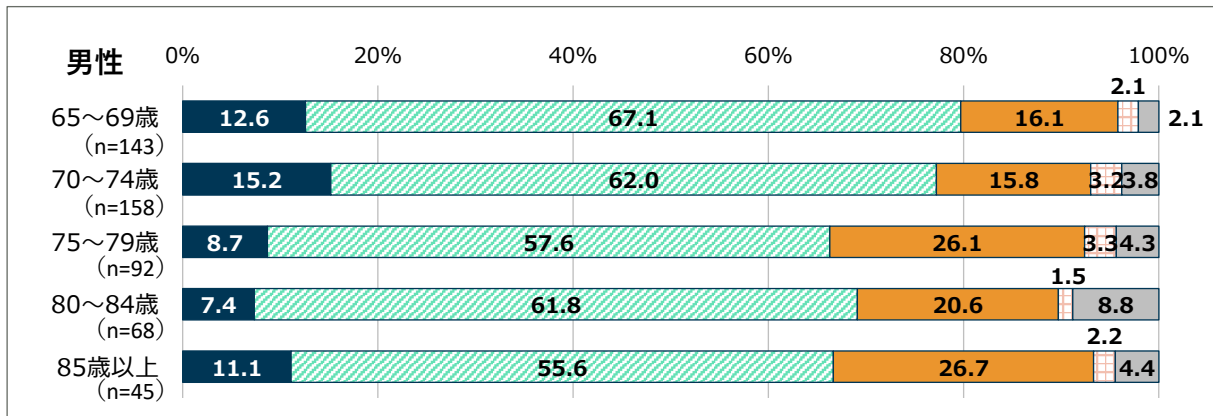
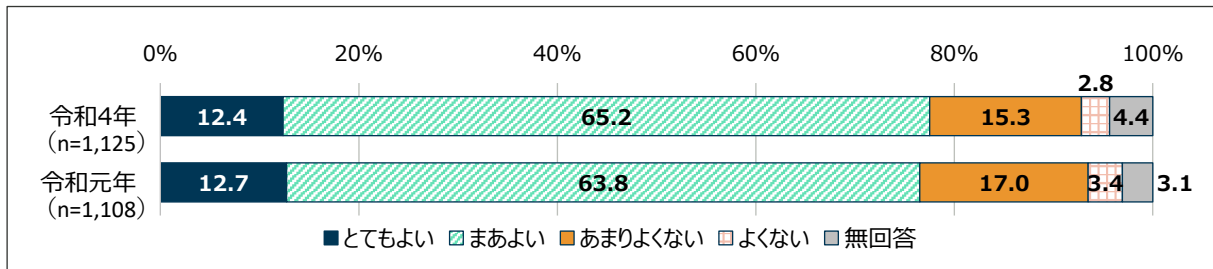


## 問 7 健康について

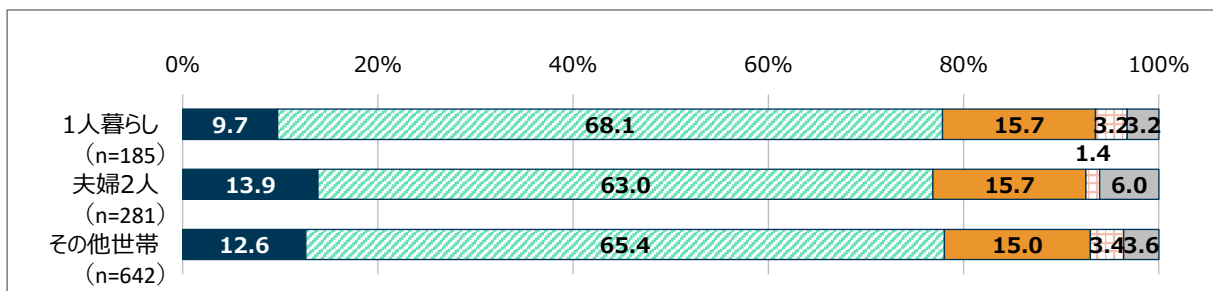
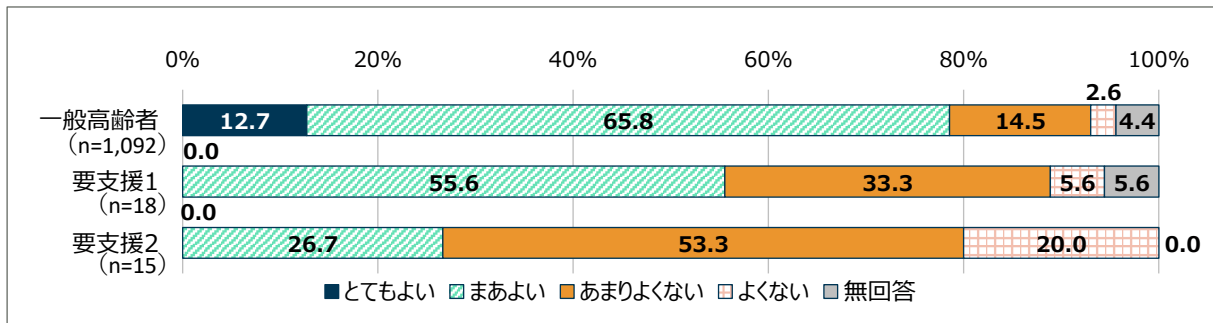
### 問 7 (1) 現在のあなたの健康状態はいかがですか

この設問は、主観的健康感を問う設問です。要介護状態になる前の高齢者の主観的健康感を把握することで、地域の健康度のアウトカム指標として活用することが可能になります。

「まあよい」が65.2%と最も高く、「とてもよい」と合わせると77.6%となっています。  
性別・年齢別にみると、女性は年齢が上がるほど健康状態がよいと感じている割合が少しずつ低くなっていく傾向がみられますが、男性は75歳以上になると健康状態がよいと感じている割合が一気に低くなり、その後は年齢による傾向はみられませんでした。



認定区分別にみると、要支援認定者では「とてもよい」は0.0%となっています。  
 家族構成別に明らかな傾向はみられませんでした。

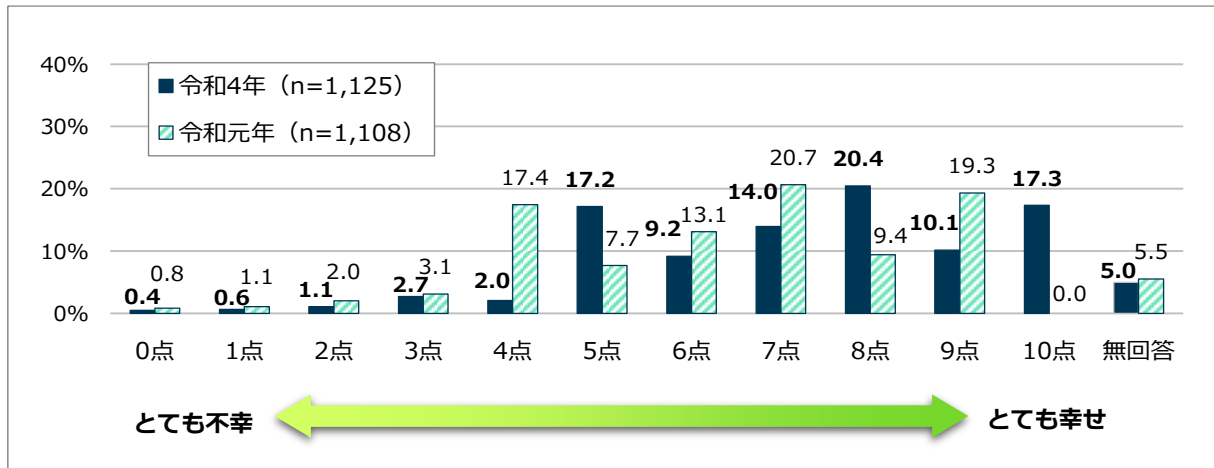


## 問 7 (2) あなたは、現在どの程度幸せですか

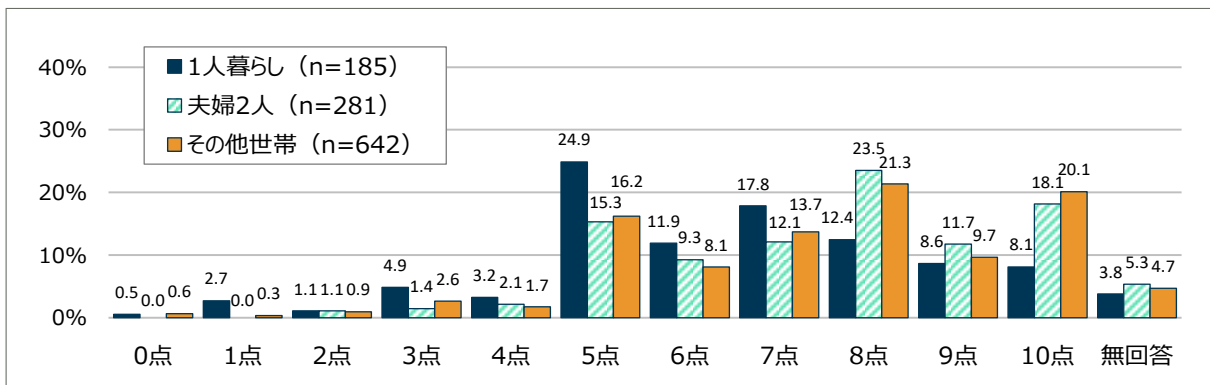
(「とても不幸」を 0 点、「とても幸せ」を 10 点として、ご記入ください)

この設問は、主観的幸福感を問う設問です。うつ傾向との関係性も想定される、要介護状態になる前の高齢者の主観的幸福感を把握することで、地域の（精神面での）健康度のアウトカム指標として活用することが可能になります。

「8 点」が 20.4%と最も高く、平均点は 7.21 点となっています。



家族構成別に平均点を見ると、1人暮らし世帯は 6.35 点、夫婦 2 人世帯は 7.47 点で、その他世帯は 7.35 点となっています。



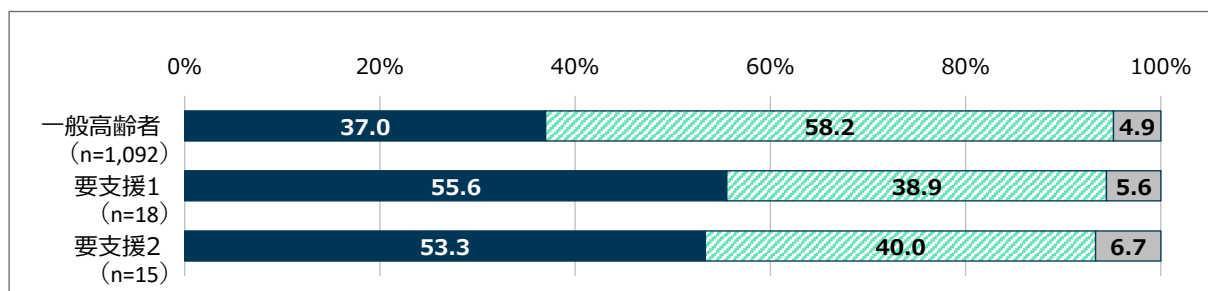
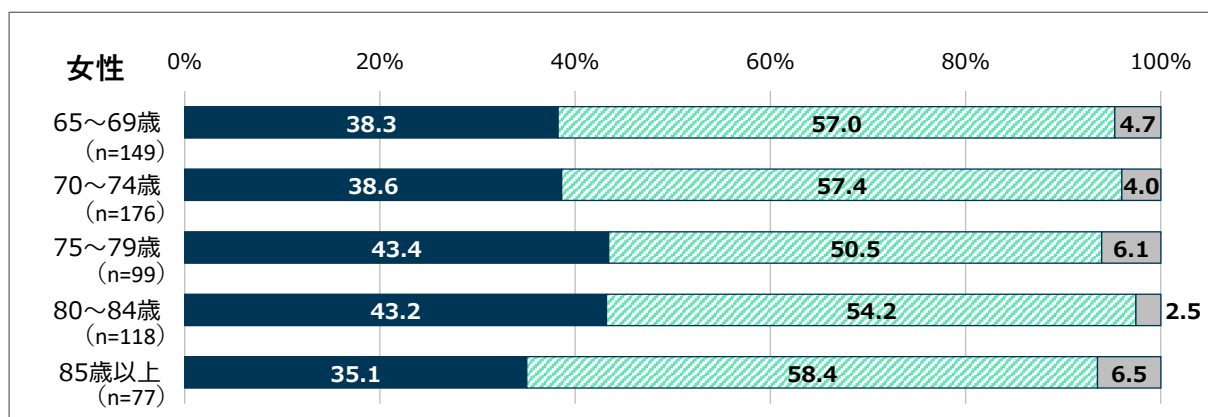
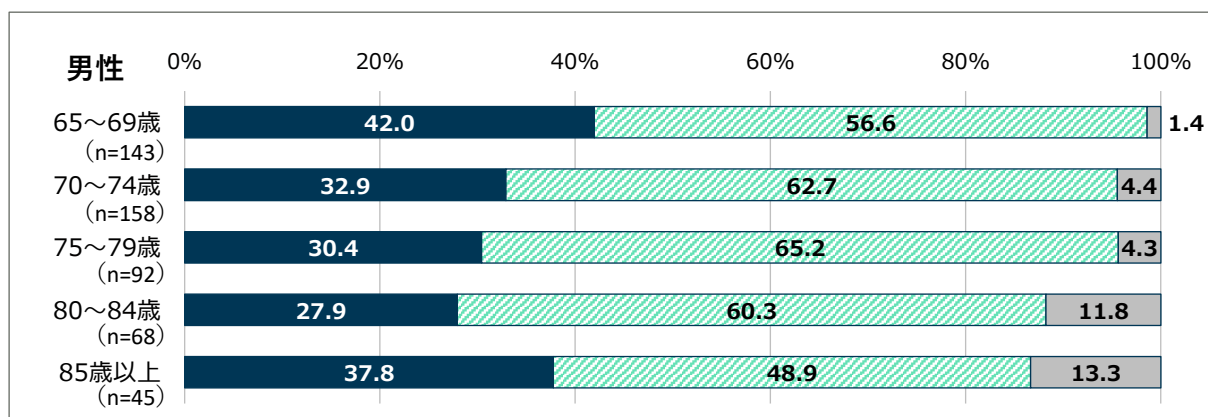
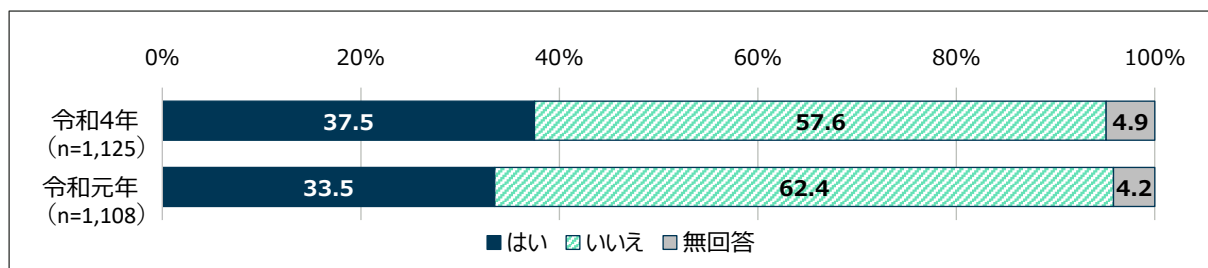
### 問 7 (3) この1か月間、気分が沈んだり、ゆううつな気持ちになったりすることがありましたか

問 7 (3) (4) は、うつ傾向を問設問です。うつ傾向の高齢者の地域分布を把握することで、事業の対象者・対象地域・実施内容の検討の際に活用することが可能になります。

「はい」が37.5%、「いいえ」が57.6%となっています。

性別・年齢別にみると、85歳以上を除くと、男性は年齢が上がるほど「はい」の割合が低くなっているのに対し、女性は高くなる傾向がみられます。

認定区分別にみると、要支援認定者で「はい」の割合が高くなっています。

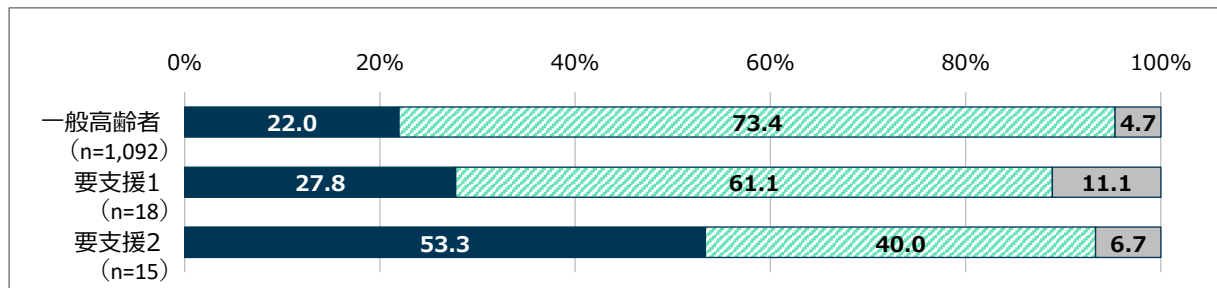
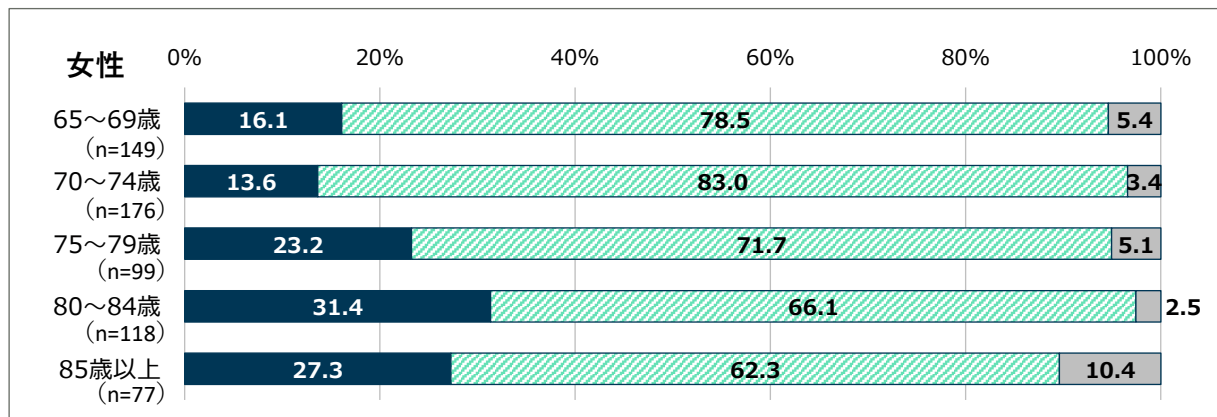
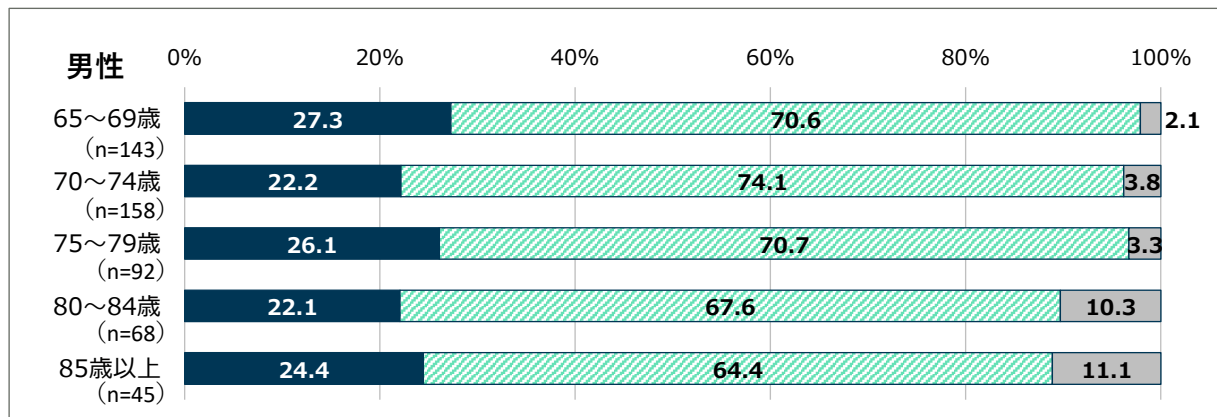
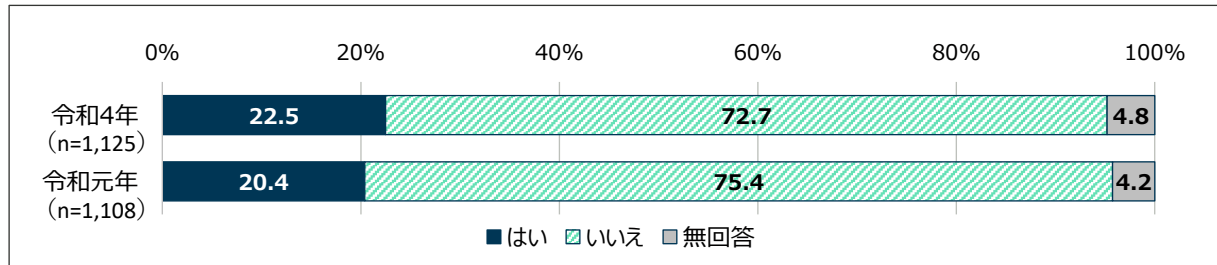


**問 7 (4) この1か月間、どうしても物事に対して興味がわかない、あるいは心から楽しめない感じがよくありましたか**

「はい」が22.5%、「いいえ」が72.7%となっています。

性別・年齢別にみると、女性は年齢が上がるにつれて「はい」の割合が高くなる傾向にありますが、男性は年齢による傾向はみられませんでした。

認定区分別にみると、要支援認定者で「はい」の割合が高くなっています。

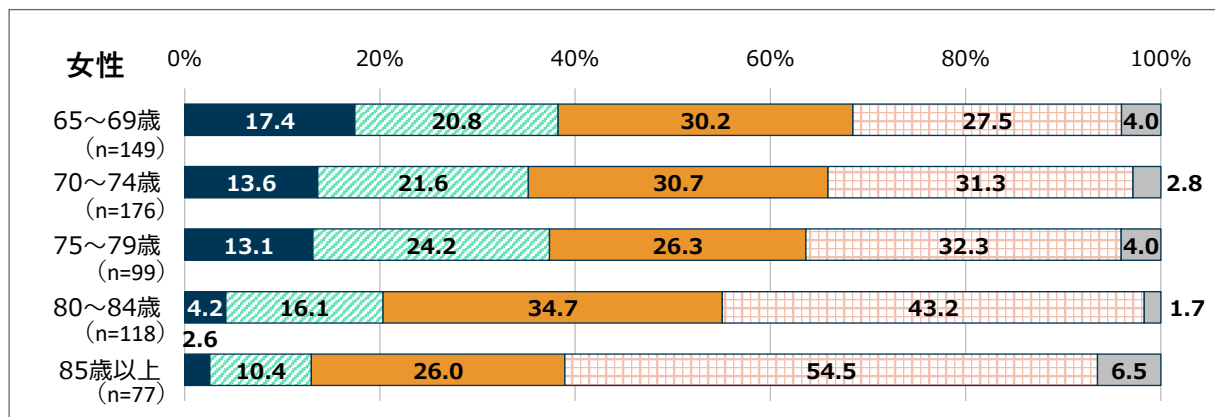
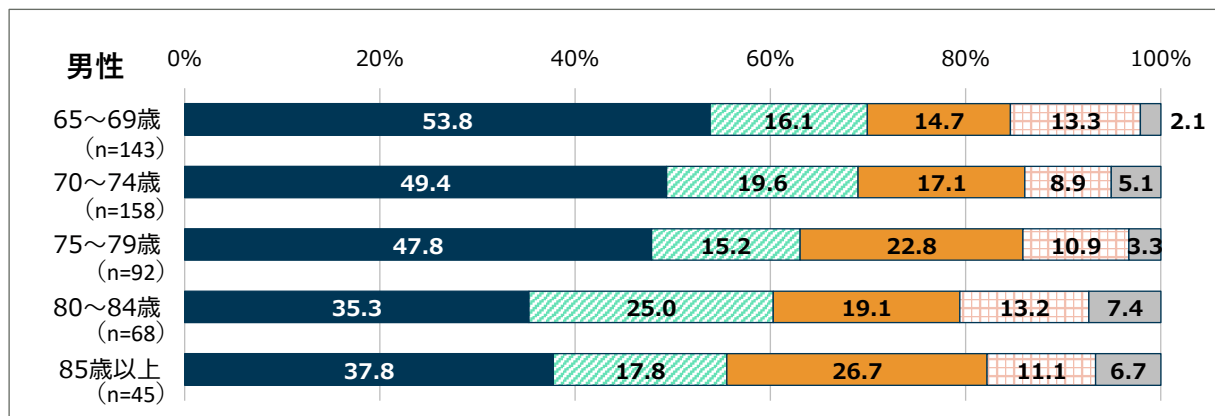
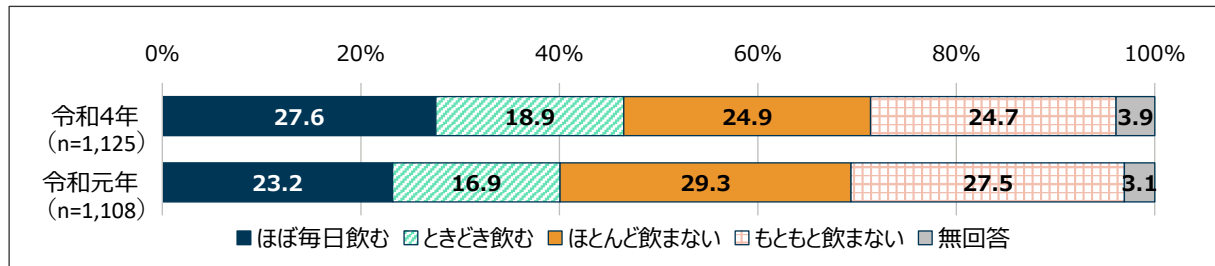


## 問 7 (5) お酒は飲みますか

この設問は、飲酒の習慣を問う設問です。高齢者の健康寿命に影響を与えると考えられる本項目と他項目の関係を把握することにより、地域の高齢者の特性把握が可能になります。

「ほぼ毎日飲む」が27.6%と最も高くなっています。

性別・年齢別にみると、すべての年齢層で男性のほうが「ほぼ毎日飲む」割合が女性の3倍以上になっています。女性は年齢が上がるほど「もともと飲まない」割合が高くなっています。



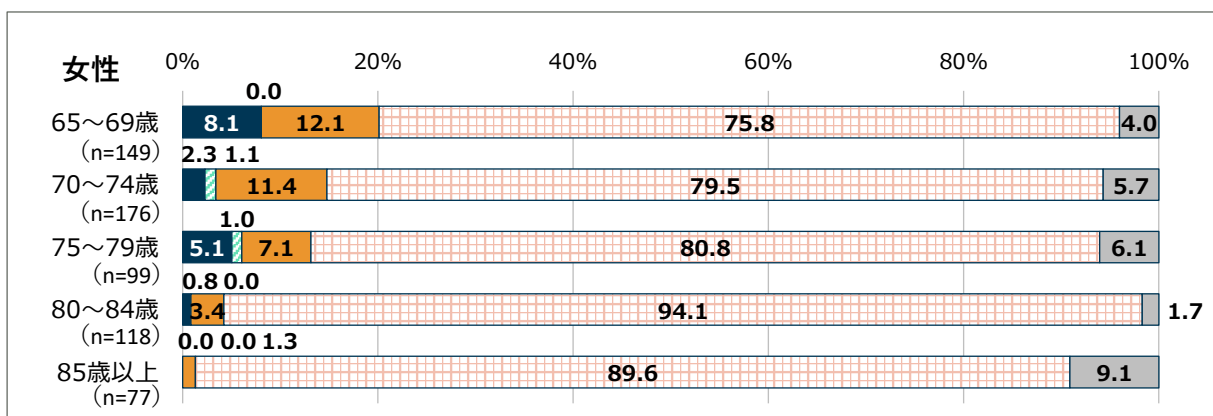
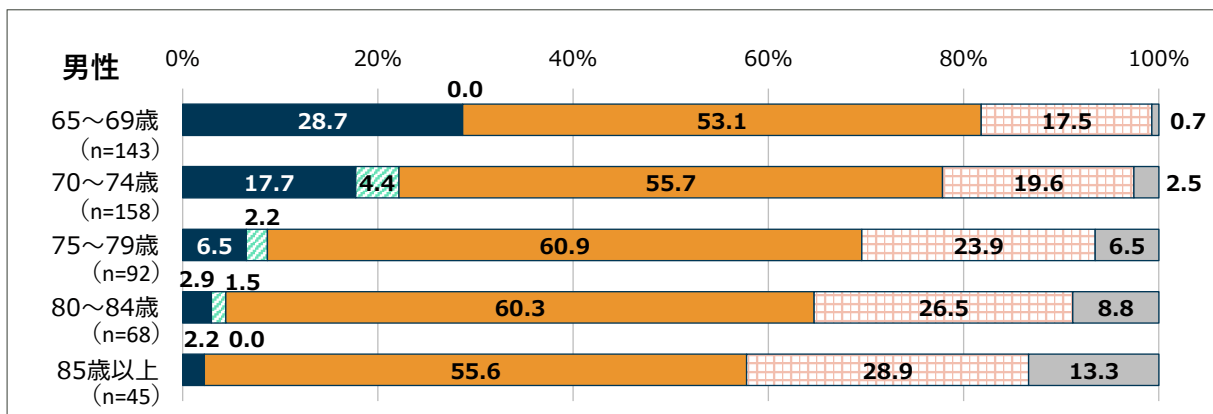
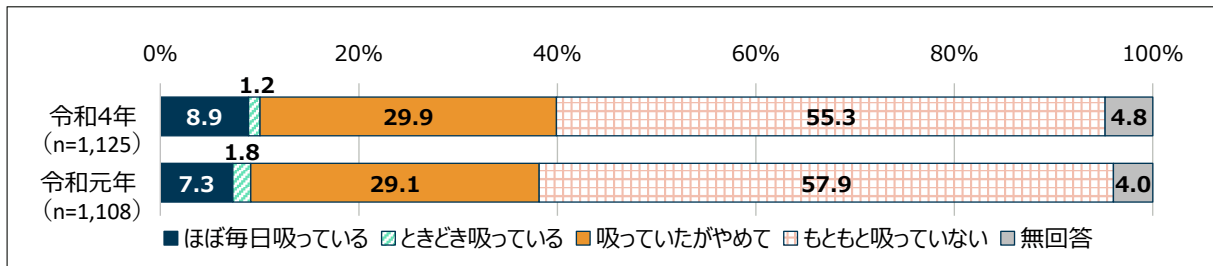


## 問 7 (6) タバコは吸っていますか

この設問は、タバコの習慣を問う設問です。高齢者の健康寿命に影響を与えると考えられる本項目と他項目との関係性を把握することで、地域の高齢者の特性把握が可能になります。

「もともと吸っていない」が 55.3%と最も高く、次いで「吸っていたがやめた」が 29.9%となっています。

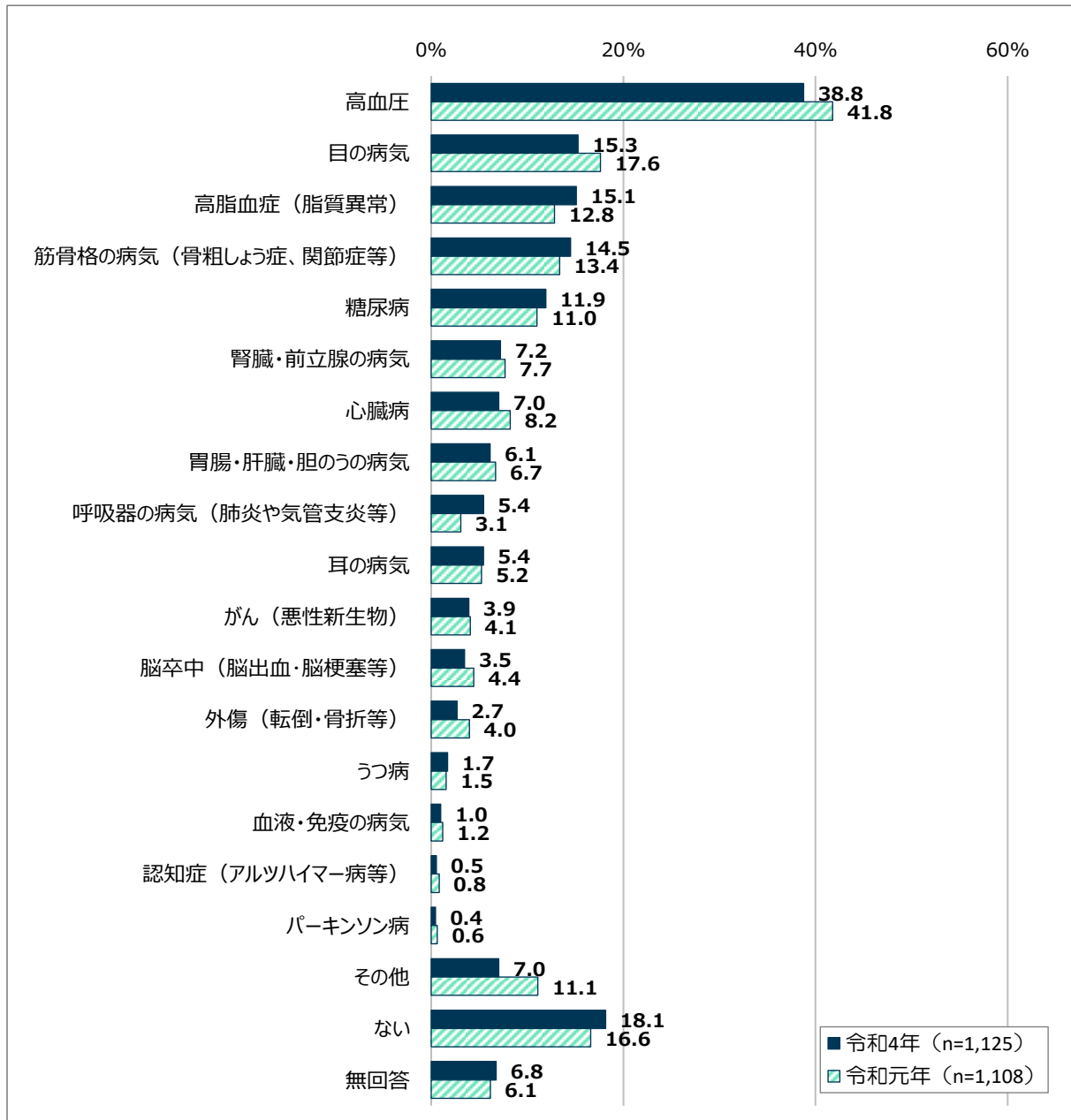
性別・年齢別にみると、女性はすべての年齢層で「もともと吸っていない」が 75%以上、男性はすべての年齢層で「吸っていたがやめた」の割合が 50%以上で最も高くなっています。男性・女性ともに年齢が上がるほど「ほぼ毎日吸っている」割合が低くなる傾向がみられます。



## 問 7 (7) 現在治療中、または後遺症のある病気はありますか (複数回答)

この設問は、現在治療中の病気等を問う設問です。認定を受けていない高齢者の既往を把握することで、要介護状態になる原因等の地域課題の把握が可能になります。

「高血圧」が38.8%と最も高くなっています。



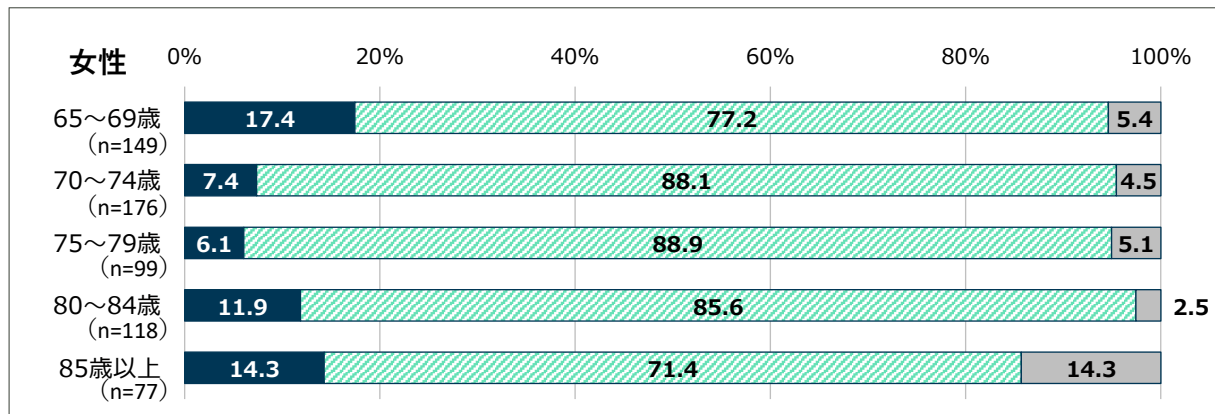
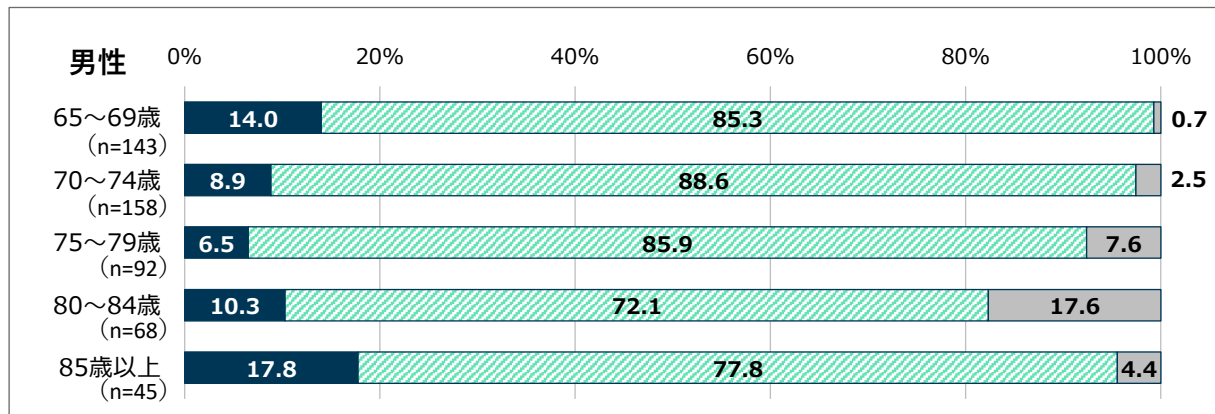
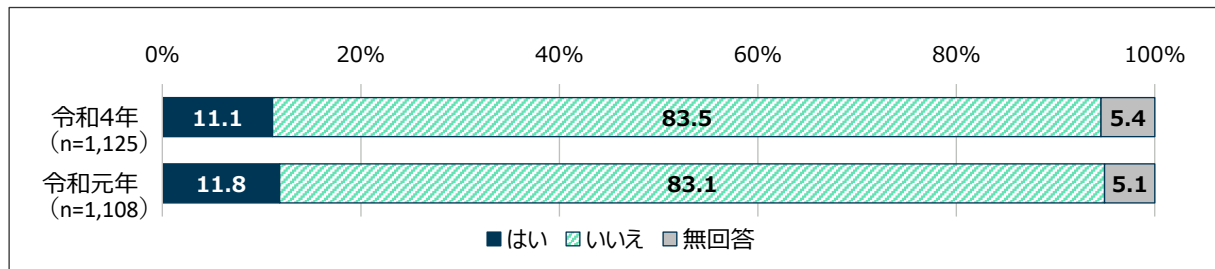
## 問 8 認知症に関する相談窓口の把握について

### 問 8 (1) 認知症の症状がある、または家族に認知症の症状がある人がいますか

この設問は、家族を含め認知症の有無を問う設問です。認知症施策推進大綱において、認知症に関する相談体制を地域ごとに整備していくことが求められており、その目標となる相談窓口の認知度について、関係者（認知症当事者本人および家族）と住民（本人および家族以外）の属性の把握が可能となります。

「はい」が11.1%、「いいえ」が83.5%となっています。

性別・年齢別にみると、性別による差異はみられず、男性・女性ともに75～79歳で「はい」の割合が最も低くなっています。

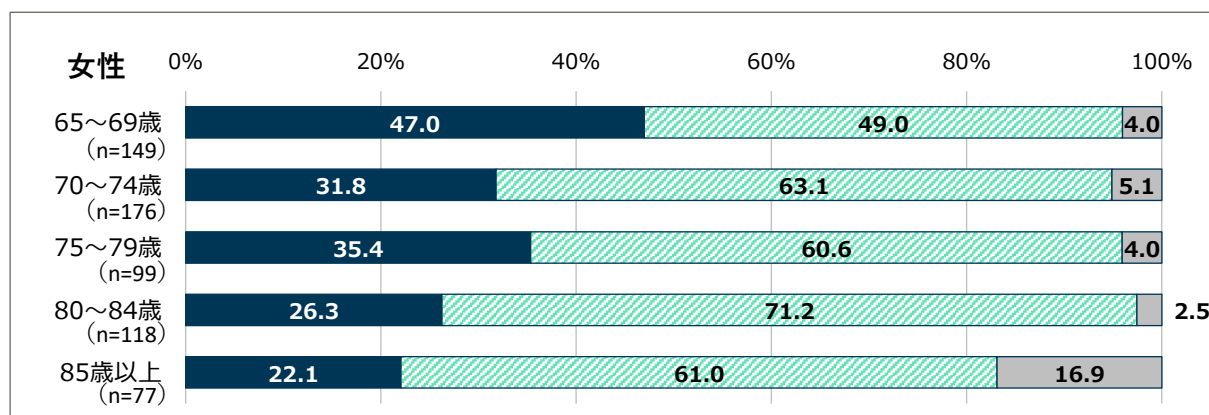
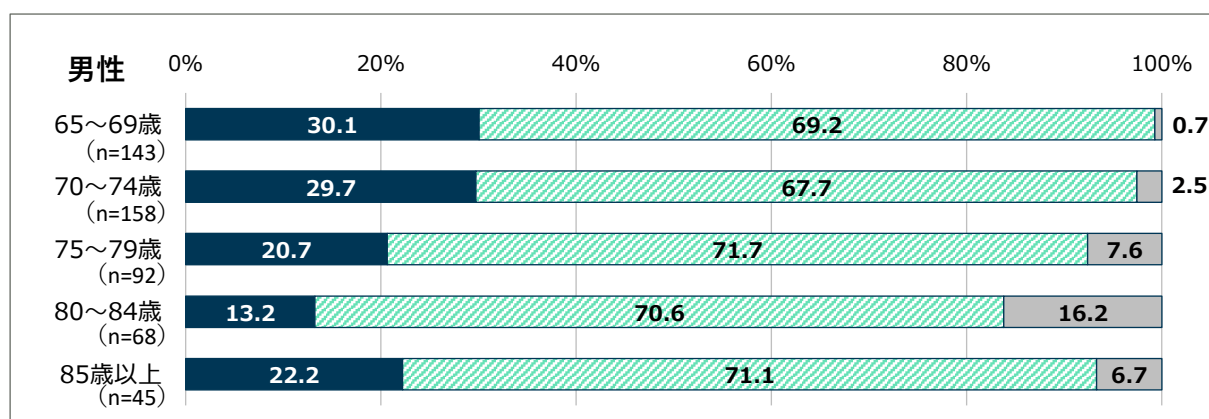
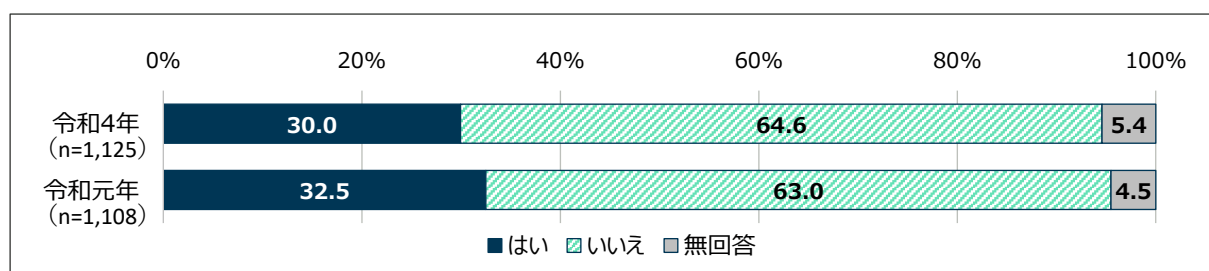


## 問 8 (2) 認知症に関する相談窓口を知っていますか

この設問は、認知症に関する相談窓口の認知度を把握するための設問です。認知症に関する相談窓口の認知度を把握し、周知の必要性等の課題の把握が可能となります。

「はい」が 30.0%で、令和元年の前回調査より 2.5 ポイント低くなっています。

性別・年齢別にみると、数値にばらつきはありますが、男性より女性のほうが「はい」の割合が高くなる傾向がみられます。また、男性・女性ともに年齢が上がるほど「はい」の割合が低くなる傾向がみられます。



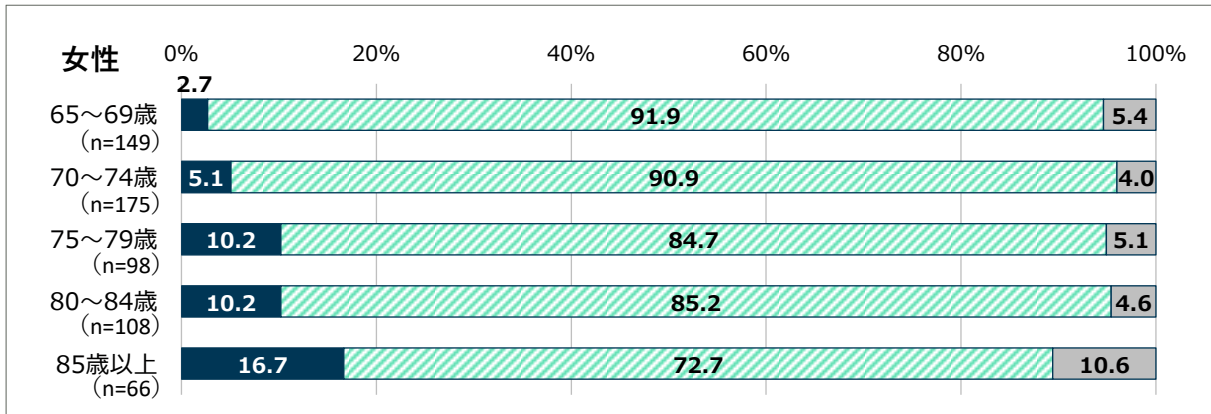
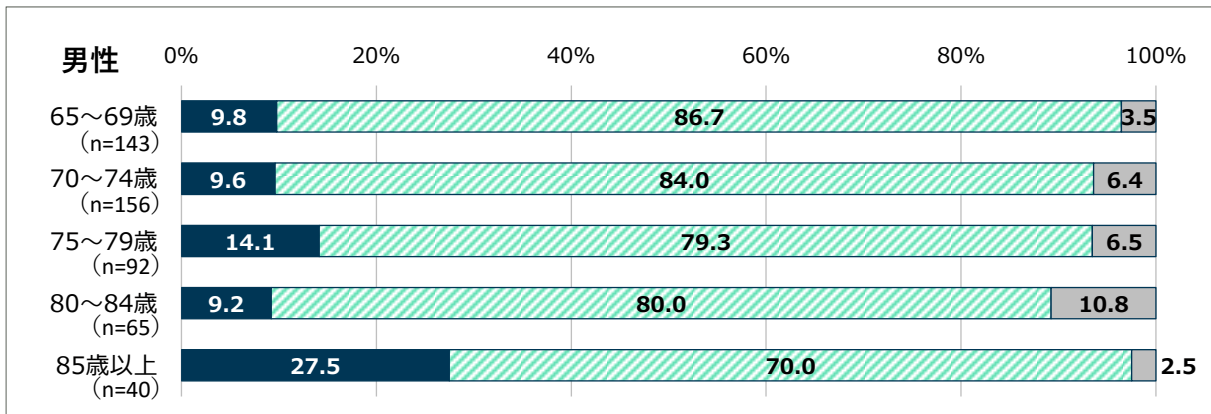
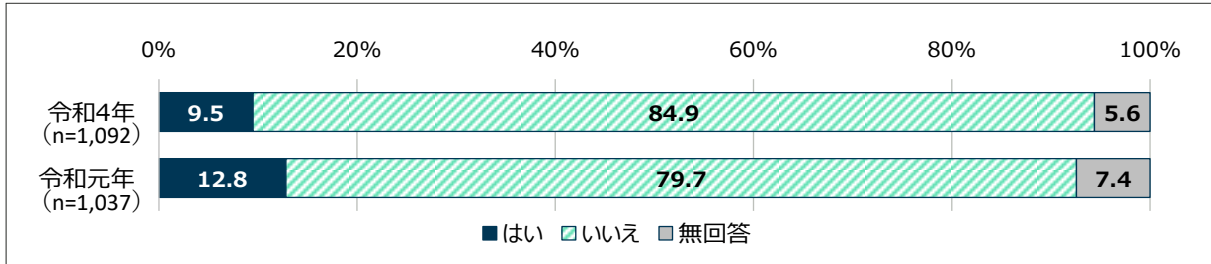
## 問 9 介護（要支援）の認定を受けていない方への追加調査項目

(基本チェックリスト分)

### 問 9 (1) 周りの人から「いつも同じことを聞く」などの物忘れがあるとされますか

「はい」が9.5%で、令和元年の前回調査より3.3ポイント低くなっています。

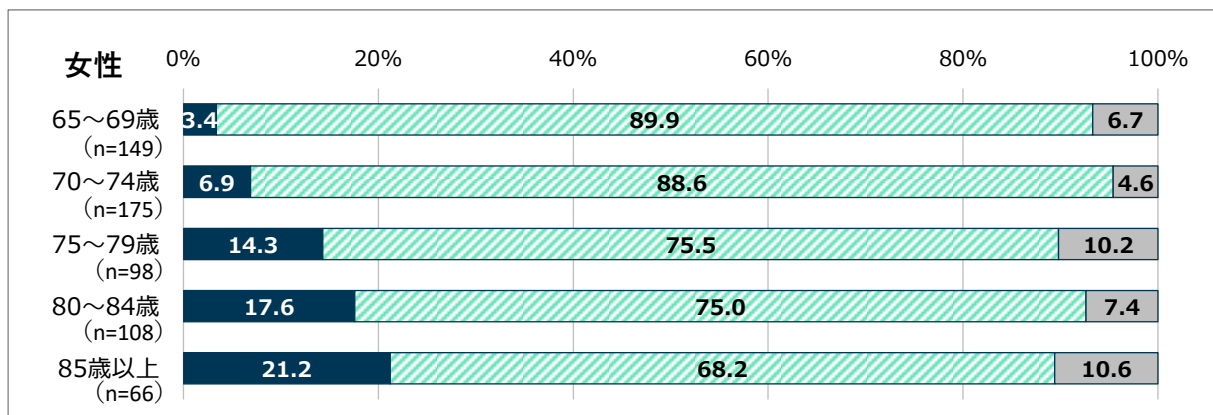
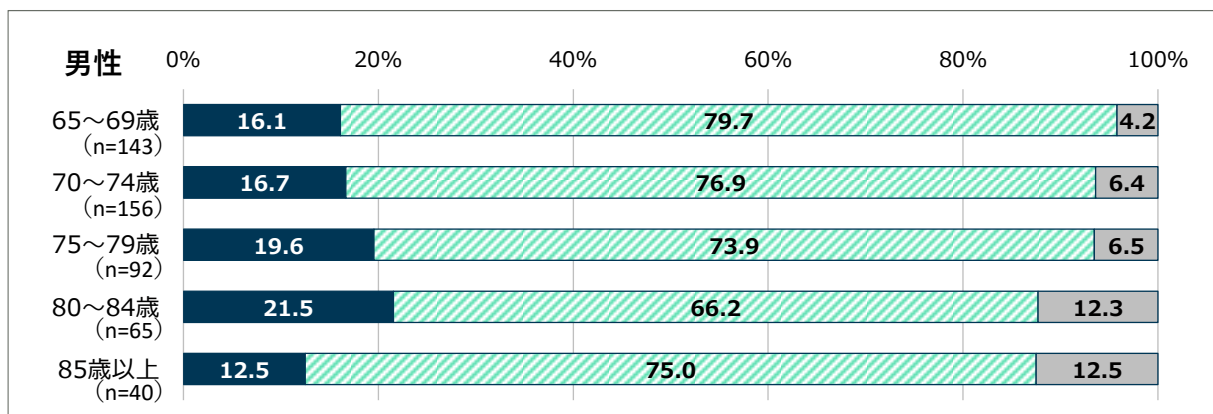
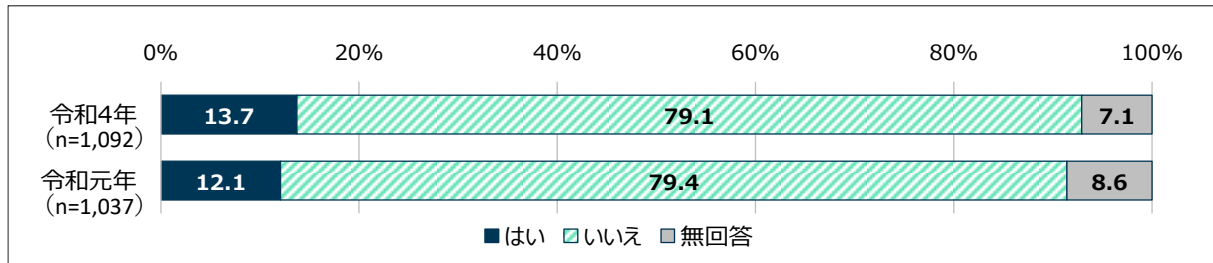
性別・年齢別にみると、数値にばらつきはありますが、男性・女性ともに年齢が上がるほど「はい」の割合が高くなる傾向がみられます。



## 問 9 (2) (ここ2週間) 毎日の生活に充実感がない

「はい」が13.7%、「いいえ」が79.1%となっています。

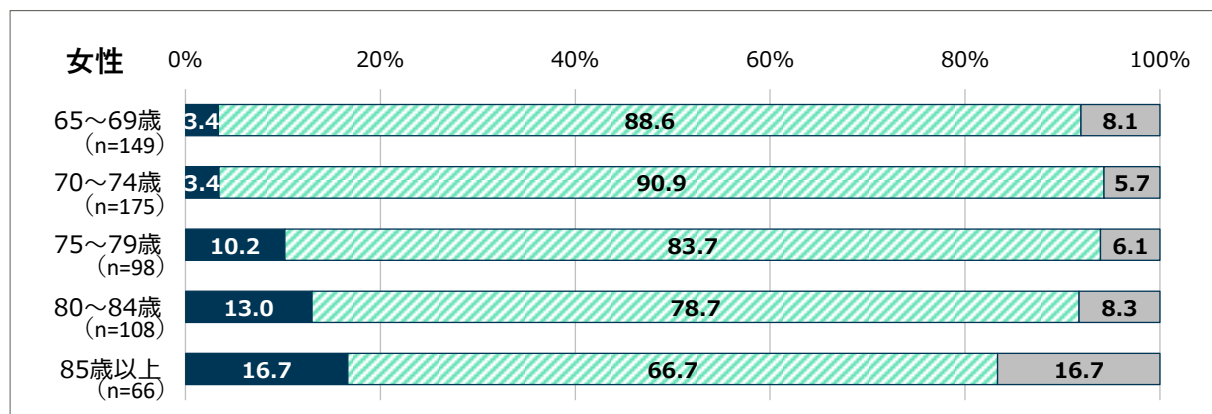
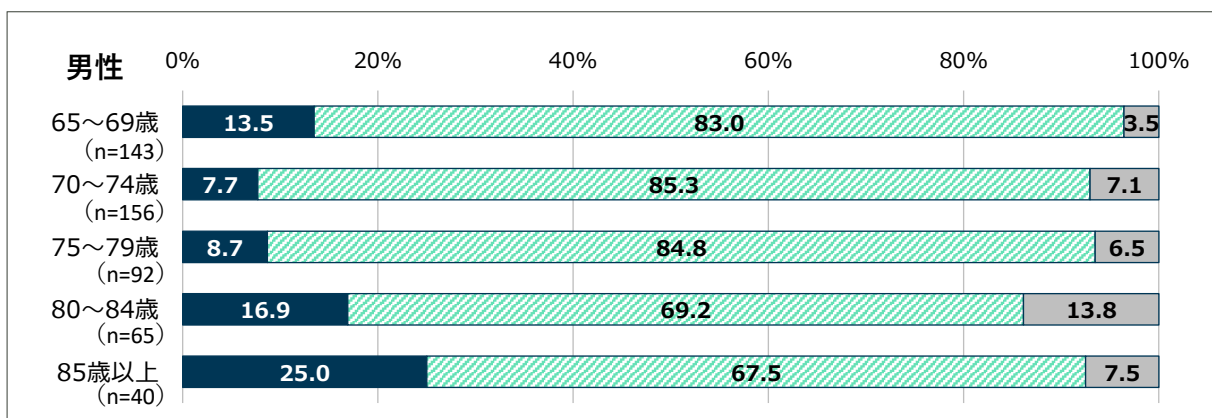
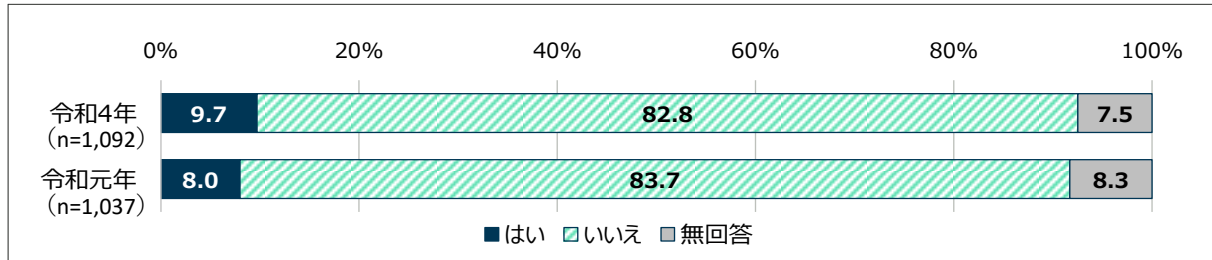
性別・年齢別にみると、85歳以上男性を除くと、男性のほうが「はい」の割合が高く、また、男性・女性ともに年齢が上がるほど「はい」の割合が高くなる傾向がみられます。



### 問 9 (3) (ここ2週間) これまで楽しんでやれていたことが楽しめなくなった

「はい」が9.7%、「いいえ」が82.8%となっています。

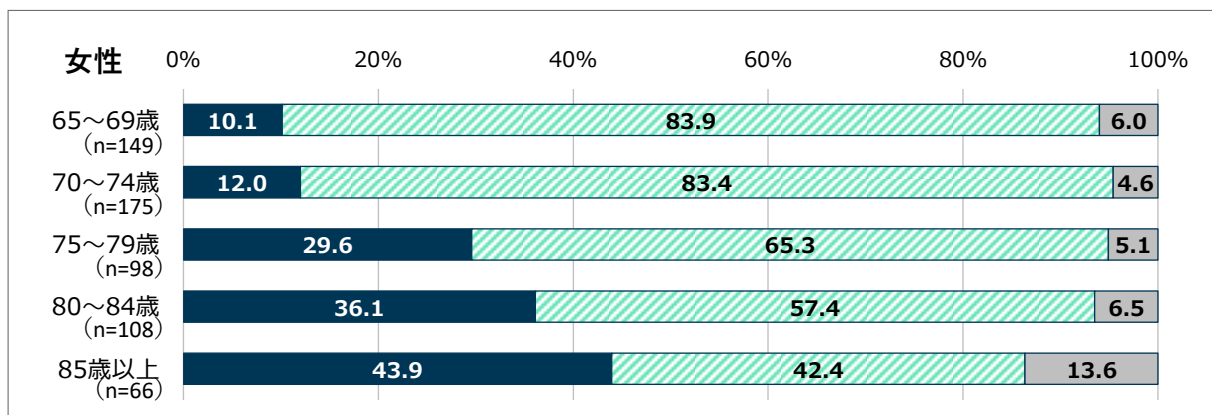
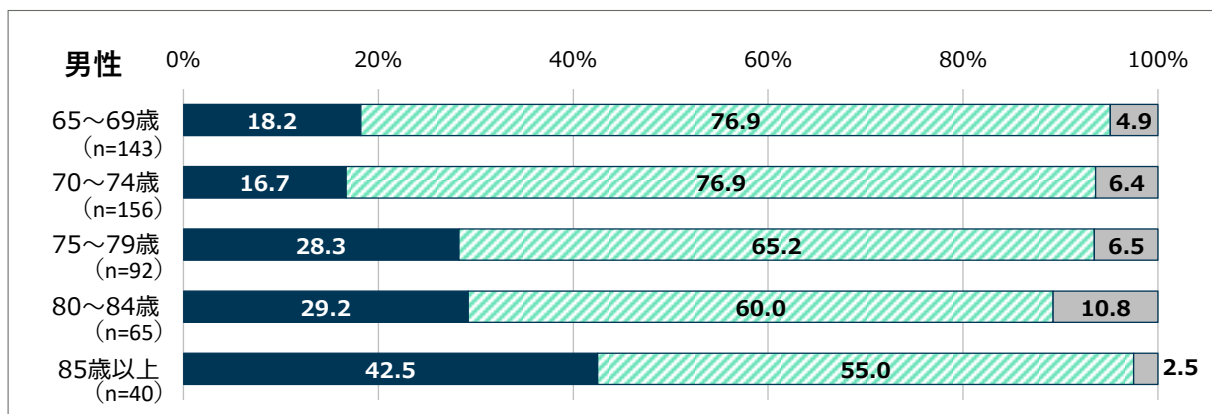
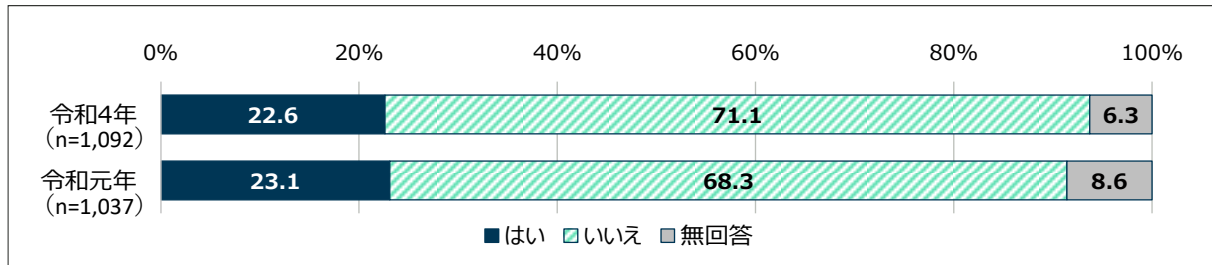
性別・年齢別にみると、75～79歳を除く男性のほうが「はい」の割合が高くなっています。65～69歳男性を除くと、男性・女性ともに年齢が上がるほど「はい」の割合が高くなる傾向がみられます。



### 問 9 (4) (ここ2週間) 以前は楽にできていたことが今はおっくうに感じられる

「はい」が22.6%、「いいえ」が71.1%となっています。

性別・年齢別にみると、男性・女性ともに年齢が上がるほど「はい」の割合が高くなる傾向がみられます。

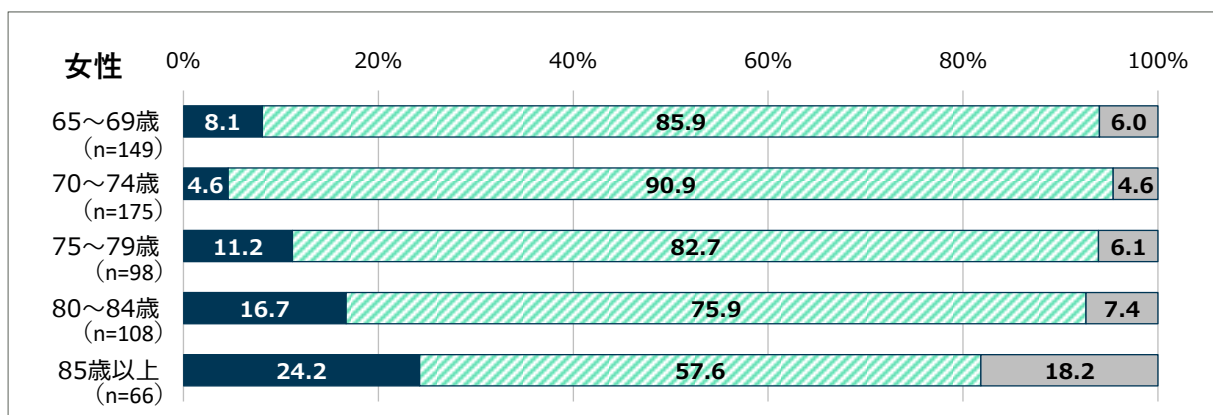
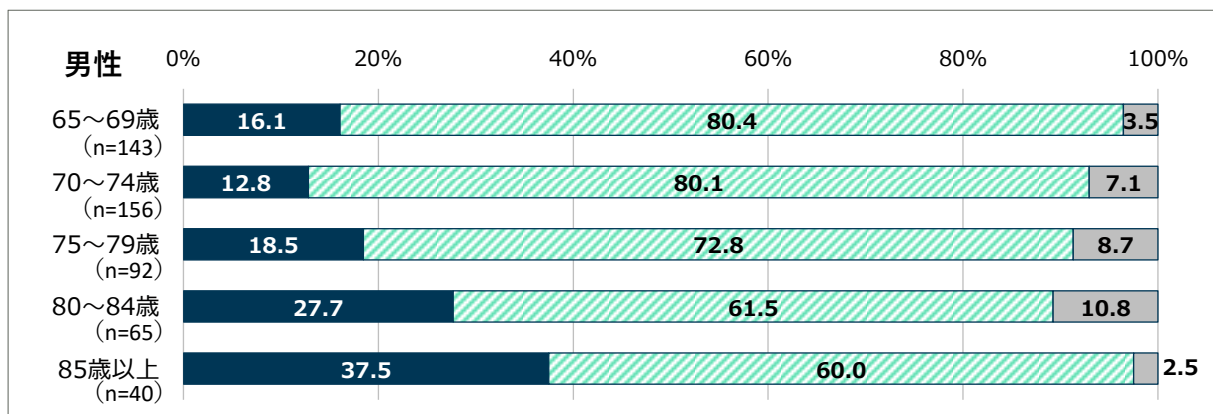
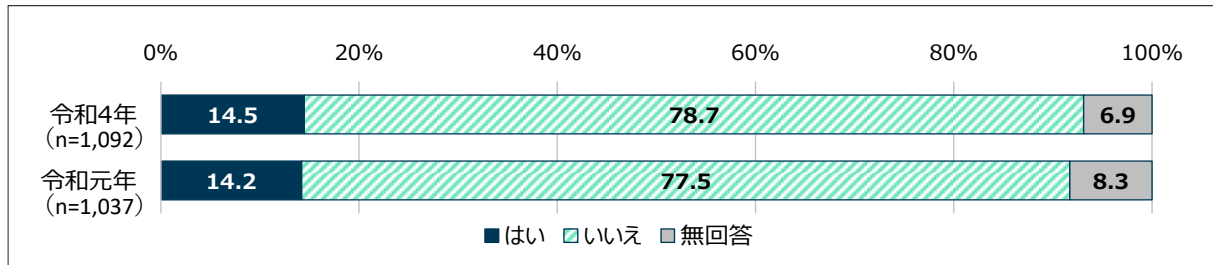




### 問 9 (5) (ここ2週間) 自分が役にたつ人間だと思えない

「はい」が14.5%、「いいえ」が78.7%となっています。

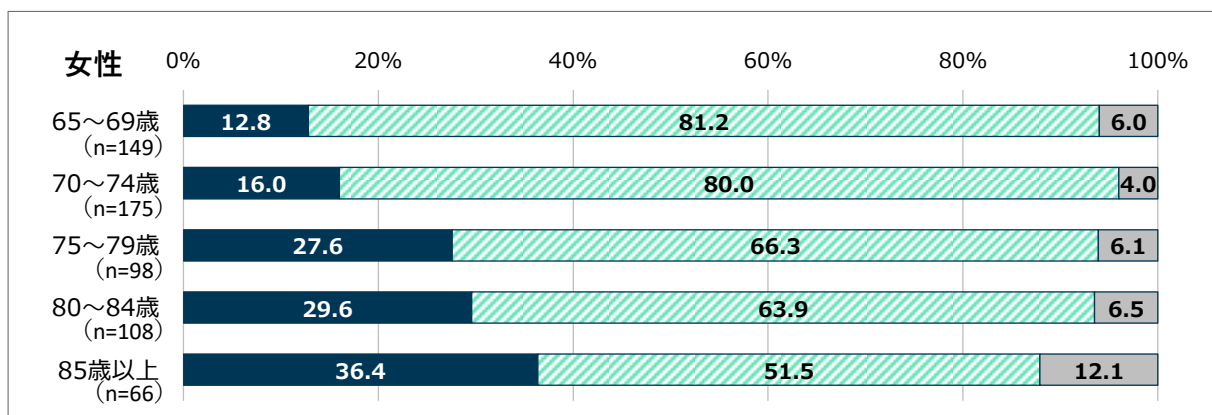
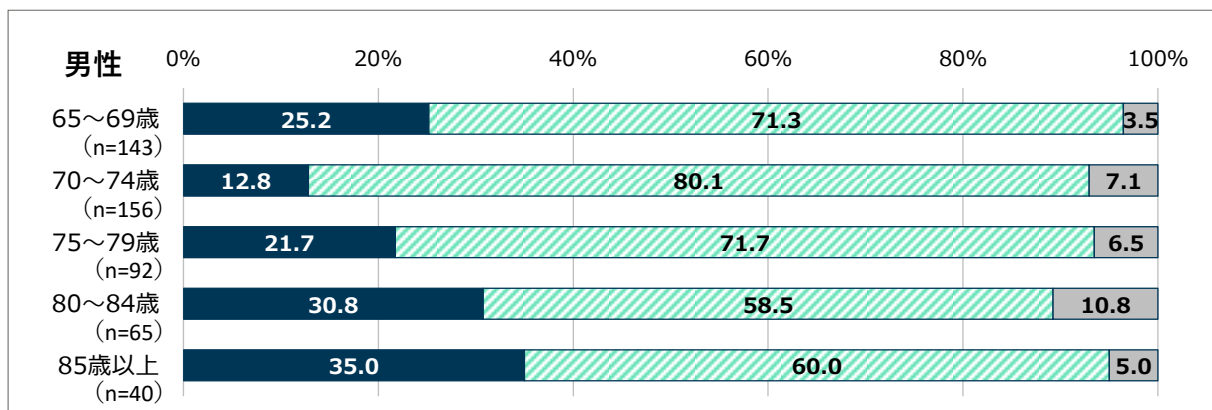
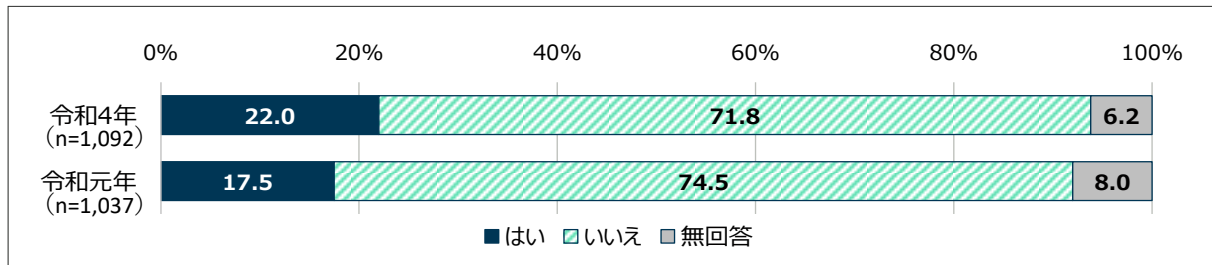
性別・年齢別にみると、すべての年齢層で男性のほうが「はい」の割合が高く、また、男性・女性ともに年齢が上がるほど「はい」の割合が高くなる傾向がみられます。



## 問 9 (6) (ここ2週間) わけもなく疲れたような感じがする

「はい」が22.0%で、令和元年の前回調査より4.5ポイント高くなっています。

性別・年齢別にみると、65～69歳男性を除くと、男性・女性ともに年齢が上がるほど「はい」の割合が高くなる傾向がみられます。



### 3 リスク判定結果

#### 1. 運動器機能の低下

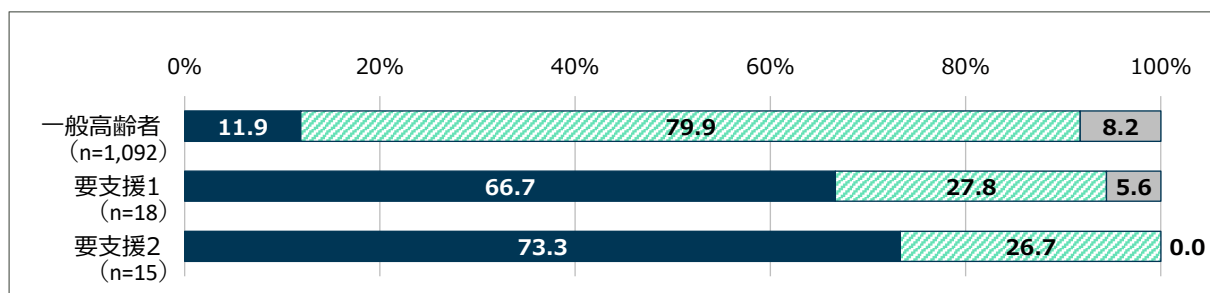
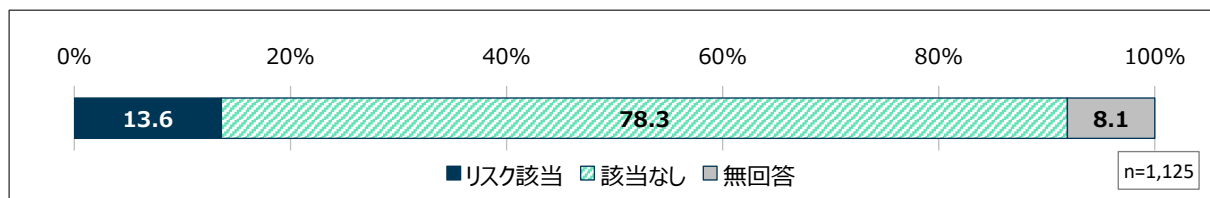
##### ■運動器機能の低下 判定基準

設問	0点	1点
問2(1) 階段を手すりや壁をつたわずに昇っていますか	1. できるし、している 2. できるけどしていない	3. できない
問2(2) 椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がっていますか	1. できるし、している 2. できるけどしていない	3. できない
問2(3) 15分くらい続けて歩いていますか	1. できるし、している 2. できるけどしていない	3. できない
問2(4) この1年間に転んだ経験がありますか	3. ない	1. 何度もある 2. 1度ある
問2(5) 転倒に対する不安は大きいですか	3. あまり不安ではない 4. 不安ではない	1. とても不安である 2. やや不安である

5項目の合計得点	2点以下	3点以上
運動器機能の低下：判定カテゴリ	該当なし	リスク該当

運動器機能の低下の「リスク該当」割合は13.6%となっています。

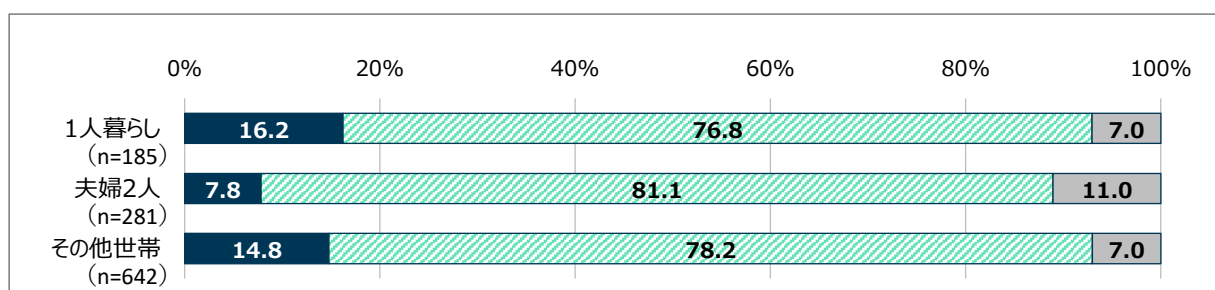
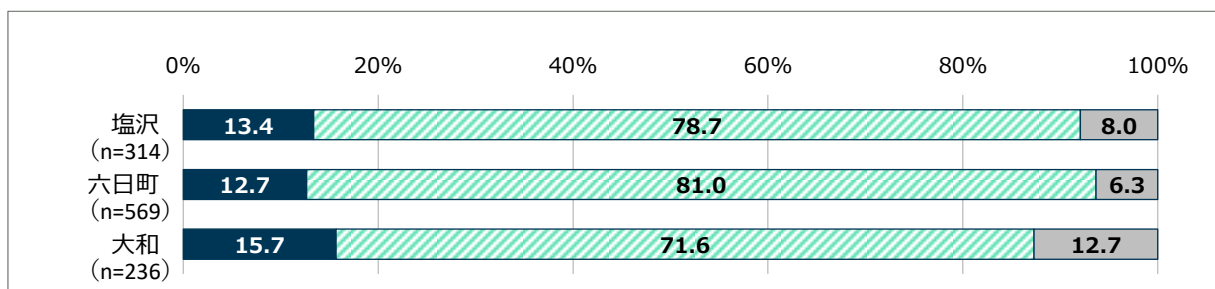
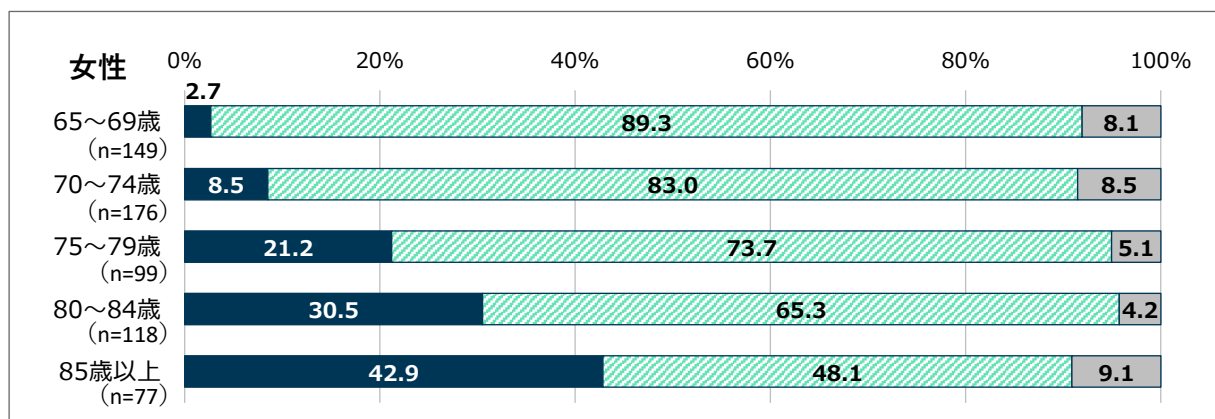
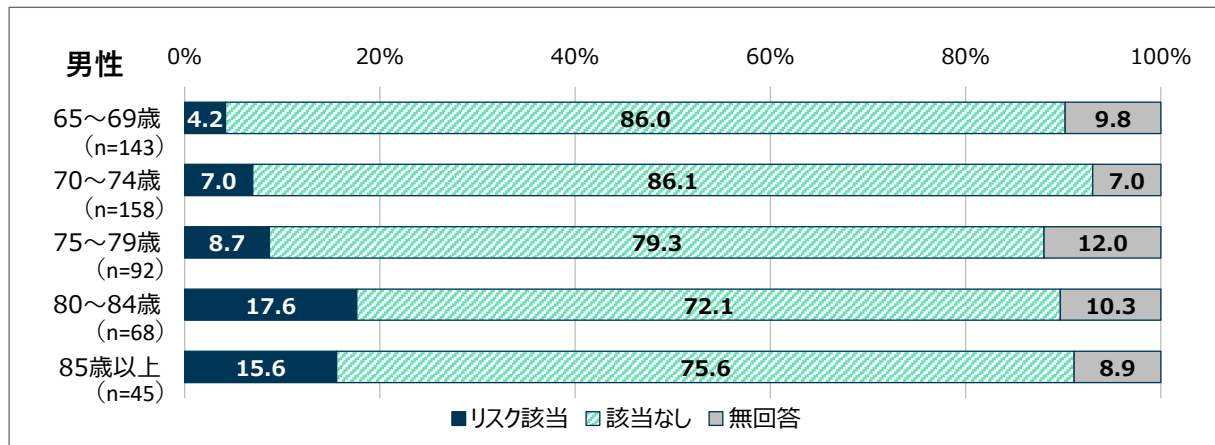
認定区分別にみると、要支援認定者では「リスク該当」割合が65%以上となっています。



性別・年齢別にみると、男性・女性ともに年齢が上がるほど「リスク該当」割合が高くなる傾向がみられ、特に女性でその傾向が明らかとなっています。

居住地区別にみると、大和地区で「リスク該当」割合がやや高くなっています。

家族構成別にみると、夫婦2人世帯で「リスク該当」割合が低くなっています。



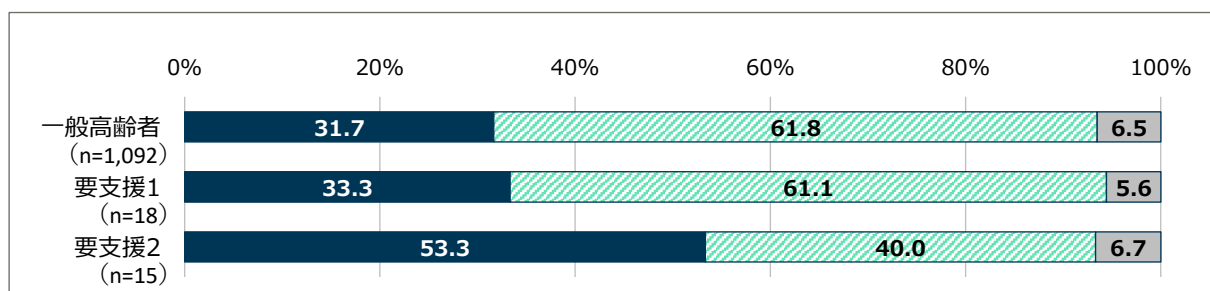
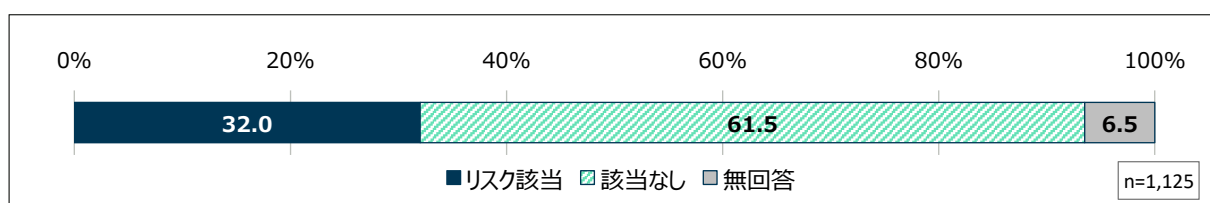
## 2. 転倒

### ■転倒リスク 判定基準

設問	0点	1点
問2 (4) この1年間に転んだ経験がありますか	3. ない	1. 何度もある 2. 1度ある
1項目の合計得点	0点	1点
転倒：判定カテゴリ	該当なし	リスク該当

転倒の「リスク該当」割合は32.0%となっています。

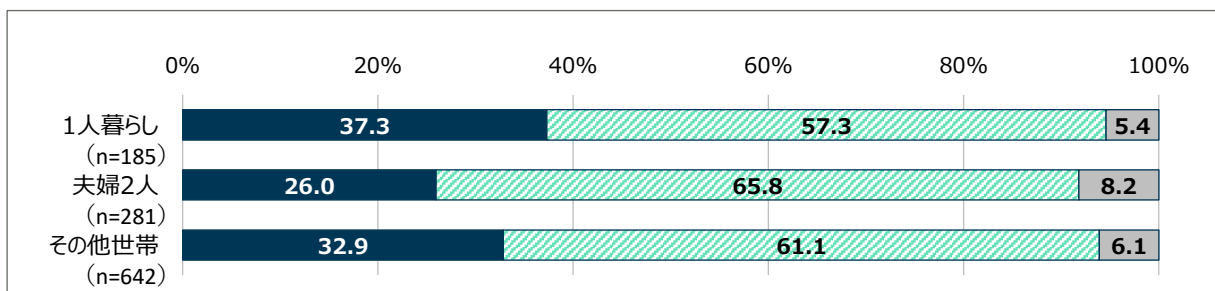
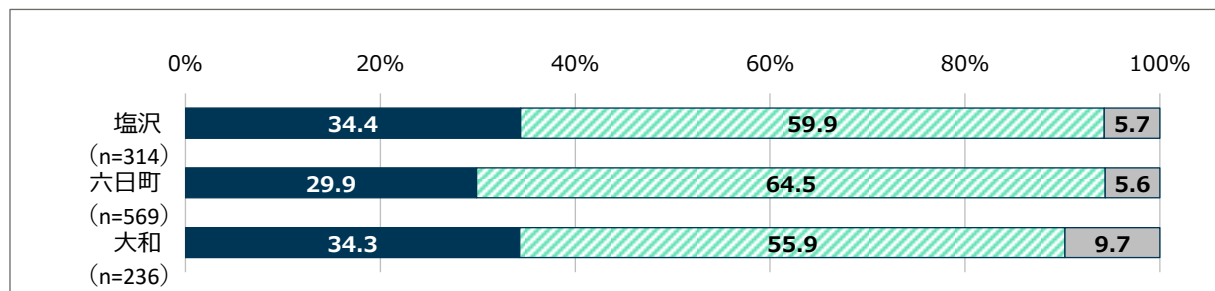
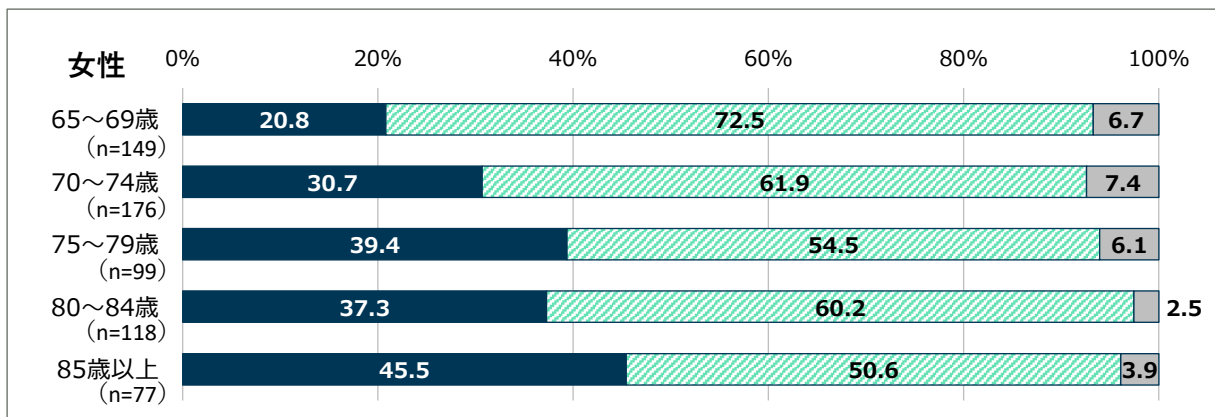
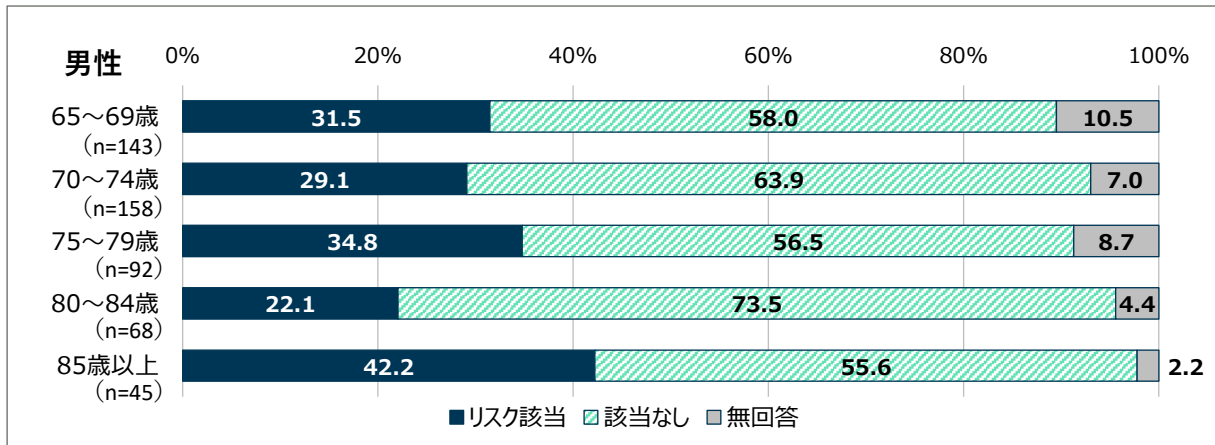
認定区分別にみると、要支援2で「リスク該当」割合が高く、53.3%となっています。



性別・年齢別にみると、数値にばらつきはありますが、男性・女性ともに年齢が上がるほど「リスク該当」割合が高くなる傾向がみられます。

居住地区別にみると、六日町地区で「リスク該当」割合が低くなっています。

家族構成別にみると、1人暮らし世帯で「リスク該当」割合が高く、夫婦2人世帯で「リスク該当」割合が低くなっています。



### 3. 閉じこもり

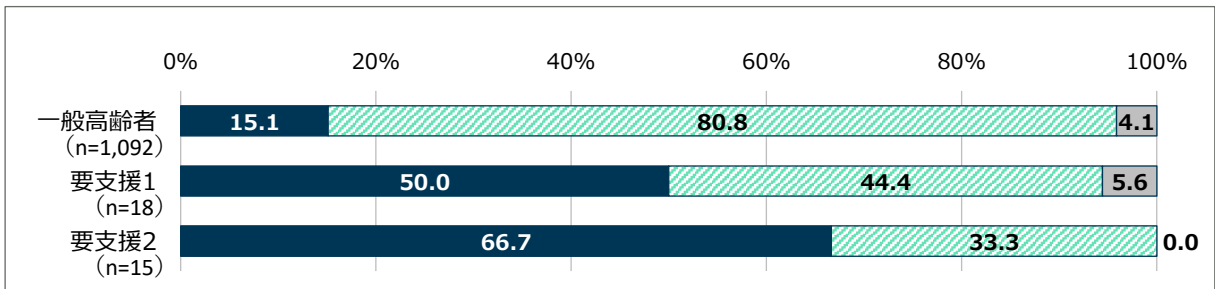
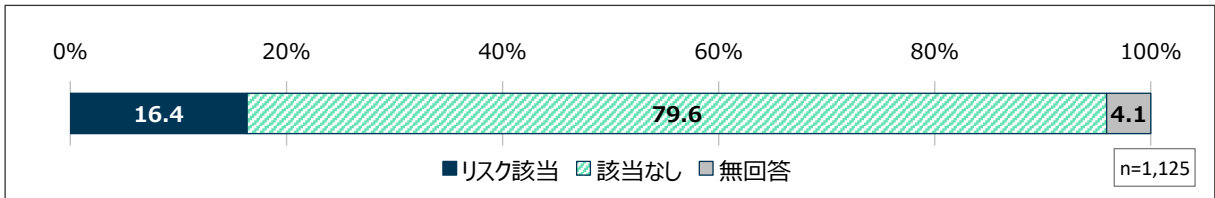
#### ■閉じこもり 判定基準

設問	0点	1点
問2(6) 週に1回以上は外出していますか	3. 週2~4回 4. 週5回以上	1. ほとんど外出しない 2. 週1回

1項目の合計得点	0点	1点
閉じこもり：判定カテゴリ	該当なし	リスク該当

閉じこもりの「リスク該当」割合は16.4%となっています。

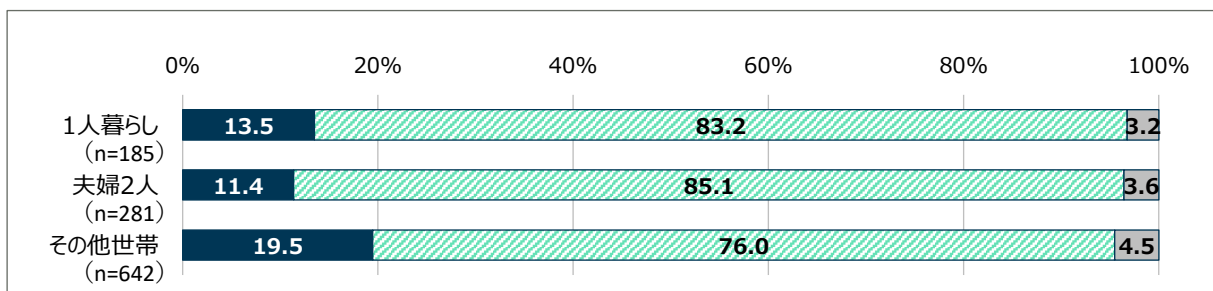
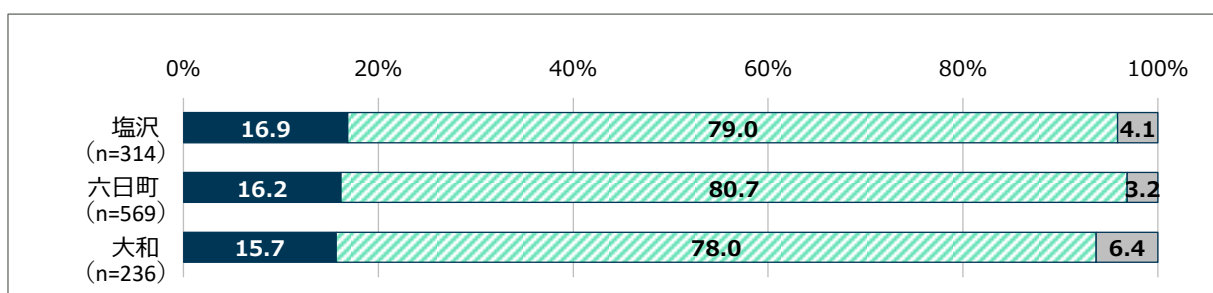
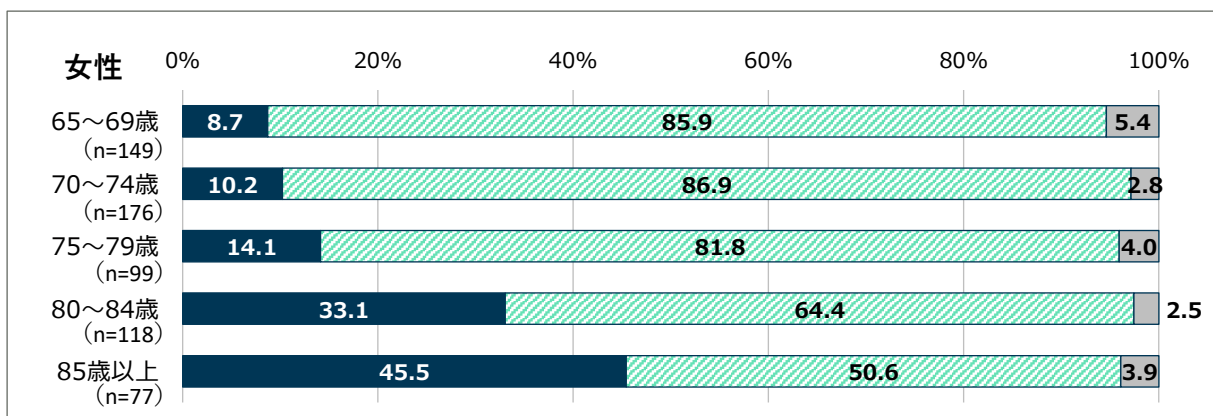
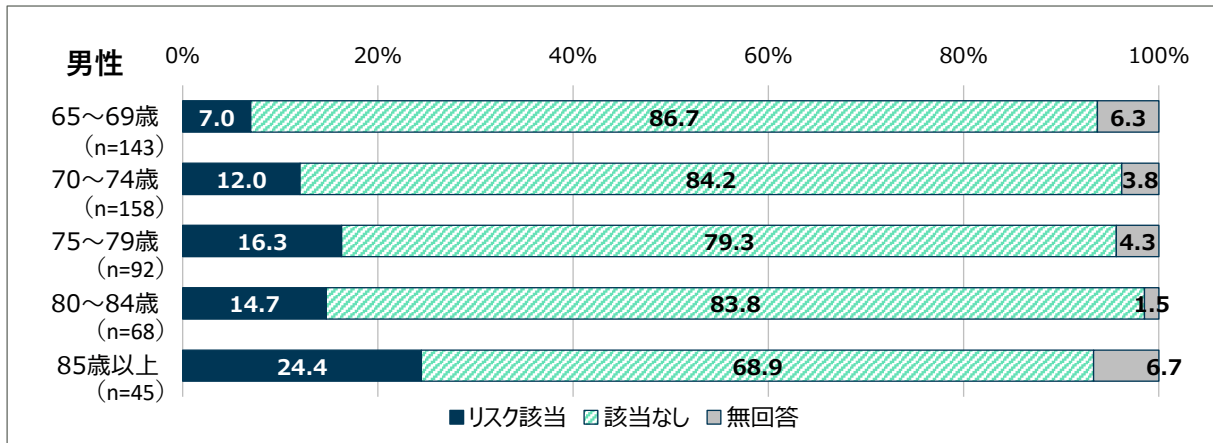
認定区別にみると、要支援認定者で「リスク該当」割合が高く、要支援2は66.7%、要支援1は50.0%となっています。



性別・年齢別にみると、数値にばらつきはありますが、男性・女性ともに年齢が上がるほど「リスク該当」割合が高くなる傾向がみられ、特に女性でその傾向が明らかとなっています。

居住地区別に明らかな傾向はみられませんでした。

家族構成別にみると、その他世帯で「リスク該当」割合が高く、夫婦2人世帯で「リスク該当」割合が低くなっています。





## 4. 低栄養

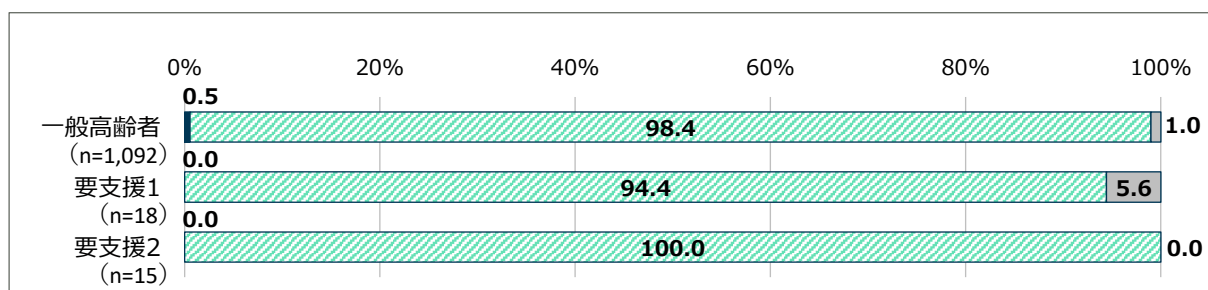
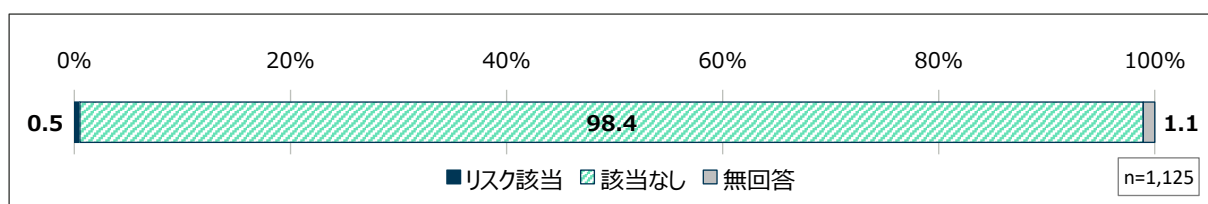
### ■低栄養 判定基準

設問	0点	1点
問3 (1) BMI (身長・体重)	2. 標準 (18.5~25.0 未満) 3. 肥満 (25.0 以上)	1. やせ (18.5 未満)
問3 (9) 6か月間で2~3kg以上の体重減少がありましたか	2. いいえ	1. はい

2項目の合計得点	1点以下	2点
低栄養：判定カテゴリ	該当なし	リスク該当

低栄養の「リスク該当」割合は0.5%となっています。

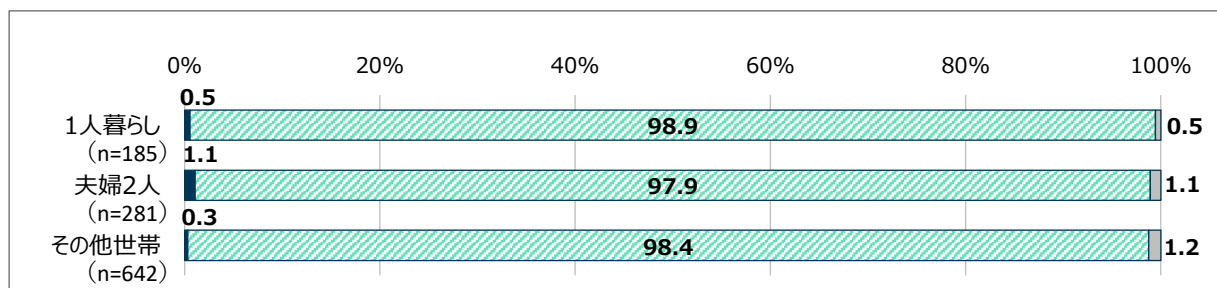
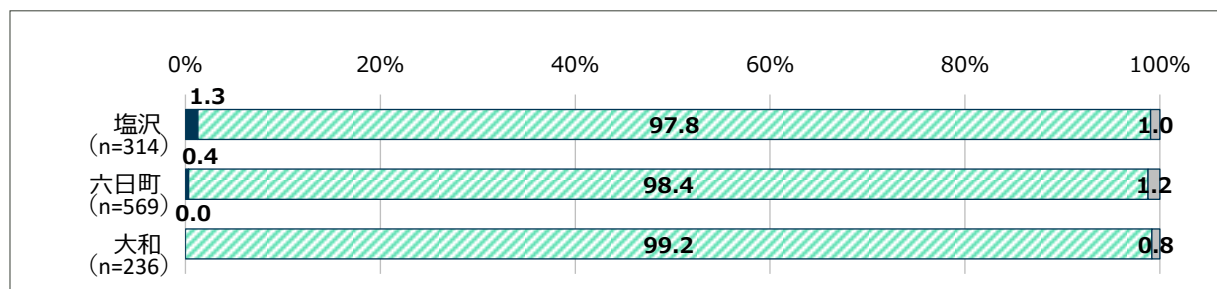
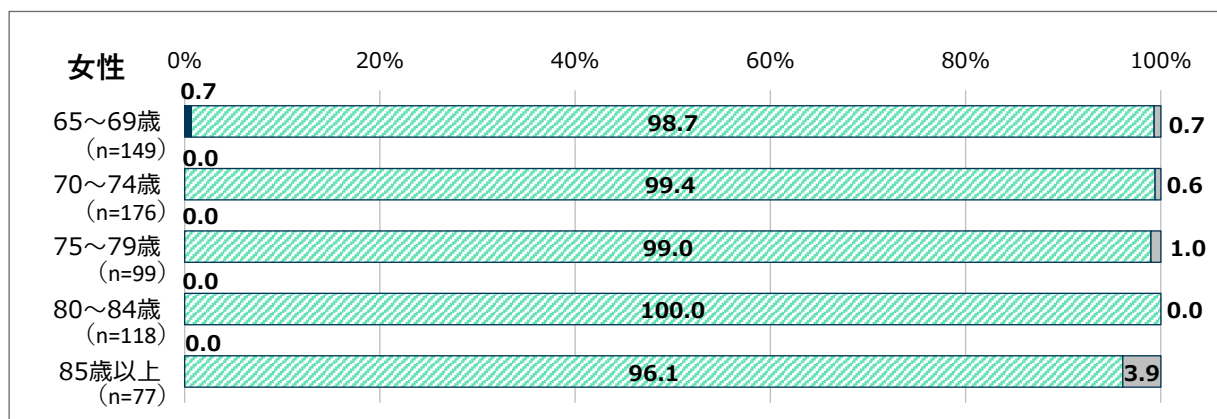
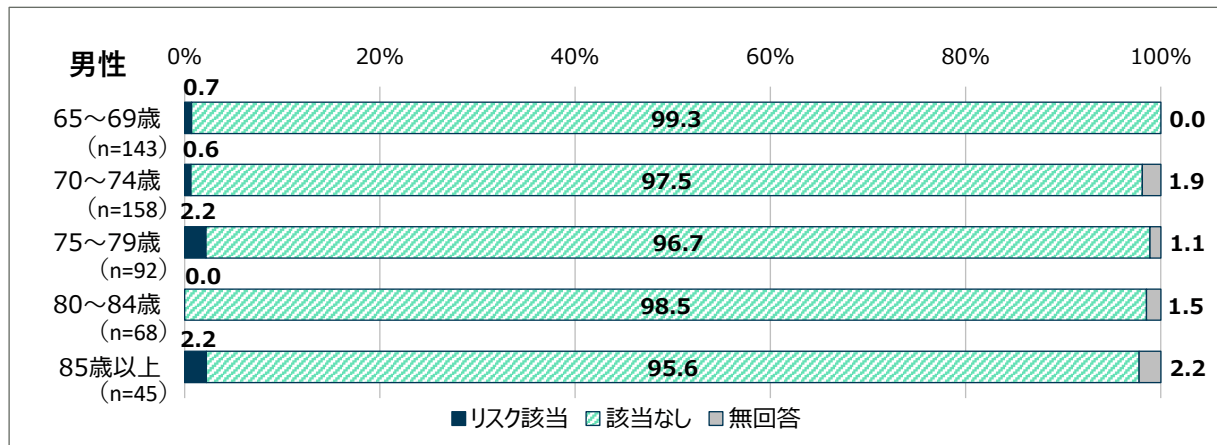
認定区分別にみると、要支援認定者の「リスク該当」割合は0.0%となっています。



性別・年齢別にみると、リスク該当者数が少ないため傾向をみることはできませんが、70歳以上の女性では「リスク該当」割合は0.0%となっています。

居住地区別にみると、大和地区では「リスク該当」割合は0.0%となっています。

家族構成別に明らかな傾向はみられませんでした。



## 5. 口腔機能の低下

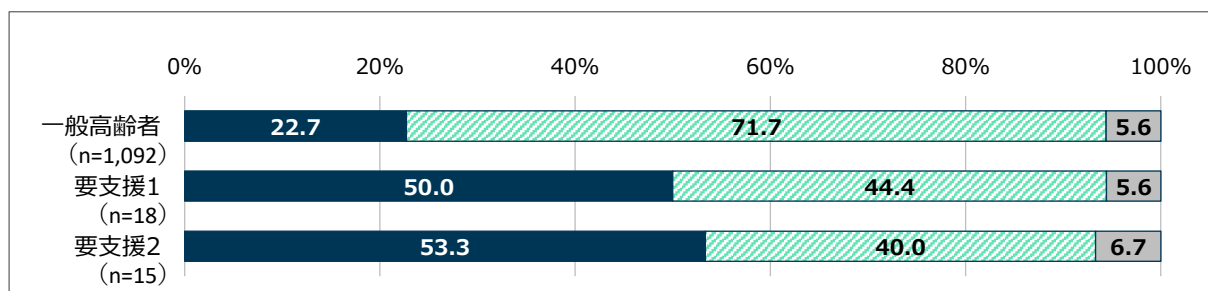
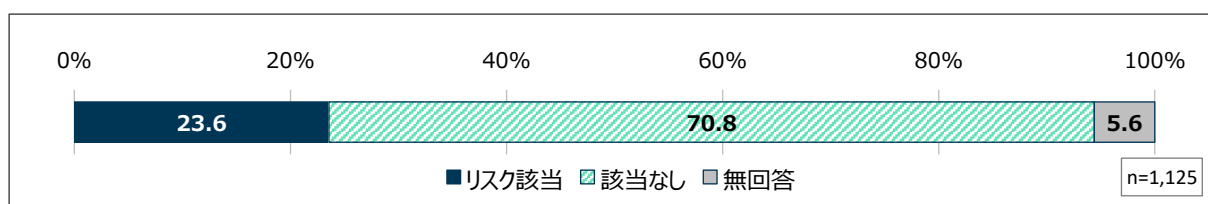
### ■ 口腔機能の低下 判定基準

設問	0点	1点
問3(2) 半年前に比べて固いものが食べにくくなりましたか	2. いいえ	1. はい
問3(3) お茶や汁物などでむせることがありますか	2. いいえ	1. はい
問3(4) 口の渇きが気になりますか	2. いいえ	1. はい

3項目の合計得点	1点以下	2点以上
口腔機能の低下：判定カテゴリ	該当なし	リスク該当

口腔機能の低下の「リスク該当」割合は23.6%となっています。

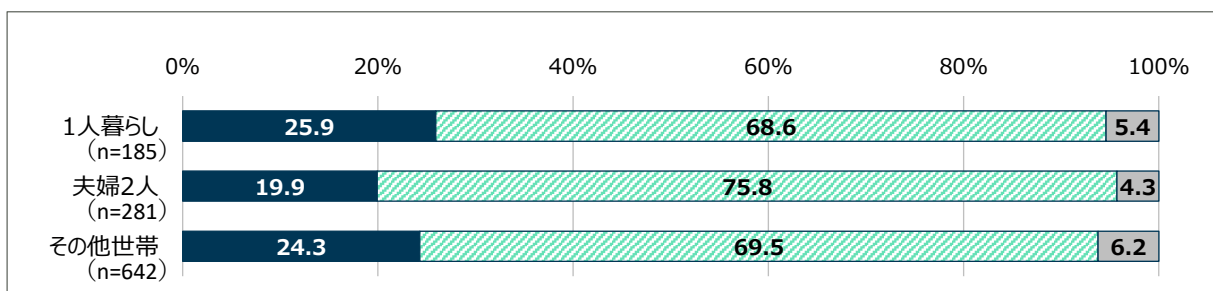
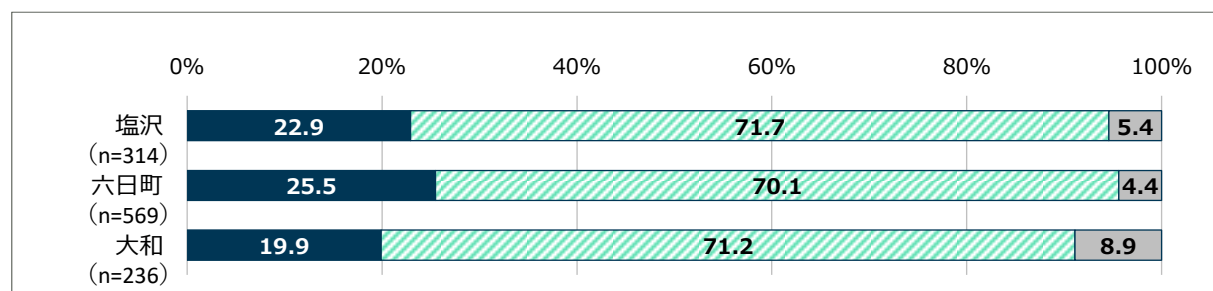
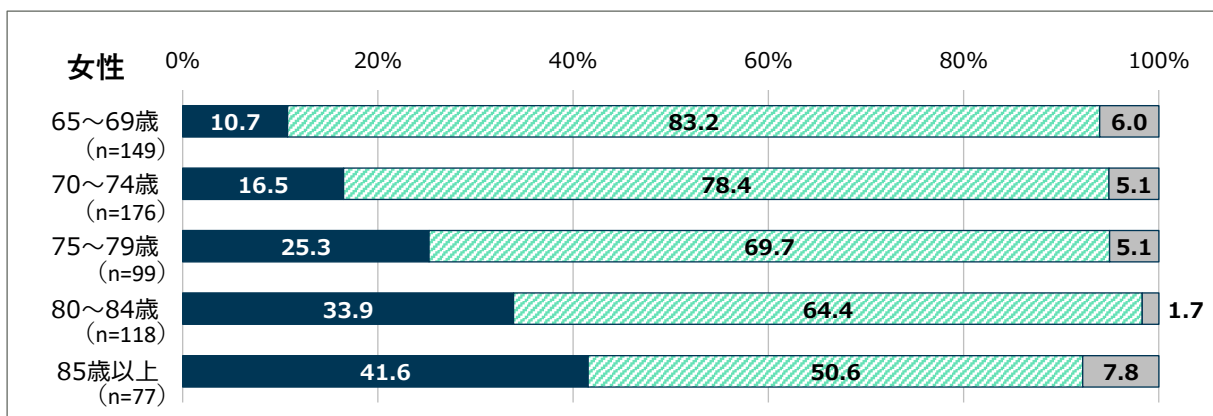
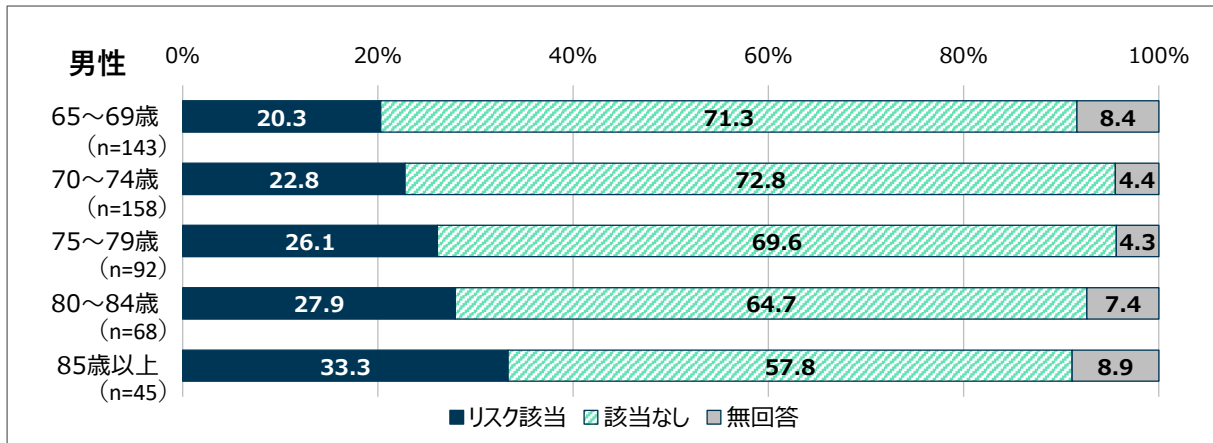
認定区分別にみると、要支援認定者で「リスク該当」割合が高く、要支援2は53.3%、要支援1は50.0%となっています。



性別・年齢別にみると、数値にばらつきはありますが、男性・女性ともに年齢が上がるほど「リスク該当」割合が高くなっており、特に女性でその傾向が明らかとなっています。

居住地区別にみると、六日町地区で「リスク該当」割合がやや高く、大和地区でやや低くなっています。

家族構成別にみると、夫婦2人世帯で「リスク該当」割合が低くなっています。



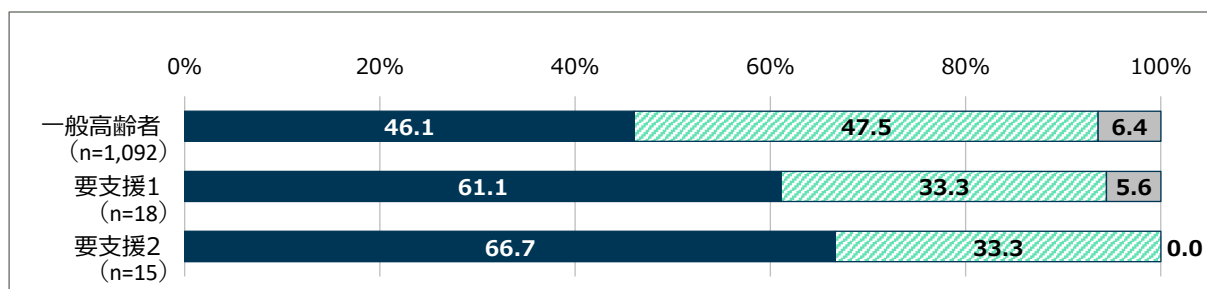
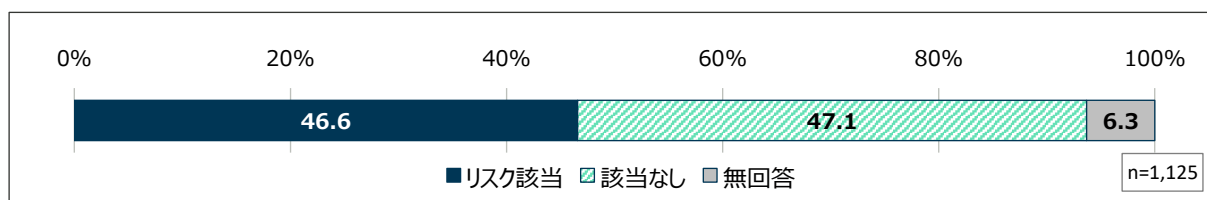
## 6. 認知機能の低下

### ■ 認知機能の低下 判定基準

設問	0点	1点
問4(1) 物忘れが多いと感じますか	2. いいえ	1. はい
1項目の合計得点	0点	1点
認知機能の低下：判定カテゴリ	該当なし	リスク該当

認知機能の低下の「リスク該当」割合は46.6%となっています。

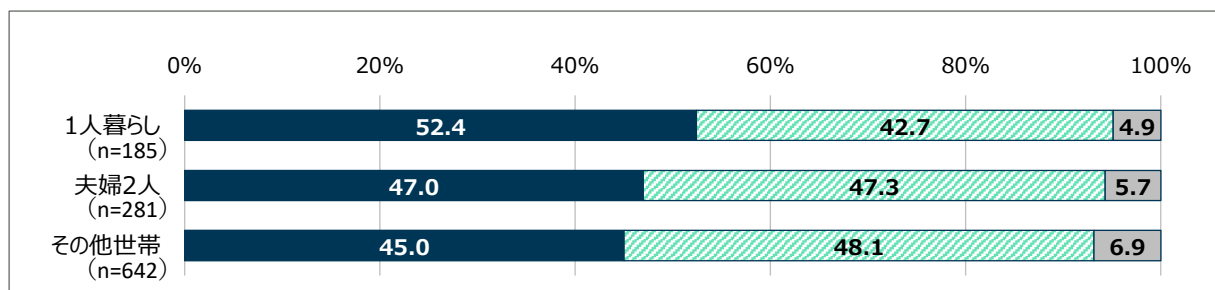
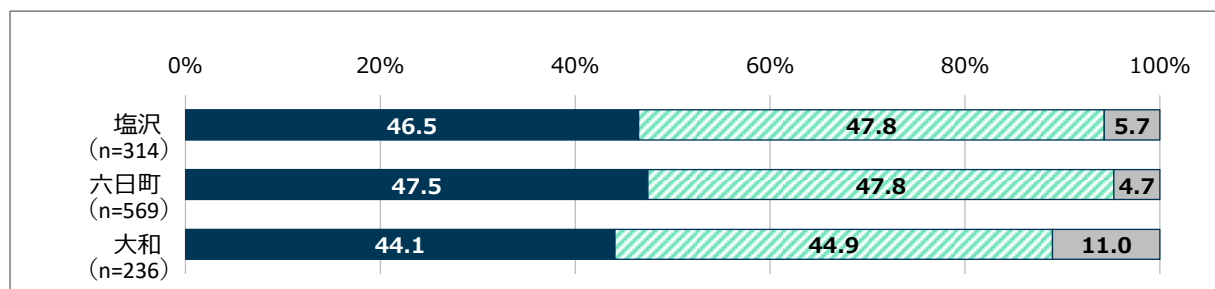
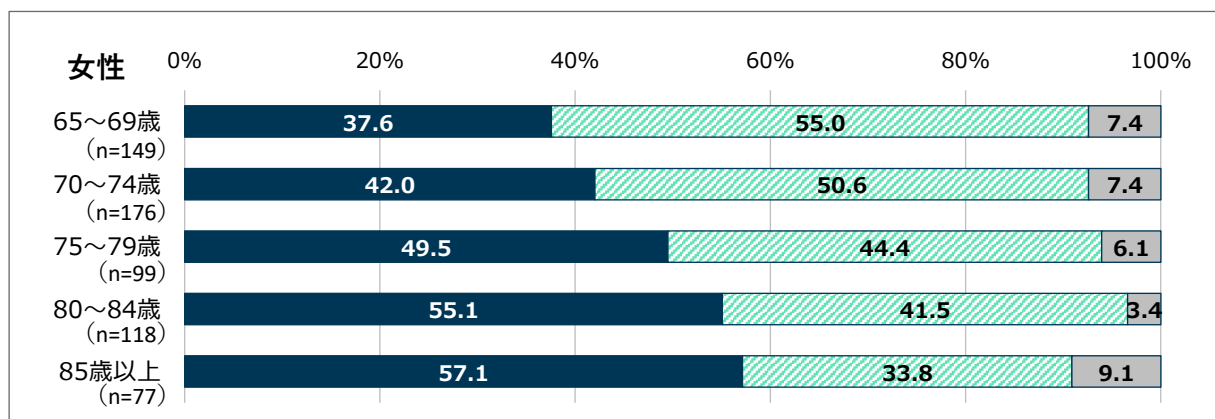
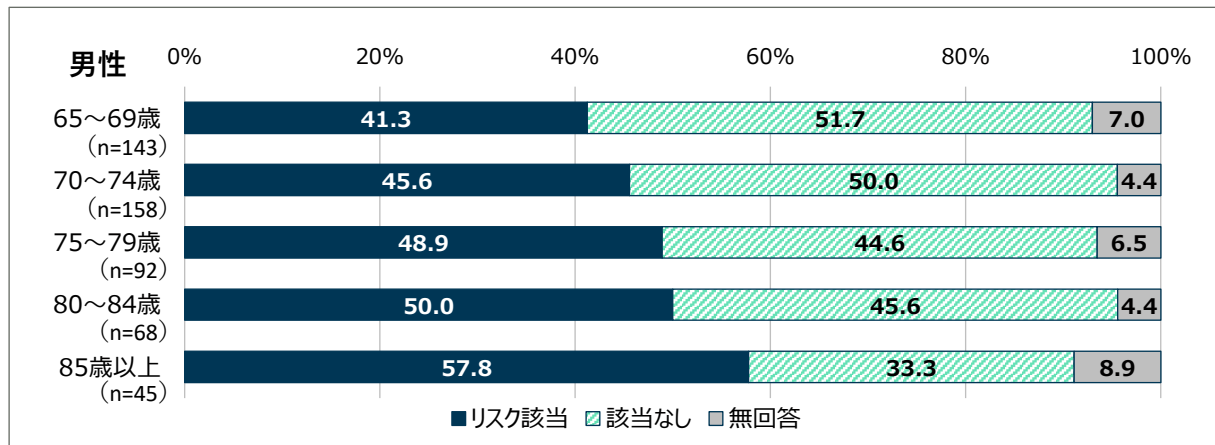
認定区分別にみると、要支援認定者で「リスク該当」割合が高く、要支援2は66.7%、要支援1は61.1%となっています。



性別・年齢別にみると、男性・女性ともに年齢が上がるほど「リスク該当」割合が高くなっていきます。

居住地区別に明らかな傾向はみられませんでした。

家族構成別にみると、1人暮らし世帯で「リスク該当」割合が高くなっています。



## 7. うつ傾向

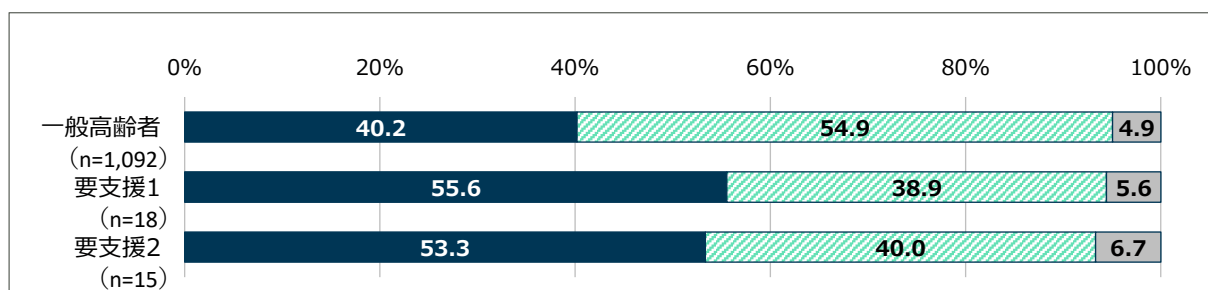
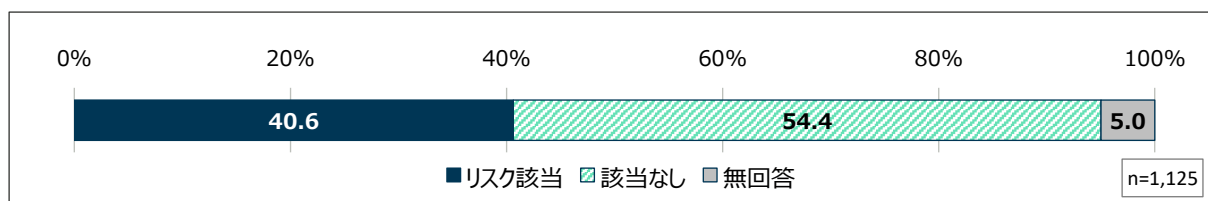
### ■うつ傾向 判定基準

設問	0点	1点
問7(3) この1か月間、気分が沈んだり、ゆううつな気持ちになったりすることがありましたか	2. いいえ	1. はい
問7(4) この1か月間、どうしても物事に対して興味がわかない、あるいは心から楽しめない感じがよくありましたか	2. いいえ	1. はい

2項目の合計得点	0点	1点以上
うつ傾向：判定カテゴリ	該当なし	リスク該当

うつ傾向の「リスク該当」割合は40.6%となっています。

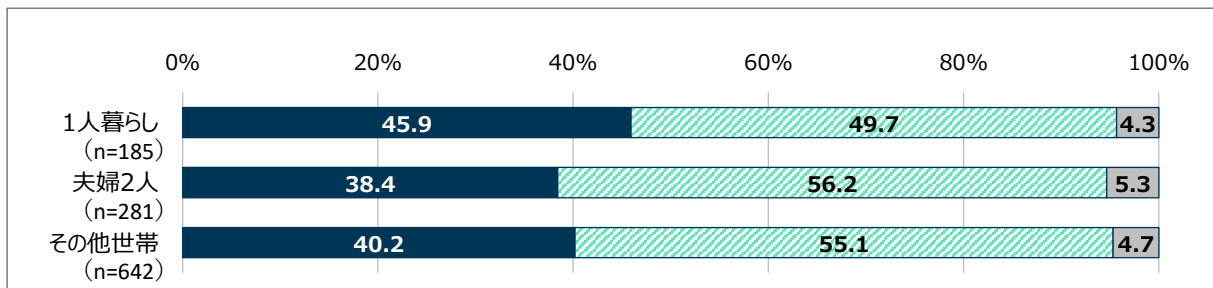
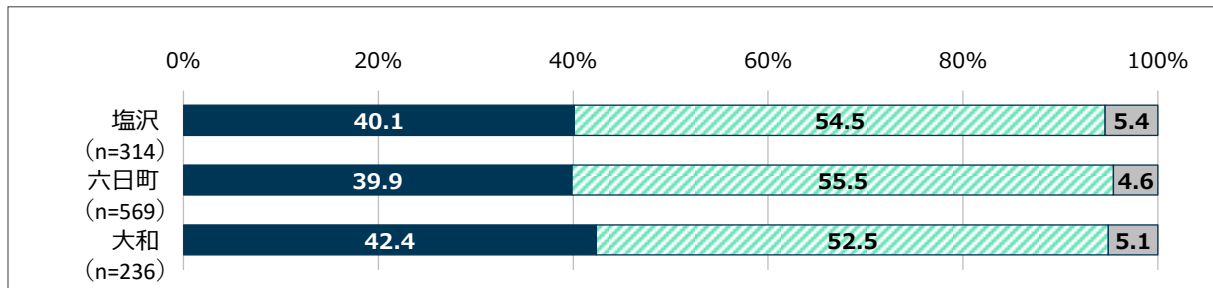
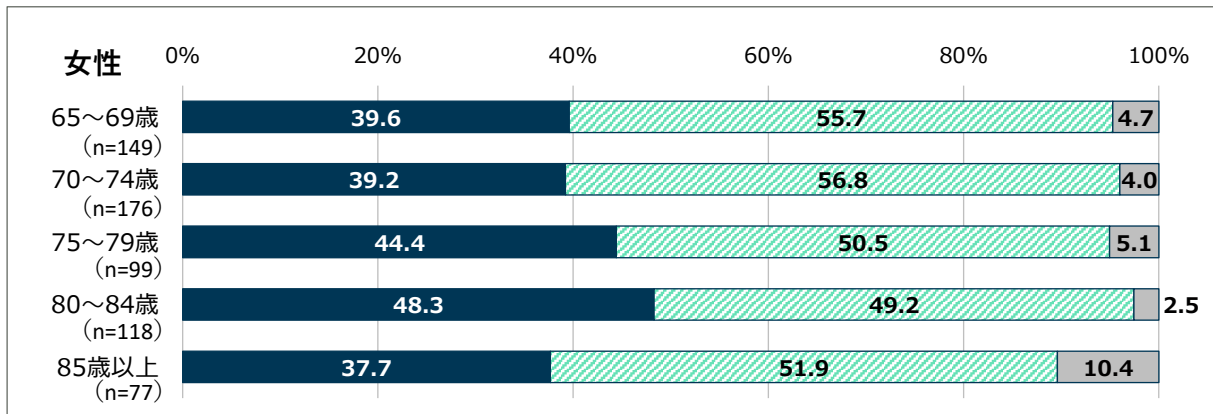
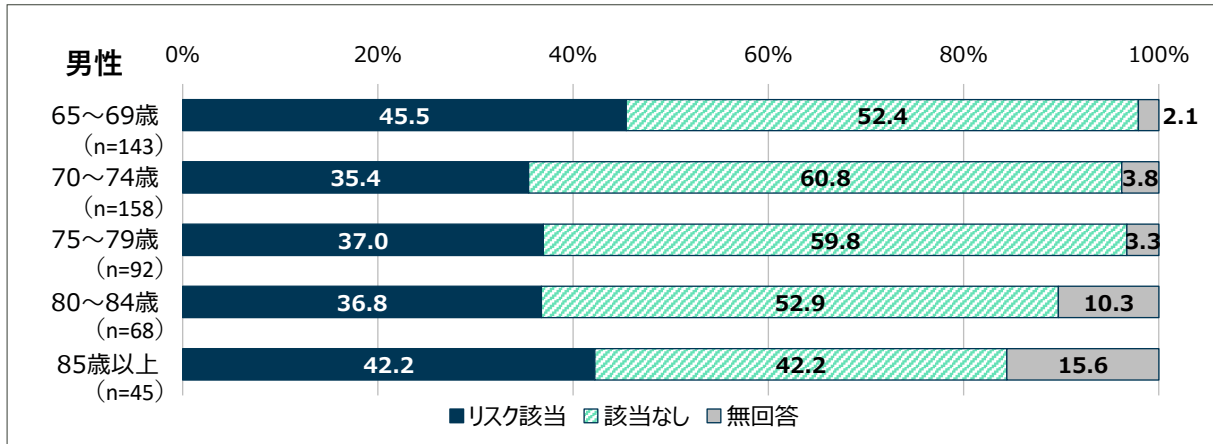
認定区分別にみると、要支援認定者で「リスク該当」割合が高くなっています。



性別・年齢別に明らかな傾向はみられませんでした。

居住地区別にみると、大和地区で「リスク該当」割合がやや高くなっています。

家族構成別にみると、1人暮らし世帯で「リスク該当」割合が高くなっています。





## 8. IADL

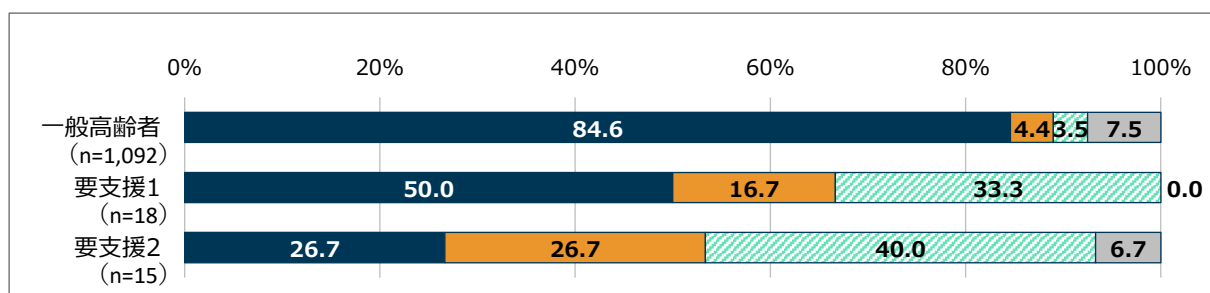
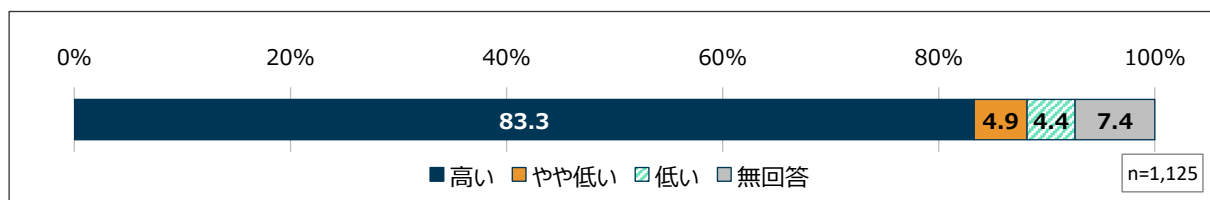
### ■ IADL \* 判定基準

設問	0点	1点
問4 (4) バスや電車で使って1人で外出していますか (自家用車でも可)	3. できない	1. できるし、している 2. できるけどしていない
問4 (5) 自分で食品・日用品の買い物をしていますか	3. できない	1. できるし、している 2. できるけどしていない
問4 (6) 自分で食事の用意をしていますか	3. できない	1. できるし、している 2. できるけどしていない
問4 (7) 自分で請求書の支払いをしていますか	3. できない	1. できるし、している 2. できるけどしていない
問4 (8) 自分で預貯金の出し入れをしていますか	3. できない	1. できるし、している 2. できるけどしていない

5項目の合計得点	5点	4点	3点以下
IADL：判定カテゴリ	高い	やや低い	低い

IADLが「低い」と判定された割合は4.4%となっています。

認定区分別にみると、要支援認定者で「低い」と判定された割合が高く、要支援2は40.0%、要支援1は33.3%となっています。

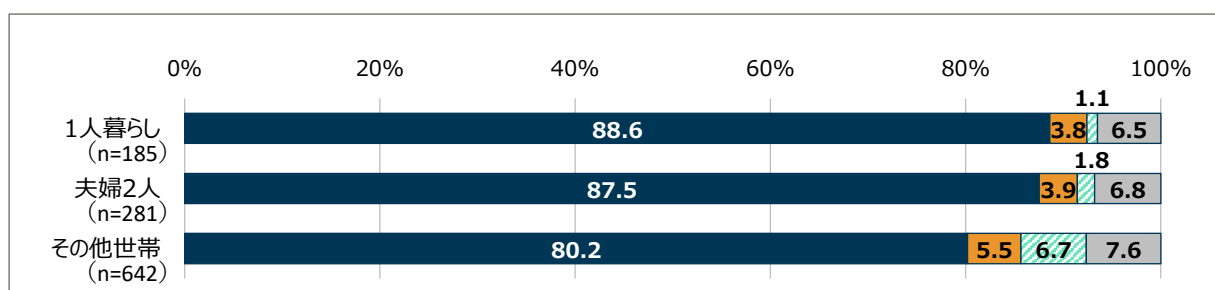
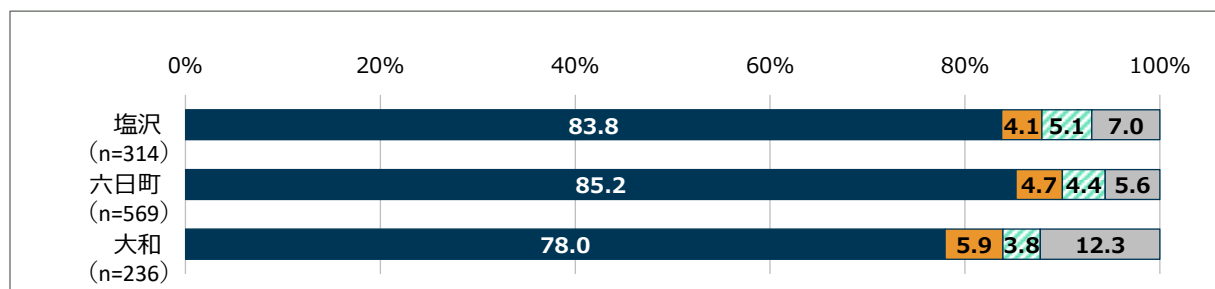
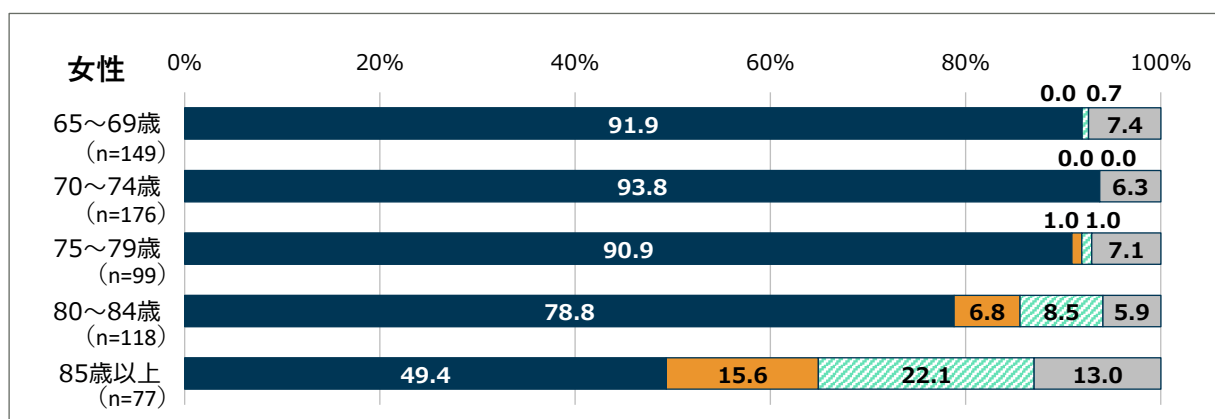
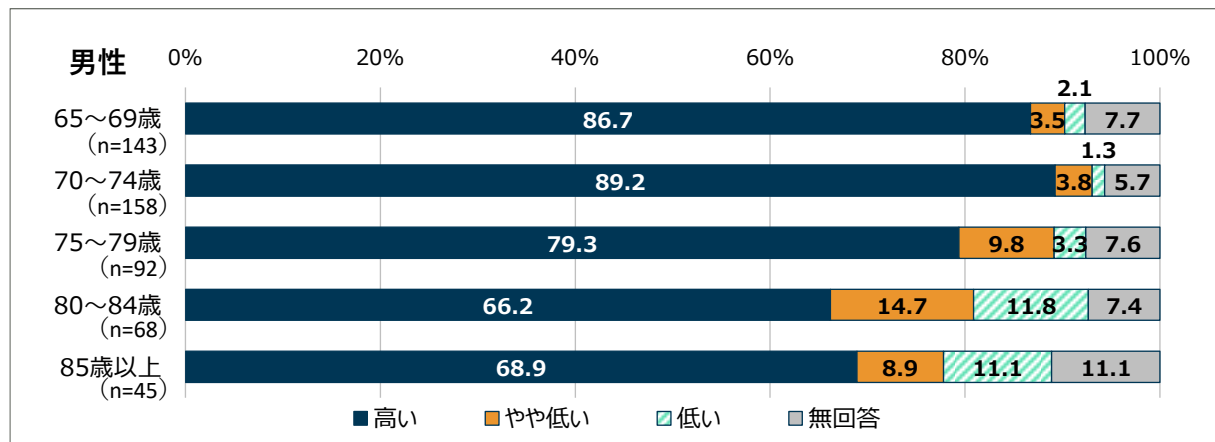


\* IADL：手段的日常生活動作 (Instrumental Activities of Daily Living)。ADL (基本的日常生活動作 : Activities of Daily Living) が日常生活を送る上での基本的な動作を指す一方で、IADLは応用的な動作 (あるいは、より判断力や理解力が求められる動作) を指しています。

性別・年齢別にみると、男性・女性ともに80歳以上で「低い」と判定された割合が高くなっており、85歳女性では22.1%となっています。

居住地区別にみると、大和地区で「高い」割合がやや低くなっています。

家族構成別にみると、その他世帯で「低い」と判定された割合が高くなっています。



# 4 分析

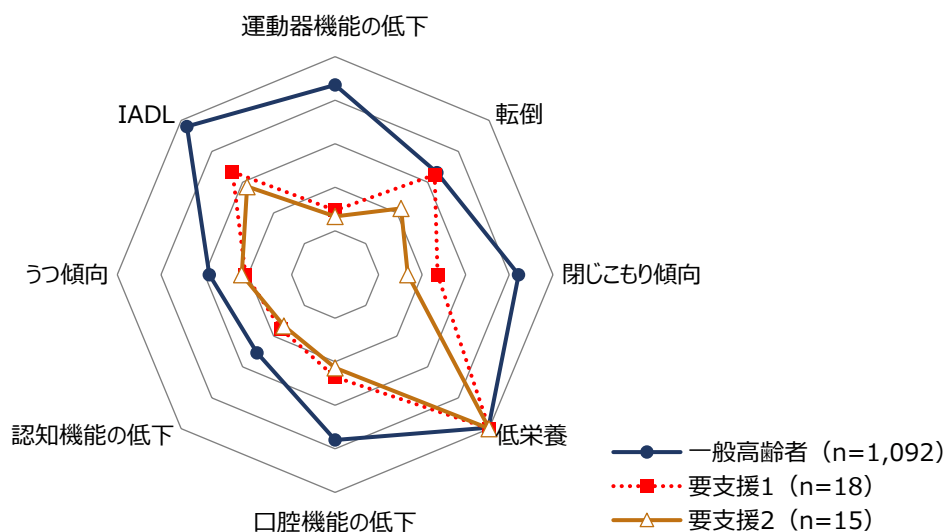
## 1. リスク該当者の状況

リスク判定の結果を認定区分別にみると、「低栄養」と「うつ傾向」以外のすべての項目で要支援2で「リスク該当」の割合が最も高くなっています。

	運動器機能の低下	転倒	閉じこもり	低栄養	口腔機能の低下	認知機能の低下	うつ傾向	IADL
一般高齢者	13.0%	33.9%	15.8%	0.6%	24.1%	49.2%	42.3%	3.8%
要支援1	70.6%	35.3%	52.9%	0.0%	52.9%	64.7%	58.8%	33.3%
要支援2	73.3%	57.1%	66.7%	0.0%	57.1%	66.7%	57.1%	42.9%
全体	14.8%	34.2%	17.1%	0.5%	25.0%	49.7%	42.8%	4.8%

※ 無回答を除いた割合なので「3 リスク判定結果」の数値と異なります。

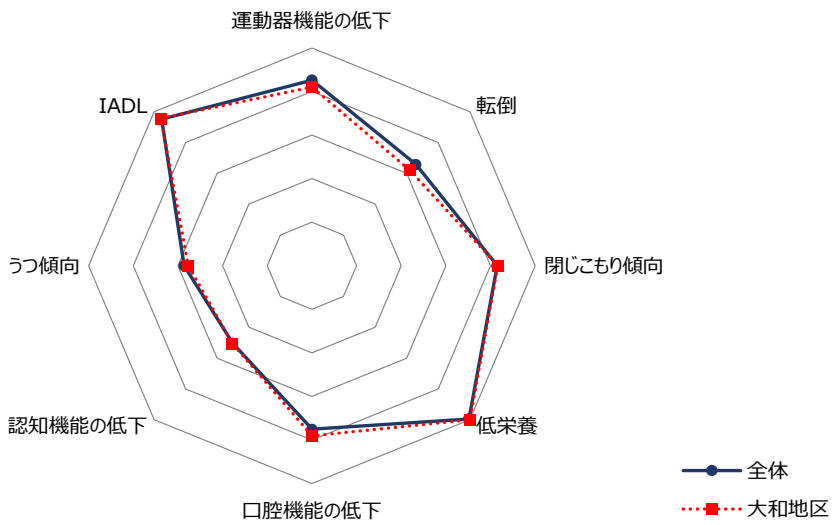
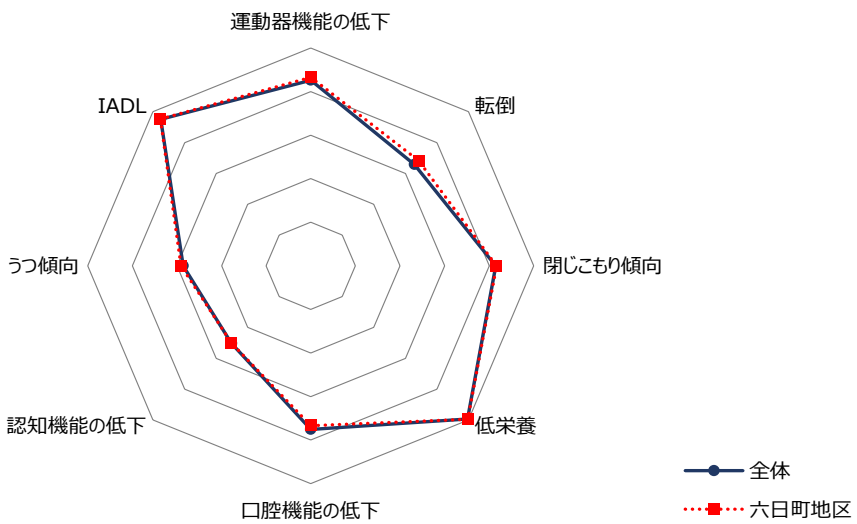
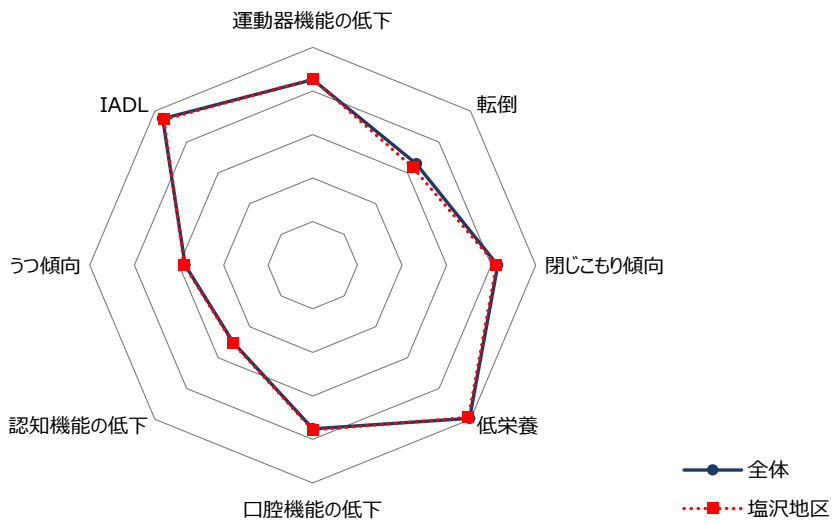
「リスク該当」の割合が高いほど中心部に近づくレーダーチャートにしてみると、一般高齢者の円が最も大きくなっていることがわかります。特に「運動器機能の低下」で大きな差異がみられます。



居住地区別にみると、大和地区で「運動器機能の低下」と「転倒」「うつ傾向」の割合がやや高くなっています。

	運動器機能の低下	転倒	閉じこもり	低栄養	口腔機能の低下	認知機能の低下	うつ傾向	IADL
塩沢	14.5%	36.5%	17.6%	1.3%	24.2%	49.3%	42.4%	5.5%
六日町	13.5%	31.7%	16.7%	0.4%	26.7%	49.8%	41.8%	4.7%
大和	18.0%	38.0%	16.7%	0.0%	21.9%	49.5%	44.6%	4.3%
全体	14.8%	34.2%	17.1%	0.5%	25.0%	49.7%	42.8%	4.8%

※ 無回答を除いた割合なので「3 リスク判定結果」の数値と異なります。



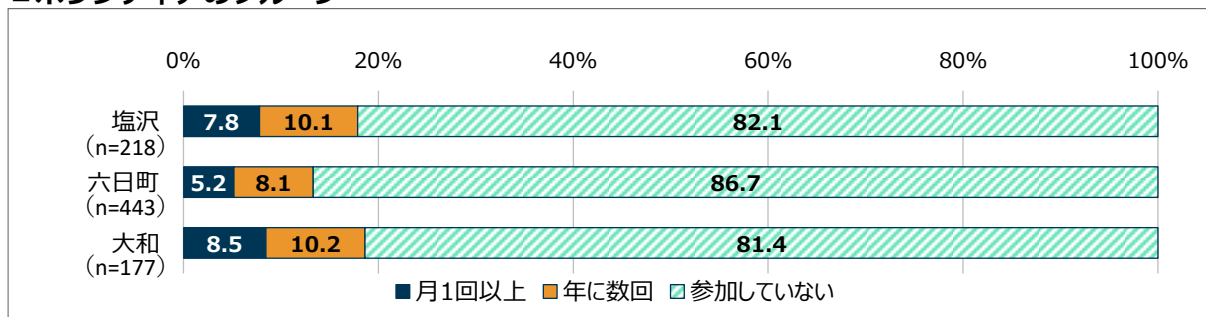
## 2. 地域活動への参加状況

塩沢地区は「趣味関係のグループ」の参加割合が高い一方で、「収入のある仕事」をしている割合が低くなっています。

六日町地区では、「収入のある仕事」以外の地域活動への参加割合が低くなっています。

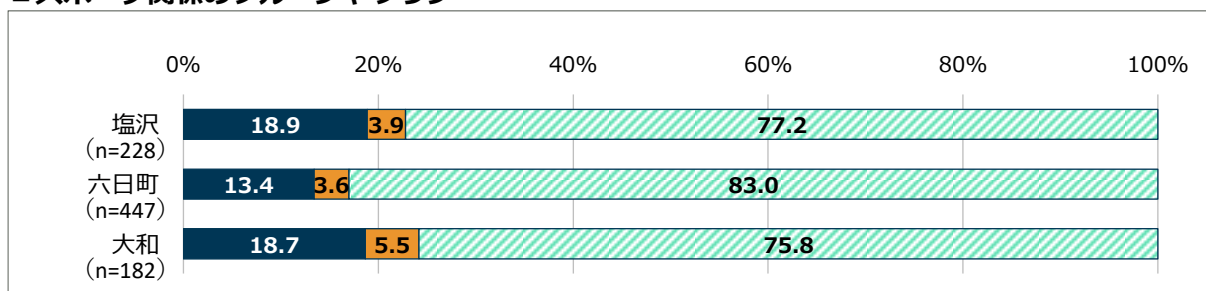
大和地区は「学習・教養サークル」「老人クラブ」「町内会・自治会」の参加割合が高くなっています。

### ■ ボランティアのグループ

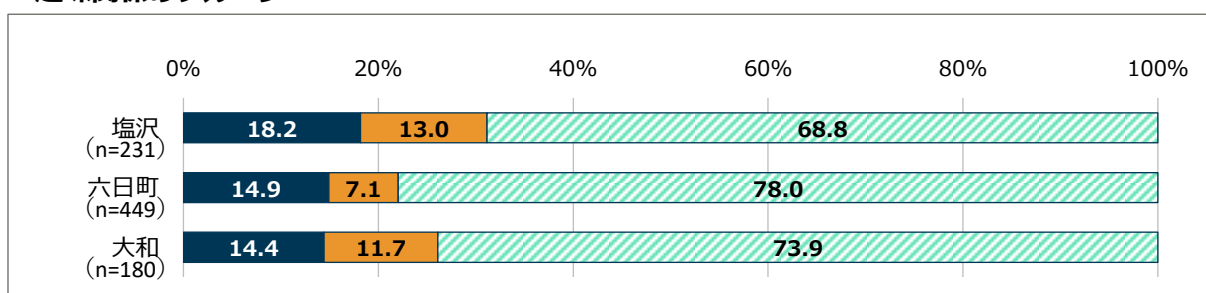


※ 無回答を除いた割合なので「問 5 (1)」の数値と異なります (以下同)。

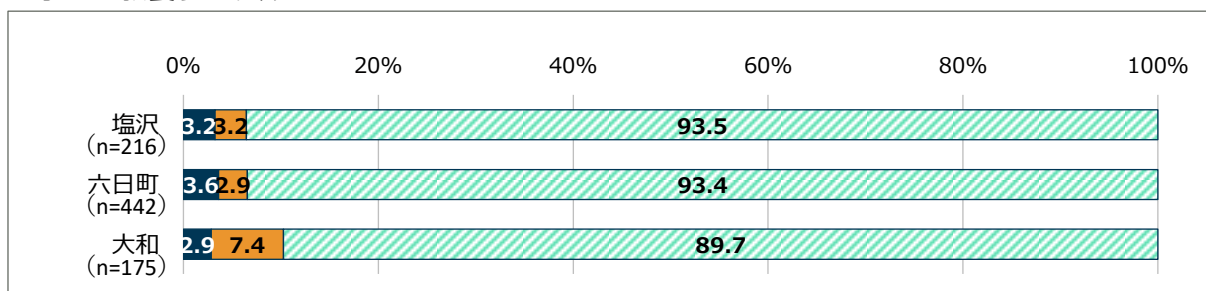
### ■ スポーツ関係のグループやクラブ



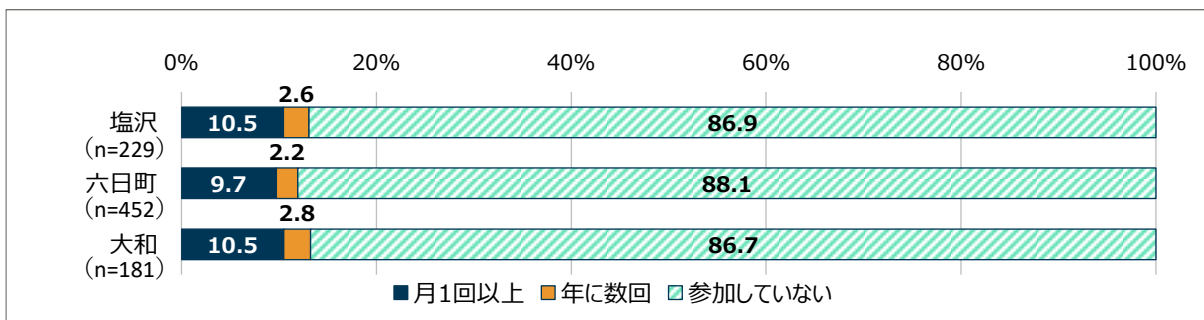
### ■ 趣味関係のグループ



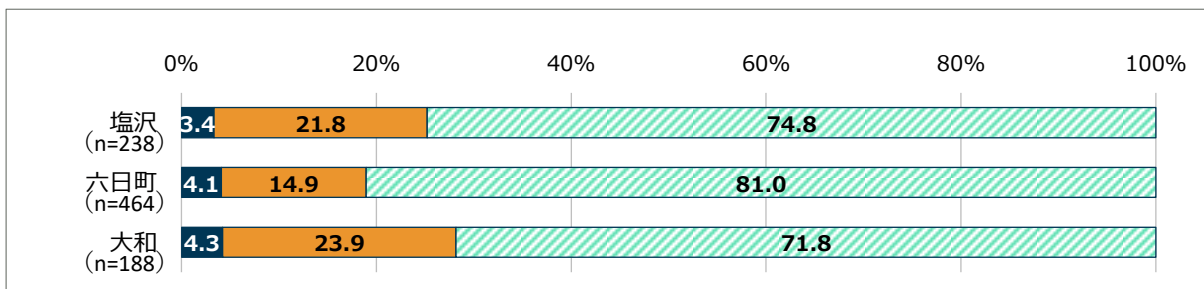
### ■ 学習・教養サークル



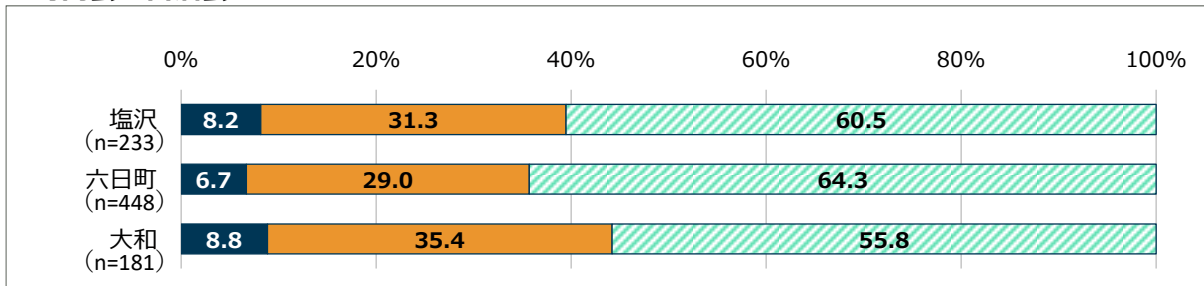
### ■介護予防のための通いの場



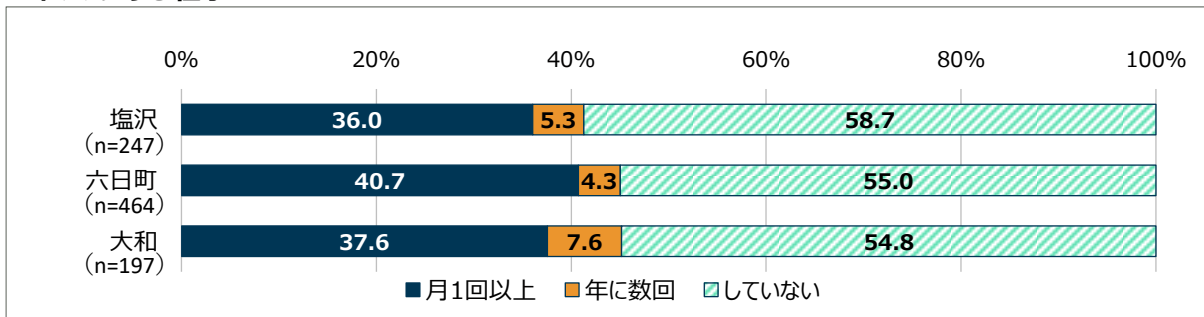
### ■老人クラブ



### ■町内会・自治会

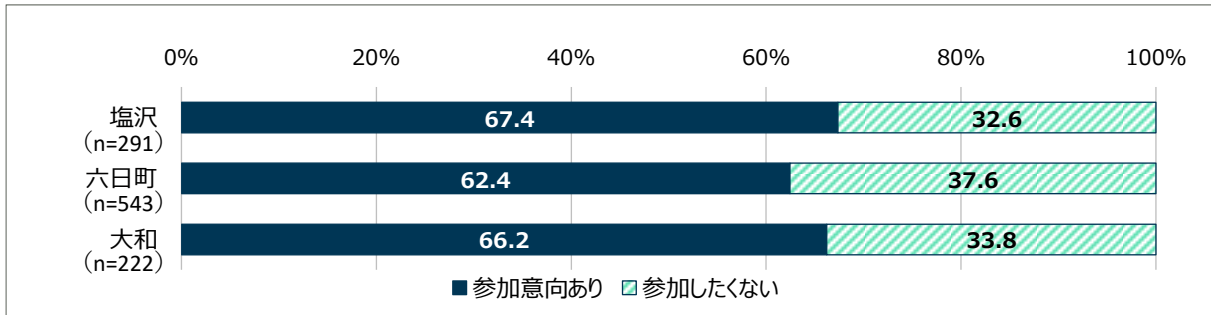


### ■収入のある仕事



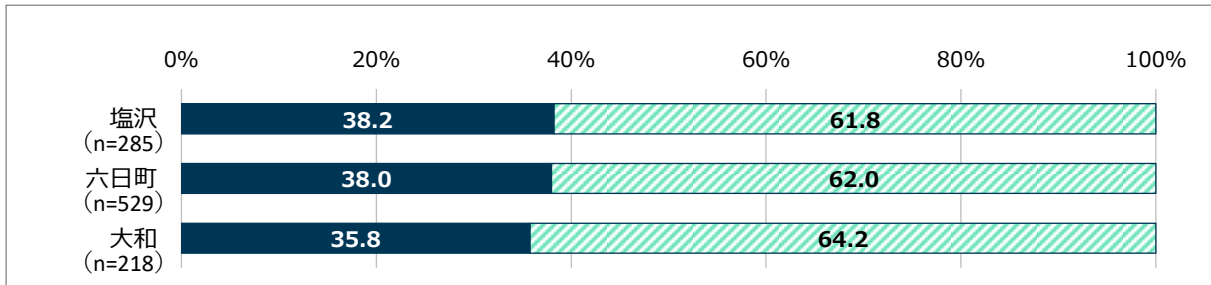
【問 5 (2) (3) 地域づくり活動への参加意向】について、「ぜひ参加したい」「参加してもよい」「すでに参加している」を「参加意向あり」として集計し、居住地区別にみると、「参加者として」は六日町地区で参加意向がやや低くなっています。「企画・運営」としては大和地区で参加意向がやや低くなっています。

■地域づくり活動へ参加者としての参加意向



※ 無回答を除いた割合なので「問 5 (2)」の数値と異なります。

■地域づくり活動へ企画・運営（お世話役）としての参加意向



※ 無回答を除いた割合なので「問 5 (3)」の数値と異なります。

### 3. 傾向把握のための指標の状況

南魚沼市内の地区別の傾向を把握するために、調査項目とリスク判定結果から指標を設定し、地区別の割合の順位から、地区の特性を分析しました。傾向を把握するために設定した指標は以下のとおりです。

設問	順位づけの基準	指標
<b>基本属性</b>		
	性別	男性の割合 女性の割合
	男性の割合 女性の割合	
	満年齢をご記入ください	後期高齢者の割合
	75歳以上の割合	
	認定区分	要支援認定者の割合
	要支援1と要支援2の割合の合計	
<b>問1 家族や生活状況について</b>		
	(1) 家族構成をお教えてください	1人暮らし世帯 夫婦2人世帯 その他世帯
	「1.1人暮らし」の割合 「2.夫婦2人暮らし（配偶者65歳以上）」と「3.夫婦2人暮らし（配偶者64歳以下）」の割合の合計 「4.息子・娘との2世帯」と「5.その他」の割合の合計	
	(2) あなたは、普段の生活でどなたかの介護・介助が必要ですか	
	「1.介護・介助は必要ない」の割合	介護・介助が不要
	(5) 現在の暮らしの状況を経済的にみてどう感じていますか	経済的に苦しい
	「1.大変苦しい」と「2.やや苦しい」の割合の合計	
<b>問2 からだを動かすことについて</b>		
	(6) 週に1回以上は外出していますか	外出している
	「2.週1回」「3.週2～4回」「4.週5回以上」の割合の合計	
<b>問3 食べることについて</b>		
	(10) どなたかと食事をとにもする機会がありますか	孤食
	「4.年に何度かある」と「5.ほとんどない」の割合の合計	
<b>問5 地域での活動について</b>		
	(1) ①ボランティアのグループにどのくらいの頻度で参加していますか	地域活動（ボランティア）
	「月に1回以上」参加している割合	
	(1) ②スポーツ関係のグループやクラブにどのくらいの頻度で参加していますか	地域活動（スポーツ関係）
	「月に1回以上」参加している割合	
	(1) ③趣味関係のグループにどのくらいの頻度で参加していますか	地域活動（趣味関係）
	「月に1回以上」参加している割合	
	(1) ④学習・教養サークルにどのくらいの頻度で参加していますか	地域活動（学習・教養）
	「月に1回以上」参加している割合	
	(1) ⑤介護予防のための通いの場にどのくらいの頻度で参加していますか	地域活動（介護予防）
	「月に1回以上」参加している割合	



設問	順位づけの基準	指標
<b>問 5 地域での活動について</b>		
(1) ⑥老人クラブにどのくらいの頻度で参加していますか		地域活動（老人クラブ）
	「月に1回以上」参加している割合	
(1) ⑦町内会・自治会にどのくらいの頻度で参加していますか		地域活動（町内会）
	「月に1回以上」参加している割合	
(1) ⑧収入のある仕事		地域活動（仕事）
	「月に1回以上」している割合	
(2) いきいきした地域づくりに参加者として参加してみたいと思いますか		地域づくり（参加者）
	「1.ぜひ参加したい」「2.参加してもよい」「4.すでに参加している」の割合の合計	
(3) いきいきした地域づくりに企画・運営として参加してみたいと思いますか		地域づくり（企画・運営）
	「1.ぜひ参加したい」「2.参加してもよい」「4.すでに参加している」の割合の合計	
<b>問 6 助けあいについて</b>		
(1) あなたの心配事や愚痴（ぐち）を聞いてくれる人		助けあい（心配事）
(2) 反対に、あなたが心配事や愚痴（ぐち）を聞いてあげる人		
	「1.」～「7.」のいずれかに○をつけている人の割合	
(3) あなたが病気で数日間寝込んだときに、看病や世話をしてくれる人		助けあい（看病）
(4) 反対に、あなたが看病や世話をしてあげる人		
	「1.」～「7.」のいずれかに○をつけている人の割合	
<b>問 7 健康について</b>		
(1) 現在のあなたの健康状態はいかがですか		主観的健康状態
	「1.とてもよい」と「2.まあよい」の割合の合計	
(2) あなたは、現在どの程度幸せですか		幸福度
	平均点	
(7) 現在治療中、または後遺症のある病気はありますか		病気がない
	「1.ない」の割合	
<b>問 8 認知症に関する相談窓口の把握について</b>		
(2) 認知症に関する相談窓口を知っていますか		認知症相談窓口の認知度
	「1.はい」の割合	
<b>リスク判定結果</b>		
	1.運動器機能の低下のリスク該当の割合	運動器機能の低下のリスク
	2.転倒のリスク該当の割合	転倒のリスク
	3.閉じこもりのリスク該当の割合	閉じこもりのリスク
	4.低栄養のリスク該当の割合	低栄養のリスク
	5.口腔機能の低下のリスク該当の割合	口腔機能の低下のリスク
	6.認知機能の低下のリスク該当の割合	認知機能の低下のリスク
	7.うつ傾向のリスク該当の割合	うつ病のリスク
	8.IADL 判定が「低い」の割合	IADL の低下

## 塩沢地区

塩沢地区は、後期高齢者の割合が最も高く、1人暮らし世帯や夫婦のみ世帯など高齢者のみ世帯が多くなっています。介護・介助が不要な割合、病気がない割合が低い一方で、要支援認定者の割合が低くなっています。

孤食の割合が高く、閉じこもりのリスクも高くなっている一方で、幸福度は高くなっています。

順位	本人・生活など	地域活動など	リスク判定
1位	男性の割合 後期高齢者の割合 1人暮らし世帯 孤食 幸福度	地域活動（趣味関係） 地域づくり（参加者） 助けあい（看病） 助けあい（心配事）	転倒のリスク 閉じこもりのリスク 低栄養のリスク IADLの低下
2位	夫婦2人世帯 経済的に苦しい 外出している 主観的健康状態 認知症相談窓口の認知度	地域活動（ボランティア） 地域活動（スポーツ関係） 地域活動（学習・教養） 地域活動（町内会） 地域づくり（企画・運営）	運動器機能の低下のリスク 口腔機能の低下のリスク 認知機能の低下のリスク うつ病のリスク
3位	女性の割合 要支援認定者の割合 その他世帯 介護・介助が不要 病気がない	地域活動（介護予防） 地域活動（老人クラブ） 地域活動（仕事）	

## 六日町地区

六日町地区は、夫婦2人世帯の割合が高くなっています。外出している割合、病気がない割合が高く、運動器機能の低下のリスクや転倒のリスクが低い一方で、主観的健康状態は低くなっています。

仕事をしている割合が高く、町内会への参加割合は低くなっています。

順位	本人・生活など	地域活動など	リスク判定
1位	女性の割合 夫婦2人世帯 介護・介助が不要 経済的に苦しい 外出している 病気がない 認知症相談窓口の認知度	地域活動（学習・教養） 地域活動（仕事） 地域づくり（企画・運営）	口腔機能の低下のリスク 認知機能の低下のリスク
2位	1人暮らし世帯 後期高齢者の割合 要支援認定者の割合 その他世帯	地域活動（趣味関係） 地域活動（介護予防） 地域活動（老人クラブ） 助けあい（心配事） 助けあい（看病）	閉じこもりのリスク 低栄養のリスク IADLの低下
3位	男性の割合 孤食 主観的健康状態 幸福度	地域活動（ボランティア） 地域活動（スポーツ関係） 地域活動（町内会） 地域づくり（参加者）	運動器機能の低下リスク 転倒のリスク うつ病のリスク

## 大和地区

大和地区は、その他世帯の割合が高くなっています。要支援認定者の割合が高い一方で、主観的健康状態は高くなっています。

スポーツ関係や介護予防などの地域活動への参加割合が高い一方で、運動器機能の低下のリスクが高くなっています。また、町内会や老人クラブの参加割合も高くなっています。

順位	本人・生活など	地域活動など	リスク判定
1 位	要支援認定者の割合 その他世帯 主観的健康状態	地域活動（ボランティア） 地域活動（スポーツ関係） 地域活動（介護予防） 地域活動（老人クラブ） 地域活動（町内会）	運動器機能の低下のリスク うつ病のリスク
2 位	男性の割合 女性の割合 介護・介助が不要 孤食 幸福度 病気がない	地域活動（仕事） 地域づくり（参加者）	転倒のリスク
3 位	1 人暮らし世帯 後期高齢者の割合 夫婦 2 人世帯 経済的に苦しい 外出している 認知症相談窓口の認知度	地域活動（趣味関係） 地域活動（学習・教養） 地域づくり（企画・運営） 助けあい（看病） 助けあい（心配事）	閉じこもりのリスク 低栄養のリスク 口腔機能の低下のリスク 認知機能の低下のリスク IADL の低下

# 5 考察

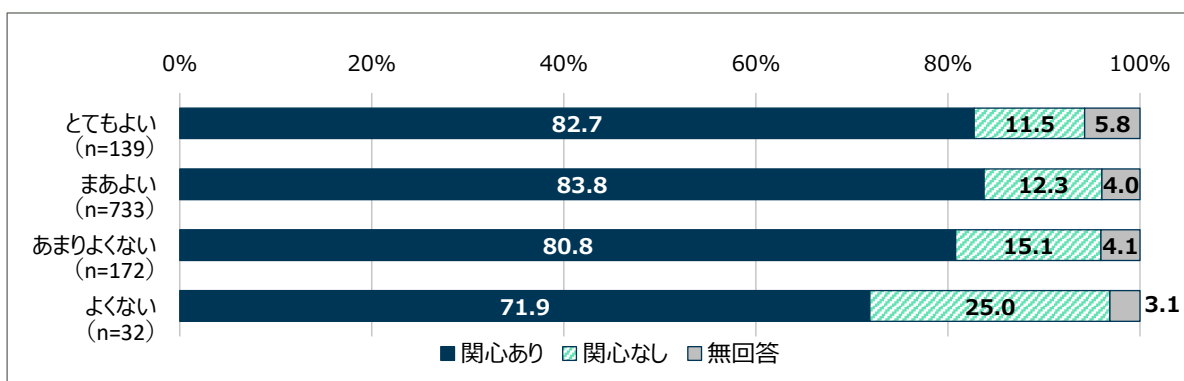
## 1. 健康への関心

【問4(12) 健康についての記事や番組に関心がありますか】では、「はい」が82.4%、「いいえ」が12.9%となっています。

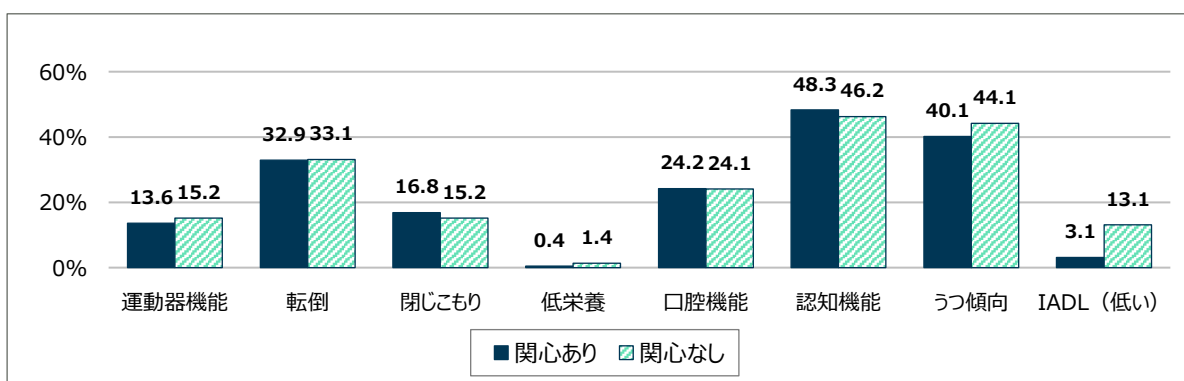
性別・年齢別にみると、すべての年齢層で女性のほうが「はい」の割合が高くなっていますが、男性・女性ともに年齢による明らかな傾向はみられませんでした。

居住地区別にみると、塩沢地区は84.4%、六日町地区は83.5%、大和地区は76.7%となっています (p.42)。

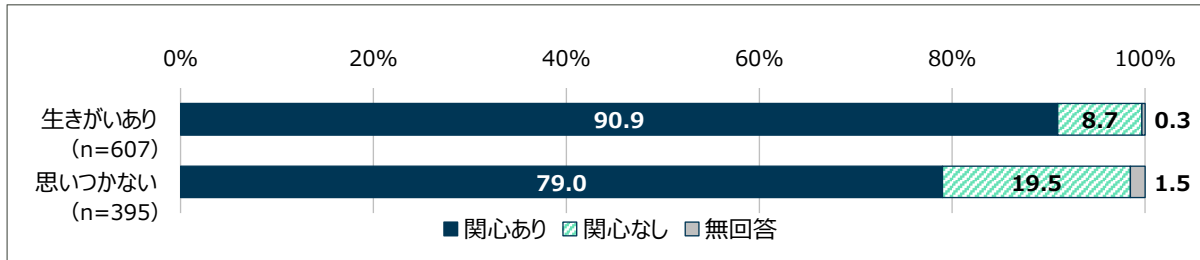
「はい」と回答した人を健康に「関心あり」、「いいえ」と回答した人を「関心なし」として、主観的健康状態別にみると、n値(回答者数)にばらつきはありますが、健康状態がよいと考える人のほうが健康への関心が高い傾向がみられます。



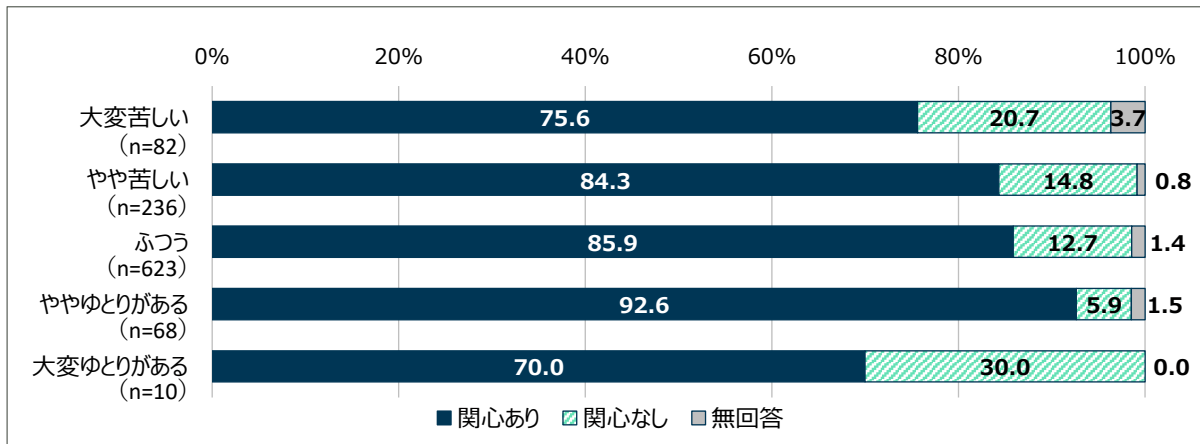
健康についての関心の有無別にリスク該当の割合をみると、リスク該当の割合に大きな差異はみられませんでした。IADLが「低い」と判定された割合は、健康に関心がある群では3.1%なのに対し健康に関心がない群では10.0ポイント高い13.1%となっています。



生きがいの有無別にみると、生きがいがあると回答した人は「関心あり」の割合が、思いつかない人より 11.9 ポイント高い 90.9%となっています。また、具体的な生きがいとして健康で元気に生活することをあげている人もいます。



経済的状況別に健康への関心をみると、n 値（回答者数）の少ない「大変ゆとりがある」群を除くと、経済的にゆとりがあるほど健康について関心がある割合が高くなる傾向がみられます。

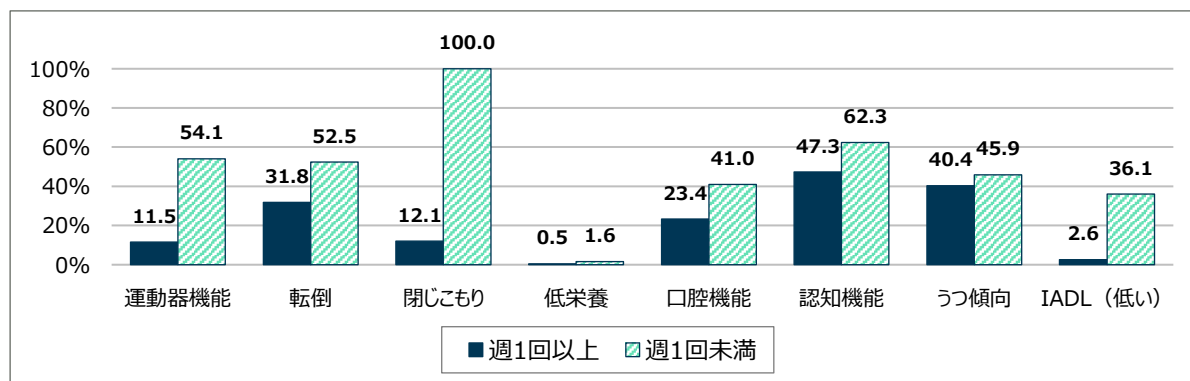


## 2. 外出

【問 2 (6) 週に 1 回以上は外出していますか】では、「週 2~4 回」が 39.8%と最も高く、次いで「週 5 回以上」が 39.7%で、「ほとんど外出しない」は 5.4%となっています。

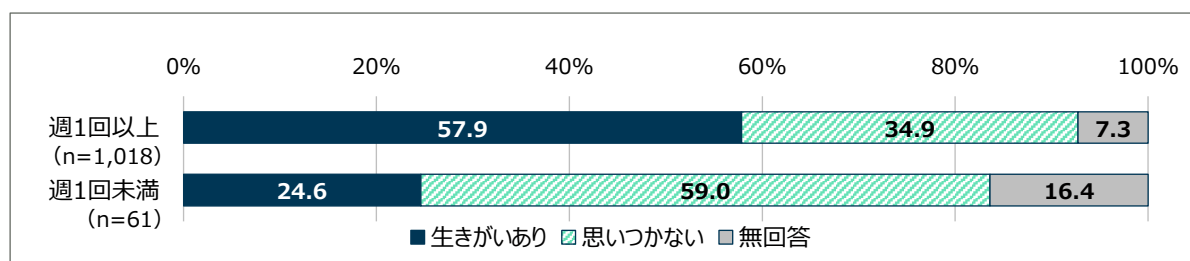
性別・年齢別にみると、外出の頻度が週 1 回以下の割合は、男性・女性ともに年齢が上がるほど高くなる傾向がみられます。(p.16)。

リスク該当の割合をみると、すべての項目で外出が週 1 回未満群のほうがリスク該当者の割合が高くなっています。

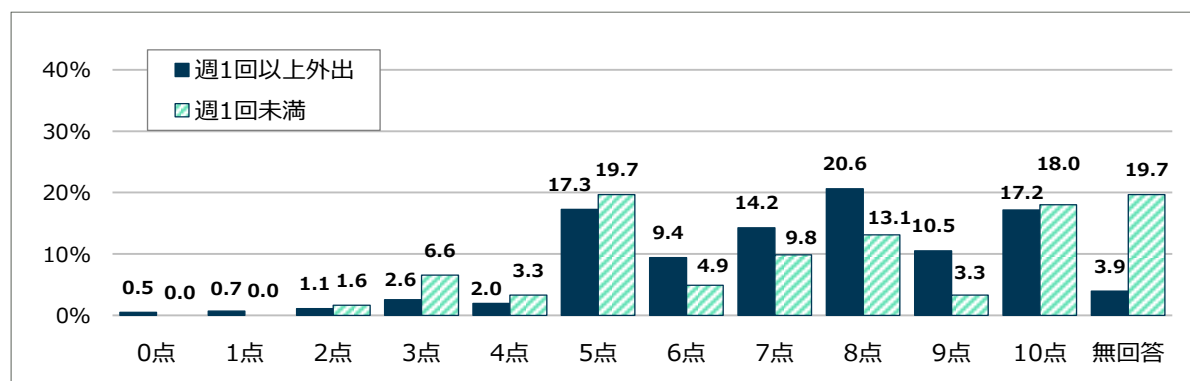


【問 4 (18) 生きがいがありますか】では、「生きがいあり」が 54.0%、「思いつかない」が 35.1%となっています (p.48)。

週 1 回以上外出する人としらない人で「生きがいあり」の割合を比較すると、n 値 (回答者数) に差がありますが、週 1 回以上外出する人のほうがしない人より 33.3 ポイント高い 57.9%となっています



週 1 回以上外出する人としらない人で「幸福度 (とても不幸を 0 点、とても幸せを 10 点とした点数)」を比較すると、週 1 回以上外出する人の平均点は 7.21 点、しない人の平均点は 6.82 点となっています。

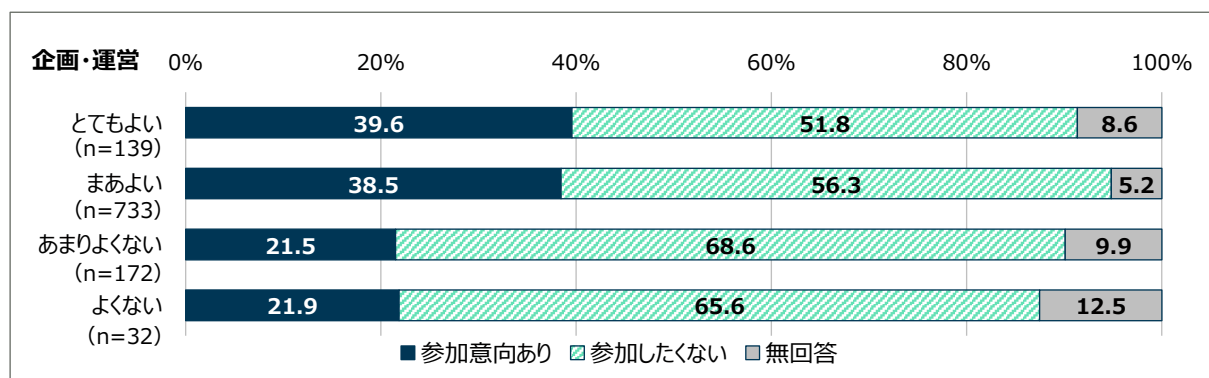
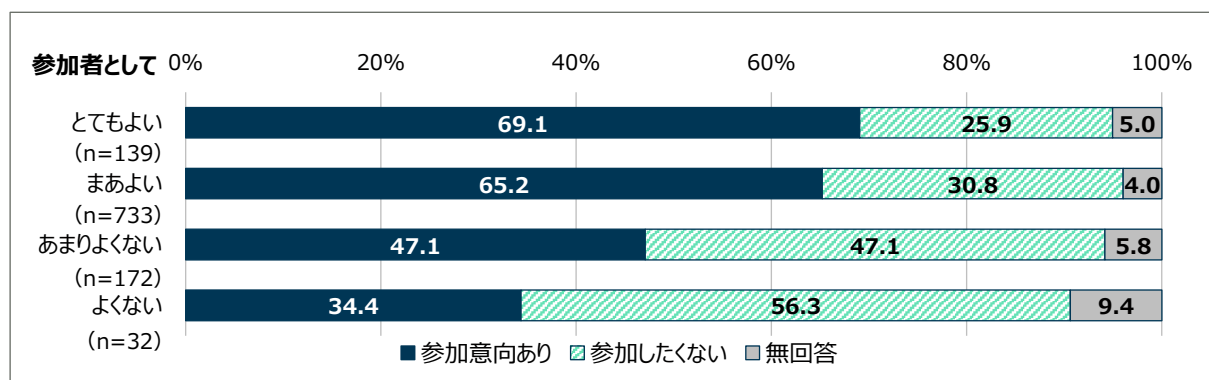


### 3. 地域づくりへの参加意向

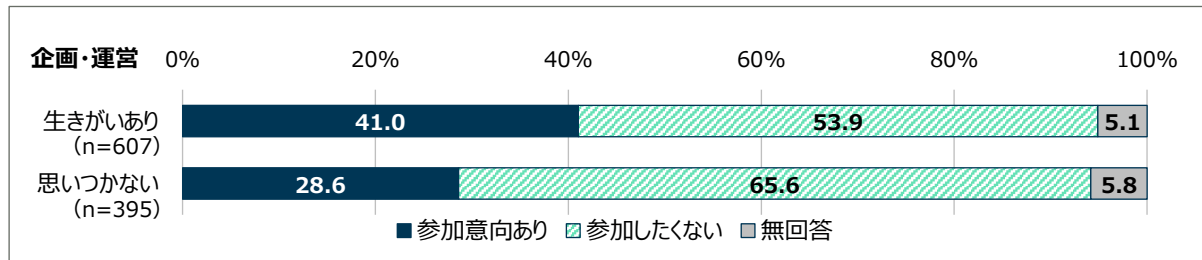
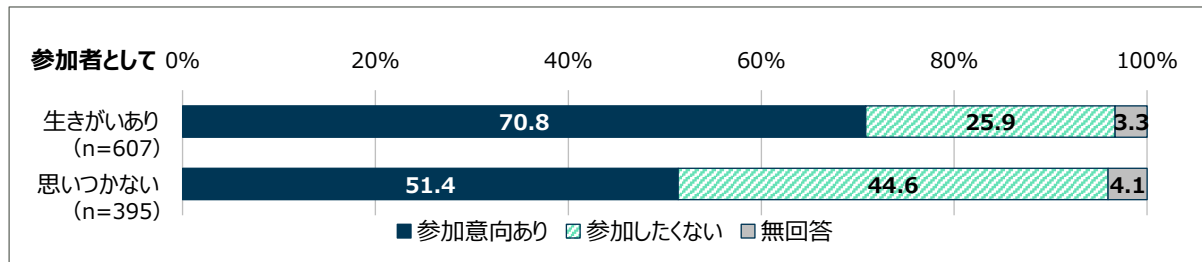
【問 5 (2) 地域住民の有志によって、健康づくり活動や趣味などのグループ活動を行って、いきいきした地域づくりを進めるとしたら、あなたはその活動に参加者として参加してみたいと思いますか】について、「ぜひ参加したい」または「参加してもよい」「すでに参加している」と回答した人を「参加意向あり」として、「参加したくない」との2分類で集計すると、「参加意向あり」は60.9%で、「参加したくない」は33.4%となっています (p.66)。

【問 5 (3) 地域住民の有志によって、健康づくり活動や趣味などのグループ活動を行って、いきいきした地域づくりを進めるとしたら、あなたはその活動に企画・運営 (お世話役)として参加してみたいと思いますか】については、「参加意向あり」は34.7%で、「参加したくない」は57.4%となっています (p.68)。

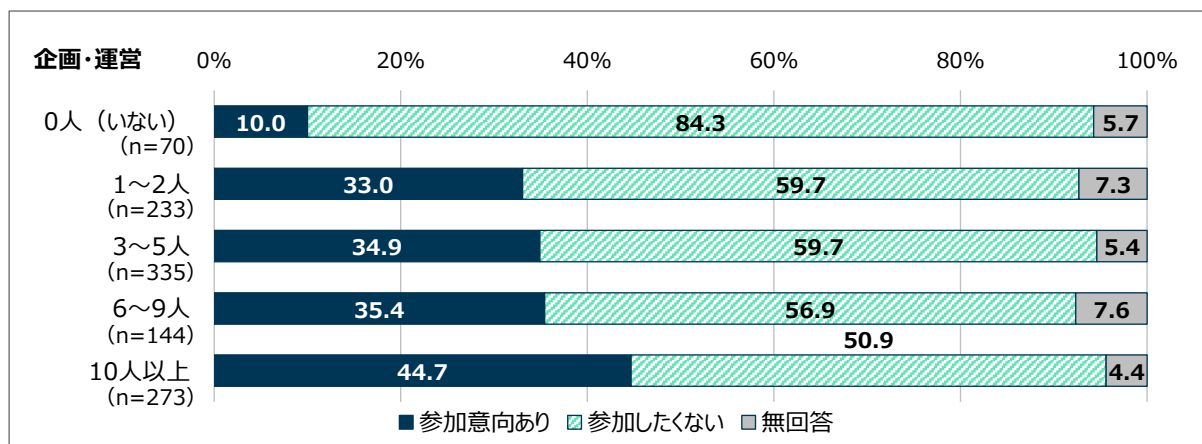
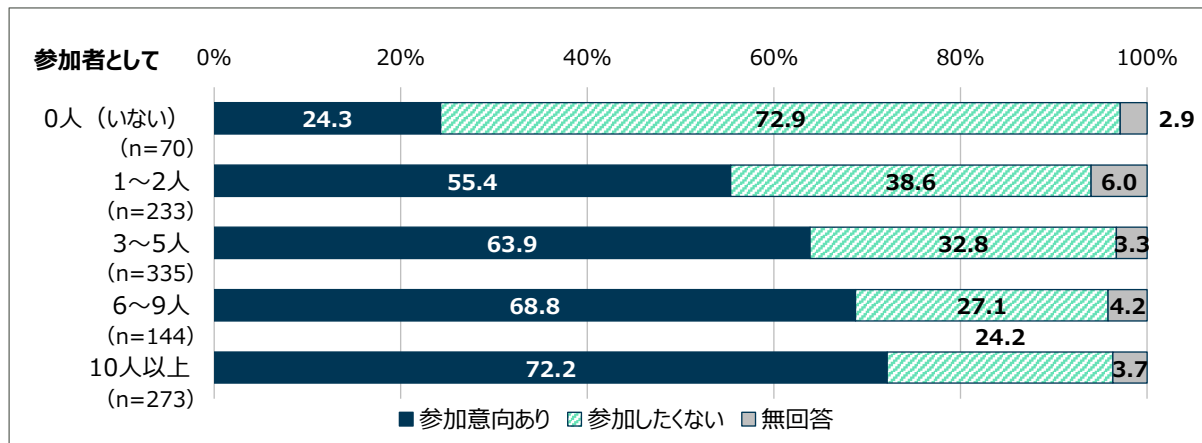
主観的健康状態別にみると、n値(回答者数)にはばらつきはありますが、参加者としても企画・運営としても、健康状態をよいと考えているほうが参加意向ありの割合が高い傾向がみられます。



生きがいの有無別にみると、参加者としても企画・運営としても生きがいあり群のほうが「参加意向あり」の割合が高くなっています。

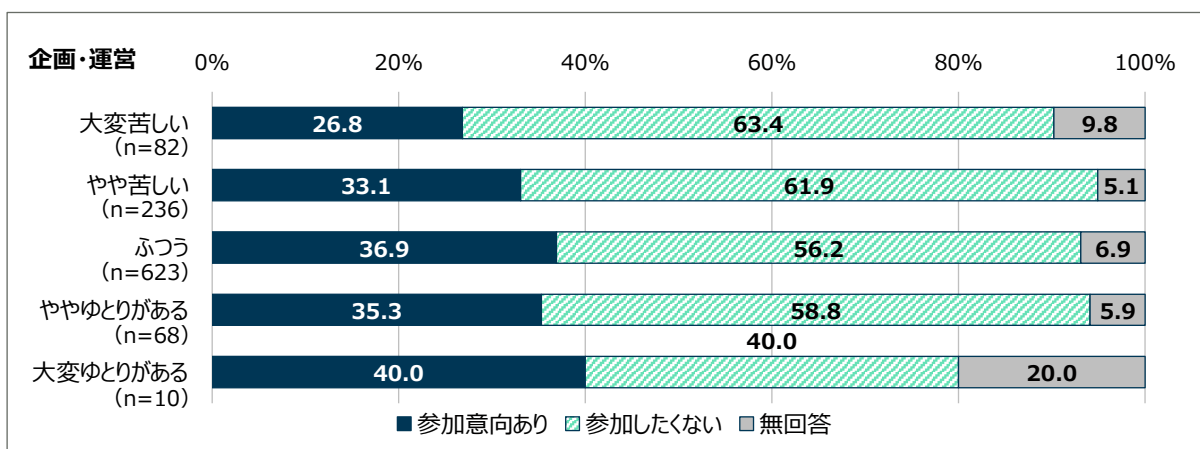
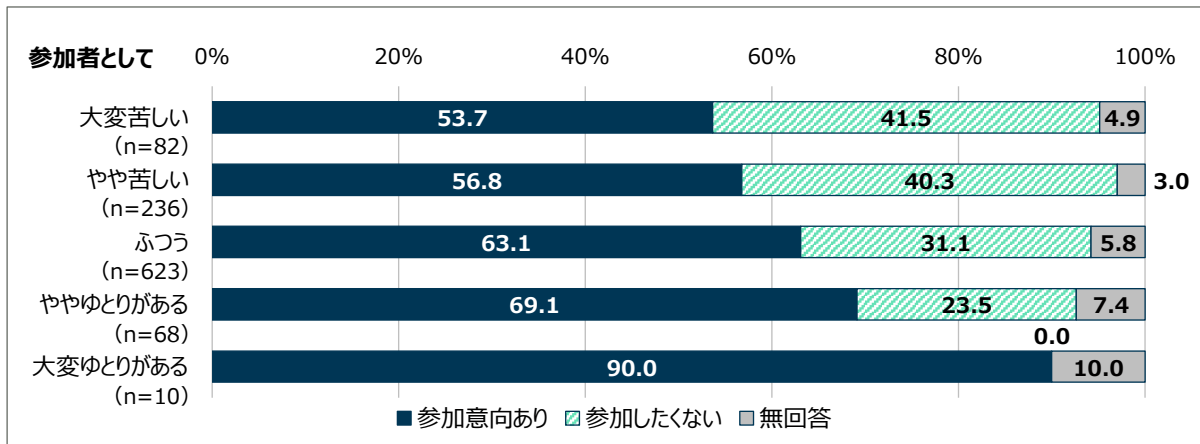


【問6(7) この1か月間、何人の友人・知人と会いましたか(同じ人には何度会っても1人と数えることとします)】(p.76)の回答別に、地域づくり活動への参加意向をみると、参加者としても企画・運営としても、1か月の間にあった友人・知人の数が多いほど、「参加意向あり」の割合が高い傾向がみられます。





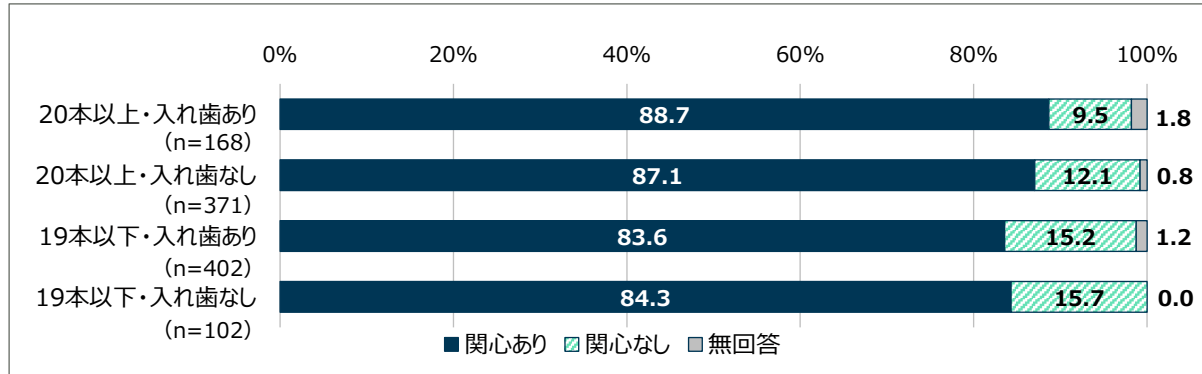
経済的状況別にみると、参加者としても企画・運営としても経済的にゆとりがあるほうが「参加意向あり」の割合が高い傾向がみられます。



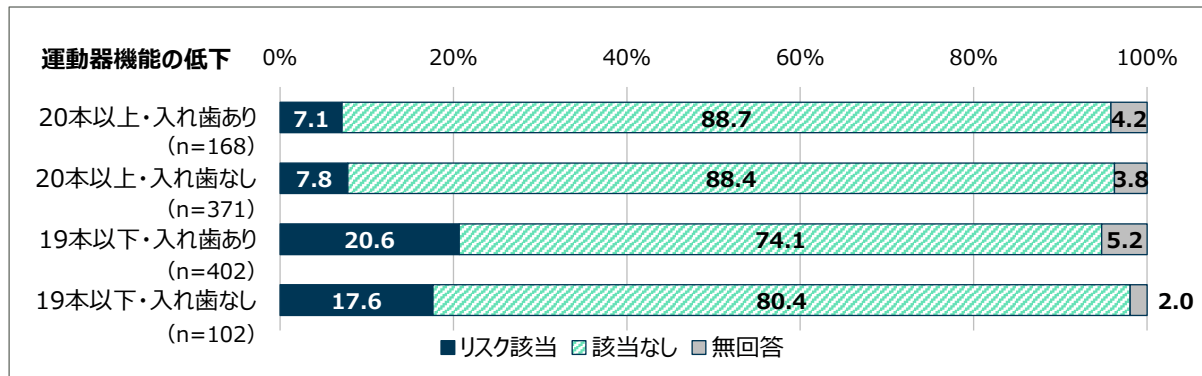
## 4. 歯の状態

【問 3（6）歯の数と入れ歯の利用状況をお教えてください】では、「自分の歯は 19 本以下、かつ、入れ歯を利用」が 35.7%と最も高く、次いで「自分の歯は 20 本以上、入れ歯の利用なし」が 33.0%となっています。入れ歯の利用の有無にかかわらず、自分の歯が 20 本以上ある割合は 47.9%となっています（p.26）。

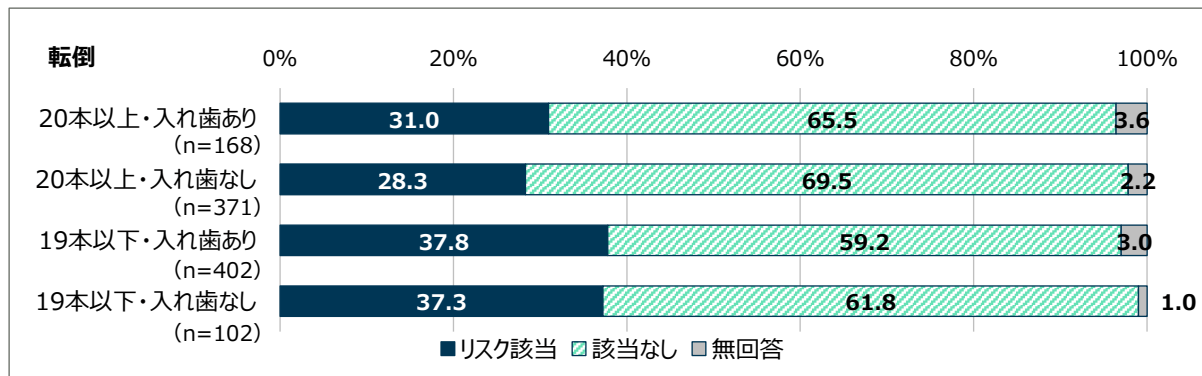
歯の状態別に健康への関心の有無をみると、自分の歯が 20 本以上ある群で「関心あり」の割合が高くなっています。



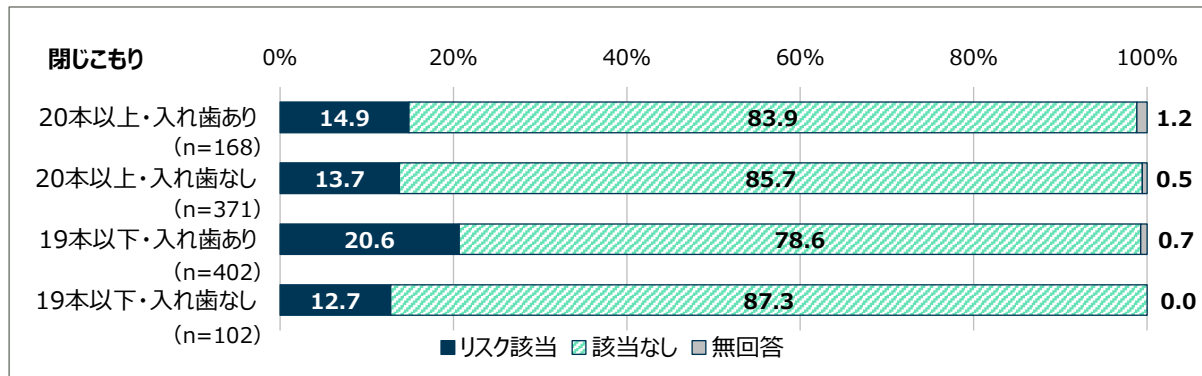
歯の状態別にリスク判定の結果をみると、運動器機能の低下については、自分の歯が 19 本以下の群で「リスク該当」の割合が高くなっています。



転倒のリスク判定については、20 本以上・入れ歯なし群で「リスク該当」の割合が最も低く、自分の歯が 19 本以下の群で「リスク該当」の割合が高くなっています。

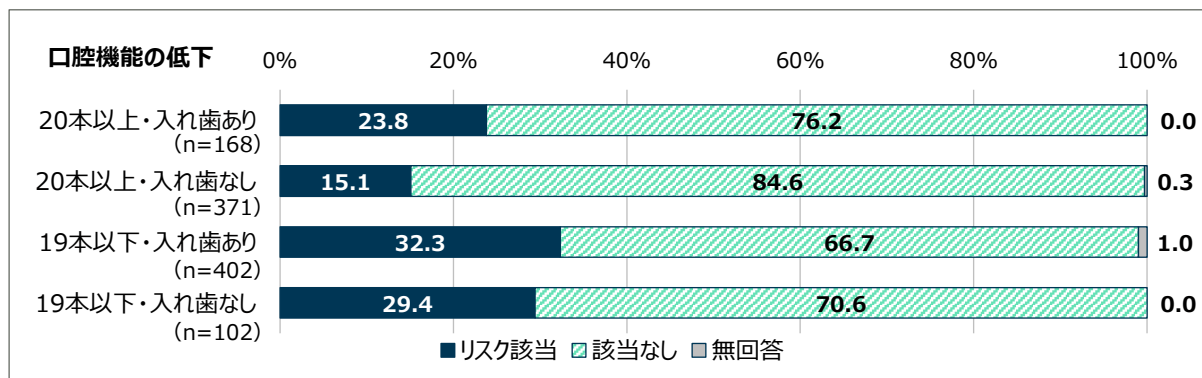


閉じこもりのリスク判定については、19本以下・入れ歯あり群で「リスク該当」の割合が高くなっています。

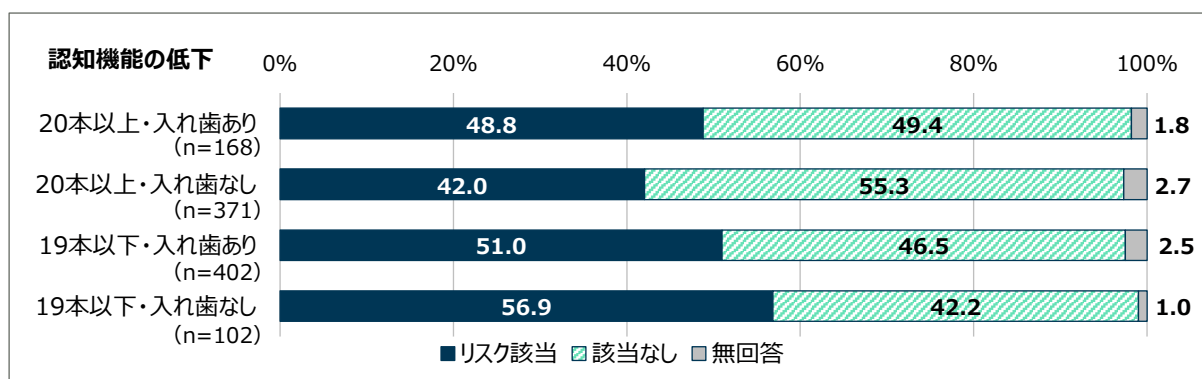


低栄養のリスク判定については、該当者数が少ないため傾向をみることはできませんでした。

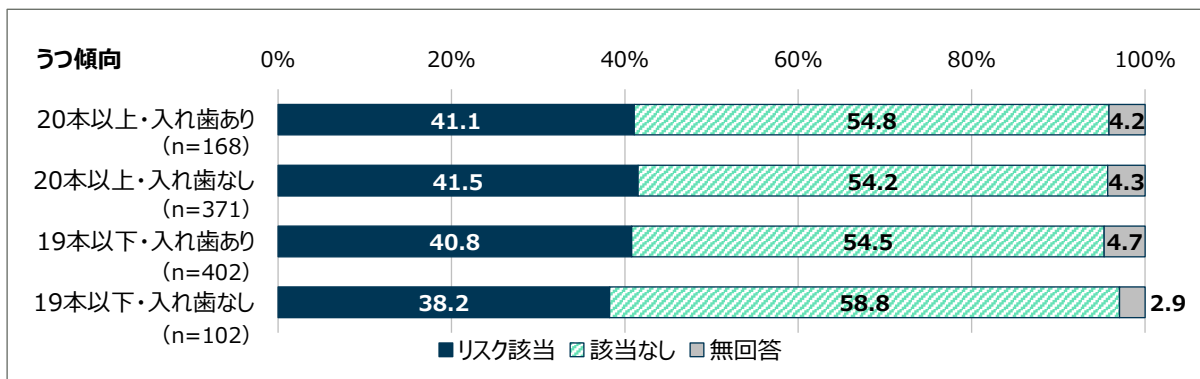
口腔機能の低下については、20本以上・入れ歯なし群で「リスク該当」の割合が低く、19本以下・入れ歯あり群で「リスク該当」の割合が高くなっています。



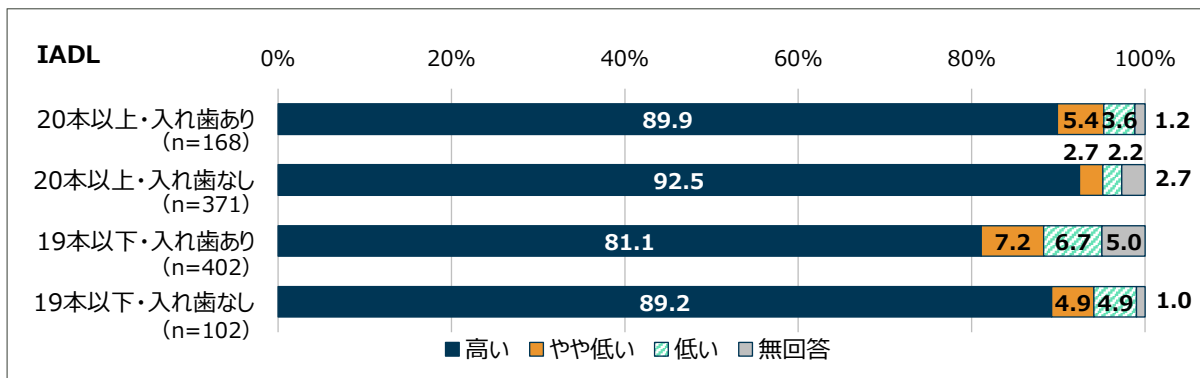
認知機能の低下については、20本以上・入れ歯なし群で「リスク該当」の割合が最も低く、自分の歯が19本以下の群で「リスク該当」の割合が高くなっています。



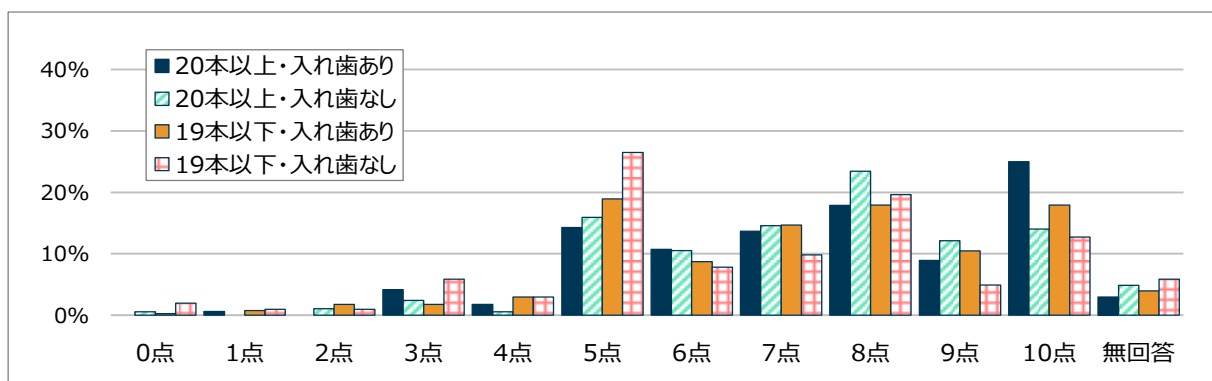
うつ傾向については、19 本以下・入れ歯なし群で「リスク該当」割合がやや低くなっています。



IADL の判定結果をみると、自分の歯が 19 本以下の群で「低い」割合が高くなっています。



歯の状態別に、「幸福度（とても不幸を 0 点、とても幸せを 10 点とした点数）」の平均点を比較すると、自分の歯が 20 本以上で入れ歯の利用ありの群が最も高く 7.47 点、次いで自分の歯が 20 本以上で入れ歯の利用がない群が 7.28 点、自分の歯が 19 本以下で入れ歯の利用あり群が 7.16 点で、自分の歯が 19 本以下で入れ歯の利用がない群は 6.47 点となっています。



※数値については省略しています。